

平成22年度 老人保健事業推進費等補助金

老人保健健康増進等事業

介護予防事業の推進に関する調査研究事業

財団法人 日本公衆衛生協会

平成23年3月

はじめに

2015年には「ベビーブーム世代」が高齢期に到達し、さらに2025年にはわが国の高齢化はピークを迎えると予想されている。また、認知症や一人暮らし高齢者も増加すると見込まれている。このような状況下、平成18年度介護保険制度改革においては、できる限り要支援・要介護状態にならない、あるいは、重度化しないよう「介護予防」を重視したシステムの確立を目指した制度の見直しが行われた。見直しにおいては、要支援1, 2といった軽度な要支援者が要介護1～5といったより重度の状態に移行することを防止する観点から「新予防給付」が創設された。また、要支援・要介護になる可能性の高い特定高齢者やその予備軍である全ての高齢者に対して介護予防事業（地域支援事業）が創設された。

その後3年間を経て、これらの介護予防システムについていくつかの課題点が明らかになりつつある。これらの課題に適切に対応し、今後、効果的・効率的な介護予防事業を進めるためには、現在入手できる最高レベルの介護予防に係るデータ及び知見を入手し、分析及び検討を行った上で、介護予防を総括する必要がある。

本研究は、平成21年度から全国約40市町村において実施された介護予防実態調査分析支援事業（厚生労働省補助金）の分析のための専門的かつ基礎的な部分を担った。また、介護予防をさらに発展させるため、科学的文献や全国の先駆的な取組に係る情報の整理が実施された。

本事業が、より良い介護保険制度の実現に寄与することを期待する。

目 次

第Ⅰ章	介護予防事業の推進に関する調査研究委員会	3
第Ⅱ章	介護予防の総合的評価・分析に関する研究委員会	9
第Ⅲ章	介護予防に係る科学的知見の収集及び分析委員会	129

第I章 介護予防事業の推進に関する 調査研究委員会

目 次

第 I 章 介護予防事業の推進に関する調査研究委員会	5
1. 目的	5
2. 方法	5
2.1 委員会の構成	5
2.2 小委員会	6
2.3 委員会の開催状況	6
3. 結果	6
3.1 介護予防事業の推進に関する調査研究委員会	6
3.2 介護予防の総合的評価・分析に関する研究委員会	7
3.3 介護予防に係る科学知見の収集及び分析委員会	7

第 I 章 介護予防事業の推進に関する調査研究委員会

1. 目的

平成 18 年度には、できる限り要支援・要介護状態にならない、あるいは、重度化しないよう「介護予防」を重視したシステムの確立を目指した制度の見直しが行われ、見直しにおいては、要支援 1・2 といった軽度な要支援者が要介護 1～5 といったより重度の状態に移行することを防止する観点から「新予防給付」を創設した。また、要支援・要介護になる可能性の高い特定高齢者やその予備軍である全ての高齢者に対して介護予防事業（地域支援事業）を創設している。

平成 22 年度には、これらの介護予防システムを導入して 5 年目となるが、導入以降 4 年間の経緯において、いくつかの課題点が明らかになりつつあるところである。

これらの課題に対応し、より効果的・効率的な介護予防事業の実施方法等を検証するため、全国の市町村において、介護予防実態調査分析支援事業（厚生労働省補助金）が実施されている。当該事業では、平成 18 年度から 21 年度までに実施された継続的評価分析等事業から得られた成果等を踏まえ、より高い効果が見込まれる介護予防事業のモデル事業を実施し、併せて当該サービスを受けた高齢者の状況等を定期的に調査し、その効果等について検証を行うこととしており、厚生労働省は、この事業における検証結果を踏まえ、第 5 期介護保険事業計画期間より、より効果的・効率的な介護予防事業を全国的に導入することとしている。

そこで、本研究では、上記の行政の状況を踏まえた上で、今後の介護予防のあり方及び具体的なサービスについて一定の結論を出すことを最終目的とした。さらに、その最終目的の達成のために、以下のような小目的を設定した。

- ①介護予防実態調査分析支援事業において収集された「介護予防事業」に係る情報を、科学的に分析するための方法論等を検討する。
- ②今後の介護予防の展開に資する介護予防に係る科学的知見（エビデンス）を収集し、分析を行う。

2. 方法

本事業実施にあたっては、以下のように、2つの小委員会および小委員会の代表者等からなる委員会を設置し、3回にわたって検討を行った。

2.1 委員会の構成

【委員長】

鈴木 隆雄 国立長寿医療センター研究所 所長

【委員（50音順）】

大淵 修一 東京都健康長寿医療センター 研究副部長

小坂 健 東北大学大学院歯学科系研究科国際歯科保健学分野 教授

武林 亨 慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学 教授

辻 一郎 東北大学大学院医学系研究科公衆衛生学分野 教授

成川 衛 北里大学大学院薬学研究科臨床医学(医薬開発学) 准教授

安村 誠司 福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座 教授

吉田 英世 東京都健康長寿医療センター 研究副部長

2.2 小委員会

○介護予防の総合的評価・分析に関する研究委員会

(委員長： 鈴木 隆雄 国立長寿医療センター研究所 所長)

○介護予防に係る科学的知見の収集及び分析委員会

(委員長： 武林 亨 慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学 教授)

2.3 委員会の開催状況

	開催状況
第1回	○開催日時 平成22年8月11日(水)14:00~16:00 ○開催場所 東京国際フォーラム ○議題 (1)平成22年度老人保健健康増進等事業及び本委員会の目的・概要 (2)介護予防実態調査分析支援事業(モデル事業) (3)今後のスケジュール
第2回	○開催日時 平成22年12月6日(月)10:00~12:00 ○開催場所 東京フォーラム ○議題 (1)介護予防実態調査分析支援事業(モデル事業)について (2)各委員会の進捗状況について
第3回	○開催日時 平成23年2月9日(水)10:00~12:00 ○開催場所 東京フォーラム ○議題 (1)介護予防実態調査分析支援事業について (2)各委員会の進捗状況について (3)平成23年度介護予防実態調査分析支援マニュアル(案)について (4)今後のスケジュール

3. 結果

本委員会および小委員会において検討された内容について、ここではそれらの概要を報告する。各小委員会からはそれぞれ詳細な報告書が提出されているので参照されたい。

3.1 介護予防事業の推進に関する調査研究委員会

(委員長： 鈴木 隆雄 国立長寿医療センター研究所 所長)

本委員会では、各小委員会からの進捗状況報告等を中心に、今後の介護予防の具体的なサービスのあり方について検討を行った。具体的には、平成20年度老人保健健康増進等事業((財)日本公衆衛生協会)「今後の介護予防事業のあり方に関する研究委員会」のまとめで出されたモデル事業への課題を踏まえて、下記「3.2 介護予防の総合的評価・分析に係る研究委員会」において実施された介護予防に関するモデル事業(平成21年度開始)について、プログラムの内容から年度末の中間データ報告まで、年間を通じたテーマとして論議し、今後

のあり方について協議した。

また、介護予防の6分野（運動器の機能向上、栄養改善、口腔機能の向上、閉じこもり予防・支援、認知機能低下予防・支援、うつ予防・支援）のうち、閉じこもり、認知機能、うつについての介護予防としての位置づけ、及び今後の方向性について検討がなされた。特に認知機能の低下予防に関するモデル事業については、地域高齢者を対象としたランダム化試験の実施状況を中心として議論がなされた。この分野について、今後の方向性として①更なる取組みの強化が図られるべきであること、また、②これらの対象者を早急に把握し、適切な対応が取りやすいような仕組みづくりを考えること等、広義の介護予防という視点での取組みが増々重要になるという結論に至った。

3.2 介護予防の総合的評価・分析に係る研究委員会

（委員長： 鈴木 隆雄 国立長寿医療センター研究所 所長）

本研究実施にあたっては、介護予防事業のシステム面を強化したモデル研究と2つの小委員会を設置し、以下のことを実施した。

<介護予防事業のシステム面を強化したモデル研究事業>

「介護予防事業のシステム面を強化したモデル」を実施する背景には、平成18年4月より実施された「生活機能評価」のなかの特定高齢者候補者選定のための基本チェックリストは、その実施率が低く、特定高齢者の把握が進んでいないことから、特定高齢者施策の参加率が低い現状がある。よって、できるだけ多くの高齢者の実態を把握し、要介護リスクの高い高齢者にアプローチすることが急務の課題となっている。

そこで、これらの課題を解決する方策として、以下に示す2つのモデル研究事業を設定し、平成21年度より開始した。

①A-1；基本チェックリストの全数配布・回収」研究事業

②A-2；介護予防教室の重点的な周知・開催」研究事業

<実施委員会>

運動器疾患対策プログラムおよび複合プログラムについては、介護予防実態調査分析支援事業におけるモデル事業の実施内容、モデル事業を評価するための調査票を作成した。また、モデル事業について、平成22年12月末までの状況を調査・分析した。

認知機能低下予防プログラムについては、研究交流会を開催し、平成23年から開始するモデル事業のプロトコル作成、実施に関する具体的研究デザイン、および評価方法の検討を行った。

<進捗管理委員会>

進捗管理委員会では、介護予防実態調査分析支援事業において、モデル事業の効果等を検証するための調査デザインを検討するとともに、モデル事業の実施市町村における進捗管理を行った。

3.3 介護予防に係る科学的知見の収集及び分析委員会

（委員長： 武林 亨 慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学 教授）

本年度は、介護予防事業開始後、わが国において実施された介護予防事業等に関する調査研究のうち、医学中央雑誌に掲載されており、日本語で記載された知見の収集を行った。あわせて、公的研究費（厚生労働科学研究費補助金、文部科学省科学研究費補助金）のデータベースからの収集も行った。さらに、平成21年度に作成したPubMed掲載の英文誌掲載の知

見のエビデンステーブルについては、得られた成果の活用を促すため検索機能を付与して Web 上で公開した。

第Ⅱ章 介護予防の総合的評価・分析に関する 研究委員会

目 次

第Ⅱ章 介護予防の総合的評価・分析に関する研究委員会 13

1. 目的 13
2. 方法 13
3. 結果の概要 13

〈実施委員会報告〉

1. 介護予防事業のシステム面を強化したモデル（システム介入） 15
 1. 目的 15
 2. 方法 15
 3. 結果 19
 4. 考察 22
2. より効果の見込まれる介護予防プログラムを実施するモデル（プログラム介入）
 - a. 運動器疾患対策の効果（B－1モデル事業） 24
 1. はじめに 24
 2. 方法 24
 3. 結果 28
 4. 考察 32
 5. 結論 33
 - b. 複合プログラム 44
 1. 研究目的 44
 2. 研究方法 44
 3. 研究結果 44
 4. 考察 46
 5. 結果 46
 6. 研究発表 46
 - c. 認知機能低下予防プログラム 48
 1. MCR報告書 48
 2. 板橋区における認知機能低下の抑制効果に関する研究報告書 50
 3. 高崎市における認知機能低下の抑制効果に関する研究報告書 77
 4. 大府市における認知機能低下抑制効果に関する実証研究報告書 93

〈進捗管理委員会報告〉

- a. 効果評価 113
 1. 背景 113
 2. 研究計画の概要 113
 3. 中間集計結果の概要（平成22年12月末時点） 114
 4. 考察 121
- b. モニタリング 122
 1. はじめに 122

2. 方法 122
3. 結果 123
4. まとめ 123

第Ⅱ章 介護予防の総合的評価・分析に関する研究委員会

1. 目的

本研究では、第Ⅰ章の「1. 目的」にあるように、今後の介護予防のあり方及び具体的なサービスについて一定の結論を出すことを最終目的とし、介護予防実態調査分析支援事業において、収集された「介護予防事業」に係る情報を科学的に分析するための方法論等を検討する。

2. 方法

本研究実施にあたっては、以下のようなメンバーで、2つの小委員会を設置し、前記の目的の達成に努めた。

【委員長】

鈴木 隆雄 国立長寿医療センター研究所 所長

【委員】

<実施委員会>

①介護予防事業のシステム面を強化したモデル（システム介入）

吉田 英世 東京都健康長寿医療センター 自立促進と介護予防研究チーム
研究副部長

②より効果が見込まれる介護予防プログラムを実施するモデル（プログラム介入）

a.運動器疾患対策の効果

大淵 修一 東京都健康長寿医療センター 研究副部長

b.複合プログラム

小坂 健 東北大学大学院歯学研究科国際歯科保健学分野 教授

c.認知機能低下プログラム

鈴木 隆雄 国立長寿医療センター研究所 所長

<進捗管理委員会>

a.効果評価

成川 衛 北里大学大学院薬学研究科臨床医学(医薬開発学) 准教授

b.モニタリング

安村 誠司 福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座 教授

3. 結果の概要

2つの小委員会においては、以下のことを実施した。（結果の詳細は、次項以降参照）

<実施委員会>

運動器疾患対策プログラムおよび複合プログラムについては、介護予防実態調査分析支援事業におけるモデル事業の実施内容、モデル事業を評価するための調査票を作成した。また、モデル事業について、平成22年12月末までの状況を調査・分析した。

認知機能低下予防プログラムについては、研究交流会を開催し、平成23年から開始するモデル事業のプロトコル作成および評価方法の検討を行った。

<進捗管理委員会>

進捗管理委員会では、介護予防実態調査分析支援事業において、モデル事業の効果等を検証するための調査デザインを検討するとともに、モデル事業の実施市町村における進捗管理を行った。

第Ⅱ章 介護予防の総合的評価・分析に関する研究〈実施委員会報告〉

1. 介護予防事業のシステム面を強化したモデル（システム介入）

東京都健康長寿医療センター研究所

研究副部長 吉田 英世

1. 目的

「介護予防事業のシステム面を強化したモデル」を実施する背景には、平成 18 年 4 月より実施された「生活機能評価」のなかの特定高齢者候補者選定のための基本チェックリストは、その実施率が低く（平成 19 年度：29.4%）、特定高齢者の把握が進んでいない（平成 19 年度：3.3%）ことから、特定高齢者施策の参加率が低い現状がある。よって、できるだけ多くの高齢者の実態を把握し、要介護リスクの高い高齢者にアプローチすることが急務の課題となっている。

そこで、これらの課題を解決する方策として、以下に示す 2 つのモデル研究事業を設定し、平成 21 年度より開始した。

(1) 「A-1；基本チェックリストの全数配布・回収」研究事業

地域包括支援センターの担当圏域内の全高齢者（要支援・要介護者を除く）を対象に「基本チェックリスト」を配布して、回収率を上げることにより、より多くの特定高齢者候補者の選定や特定高齢者施策の参加率の向上につながるかどうかを検証する。

(2) 「A-2；介護予防教室の重点的な周知・開催」研究事業

地域包括支援センターの担当圏域内の高齢者（400 人程度を目安）を対象に介護予防教室を周知して、その参加率をあげ、そこで高齢者自身が介護予防の必要性和意義を十分に理解してもらうことにより、より多くの特定高齢者候補者の選定や、特定高齢者施策の参加率の向上につながるかどうかを検証する。

2. 方法

2.1 本事業の対象市町村の要件

(1) 「A-1；基本チェックリストの全数配布・回収」：以下の両方の要件を満たす市町村

- ① 基本チェックリストの回収率（実施者数；対高齢者）が 3 割未満
- ② 基本チェックリストを全数配布していない、又は全数配布しているが未回収者のフォローをしていない

(2) 「A-2；介護予防教室の重点的な周知・開催」：以下のすべての要件を満たす市町村

- ① 基本チェックリストの回収率（実施者数；対高齢者）が 3 割未満

- ② 基本チェックリストを全数配布していない、又は全数配布しているが未回収者のフォローをしていない
- ③ 介護予防教室を8グループ（1グループあたり25人、1ヶ月半で3回開催）実施することが可能な市町村

2.2 事業の対象者

- (1) 「A-1；基本チェックリストの全数配布・回収」
市町村のなかで、1箇所以上の地域包括支援センターの担当圏域内における高齢者全員。
- (2) 「A-2；介護予防教室の重点的な周知・開催」
市町村のなかで、1箇所以上の地域包括支援センターの担当圏域内の高齢者を対象に開催した介護予防教室参加者全員。

2.3 実施内容・方法

- (1) 「A-1；基本チェックリストの全数配布・回収」
 - ① 「基本チェックリスト配布の事前周知」
基本チェックリスト配布について、事前に地域包括支援センター担当圏域内の高齢者に対し、介護予防の説明等も含めて周知を行った。
 - ② 「基本チェックリストの全数配布」
基本チェックリストの配布対象者は、地域包括支援センター担当圏域内の全高齢者（要支援・要介護認定者を除く）とした。
 - ③ 「基本チェックリストの回収・フォロー」
基本チェックリストの回収率の目標を50%以上とした。そのため、基本チェックリストの回答のない高齢者に対しては、電話・訪問・手紙等によるフォローを行い、併せて、回答不能者（回答拒否、死亡、転出、入院・入所などの理由により回答不能と判断された者）の状況も把握した。
 - ④ 「特定高齢者候補者の把握」
回収した基本チェックリストの回答に不備がある場合は、電話等にて未記入箇所に関する確認を行なう。確認を取ることができない場合は、未記入の設問に関して「該当」とみなす。これらを通じて完全回答となった基本チェックリストについて、特定高齢者候補者の選定を行った。
 - ⑤ 「本モデル事業の対象者の人数・構成の把握」
特定高齢者候補者より、その後、生活機能評価実施者数、特定高齢者数、特定高齢者施策参加者数等について把握をした。

(2) 「A-2 ; 介護予防教室の重点的な周知・開催」

① 「介護予防教室の参加者の募集」

対象者は、地域包括支援センター担当圏域内の高齢者（要支援・要介護認定者を除く）で、そのうち400人程度以上を目安として無作為に選定し、介護予防教室の対象者とする。

これら対象者全員に、手紙、電話、訪問などにより介護予防教室の開催を周知し、参加者を募った（一次募集）。そして、一次募集時に、参加拒否、死亡、転出、入院・入所などの理由により参加不能と判明した者以外の者に対して、さらに参加促進のフォローを行った（二次募集）。

最終的に、介護予防教室への参加率は、対象とした高齢者の50%以上を目標とした。

② 「介護予防教室の開催」（「基本チェックリストの配布、回収」）

地域の実情や介護予防事業の課題等を踏まえた上で介護予防教室を以下の要領で開催した。

介護予防教室の開催頻度は、1グループ（25人程度）につき、2週間に1回程度（1回2時間程度）で、計3回コースとし、8グループ以上開催し、延べ200人以上の参加を目指した。

この介護予防教室の参加者に対して、基本チェックリストを実施した（自記式、聞き取り等）

③ 「特定高齢者候補者の把握」

基本チェックリストの回答に不備がある場合は、教室の開催期間内に確認し、完全回答となった基本チェックリストについて、特定高齢者候補者の選定を行った。

④ 「本モデル事業の対象者の人数・構成の把握」

特定高齢者候補者より、その後、生活機能評価実施者数、特定高齢者数、特定高齢者施策参加者数等について把握をした。

2.4 事業実施報告

本モデル事業を実施する市町村の状況を把握するための調査票は、以下の「市町村票」、「地域包括票」、及び「職種別従事時間票」の3種類である。

(1) 市町村票：本モデル事業を実施する地域包括支援センターが所属する市町村の状況

(2) 地域包括票：本モデル事業の実施状況報告（主な項目は以下のとおり）

① (A-1) 基本チェックリスト配布者数

(A-2) 介護予防教室参加者数

② 基本チェックリスト実施者数

③ 特定高齢者候補者数

④ 生活機能評価実施者数

⑤ 特定高齢者数

⑥ 特定高齢者施策参加者数

(3) 職種別従事時間票；職種別に費やした時間

※平成 21 年度事業は、平成 22 年 3 月 31 日までの実績に関して、最終報告（平成 22 年 5 月末）済みである。

※平成 22 年度事業は、平成 22 年 12 月 31 日までの実績についての中間報告である。

2.5 事業評価分析

(1) 平成 21 年度実施した本モデル事業（「A-1；基本チェックリストの全数配布・回収」、「A-2；介護予防教室の重点的な周知・開催」）を実施した地域包括支援センター担当圏域内における以下の数値指標に関して、平成 20 年度の全国市町村データ「介護予防事業（地域支援事業）の実施状況に関する調査」との比較を行う。

(2) 平成 22 年度実施した本モデル事業については中間報告であるが、「A-1；基本チェックリストの全数配布・回収」、「A-2；介護予防教室の重点的な周知・開催」を実施した地域包括支援センター担当圏域内における以下の数値指標に関して、平成 21 年度の全国市町村データ「介護予防事業（地域支援事業）の実施状況に関する調査」との比較を行う。

<評価分析指標>

- ① 基本チェックリスト配布数（率）
- ② 基本チェックリスト実施数（率）
- ③ 特定高齢者候補者数（率）
- ④（参考）生活機能評価実施数（率）
- ⑤（参考）特定高齢者数（率）
- ⑥（参考）特定高齢者施策参加数（率）

なお、本モデル事業では、特定高齢者候補者数の把握までが主な事業範囲あり、④生活機能評価実施数、⑤特定高齢者数、⑥特定高齢者施策参加数は実施対象者数の人数把握に留まるため参考値とした。

2.6 本モデル事業実施市町村（地域包括支援センター）

(1) 「A-1；基本チェックリストの全数配布・回収」（18 地域包括支援センター）

- ①秋田県横手市 横手市西部地域包括支援センター
- ②山形県山形市 済生会愛らんど地域包括支援センター
- ③山形県長井市 長井市地域包括支援センター
- ④栃木県大田原市 大田原市西部地域包括支援センター
- ⑤群馬県草津町 草津町地域包括支援センター
- ⑥神奈川県大井町 大井町地域包括支援センター
- ⑦兵庫県市川町 市川町地域包括支援センター

- ⑧鳥取県米子市 箕蚊屋包括支援センター
- ⑨島根県出雲市 出雲高齢者あんしん支援センター
- ⑩広島県尾道市 尾道市北部地域包括支援センター
- ⑪高知県四万十市 四万十市地域包括支援センター
- ⑫佐賀県江北町 江北町地域包括支援センター
- ⑬長崎県長崎市 長崎市東長崎・日見地域包括支援センター
- ⑭長崎県長崎市 長崎市西部地域包括支援センター
- ⑮長崎県壱岐市 壱岐市地域包括支援センター
- ⑯熊本県山鹿市 山鹿市介護保険課地域包括支援センター
- ⑰熊本県大津町 大津町地域包括支援センター
- ⑱鹿児島県大崎町 大崎町地域包括支援センター

注) ②山形県山形市(済生会愛らんど地域包括支援センター)、⑮長崎県壱岐市(壱岐市地域包括支援センター)は、平成22年度より新規事業開始、この他の16地域包括支援センターは、平成21年度より継続事業実施

(2)「A-2；介護予防教室の重点的な周知・開催」(10地域包括支援センター)

- ①北海道本別町 本別町地域包括支援センター
- ②青森県三戸町 三戸町地域包括支援センター
- ③福井県鯖江市 鯖江市地域包括支援センター
- ④大阪府東大阪市 地域包括支援センター サンホーム
- ⑤大阪府東大阪市 地域包括支援センター みのわの里
- ⑥大阪府東大阪市 地域包括支援センター ヴェルディ八戸ノ里
- ⑦和歌山県橋本市 橋本市地域包括支援センター
- ⑧佐賀県多久市 多久市地域包括支援センター
- ⑨熊本県熊本市 地域包括支援センター 清水・高平
- ⑩大分県九重町 九重町地域包括支援センター

注) ⑤大阪府東大阪市(東大阪市地域包括支援センター みのわの里)は、平成22年度より新規事業開始、この他の9地域包括支援センターは、平成21年度より継続事業実施

3. 結果

3.1 「A-1；基本チェックリストの全数配布・回収」

(1)平成21年度実施事業結果；平成22年3月31日までに報告された「平成21年度実施事業結果」の全16地域包括支援センター最終結果(表1-1)

①基本チェックリスト配布人数の対高齢者率：「平成21年度本モデル事業実施対象地域包括支援センター」では73.9%と、「平成20年度全国値(平成20年度介護予防事業(地域支援事業)の実施状況に関する調査結果)」の52.4%を大きく上回った。

- ②基本チェックリスト実施者（回収数）の対高齢者率：「平成21年度本モデル事業実施対象地域包括支援センター」では50.3%で、「平成20年度全国値」の30.7%を上回った。
- ③基本チェックリストの回収率：「平成21年度本モデル事業実施対象地域包括支援センター（全16箇所）」は68.1%で、「平成20年度全国値」の58.6%を上回った。
- ④特定高齢者候補者の対高齢者率：「平成21年度本モデル事業実施対象地域包括支援センター」は、17.5%で、「平成20年度全国値」の7.7%より2倍以上高かった。

表1-1 平成21年度本モデル事業「A-1：基本チェックリストの全数配布・回収」実施（対象16箇所）と平成21年度全国との比較

	平成21年度本モデル事業実施（対象16箇所）			平成20年度全国		
	人数	対高齢者数率	割合	人数	対高齢者数率	割合
※高齢者数（本モデル事業対象者数）	113,929	100.0%		28,291,360	100.0%	
①基本チェックリスト配布	84,204	73.9%		14,827,663	52.4%	
②基本チェックリスト実施者（回収）	57,350	50.3%	②÷① 68.1%	8,694,702	30.7%	②÷① 58.6%
③特定高齢者の候補者	19,973	17.5%	③÷② 34.8%	2,178,952	7.7%	③÷② 25.1%
④（参考）生活機能評価受診者	1,448	1.3%	④÷③ 7.2%	1,370,939	4.8%	④÷③ 62.9%
⑤（参考）特定高齢者	1,391	1.2%	⑤÷④ 96.1%	690,450	2.4%	⑤÷④ 50.4%
⑥（参考）特定高齢者施策への参加	190	0.2%	⑥÷⑤ 13.7%	128,253	0.5%	⑥÷⑤ 18.6%

（2）平成22年度実施事業結果；平成22年12月31日までに報告された「平成22年度実施事業結果」の全18地域包括支援センターの中間結果（表1-2）

- ①基本チェックリスト配布人数の対高齢者率：「平成21年度本モデル事業実施対象地域包括支援センター」では70.9%と、「平成21年度全国値（平成20年度介護予防事業（地域支援事業）の実施状況に関する調査結果）」の52.2%を大きく上回った。
- ②基本チェックリスト実施者（回収数）の対高齢者率：「平成21年度本モデル事業実施対象地域包括支援センター」では55.0%で、「平成21年度全国値」の30.1%を上回った。
- ③基本チェックリストの回収率：「平成21年度本モデル事業実施対象地域包括支援センター（全16箇所）」は77.6%で、「平成21年度全国値」の57.7%を上回った。
- ④特定高齢者候補者の対高齢者率：「平成21年度本モデル事業実施対象地域包括支援センター」は、16.5%で、「平成21年度全国値」の7.1%より2倍以上高かった。

表1-2 平成22年度本モデル事業「A-1：基本チェックリストの全数配布・回収」実施（対象18箇所）と平成21年度全国との比較

	平成22年度本モデル事業実施（対象18箇所）			平成21年度全国		
	人数	対高齢者数率	割合	人数	対高齢者数率	割合
※高齢者数（本モデル事業対象者数）	139,437	100.0%		28,933,063	100.0%	
①基本チェックリスト配布	98,839	70.9%		15,098,378	52.2%	
②基本チェックリスト実施者（回収）	76,691	55.0%	②÷① 77.6%	8,715,167	30.1%	②÷① 57.7%
③特定高齢者の候補者	23,071	16.5%	③÷② 30.1%	2,067,441	7.1%	③÷② 23.7%
④（参考）生活機能評価受診者	2,332	1.7%	④÷③ 10.1%	1,944,727	6.7%	④÷③ 94.1%
⑤（参考）特定高齢者	2,334	1.7%	⑤÷④ 100.1%	646,573	2.2%	⑤÷④ 33.2%
⑥（参考）特定高齢者施策への参加	344	0.2%	⑥÷⑤ 14.7%	143,205	0.5%	⑥÷⑤ 22.1%

3.2 「A-2；介護予防教室の重点的な周知・開催」

(1) 平成21年度実施事業結果；平成22年3月31日までに報告された「平成21年度実施事業結果」の全9地域包括支援センター最終結果（表2-1）

本モデル事業では、特定高齢者の候補者の把握までであるが、特に、A-2「介護予防教室の重点的な周知・開催」の事業では、「介護予防教室へ参加を通じて、高齢者自身が介護予防の必要性と意義を十分に理解してもらうことにより、特定高齢者施策の参加率の向上につながるかどうかを検証することに重点がおかれている」ことから、本モデル事業外で人数の把握に留まり参考値ではあるが、特定高齢者（決定者）や、その後の特定高齢者施策への参加についても言及する。

- ①基本チェックリストの回収率は、「平成21年度本モデル事業実施対象地域包括支援センター」は、94.0%で、「平成20年度全国値」の58.6%よりも高かった。
- ②特定高齢者の候補者の対基本チェックリスト実施者率は、「平成21年度本モデル事業実施対象地域包括支援センター」は27.6%で、「平成20年度全国値」の25.1%とほぼ同じであった。
- ③特定高齢者施策への参加者の対特定高齢者率は、「平成21年度本モデル事業実施対象地域包括支援センター」は44.7%で、「平成20年度全国値」の18.6%よりも高かった。

表2-1 平成21年度本モデル事業「A-2；介護予防教室の重点的な周知・開催」実施（対象9箇所）と平成21年度全国との比較

	平成21年度本モデル事業実施(対象9箇所)			平成20年度全国		
	人数	対回収者率	割合	人数	対回収者率	割合
※高齢者数				28,291,360		
※※周知対象者	5,291					
※※介護予防教室参加者	1,175					
①基本チェックリスト配布	1,165			14,827,663		
②基本チェックリスト実施者(回収)	1,095	100.0%	②÷① 94.0%	8,694,702	100.0%	②÷① 58.6%
③特定高齢者の候補者	302	27.6%	③÷② 27.6%	2,178,952	25.1%	③÷② 25.1%
④(参考)生活機能評価受診者	56	5.1%	④÷③ 18.5%	1,370,939	15.8%	④÷③ 62.9%
⑤(参考)特定高齢者	38	3.5%	⑤÷④ 67.9%	690,450	7.9%	⑤÷④ 50.4%
⑥(参考)特定高齢者施策への参加	17	1.6%	⑥÷⑤ 44.7%	128,253	1.5%	⑥÷⑤ 18.6%

(2) 平成22年度実施事業結果；平成22年12月31日までに報告された「平成22年度実施事業結果」の全10地域包括支援センター中間結果（表2-2）

- ①基本チェックリストの回収率は、「平成22年度本モデル事業実施対象地域包括支援センター」は、93.4%で、「平成21年度全国値」の57.7%よりも高かった。
- ②特定高齢者の候補者の対基本チェックリスト実施者率は、「平成22年度本モデル事業実施対象地域包括支援センター」は21.1%で、「平成21年度全国値」の23.7%とほぼ同じであった。
- ③特定高齢者施策への参加者の対特定高齢者率は、「平成21年度本モデル事業実施対象地域包括支援センター」は31.6%で、「平成20年度全国値」の22.1%よりも高かった。

表 2-2 平成22年度本モデル事業「A-2；介護予防教室の重点的な周知・開催」実施（対象10箇所）と平成21年度全国との比較

	平成21年度本モデル事業実施(対象10箇所)			平成21年度全国		
	人数	対回収者率	割合	人数	対回収者率	割合
※高齢者数	74,647			28,933,063		
※※周知対象者	5,482					
※※介護予防教室参加者	964					
①基本チェックリスト配布	1,017			15,098,378		
②基本チェックリスト実施者(回収)	950	93.4%	②÷①	8,715,167	57.7%	②÷①
③特定高齢者の候補者	200	19.7%	③÷②	2,067,441	13.7%	③÷②
④(参考)生活機能評価受診者	58	5.7%	④÷③	1,944,727	12.9%	④÷③
⑤(参考)特定高齢者	57	5.6%	⑤÷④	646,573	4.3%	⑤÷④
⑥(参考)特定高齢者施策への参加	18	1.8%	⑥÷⑤	143,205	0.9%	⑥÷⑤

4. 考察

本報告では、平成21年度事業実施最終結果と平成22年度継続中の平成22年12月31日までの中間結果を述べた。よって、この2カ年の事業報告について総括をする。

「A-1；基本チェックリストの全数配布・回収」の研究事業の目標は、ある圏域内の全高齢者（要支援・要介護者を除く）を対象に「基本チェックリスト」を配布して、その回収率を上げ、その結果より多くの特定高齢者候補者が選定されることであった。この点において、両年とも基本チェックリストの配布率（対高齢者数）は、約70～75%で、その回収率も約70%～80%と高く、その結果、約17%の特定高齢者の候補者が選定され、全国値の約7%に比べて2倍以上高く、概ね目標が達成されたものと言えよう。

ところで、平成22年8月6日に、厚生労働省より「地域支援事業の実施について」という通知がなされ、このなかで、特定高齢者を決定するために、これまで生活機能評価介護予防特定高齢者施策において、生活機能評価を称して基本チェックリストを含む生活機能検査を通じて行われていたが、基本チェックリストのみで特定高齢者把握可能にしたことある。併せて、この基本チェックリストの全数配付とその未回収者への対応の充実に努めることも提示されている。そして、こうした対応は、自治体ごとの実情に応じた対応となっている。今後、今回の通達に添った従来の特定高齢者（改正；二次予防事業対象者）の把握が適用されることに際して、既に本モデル事業（システム介入）の結果より、その運用成果が認められており、有用性は高いと思われる。

次に、「A-2；介護予防教室の重点的な周知・開催」の研究事業の目標は、一般高齢者施策のなかで行う「介護予防教室」を通じてその参加率をあげ、そこで高齢者自身が介護予防の必要性と意義を十分に理解してもらうことにより、最終的に特定高齢者施策の参加率の向上につなげることであった。この点で、本事業においては、特定高齢者のなかで、特定高齢者施策への参加率が30～40%と、全国値の約20%より高かった事実は、介護予防教室を通して介護予防の重要性が理解された結果とも推察される。

このように本モデル事業で提示した「A-1；基本チェックリストの全数配布・回収」および、「A-2；介護予防教室の重点的な周知・開催」といった介護予防事業のシステム

面を強化する働きかけが異なる事業の相乗効果によって、従来に比してより多い特定高齢者候補者の把握ならびに、より多い特定高齢者施策への参加が期待される。

第Ⅱ章 介護予防の総合的評価・分析に関する研究

2. より効果の見込まれる介護予防プログラムを実施するモデル（プログラム介入）

a. 運動器疾患対策の効果（B-1モデル事業）

東京都健康長寿医療センター 研究副部長 大淵修一

1. はじめに

平成18年度に、介護保険法が予防重視型システムに改められ、生活機能障害を改善するため、運動器の機能向上プログラムが広く実施されるようになった。その結果、参加者は身体機能、健康関連 QOL が向上することが明らかとなり、有用なプログラムであることが確認された。このようなことから、さらに効用を高め広く普及を図るために、高齢者の最も多い愁訴である骨関節の痛みなど、運動器疾患対策を加えた運動器の機能向上プログラムが求められている。

そこで、本事業は、B-1モデル事業として運動器疾患対策を含む改訂版運動器機能向上プログラムを全国の市町村で実施し、このプログラムが有効であるのかどうかを大規模無作為化比較対照試験により明らかにすることを目的とした。

2. 方法

対象は、全国11自治体（秋田県横手市、福島県西会津市、福島県福島市、埼玉県和光市、東京都府中市、神奈川県開成町、長野県松本市、奈良県田原本町、島根県出雲市、山口県美祢市、福岡県行橋市）の12地域包括支援センターの協力を得て、郵送調査により運動器疾患対策が必要なもので、医師から運動を制限されていないものを抽出した。腰痛、膝痛など複数に問題が有るものでは、そのうち日常生活にもっとも制限となっているものを選択させた。

このうち事業内容の説明を行い、書面にて事業参加の同意を得られた1129名が対象となった。この対象者に対し別機関（北里大学）において、この対象者を先に介入を実施する先行群、3ヶ月遅れて実施する待機群の2群に無作為に割り付けた。事前・事後の2回の調査を完了したものは、膝痛予防対策が253名、腰痛予防対策が253名、転倒・骨折予防対策が113名であった。なお、この事業計画は、東京都健康長寿医療センターの倫理委員会で審査され、承認された。

先行群・待機群の男女比、一次予防、二次予防対象者の比を表1に示した。z検定の結果、先行群待機群に有意な差はなかった。

表1. 男女比、一次・二次予防対象者比.

		先行群		待機群	
		度 数	列の N %	度数	列の N %
膝痛 予防対策	男	40	26.5	30	29.4
	女	111	73.5	72	70.6
	二次予防対象者	36	23.8	29	28.4
	一次予防対象者	115	76.2	73	71.6
腰痛 予防対策	男	46	32.9	46	40.7
	女	94	67.1	67	59.3
	二次予防対象者	40	28.6	35	31.0
	一次予防対象者	100	71.4	78	69.0
予防 対策	男	17	28.3	16	30.2
	女	43	71.7	37	69.8
	二次予防対象者	13	21.7	9	17.0
	一次予防対象者	47	78.3	44	83.0

先行群・待機群の基礎的な変数を表 2 に示した。t 検定の結果、両群に有意差はなかった。

表 2. 先行群と待機群の基礎的変数の差.

	先行群			待機群			
	平均値	標準偏差	有効な N	平均値	標準偏差	有効な N	
膝痛予防対策	年齢	75	6	151	75	6	102
	身長	153.9	9.3	151	153.5	7.4	101
	体重	56.7	9.4	151	56.4	9.4	102
	BMI	23.9	3.0	151	23.9	3.3	101
	握力最大値	24.54	7.89	151	25.51	7.31	102
腰痛予防対策	年齢	76	6	140	75	6	113
	身長	153.3	9.3	140	154.1	9.1	113
	体重	54.2	10.1	140	54.7	9.6	113
	BMI	23.0	3.3	140	22.9	3.1	113
	握力最大値	25.76	7.75	140	26.84	8.38	113
転倒骨折予防対策	年齢	76	7	60	75	6	53
	身長	152.9	8.3	60	152.8	7.4	53
	体重	55.0	10.0	60	53.9	9.0	53
	BMI	23.4	3.4	59	23.0	3.2	53
	握力最大値	22.95	6.07	60	24.96	6.96	53

介入は、改訂版運動器の機能向上マニュアルに従った。開始に先立って、市町村職員と実施者に説明を行い、評価、介入のポイントについて確認を行った（資料 1）。

実施手順は、図 1 以下に示したとおりである。

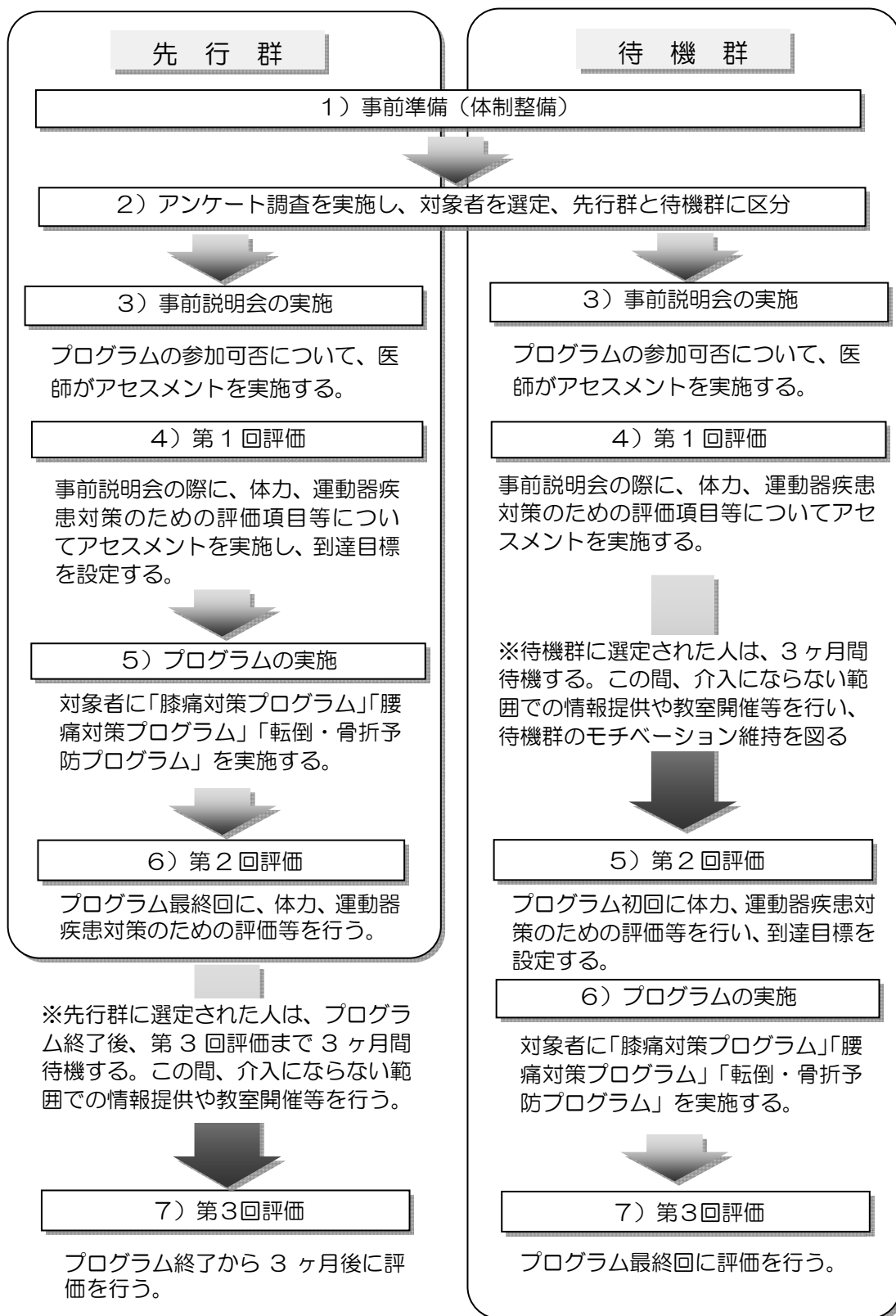


図1. 事業実施手順フローチャート.

別機関（福島県立大学）によって、実施状況調査を行ない、介入が計画通り行われていることを確認した。

プライマリアウトカムは、それぞれ、変形性膝関節症患者機能評価尺度(JKOM)、疾患特異的・患者立脚型慢性腰痛症患者機能評価尺度(JLEQ)、鳥羽による転倒リスク尺度とした。セカンダリアウトカムには、身体機能（開眼片足立ち時間、Timed Up & GO test、5m通常歩行時間、5m最大歩行時間）、健康関連 QOL(SF8)とした。関連要因として WHO-5 により、抑うつ傾向を調べた。評価方法は、改訂版運動器の機能向上マニュアルに従った。評価は、事前と3ヶ月後(事後)とした。待機群の事後の変化を調べるために、第3回評価を行ったが、分析には含めなかった。

分析には、t検定を用いた。有意水準は5%とした。

3. 結果

3.1 事前評価

事前のアウトカム指標を先行群と待機群で比較すると、膝痛予防対策対象者ではいずれの項目にも有意な差を認めなかった(表3, $p>.05$)。腰痛予防対象者では、開眼片足立ち時間のみが、先行群が高かったが($p>.05$)、その他の指標では有意差が見られなかった(表4, $p>.05$)。転倒・骨折予防対象者では、いずれの項目にも有意差を認めなかった(表5, $p>.05$)。

表3. 膝痛予防対策対象者の事前アウトカム指標の比較.

	先行群			待機群			t 値	自由度	有意確率 (両側)
	N	平均値	標準偏差	N	平均値	標準偏差			
膝の状態の評価 (JKOM) : 1~25の総得点	151	20	15	102	20	14	0.154	251	0.878
転倒リスク評価表 : 1~21の総得点	151	9	3	102	9	3	-0.745	251	0.457
SF8身体的サマリースコア	151	43.2	6.29	102	43.4	5.77	-0.190	251	0.850
SF8精神的サマリースコア	151	50.9	6.15	102	52.2	6.18	-1.640	251	0.102
全体的健康観	151	48.2	6.78	102	48.4	5.93	-0.160	251	0.873
身体機能	151	44.9	5.83	102	45.2	5.1	-0.366	234.75	0.715
日常役割機能 (身体)	151	45.9	7.48	102	46.5	6.59	-0.658	251	0.511
体の痛み	151	45.4	7.41	102	46.3	7.38	-0.953	251	0.341
活力	151	49.6	6.04	102	50.1	5.99	-0.637	251	0.525
社会生活機能	151	47.2	7.85	102	48.3	7.69	-1.122	251	0.263
心の健康	151	50.5	6.26	102	51.6	6.02	-1.482	251	0.140
日常役割機能 (精神)	151	49.2	6.29	102	50.4	5.08	-1.655	251	0.099
握力最大値	151	24.5	7.89	102	25.5	7.31	-0.991	251	0.323
開眼片足立ち最大時間	151	31.6	23.14	101	27.9	21.66	1.272	250	0.205
TUG最小時間	151	7.5	2.46	102	7.9	2.54	-1.237	251	0.217
5m通常歩行時間	151	4.2	1.3	101	4.3	1.3	-1.015	250	0.311
5m最大歩行最小時間	151	3.2	0.93	101	3.3	0.96	-1.155	250	0.249
WHO-5 (精神的健康度) 1~5の総得点	151	12	5	102	12	4	0.030	242.06	0.976

表4. 腰痛予防対策対象者の事前アウトカム指標の比較.

	先行群			待機群			t 値	自由度	有意確率 (両側)
	N	平均値	標準偏差	N	平均値	標準偏差			
腰の状態の評価 (JLEQ) : 1~30の総得点	140	27	18	113	25	20	0.892	251	0.373
転倒リスク評価表 : 1~21の総得点	140	9	3	113	8	4	0.975	251	0.331
SF8身体的サマリースコア	140	42.8	6.25	113	43.5	6.1	-1.005	251	0.316
SF8精神的サマリースコア	140	50.0	6.79	113	49.9	6.9	0.117	251	0.907
全体的健康観	140	47.1	5.83	113	47.0	6.27	0.129	251	0.898
身体機能	140	44.8	6.66	113	45.8	5.49	-1.278	251	0.202
日常役割機能 (身体)	140	45.2	6.66	113	45.7	7.06	-0.599	251	0.550
体の痛み	140	44.7	6.95	113	45.2	7.62	-0.524	251	0.600
活力	140	49.0	5.96	113	49.2	6.27	-0.217	251	0.829
社会生活機能	140	46.2	9.07	113	47.3	7.55	-1.026	250.75	0.306
心の健康	140	49.5	6.42	113	49.3	7.27	0.264	251	0.792
日常役割機能 (精神)	140	48.7	6.2	113	48.8	6.94	-0.196	251	0.845
握力最大値	140	25.8	7.75	113	26.8	8.38	-1.059	251	0.291
開眼片足立ち最大時間	140	34.4	22.79	113	27.6	20.9	2.464	246.88	0.014
TUG最小時間	140	7.7	2.62	113	7.4	2.88	0.855	251	0.393
5m通常歩行時間	140	4.2	1.3	113	4.2	1.2	0.238	251	0.812
5m最大歩行最小時間	140	3.2	1.02	113	3.2	1.03	0.163	251	0.871
WHO-5 (精神的健康度) 1~5の総得点	140	13	4	113	14	5	-1.629	251	0.105

表5. 転倒・骨折予防対策対象者の事前アウトカム指標の比較

	先行群			待機群			t 値	自由度	有意確率 (両側)
	N	平均値	標準偏差	N	平均値	標準偏差			
転倒リスク評価表 : 1~21の総得点	59	8	3	53	8	3	-0.171	110	0.865
転倒不安感尺度 : 1~10の総得点	59	14	5	53	14	5	-0.037	110	0.971
SF8身体的サマリースコア	60	45.8	6.43	53	45.1	6.56	0.521	111	0.603
SF8精神的サマリースコア	60	48.9	6.82	53	49.0	7.25	-0.068	111	0.946
全体的健康観	60	49.1	6.21	53	48.1	7.05	0.838	111	0.404
身体機能	60	46.7	7.45	53	46.6	5.88	0.035	111	0.972
日常役割機能 (身体)	60	46.5	8.79	53	47.1	6.56	-0.399	111	0.691
体の痛み	60	48.6	8.23	53	46.4	8.26	1.440	111	0.153
活力	60	50.2	6.85	53	48.7	7.64	1.102	111	0.273
社会生活機能	60	45.5	10.28	53	47.3	9.87	-0.973	111	0.332
心の健康	60	50.2	6.44	53	49.1	6.55	0.932	111	0.353
日常役割機能 (精神)	60	48.1	8.46	53	48.5	6.63	-0.327	111	0.745
握力最大値	60	23.0	6.07	53	25.0	6.96	-1.642	111	0.103
開眼片足立ち最大時間	59	24.2	23.08	53	28.3	21.84	-0.957	110	0.340
TUG最小時間	59	8.2	2.65	53	7.7	1.98	1.160	110	0.249
5m通常歩行時間	60	4.4	1.5	53	4.1	1.1	1.010	111	0.315
5m最大歩行最小時間	60	3.4	1.3	53	3.2	0.91	0.741	111	0.460
WHO-5 (精神的健康度) 1~5の総得点	59	12	5	53	13	5	-0.470	110	0.639

3.2 効果の比較

2 回の測定値を効果がある場合に正の数値となるように差分をとり、先行群、待機群を t 検定で比較したところ、膝痛予防対策では、JKOM は先行群が 6.0 ± 7.96 点に対して、待機群が -0.2 ± 7.49 点と先行群で有意に効果が高かった ($p < .01$)。健康関連 QOL は、身体的サマリースコア、身体機能、日常役割機能（身体）では、有意な差を認めなかったが、その他の項目では先行群が待機群よりも有意に高かった ($p > .05$)。身体機能では、片足立ち時間を除く全ての項目で先行群が有意に高かった（表 6, $p < .05$ ）。また、WHO-5 についても有意に先行群が高かった ($p > .05$)。

表 6. 膝痛予防対象者の先行群と待機群の効果の差.

	先行群			待機群			t 値	自由度	有意確率 (両側)
	N	平均値	標準偏差	N	平均値	標準偏差			
JKOM1 回目-2 回目	151	6.0	7.96	102	-0.2	7.49	6.239	251	0.000
転倒リスク尺度1 回目-2 回目	151	1.5	2.21	102	0.3	2.02	4.456	251	0.000
SF8 身体的サマリースコア2 回目-1 回目	151	2.2	6.29	102	0.7	5.72	1.880	251	0.061
SF8 精神的サマリースコア2 回目-1 回目	151	1.3	5.76	102	-2.0	4.98	4.775	251	0.000
SF8 全体的健康観2 回目-1 回目	151	3.2	5.97	102	-0.3	6.07	4.432	214.468	0.000
SF8 身体機能2 回目-1 回目	151	1.6	6.72	102	0.0	6.00	1.968	232.341	0.050
SF8 日常役割機能（身体）2 回目-1 回目	151	1.4	7.53	102	0.2	6.65	1.286	251	0.200
SF8 体の痛み2 回目-1 回目	151	2.5	7.79	102	-0.2	7.01	2.739	251	0.007
SF8 活力2 回目-1 回目	151	3.0	5.64	102	-0.5	6.16	4.593	251	0.000
SF8 社会生活機能2 回目-1 回目	151	1.2	8.07	102	-0.8	6.88	2.098	251	0.037
SF8 心の健康2 回目-1 回目	151	2.0	5.66	102	-2.0	5.15	5.770	251	0.000
SF8 日常役割機能（精神）2 回目-1 回目	151	0.7	7.60	102	-1.3	5.82	2.318	251	0.021
片足立ち時間最大値2 回目-1 回目	150	4.1	15.15	101	3.5	13.45	0.336	249	0.737
TUG 最小時間1 回目-2 回目	150	0.7	1.46	102	0.2	1.03	3.215	250	0.001
5m 通常歩行時間1 回目-2 回目	150	0.3	0.80	101	0.1	0.75	2.262	249	0.025
5m 最大歩行最小時間1 回目-2 回目	150	0.2	0.45	101	0.1	0.44	2.677	249	0.008
WHO5 1 回目-2 回目	151	1.2	3.46	102	-0.9	3.89	4.514	251	0.000

腰痛対策では、JLEQ の先行群が 9.0 ± 14.49 点に対して、待機群が 0.6 ± 8.65 点と有意に先行群が高かった（表 7, $p < .05$ ）。健康関連 QOL は体の痛みと日常役割機能（精神）を除き、先行群が待機群に比較して高かった ($p > .05$)。身体機能では、片足立ち時間を除く全ての項目で、先行群が待機群より高かった ($p > .05$)。WHO-5 についても、先行群が有意に高かった ($p > .05$)。

表 7. 腰痛予防対象者の先行群と待機群の効果の差.

	先行群			待機群			t 値	自由度	有意確率 (両側)
	N	平均値	標準偏差	N	平均値	標準偏差			
JLEQ1 回目-2回目	140	9.0	14.49	113	0.6	8.65	5.718	232.512	0.000
転倒リスク尺度1回目-2回目	140	1.6	2.34	113	0.1	2.32	5.042	251	0.000
SF8身体的サマリスコア2回目-1回目	140	3.3	6.27	113	0.6	6.71	3.356	251	0.001
SF8精神的サマリスコア2回目-1回目	140	1.2	6.87	113	-0.8	5.39	2.522	251	0.012
SF8全体的健康観2回目-1回目	140	5.1	6.68	113	0.6	6.94	5.226	251	0.000
SF8身体機能2回目-1回目	140	2.2	6.31	113	-0.2	6.85	2.834	251	0.005
SF8日常役割機能(身体)2回目-1回目	140	2.6	7.85	113	0.4	6.13	2.466	250.748	0.014
SF8体の痛み2回目-1回目	140	2.6	7.90	113	1.2	7.25	1.444	251	0.150
SF8活力2回目-1回目	140	3.0	5.83	113	-0.5	6.22	4.556	251	0.000
SF8社会生活機能2回目-1回目	140	1.9	9.53	113	-1.6	8.15	3.126	251	0.002
SF8心の健康2回目-1回目	140	2.1	6.25	113	0.2	5.82	2.529	245.935	0.012
SF8日常役割機能(精神)2回目-1回目	140	0.7	7.52	113	-0.4	5.25	1.400	246.222	0.163
片足立ち時間最大値2回目-1回目	139	2.2	13.40	112	1.8	14.41	0.214	249	0.831
TUG最小時間1回目-2回目	139	0.7	2.49	113	0.1	1.55	2.389	250	0.018
5m通常歩行時間1回目-2回目	139	0.4	0.64	111	0.1	0.55	4.017	248	0.000
5m最大歩行最小時間1回目-2回目	139	0.3	0.43	111	0.1	0.43	3.756	248	0.000
WH051 回目-2回目	140	1.7	4.00	113	0.3	3.95	2.766	251	0.006

転倒・骨折予防対象者では、転倒リスク尺度が先行群が 1.4 ± 2.41 点に対して、待機群が 0.3 ± 2.03 と先行群が有意に高かった (表 8, $p < .05$)。しかし、転倒不安尺度には有意差が認められなかった ($p > .05$)。健康関連 QOL では有意差が認められなかった ($p > .05$)。一方、身体機能では、片足立ち時間を含む全ての項目で有意な差を認めた ($p > .05$)。WHO-5 についても有意に先行群が高かった ($p > .05$)。

表 8. 転倒・骨折予防対象者の先行群と待機群の効果の差.

	先行群			待機群			t 値	自由度	有意確率 (両側)
	N	平均値	標準偏差	N	平均値	標準偏差			
転倒リスク尺度1回目-2回目	59	1.4	2.41	53	0.3	2.03	2.659	110	0.009
転倒不安感尺度1回目-2回目	59	1.0	2.69	53	0.4	2.43	1.214	110	0.227
SF8身体的サマリスコア2回目-1回目	60	0.5	7.13	53	-0.2	6.36	0.598	111	0.551
SF8精神的サマリスコア2回目-1回目	60	2.2	7.67	53	1.3	7.05	0.608	111	0.545
SF8全体的健康観2回目-1回目	60	2.3	7.58	53	0.3	6.77	1.449	111	0.150
SF8身体機能2回目-1回目	60	-1.2	7.67	53	-0.3	6.61	-0.690	111	0.492
SF8日常役割機能(身体)2回目-1回目	60	0.4	10.75	53	-0.6	6.54	0.628	99.075	0.532
SF8体の痛み2回目-1回目	60	2.5	8.10	53	1.8	8.54	0.477	111	0.635
SF8活力2回目-1回目	60	3.2	7.01	53	1.1	7.29	1.564	111	0.121
SF8社会生活機能2回目-1回目	60	1.9	13.30	53	0.2	8.73	0.816	102.795	0.416
SF8心の健康2回目-1回目	60	2.2	6.67	53	1.9	6.38	0.256	111	0.799
SF8日常役割機能(精神)2回目-1回目	60	0.3	8.89	53	0.3	7.12	-0.014	111	0.989
片足立ち時間最大値2回目-1回目	59	9.1	16.32	53	1.4	13.42	2.725	110	0.007
TUG最小時間1回目-2回目	59	0.7	0.85	53	0.3	1.09	2.643	110	0.009
5m通常歩行時間1回目-2回目	59	0.3	0.72	53	0.1	0.57	2.115	110	0.037
5m最大歩行最小時間1回目-2回目	59	0.3	0.39	53	0.1	0.35	2.571	110	0.011
WH051 回目-2回目	59	1.6	4.12	53	-0.5	3.96	2.763	110	0.007

4. 考察

運動器疾患対策を含む運動器の機能向上プログラムの普及には、科学的な根拠が重要となる。本プログラムは、慢性期の痛みや転倒・骨折の危険の有るものに対して、段階的に活動量を増やしていくことを特徴とするプログラムを大規模無作為化比較対照試験により検討した。

その結果、膝痛予防対策、腰痛予防対策、転倒・骨折予防対策共に、プライマリアウトカムである、JKOM、JLEQ、転倒リスク尺度に統計学的に有意な改善を認め、これらの対策は科学的に有用であると判断できる。しかし、転倒不安感尺度は有意差を認めていないが、症例数が膝痛予防対策、腰痛予防対策同様に大きくなれば統計学的に有意な差となるのでは無いかと考えられる。

また、転倒・骨折予防対策を除いては、健康関連 QOL にも有意な改善を認め、これらの対策が高齢者の生活をよくする効用があることも確かめられた。転倒・骨折予防対策は、単に身体機能を改善させるだけでなく、健康関連 QOL を高めるための、包括的な介入が必要ではないかと考えられる。興味深いことには、膝痛・腰痛予防対策共に、開眼片足立ち時間に有意な効果を認めていないのにもかかわらず、転倒・骨折予防対策では、これに有意な効果を認めている。すなわち、介入の特異性があり、バランス機能の改善を目標においたプログラムでは、バランス機能が改善することがわかった。今後、プログラム実施時間に余裕があれば、膝痛・腰痛予防対策においても、バランス機能を高めるトレーニングを加えることによってさらに身体機能改善効果が増すのではないかと考えられた。

近年、軽度の抑うつ傾向に対して、軽度の運動が有効で有るという報告が散見されるが、この報告においても、WHO-5 の改善が認められ、運動器疾患に関連する抑うつ傾向は改善する効果があることが示唆された。今後抑うつ傾向が有るものを対象に運動器の機能向上プログラムを実施し、抑うつ傾向を改善するかどうか確認することによって、抑うつひいては閉じこもり予防につながるのではないかと考えられた。

ところで、本事業は介入前後を比較したものであり、この効果がどれくらい持続するのか、あるいは、最終的なアウトカムである要介護認定にどのような影響を及ぼすのかについては、不明である。この件についても、無作為化比較対照試験により確認することが望ましいが、要介護認定の出現までには期間を要すること、また出現率が低いことから、推計で対象者を少なくとも 10 倍（新規、要介護出現率を 1%程度と仮定すると）とした調査が必要となる。また観察機関も 2 年から 3 年間を必要とする。しかし、ここで示されたように、改訂版運動器の機能向上プログラムは、運動器疾患対策に有用であるので、対照群に対し追跡期間中実施しないことは倫理的に許されないと考えられる。科学的信頼性は低下するが、次善策として、対象者の要介護認定状況を追跡し、このプログラムに参加したもの、参加しないものを比較することにより、長期的なアウトカムについて検討する必要がある。

5. 結論

改訂版運動器の機能向上プログラムは、膝痛予防対策、腰痛予防対策、転倒・骨折予防対策として、疾患特異的 QOL を改善し、身体機能を高め有用であると言える。

資料 1

運動器疾患対策プログラム

厚生労働省モデル事業説明会
東京都老人総合研究所
大淵修一

エビデンス

- 運動器の機能向上プログラムは、複数の無作為化比較対照試験によって膝痛・腰痛の二次・三次予防効果があることが示されている(Manninen P et al, 2001、Deyle GD et al, 2000、Ettinger WH Jr et al, 1997)。
- 運動の種類によっては(衝撃運動)、骨密度の増加が期待できる(Karlssohn, 2002、Wolffら,1999)。我が国のガイドラインでも衝撃運動は骨量増加効果があるとしている(伊木(編), 2006)。
- しかし、骨密度の増加は薬物療法の適応があること、侵襲的な評価を必要とすることなどから、本サービス等の目的としにくい。よって、本サービスでは、転倒予防を目的とし、二次的に骨折予防へつなげることにする。

スクリーニング

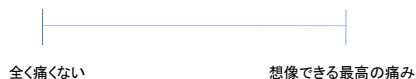
- 急性の痛み(発症3ヶ月以内)があるもの。⇒除外。
- 膝の痛みにより、日常生活の制限を感じているもの。⇒膝痛対策プログラム
- 腰の痛みにより、日常生活の制限を感じているもの。⇒腰痛対策プログラム
- 過去1年間に転倒した経験のあるもの。あるいは転倒の恐怖により日常生活や社会的な活動への制限を感じているもの。⇒転倒・骨折対策プログラム

アセスメント

- 痛みのアセスメント
 - VAS
 - T1,T2,T3
 - P1,P2
- 包括的なアセスメント
 - JKOM
 - JLEQ
- 転倒骨折
 - 1年間の転倒歴
 - 転倒不安尺度

VAS (Visual Analogue Scale)

- 白紙に100mmの線を引き、その左を全く痛くない状態、その右をこれまで想像できる最高の痛みとしたときに、現在の痛みを線を引いて示す方法。



痛みの評価(T1, T2, T3)

- T1=ある動作を開始してから痛みが始まるまでの時間
 - 例:歩き始めてから約30分で膝が痛む
- T2=痛みが出る動作を続けられる時間
 - 例:膝が痛くても10分は歩ける
- T3=痛みが緩和するような努力をしてから痛みが消失するまでの時間
 - 例:10分休むと痛みが消えた

T1=0分 or T2=0分	急性期	RICEで対応
T1≠0分 and T2≠0分、T3>30分	亜急性期	保護的トレーニング
T1≠0分 and T2≠0分、T3<30分	慢性期	トレーニング適応

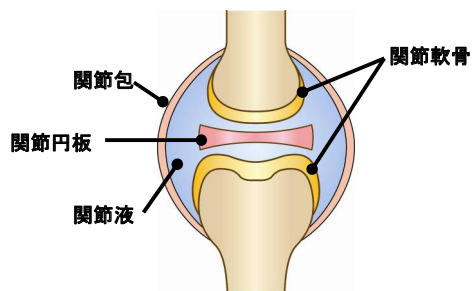
痛みの評価 (P1, P2)

- P1 = 痛みが始まる関節角度
- P2 = 痛みでそれ以上動かせなくなる関節角度

トレーニング後 P1増悪	トレーニング内容修正
トレーニング後 P1維持・改善	トレーニング内容継続

運動器疾患対策プログラムのポイント

関節の構造

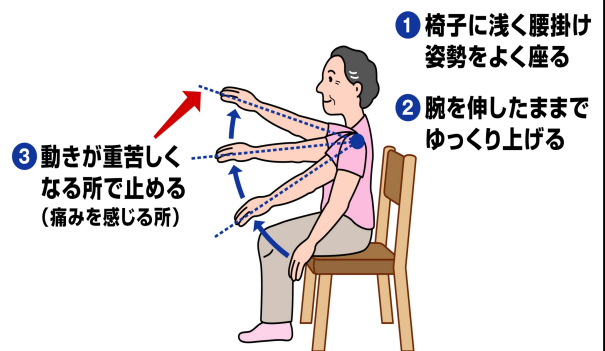


6/2/2011 1:19 PM

Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology

9

事前テスト



運動

③ 手の前であわせる



① 手のひらを自分に向けてあげる

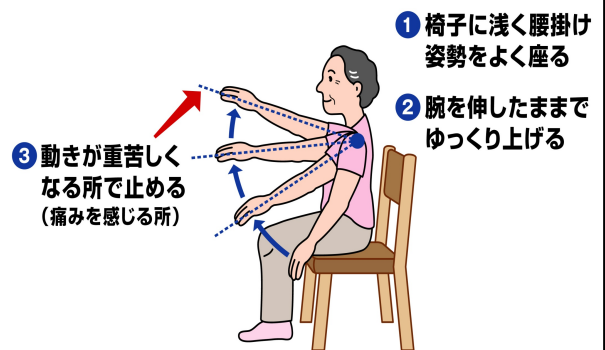
② 手のひらで天井を押す

6/2/2011 1:19 PM

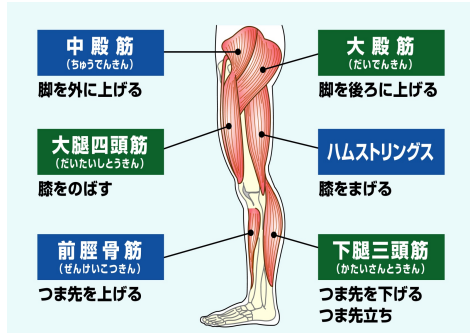
Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology

11

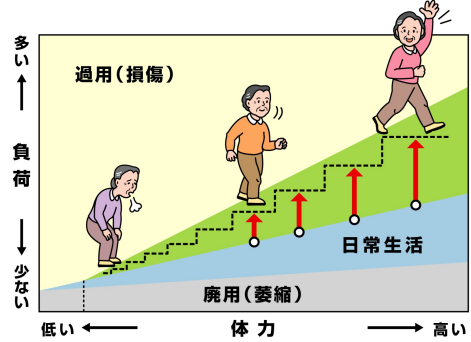
事後テスト



抗重力筋



過負荷の原則

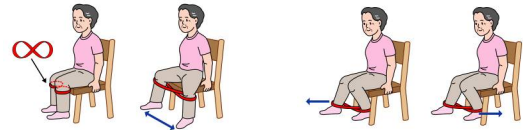


4分の1スクワット

テーブルやイスに両手をついて
膝を軽く(4分の1)
曲げて伸ばす



セラバンドエクササイズ



6/2/2011 1:19 PM

Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology

16



リカンベントスクワット



レッグエクステンション



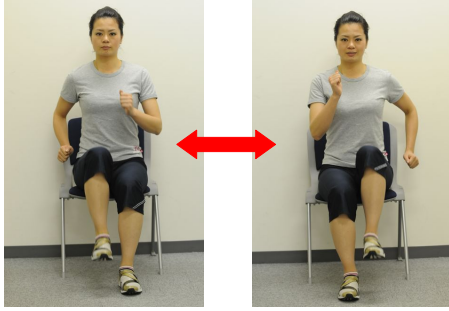
ローイング



ヒップアブダクション

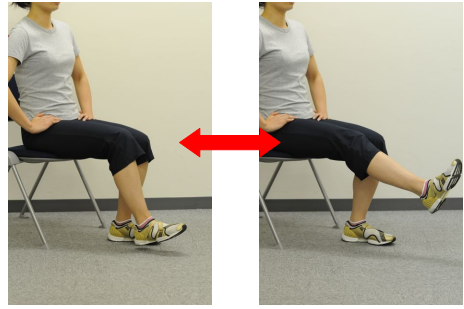
膝痛対策

足踏み

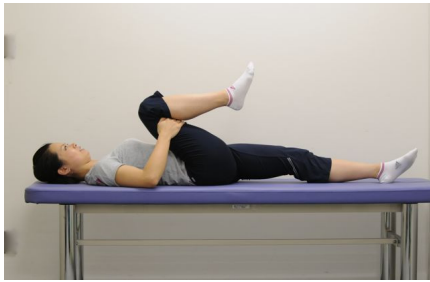


運動に慣れるためのエクササイズ

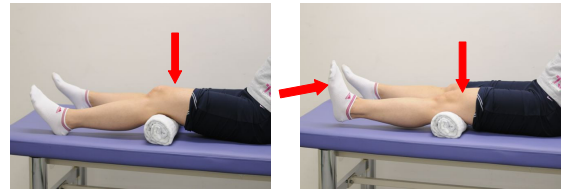
膝関節の屈曲伸展



腸腰筋のストレッチ



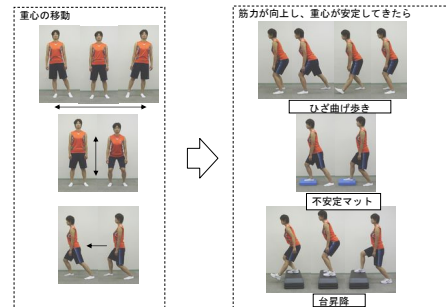
大腿四頭筋の筋力向上(軽度)



大腿四頭筋の筋力向上(中等度)

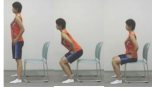


重心の移動



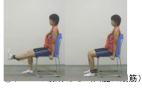
筋力向上運動

①スクワット (大腿四頭筋、ハムストリングス、大殿筋)



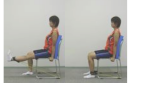
4カウントで立ち上がり
4カウント座る

②チューブストレッチ (大腿四頭筋)



4カウントで膝を伸ばし
4カウントで膝を曲げる

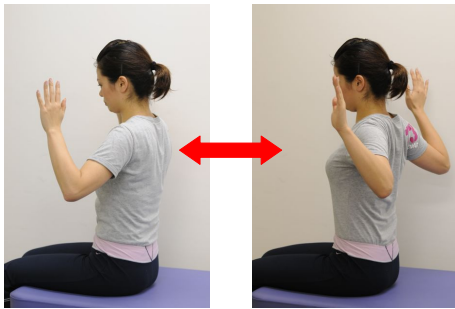
③チューブストレッチ (大腿四頭筋)



4カウントで膝を伸ばし
4カウントで膝を曲げる

腰痛対策

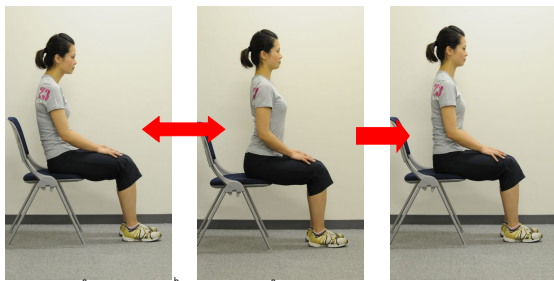
背筋の筋力向上



腹筋の筋力向上



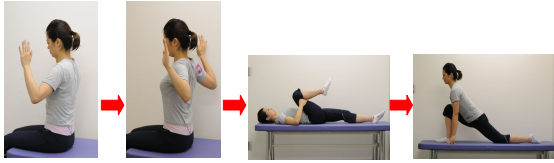
座位姿勢の改善



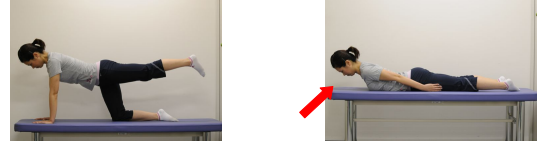
おしり歩き



円背の矯正と下肢のストレッチング

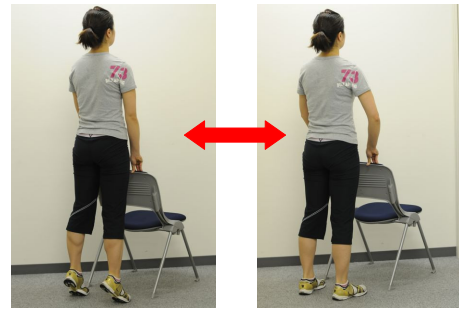


背筋の強化

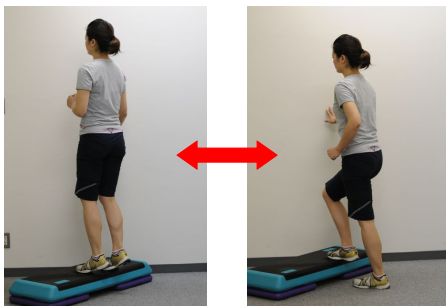


転倒・骨折対策

踵落とし



膝を伸ばした階段下り



痛みの認知への配慮

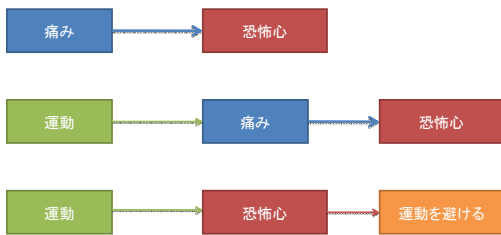
痛みの定義(国際疼痛学会)

- 組織の実質的な損傷または潜在的に起こり得る損傷を伴うか、あるいはこのような組織損傷と関連して表現される不快な感覚的、情動的な経験である
- 発症から3ヶ月を目安として3ヶ月以前を急性痛、3ヶ月以上持続するあるいは断続する痛みを慢性痛とする

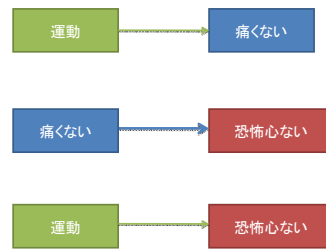
痛みの分類

	急性痛	慢性痛といわれているもの	
		急性痛が長引いたもの	慢性痛症
発生源	組織傷害部の痛覚受容器の興奮	組織傷害部の痛覚受容器の興奮	神経系(主に中枢)の可塑的異常
組織傷害	あり	あり	なし(治療後など)
警告信号としての意義	あり	あり	なし
薬物治療	有効	有効	無効な場合が多い

慢性痛症の痛みの認知



良循環へ



①

●歩く前の痛み

全く痛くない ----- とても痛い

今日の歩数 歩

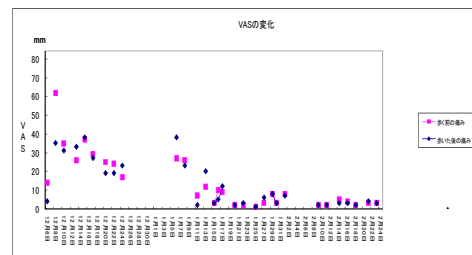
歩いた時間 分

●歩いた後の痛み

全く痛くない ----- とても痛い

気づいたこと

記録例



継続のための配慮

自宅でいかに行くかにポイントを

学習時間	運動			学習時間		
	10分	ウォーミングアップ ストレッチング バランス運動	20分		主運動 機能的運動 筋力向上運動	40分

セルフモニタリング、自己強化

「足腰丈夫！」週間日記

月 日 ー 月 日

※毎日の生活で、「毎週の目標」が達成される目標を立ててみよう!

いつ	週1日	3日おき	2日おき	1日おき	毎日
どこで	お家	公園	公園	文化センター	その他
たれと	ひとりで	お友達と	家族と	その他	

よくできた 全部できてなかった 全部できてなかった 全部できてなかった

日	曜日	ストレッチ	筋トレ	他の様子(感想など)

目標達成 大要 よくできた 全部できてなかった 全部できてなかった

「足腰丈夫！」カレンダー

月 日 ー 月 日

いつ 週1日 3日おき 2日おき 1日おき 毎日

どこで お家 公園 公園 文化センター その他

たれと ひとりで お友達と 家族と その他

よくできた 全部できてなかった 全部できてなかった 全部できてなかった

月						
曜日	1	2	3	4	5	6

1ヶ月の目標達成 大要 よくできた 全部できてなかった 全部できてなかった

Part 1 評価

JKOM (日本版膝関節症機能評価尺度)

- JKOMは膝機能に関連するQOL尺度の1つである。25項目の質問項目からなり、痛み、日常生活活動制限、参加制限の3つの下位尺度がある。膝関節の障害特異的なQOL尺度として近年使われるようになってきた。

この数日間、朝起きて動き出すときに膝がこわばりますか

1:こわばりはない 2:少しこわばる 3:中程度こわばる 4:かなりこわばる 5:ひどくこわばる

この数日間、階段の上り下りほどの程度困難ですか

1:困難はない 2:少し困難 3:中程度困難 4:かなり困難 5:非常に困難

選択肢	1	2	3	4	5
	1	1	1	1	1
配点	0	1	2	3	4

JLEQ (疾患特定・患者立脚型慢性腰痛症患者機能評価尺度)

- JLEQは腰機能に関連するQOL尺度の1つである。30項目の質問項目からなり、痛み、日常生活活動制限、参加制限などが評価される。腰の障害特異的なQOL尺度として近年使われるようになってきた。

この数日間、あお向けで寝ているとき腰が痛みますか

1:痛くない 2:少し痛い 3:中程度痛い 4:かなり痛い 5:ひどく痛い

この数日間、同じ姿勢を続けるのはどの程度つらいですか

1:つらくはない 2:少しつらい 3:ときどき姿勢を変えないとつらい 4:しばしば姿勢を変えないとつらい 5:つねにつらくて、じっとしてられない

Tinetti転倒不安感尺度

- 日常生活活動を行う際の転倒不安感を調べるもの。
- 分類値を単純加算する。従って、10点から40点。
- 40点が不安がもつとも強い状態、10点が全く、不安がない状態。
- 暫定的に、1点以上点数が減少したことを以て改善と見なす。

その他

- SF8 健康関連QOL測定
- WHO-5 精神的健康状態

第Ⅱ章 介護予防の総合的評価・分析に関する研究〈実施委員会報告〉

2. より効果の見込まれる介護予防プログラムを実施するモデル（プログラム介入）

b. 複合プログラム

協力研究者 小坂 健 東北大学大学院歯学研究科 国際歯科保健学分野教授
研究協力者 相田 潤 東北大学大学院歯学研究科 国際歯科保健学分野助教
研究協力者 若栗真太郎 東北大学大学院歯学研究科 国際歯科保健学分野

地域支援事業における介護予防プログラムで、口腔、栄養及び運動を組み合わせた複合プログラムを実施し、全国の10自治体でランダム化比較試験（RCT）を実施した。その結果、評価した多くの項目において、介入群で有意な改善傾向が示唆された。

1. 研究目的

栄養改善、口腔機能向上および運動器の機能向上プログラムと組み合わせた複合プログラムを実施することにより、対象虚弱高齢者の生活機能の維持・向上が図られるかについて、エビデンスレベルの高いランダム化比較試験（RCT）によりプログラムの有効性を検証した。

2. 研究方法

全国の自治体より応募のあった10市町村（福島県飯坂町、群馬県草津町、埼玉県和光市、埼玉県吉見町、三重県志摩市、兵庫県市川町、兵庫県上郡町、島根県邑南町、徳島県小松島市、熊本県美里町）の地域包括支援センターにて実施された。特定高齢者及び虚弱高齢者の対象者について、無作為に2群にわけ、介入群には、栄養改善、口腔機能向上及び運動器の機能向上の3つを組み合わせた複合プログラム実施し、3ヶ月間の介入の結果を待機群と比較した。統計解析については、それぞれの群における3ヶ月間の前後の差について、SPSS version 19を用いpaired T testにて解析を行った。

3. 研究結果

調査参加調査対象者731人のうち、先行群（以下介入群は366人、待機群（以下対照群）は365人であった。しかしながら、表1および表2に示すとおり、データの未入力が多くみられた。結果は示さないが、入力済みのデータにおいてBMI等、2群のベースラインのデータの解析を実施したが、いくつかの項目において、有意差を持って違いが認められた。入力済みのデータのみではRCTとしての無作為性について保証されていないため、暫定的な解析を実施した。データの入力のある介入群（281名）対照群（252名）について解析を実施した。それぞれの代表的な指標について解析結果は表3の通りである。

表1：先行群と待機群とのデータ入力状況

	全体	先行群	待機群
全体	731	366	365
入力済み	592	294	298
未入力	100	34	66
入力途中	39	38	1

表2：地域別のデータ入力状況

	全体	飯坂町	草津町	和光市	吉見町	志摩市	市川町	上郡町	邑南町	小松島市	美里町
入力済み	592	82	33		80	38	75	86	69	59	70
(%)	81	65	100		100	100	100	100	90	100	100
未入力	100	44		48					8		
(%)	14	35		56					10		
入力途中	39	1		38							
(%)	5	1		44							
全体	731	127	33	86	80	38	75	86	77	59	70

表3 介入群の介入前後の変化

	介入群			対照群		
	平均値	標準偏差	有意確率 (両側)	平均値	標準偏差	有意確率 (両側)
BMI	23.2	3.24	0.727	23.3	3.15	0.982
BMI (3ヶ月後)	23.2	3.21		23.3	3.07	
高次生活機能 総得点	12.2	1.31	0.002 *	12.3	1.28	0.838
高次生活機能 総得点 (3ヶ月後)	12.3	1.25		12.3	1.26	
口腔機能の状況	1.4	1.08	0.005 *	1.4	1.07	0.580
口腔機能の状況 (3ヶ月後)	1.2	1.08		1.3	1.02	
RSSTの積算時間(1回目～3回目) 合計	32.7	22.21	0.370	34.4	24.56	0.290
RSSTの積算時間(1回目～3回目) 合計 (3ヶ月後)	31.8	20.15		33.1	22.85	
口腔のQOL (GO-HAI)	50.7	7.61	0.001 *	51.4	7.73	0.092
口腔のQOL (GO-HAI) (3ヶ月後)	51.6	7.41		51.9	7.34	
食事摂取量 総得点	3.6	0.55	0.001 *	3.7	0.53	0.898
食事摂取量 総得点 (3ヶ月後)	3.7	0.48		3.7	0.56	
達成度 総得点	15.8	2.85	0.001 *	16.1	2.82	0.920
達成度 総得点 (3ヶ月後)	16.3	2.62		16.1	2.89	
行動変容のステージ 総得点	3.9	1.21	0.002 *	4.0	1.24	0.056
行動変容のステージ 総得点 (3ヶ月後)	4.1	1.05		4.1	1.16	

月後)							
握力平均	25.7	7.50	0.158	25.7	7.74	0.685	
握力平均 (3ヶ月後)	25.9	7.21		25.8	7.68		
開眼片足立ち平均	29.0	21.32	0.278	28.3	21.17	0.000	*
開眼片足立ち平均 (3ヶ月後)	30.1	21.47		34.7	22.48		
TUG 平均	7.5	1.76	0.000	* 7.4	1.73	0.000	*
TUG 平均 (3ヶ月後)	7.1	1.69		7.1	1.78		
SF-8 (健康関連 QOL)	18.0	5.75	0.000	* 17.3	5.81	0.026	
SF-8 (健康関連 QOL) (3ヶ月後)	16.5	5.43		16.6	5.58		
WHO-5 (精神的健康度)	11.9	4.65	0.000	* 11.8	4.27	0.000	*
WHO-5 (精神的健康度) (3ヶ月後)	10.5	4.18		10.7	4.34		

Paired T test *<0.05

自治体によるすべての参加者のデータ入力終了していないため、暫定的な結果であるが、高次生活機能、口腔機能の状況、口腔の QOL (GO-HAI)、食事摂取量 総得点、達成度 総得点、行動変容のステージ 総得点、TUG 平均、SF-8 (健康関連 QOL) WHO-5 (精神的健康度) において、介入群において介入前後で統計学的に有意差が認められた。しかしながら、SF-8 および WHO-5 では介入前後で数値の改善がみられなかった。また、対照群 (非介入群) においても、開眼片足立ち、TUG 等で待機前後の変化がみられており、これらの点については、今後、詳細なデータの解析が必要であると思われる。

4. 考察

今回、特定高齢者及び地域の虚弱高齢者を対象として、口腔、栄養及び運動を組み合わせたプログラムの介入により、暫定的な解析ではあるが、一部の指標において、その有効性が示唆された。

5. 結果

暫定的な解析ではあるが、介護予防プログラムにおいて、口腔、栄養及び運動を組み合わせた複合プログラムの有効性が示された。

6. 研究発表

1. 論文発表

Jun Aida, Ichiro Tsuji, Shinichi Kuriyama, Atsushi Hozawa, Kaori Ohmori-Matsuda, Ken Osaka. The association between neighborhood social capital and self-reported dentate status in elderly Japanese. "Community Dentistry and Oral Epidemiology. 2010

Jun Aida, Katunori Kondo, Hiroshi Hirai, Tomoya Hanibuchi, S V Subramanian, Chiyo Murata, Yukinobu Ichida, Kokoro Shirai, Ken Osaka. What is the best social

capital indicator predicting all-cause mortality among older Japanese? BMC Public Health 2010

2. 学会発表

Kanade Ito, Jun Aida, ShintaroWakaguri, Kenji Takeuchi, Yuki Noguchi, Ken Osaka. Socioeconomic Inequalities of Tooth Loss among Japanese. The 4th Interface Oral Health Science Symposium 2010, March, Sendai.

ShintaroWakaguri, Kanade Ito, Jun Aida, Kenji Takeuchi, Ken Osaka. Gender different association between self-rated oral health and socioeconomic status among Japanese.The 4th Interface Oral Health Science Symposium 2010, March, Sendai.

第Ⅱ章 介護予防の総合的評価・分析に関する研究〈実施委員会報告〉

2. より効果の見込まれる介護予防プログラムを実施するモデル（プログラム介入）

c. 認知機能低下予防プログラム

1. MCR報告書

国立長寿医療研究センター 所長 鈴木 隆雄

1. 諸言

高齢社会の進展にともなって認知症の増加が深刻な社会問題となり、その予防対象が極めて重要となってきている。国民の多くは高齢となっても認知症となることなく自己の尊厳を保ち自立した生活を強く希望しているが、我が国にはこれまで認知症を予防する手立てに関する十分な科学的根拠が確立していなかった。

認知症予防のための様々な予防戦略のなかで、特に最近重視されているのが、高齢期における軽度認知障害(Mild Cognitive Impairment: MCI)に対する早期把握と早期対応による認知機能低下抑制を中核とする予防対策である。MCIからアルツハイマー型認知症(AD)に移行する例では、早期から後部帯状回や頭頂側頭連合野における脳血流やブドウ糖代謝の低下が報告され、ADを早期に診断できる可能性が示唆されるとともに、MCI段階での適切な生活習慣への介入、特に脳血流を増加させる有効的な手段によって、ADへの移行を予防あるいは先送りさせることの可能性もまた示唆されるようになってきた。

一方、平成18年度の介護保険法の改正により介護予防への政策転換が計られ、生活機能低下を抑制し自立を促進するための施策が実施されるようになった。介護予防事業には運動器の機能向上や栄養改善あるいは口腔機能向上等とならび認知症予防もまたその重要な課題として設定された。しかし認知症予防については、少なくとも我が国にはその予防の科学的根拠について十分な蓄積がなかったために、各自治体での認知症予防対策については必ずしも満足のゆく成果が得られてはこなかった。

上記のような背景のもと、平成20年度より開始された「介護予防実態調査分析支援事業」（以下「本事業」という）では、より効果が見込まれる介護予防に関する実施方法やプログラム内容による介護予防モデル事業を全国的に実施し、併せて当該プログラムを受けた高齢者の状況等を定期的に調査し、その効果等について検証を行うための事業と位置付けられたものである。本事業は大きく次の2つの介入事業から成っている。すなわち、

A：介護予防事業のシステム面を強化したモデル（システム介入）

B：より効果が見込まれる介護予防プログラムを実施するモデル（プログラム介入）

さらに、A、Bの詳細な枠組みは以下のとおりであるが、示されるようにB-3は「認知機能低下予防プログラムの実施」として特にMCIを対象として、認知症機能低下を目的とした運動介入を中心とする介入プログラムを用いたランダム化試験（RCT）を実施することを目的として事業化されたものである。

種類	内容
A-1	基本チェックリストの全数配布・回収及びフォローアップ
A-2	介護予防教室の重点的な周知・開催
B-1	運動器疾患対策プログラム（膝痛・腰痛対策、転倒・骨折予防）の実施
B-2	複合プログラム（栄養改善、口腔機能向上に関するプログラムを主とし、従来の運動器の機能向上プログラムを付加）の実施
B-3	認知機能低下予防プログラムの実施

本報告書はこの介護予防実態調査分析支援事業における認知機能低下予防プログラムの開発の実施に関し、東京都板橋区（分担者：高橋龍太郎）、群馬県高崎市（分担者：山口保晴）、および愛知県大府市（主任：鈴木隆雄、分担者：島田裕之）の3モデル地域でのMCI高齢者に対する運動介入を中心としたランダム化試験による実施状況および成果に関するまとめを報告したものである。

2. 板橋区における認知機能低下の抑制効果に関する研究報告書

東京都健康長寿医療センター研究所 高橋龍太郎

【目的】

近年の認知症高齢者の増加に伴い、国の介護予防事業においても認知症予防は喫緊の課題である。しかし、認知症予防についてはまだ確実なエビデンスが得られていない。一方、認知機能の低下抑制効果については、記憶訓練や注意訓練などの認知リハビリによる介入研究の成果が海外で報告されつつあるが、国内ではほとんどみられない。また、運動による認知機能の低下抑制効果を RCT で検討した研究も海外では数例あるが、国内ではほとんど見受けられない。運動は、認知リハビリ的なプログラムに比べて手軽で日常的に取り入れやすいという利点がある。特にウォーキングは、高齢者が日常生活の中で取り入れやすい運動であり、介護予防事業の認知機能低下抑制プログラムのひとつとして提案しやすい。本研究は、生活機能評価でスクリーニングした地域高齢者を対象に、習慣的なウォーキングによる認知機能の低下抑制効果を RCT 法デザインで検討することを目的とする。また、ウォーキングの習慣化による副次的な介入効果として、運動機能や心理的側面の変化も検討する。

【方法】

1. 研究対象者の抽出

本研究の対象者を抽出するために、以下の方法でスクリーニング調査を実施した。

1) スクリーニング調査の対象

板橋区在住で 65 歳から 79 歳までの 22,377 名が調査対象であった。

内訳；①プログラム実施会場近辺に住む 20,827 名

②平成 21 年度実施の生活機能評価の認知症に関する項目に 1 項目以上
該当した 1,550 名

2) 調査方法

自記式によるアンケート調査を郵送で行った。

3) 調査項目

調査票には、基本属性のほか、生活機能評価、ウォーキングの実施状況、身体機能、脳の病気や頭のけがの有無、足腰の痛みの程度など、研究対象者のスクリーニングに必要と思われる項目に、WHO-5（精神的健康状態表）、地域への信頼度などの項目を加えた（スクリーニング調査の集計結果の概要については、資料 1 参照）。

4) 回収実績

調査票の回収数は 11,011 件、回収率は 49.2%であった。

5) 研究対象者の抽出方法

調査回答者 11,011 名のうち、本研究プロジェクトの説明会への参加を希望する者 3,070 名の中から、下記の 6 つの条件をすべて満たした 390 名を抽出し、説明会の案内を送付した。

- ①生活機能評価の認知症に関する項目に 1 項目以上該当する
- ②脳の病気や頭のけががない
- ③要介護認定を受けていない
- ④医師からの運動制限を受けていない
- ⑤日常のウォーキング時間が 30 分未満である
- ⑥足腰の痛みが「中くらいの痛み」以下である

2. 説明会の実施と研究協力の同意確認

説明会の案内を送付した 390 名のうち、実際に説明会に参加したのは 160 名で、そのうち、研究協力への同意が得られたのは 137 名であった。このうち 1 名は、医師面接の結果で認知症と判断されたため (CDR=1、MMSE=23)、研究対象から除いた。最終的に 136 名を無作為に介入群 68 名、統制群 68 名に割り付けた。

研究対象者の属性は表 1 に示すとおりである。医師面接とベースライン調査の結果、研究対象者の平均年齢は 72.38 歳 (SD=4.19)、男性が 27.9%、平均教育年数は 12.1 年 (SD=2.41) であった。また、MMSE の平均得点は 27.59 点 (SD=1.60)、MMSE の得点範囲は 23 点から 30 点、CDR の評価が 0.5 であった者は 13 名 (9.6%) であった。

表 1 研究対象者の属性

項目	介入群 (n=68)	統制群 (n=68)	全体 (n=136)
年齢	72.01 歳 (SD=4.35)	72.74 歳 (SD=4.02)	72.38 歳 (SD=4.19)
性別	男性 22 名 (32.4%) 女性 46 名 (70.6%)	男性 16 名 (23.5%) 女性 52 名 (76.5%)	男性 38 名 (27.9%) 女性 98 名 (72.1%)
教育年数	12.13 年 (SD=2.41)	12.06 年 (SD=2.50)	12.10 年 (SD=2.45)
MMSE	27.62 点 (SD=1.57)	27.56 点 (SD=1.64)	27.59 点 (SD=1.60)
軽度認知障害 (CDR=0.5)	5 名 (7.4%)	8 名 (11.8%)	13 名 (9.6%)

3. 介入プログラムの内容

居住地や参加可能日を考慮した上で、介入群の対象者を5つの会場に割り振り、それぞれの会場ごとに週1回90分のウォーキングプログラムを全12回（約3か月）実施した。

プログラムの目標は、1日7,000歩から8,000歩の歩行と1日30分週3日の早歩きを習慣化することであった。プログラムには、行動理論とグループづくりの知識と技術をもったファシリテーターが2名配置された。ファシリテーターは、参加メンバーの自己効力感（セルフ・エフィカシー）やグループの集団効力感（コレクティブ・エフィカシー）を高めながら、ウォーキングの習慣化を支援した。メンバーはそれぞれ、毎日の歩行状況をウォーキングカレンダーに記録し、自分で設定したウォーキングの目標をスモールステップで達成していく。毎回のプログラムでは、グループごとにウォーキングカレンダーの記録や目標について報告し合い、早歩きの計測も行った。また、グループごとにウォーキングイベントのテーマや経路を考えて実行し、プログラム終了後の自主活動の方法についても話し合いで決めた。

なお、介入群へのプログラム実施期間中、統制群には、研究協力に対する動機づけを維持するために健康講話会を2回実施した。

4. 評価項目

介入の効果を検証するために、結果評価とプロセス評価、影響評価に必要な項目を測定した。結果評価の評価項目は、プログラム介入前（事前評価）と介入後（事後評価）の2回測定した。プロセス評価はプログラム実施期間中に、影響評価は最終回（第12回）に、それぞれ自記式によるアンケート調査により測定した。

1) 結果評価

A. 認知機能検査

本研究で測定した認知機能検査の課題は、表2のとおりである。ファイブ・コグ検査（①～⑥）は集団で、TMT-A、TMT-B、WAISⅢの符号課題は個別で、それぞれ訓練された検査者が検査を実施した。

表2 認知機能検査の課題

課題	測っている機能・内容
ファイブ・コグ検査	
①手先の運動スピード課題	運動機能
②文字位置照合課題	注意機能
③手がかり再生課題	記憶・学習機能
④動物名想起課題	言語機能
⑤時計描画課題	視空間認知機能
⑥類似課題	思考機能
TMT-A、TMT-B	処理速度、注意機能、遂行機能
WAISⅢの符号課題	遂行機能、注意機能、処理速度

B. 運動機能検査

運動機能検査の項目と計測している機能は、表3のとおりである。

表3 運動機能検査の項目

項目	測っている機能・内容
①握力	手を握る力、全身の筋力と関係が深い
②開眼片足立ち	静的なバランス機能
③Timed Up & Go	敏捷性
④5 m通常歩行	ふつう歩きの速度、移動能力
⑤5 m最大歩行	速歩きの速度、移動能力
⑥生活歩数	朝起きてから夜寝る直前までの、入浴時以外の生活行動に伴う歩数

C. 自記式アンケート調査

自記式アンケート調査の項目・尺度と回答方法は、表4のとおりである。

表4 自記式アンケート調査の項目

項目・尺度	回答方法
①主観的健康感	4件法；健康でない～非常に健康
②もの忘れに対する不安	3件法；ない、少しある、ある
③家族以外の人と交流する頻度	5件法；月1回よりも少ない～ほぼ毎日
④日本語版エプワース眠気尺度（8項目）	4件法；ほとんどない～高い
⑤老研式活動能力指標（13項目）	2件法；いいえ、はい
⑥WHO-5 精神的健康状態表（5項目）	6件法；まったくない～いつも
⑦GDS；高齢者うつ尺度短縮版（15項目）	2件法；いいえ、はい

2) プロセス評価

プロセス評価は、介入プログラムの進行状況の評価するための指標で、ウォーキングの習慣化につながるような意識や行動に関する項目で構成される。プログラム実施期間中に計測し、対象者の回答状況によって、ファシリテーターの情報提供の仕方やグループへの関わり方を調整する。本研究で測定した項目と測定方法・回答方法は、表5のとおりである。

表5 プロセス評価の項目

項目	測定方法・回答方法
①プログラム期間中の毎日の生活歩数	歩数計で測定
②プログラム期間中の毎日の速歩き分数	対象者による自己申告
③ウォーキングカレンダーの記録方法の理解度	4件法；全然理解できなかった～十分理解できた
④ウォーキングカレンダー記録の重要性の認識度	4件法；まったくそう思わない～とてもそう思う
⑤ウォーキングカレンダーの記録の楽しさ	4件法；全然楽しくない～とても楽しい
⑥ウォーキング後の主観的な疲労感	4件法；全然疲れは感じない～とても疲れを感じる
⑦グループ活動の楽しさ	4件法；全然楽しくない～とても楽しい

3) 影響評価

影響評価の項目は、介入プログラムによって対象者（介入群）の行動や意識がどのように影響を受けたかを検証するための指標で、以下のような項目で構成される。

(1) プログラムの出席率

12回のプログラムへの出席回数を12で割って100をかけた値を出席率とした。

(2) プログラムへの全体的評価

プログラムへの全体的な評価をたずねるために、「このプログラムに参加して、よかったですか」という質問をした。回答方法は、4件法（まったくそう思わない～とてもそう思う）であった。

(3) 主観的な効果の実感

このプログラムに参加したことで、表6に示すような①～④の項目にどのくらい効果があったと感じたかをたずねた。回答方法は、すべて5件法（非常によくなった～非常に悪くなった）であった。

表6 主観的な効果の実感に関する項目

項目	例
①からだの健康への効果	血圧が下がった、よく眠れるようになった等
②もの忘れや頭のはたらきへの効果	もの忘れが減った、注意力が増した等
③体力や運動能力への効果	長く歩けるようになった、速く歩けるようになった等
④こころの健康への効果	気分が明るくなった、意欲が出た等

(4) ウォーキング継続に関する効力感

プログラム終了後のことについて、次の①～③についての効力感をたずねた。回答方法は、すべて4件法（まったくそう思わない～非常にそう思う）であった。

- ①毎日ウォーキングカレンダーに記録をつけることができますか。
- ②ウォーキングを長く（これから半年以上）続けていくことができますか。
- ③グループで週1回集まって、ウォーキングの自主活動を続けることができますか。

(5) プログラムの感想

プログラムについての意見や感想を、自由記述で回答してもらった。なお、この自由記述の回答一覧については、資料2に示す。

【結果】

1. 影響評価

ここでは、介入プログラムによって対象者の行動や意識がどのように影響を受けたか（影響評価）について、分析結果を示す。

1) プログラムの出席率

プログラムには、介入群68名のうち63名が参加し、全12回のプログラムの出席率は88.4%と非常に良好であった。会場ごとの出席率は、①蓮根会場88.2%、②赤塚会場94.4%、③はすのみ会場87.1%、④おとせん会場82.5%、⑤研究所会場89.3%であった。

活動辞退者の辞退理由は、「暑い」（1名）、「日程調整が困難」（1名）、「プログラムの内容についていけそうにない」（1名）、「活動参加前からの足の痛み」（1名）、「就職が決まったため」（1名）であった。

2) プログラムへの全体的評価

「このプログラムに参加してよかったですか」という質問に対する回答の割合は、「とてもそう思う」(74.6%)、「どちらかというと思う」(25.4%)を合わせると100%となり、「どちらかというと思わない」または「まったくそう思わない」と回答した者は皆無であった(図1参照)。

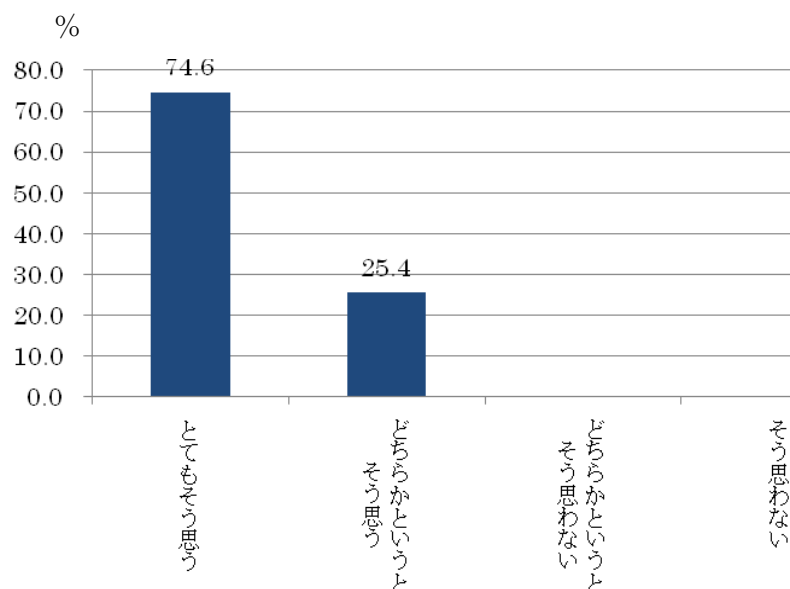


図1 プログラムに参加してよかったですか

3) 主観的な効果の実感

プログラムに参加したことによる主観的な効果の実感についての分布を図2に示す。

①からだの健康への効果

からだの健康への効果について「よくなった」または「非常によくなった」と回答した者の割合は、49.2%であった。

②もの忘れへの効果

もの忘れや頭のはたらきへの効果について「よくなった」または「非常によくなった」と回答した者の割合は、27.1%であった。

③体力への効果

体力や運動能力への効果について「よくなった」または「非常によくなった」と回答した者の割合は、79.7%であった。

④こころの健康への効果

こころの健康への効果について「よくなった」または「非常によくなった」と回答した者の割合は、71.2%であった。

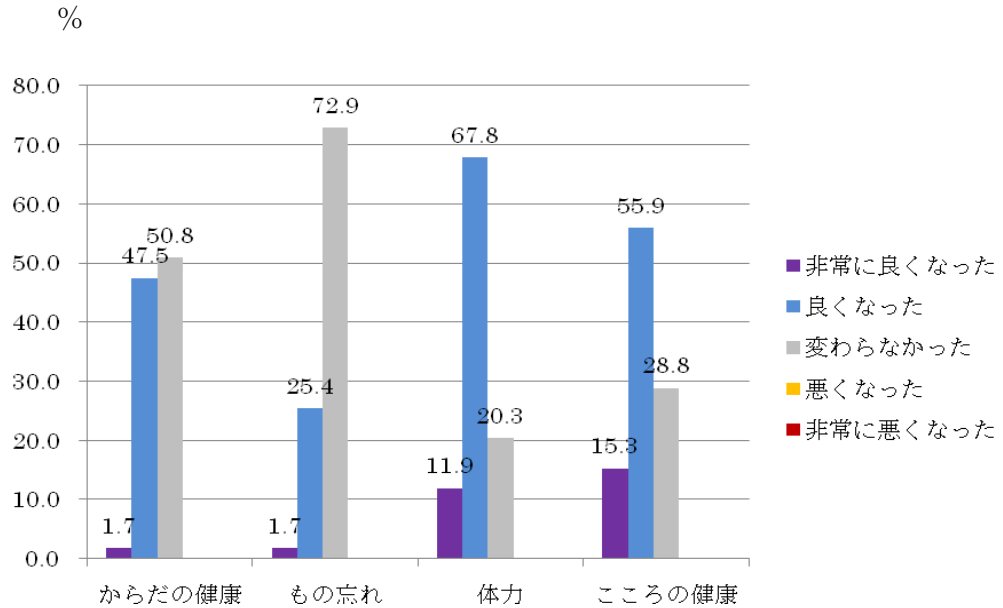


図2 主観的な効果の実感

4) ウォーキング継続に関する効力感

ウォーキングの継続に関する効力感についての分布を図3に示す。

①ウォーキングカレンダーの記録を続けられそうか

プログラム終了後も、ウォーキングカレンダーの記録を続けられそうかという質問に対して、「非常にそう思う」または「まあそう思う」と回答した者の割合は、93.2%であった。

②ウォーキングを半年以上続けられそうか

プログラム終了後も、ウォーキングを半年以上続けられそうかという質問に対して、「非常にそう思う」または「まあそう思う」と回答した者の割合は、96.6%であった。

③グループで週1回集まって自主活動を続けられそうか

プログラム終了後も、グループで週1回集まって自主活動を続けられそうかという質問に対して、「非常にそう思う」または「まあそう思う」と回答した者の割合は、93.2%であった。

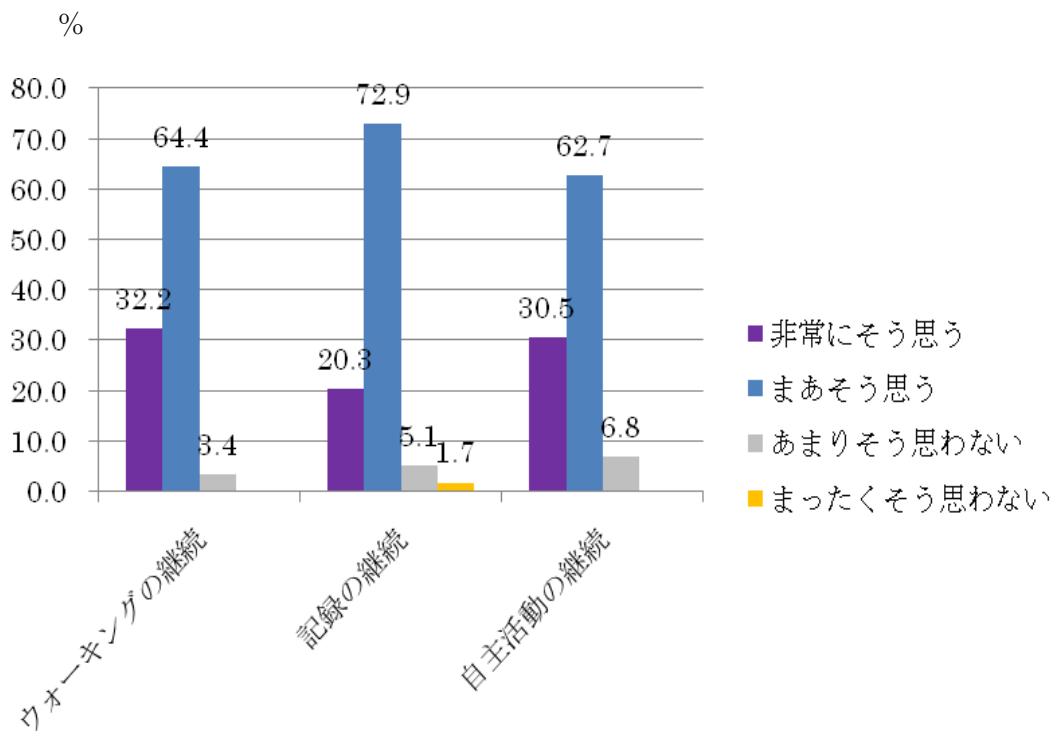


図3 ウォーキング継続に関する効力感

2. 結果評価

ここでは、結果評価（認知機能検査、運動機能検査、自記式アンケート調査）の介入効果についての分析結果を示す。

1) 分析対象

研究対象者 136 名のうち、プログラム介入前（事前評価）とプログラム介入後（事後評価）の両方のデータがそろっている者、かつ介入群についてはプログラムに 70% 以上出席した者を分析対象とした。対象人数は 125 名（介入群 58 名、統制群 67 名）であった。

2) 分析方法

事前、事後の各評価項目を従属変数とした、群×時間の 2 要因分散分析を行った。共変量には、年齢、性別、教育年数を投入した。

3) 分析結果

A. 認知機能検査における介入効果

それぞれの下位検査ごとに分析を行ったが、いずれの認知機能検査においても統計学的に有意な介入効果は示されなかった。

B. 運動機能検査における介入効果

それぞれの下位検査ごとに分析を行ったところ、生活歩数において有意な介入効果がみられ、統制群よりも介入群において介入後の生活歩数が有意に増えていた ($F(1, 120)=45.732$, $p<.001$)。(図4参照)

C. 自記式アンケート調査における介入効果

それぞれの項目、尺度について分析を行ったところ、老研式活動能力指標 ($F(1, 120)=6.26$, $p<.05$) と WHO-5 精神的健康状態表 ($F(1, 118)=4.22$, $p<.05$) において有意な介入効果がみられ、いずれの尺度でも、統制群より介入群において介入後の得点が有意に高かった。(図5、図6参照)

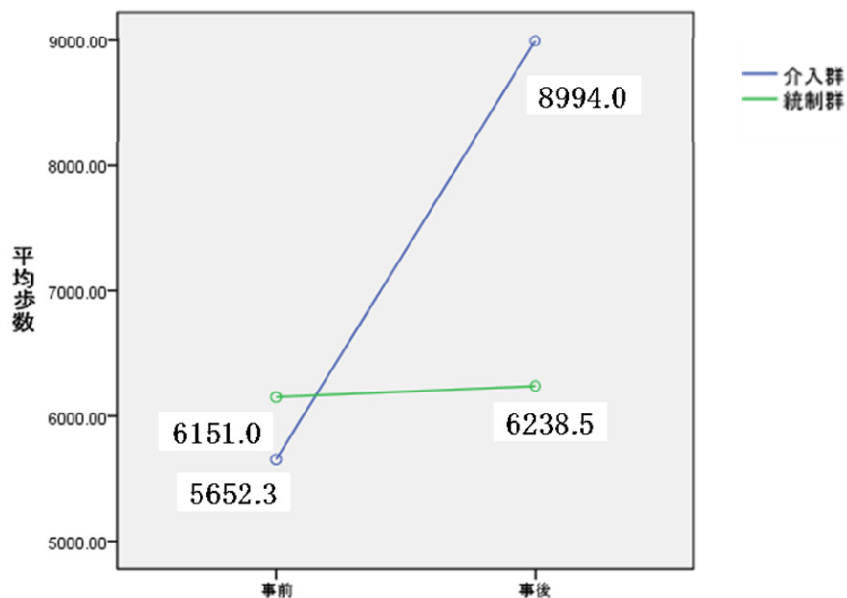


図4 全対象者における生活歩数の介入効果

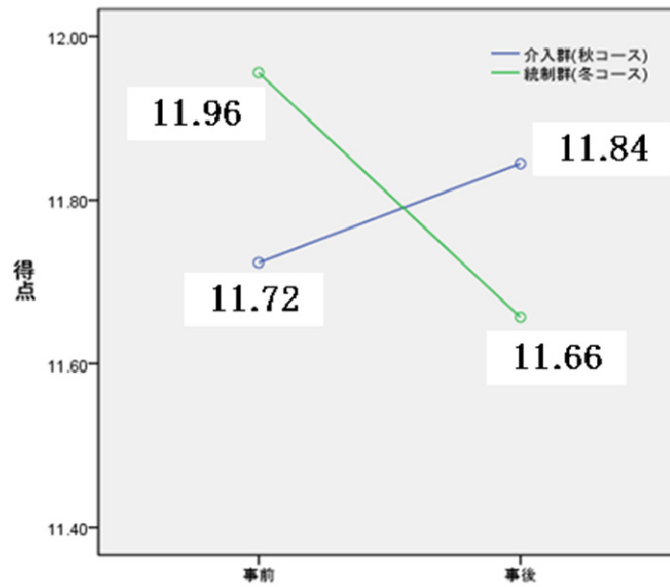


図5 全対象者における老研式活動能力指標の介入効果

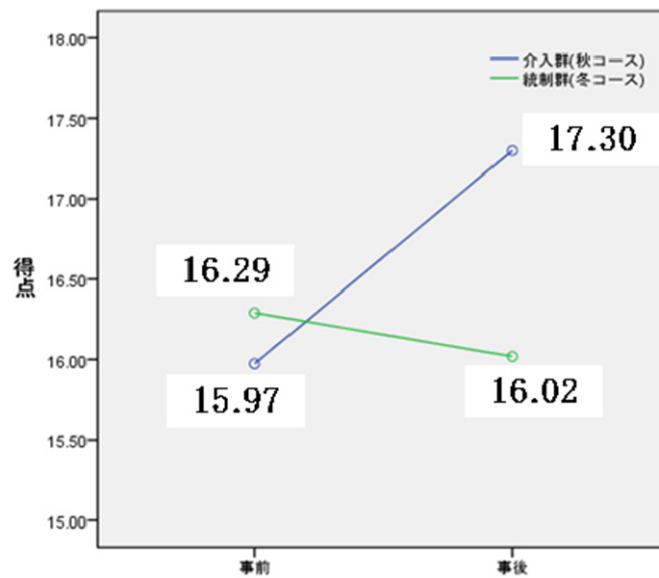


図6 全対象者における WHO-5 (精神的健康状態表) の介入効果

<MMSE26 点以下の群での分析>

認知機能のレベルによって介入効果に違いが生じる可能性もあるため、ここでは、ベースライン調査で MMSE が 26 点以下であった群（介入群 16 名、統制群 15 名、計 31 名）を抽出して介入効果を検証した。

A. 認知機能検査における介入効果

下位検査ごとに分析を行ったところ、TMT-B 課題において有意な介入効果がみられ、統制群より介入群において介入後の課題の成績が向上した ($F(1, 25)=6.302, p<.05$)。 (図 7 参照)

B. 運動機能検査における介入効果

下位検査ごとに分析を行ったところ、生活歩数において有意な介入効果がみられ、統制群よりも介入群において介入後の生活歩数が有意に増えていた ($F(1, 26)=16.972, p<.001$)。 (図 8 参照)

C. 自記式アンケート調査における介入効果

すべての項目、尺度について分析を行ったが、いずれの項目、尺度においても統計学的に有意な介入効果は示されなかった。

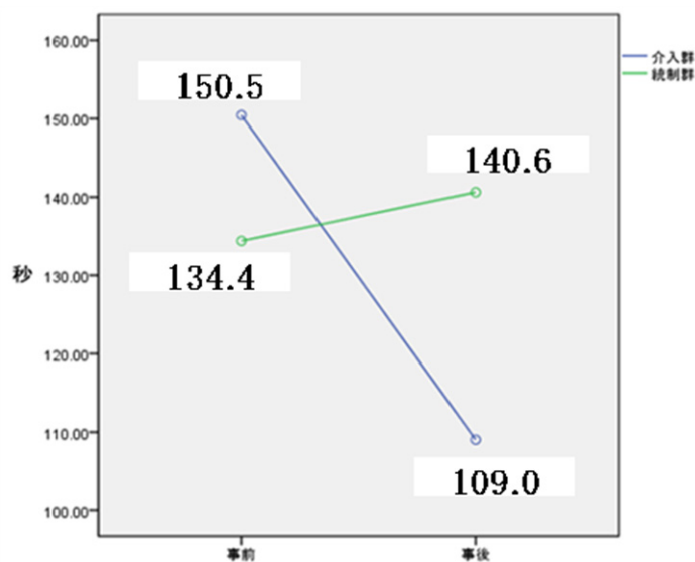


図 7 MMSE26 点以下群における TMT-B(数字ひらがな追跡課題)の介入効果

注) 時間が短いほど成績がよいことを示す

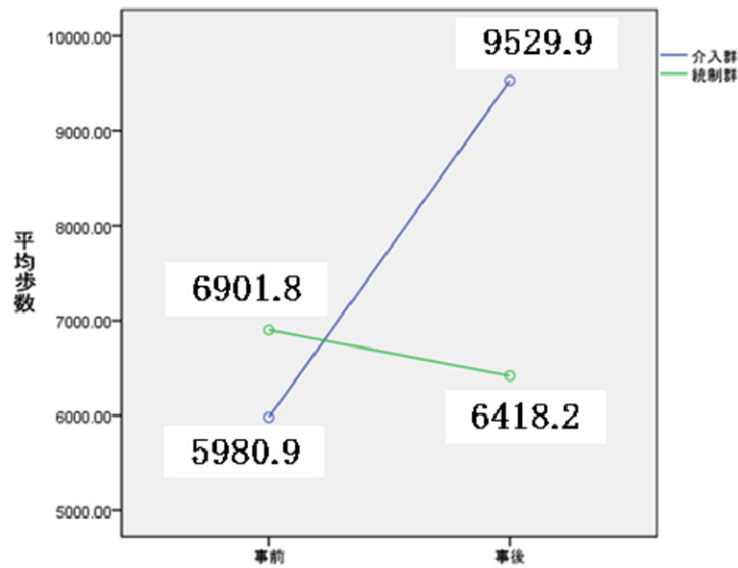


図8 MMSE26点以下群における生活歩数の介入効果

【考察】

本研究は、認知機能低下のリスクをもつ地域高齢者を対象に、習慣的なウォーキングによる認知機能の低下抑制効果を RCT 法デザインで検討することを目的とする。また、ウォーキングの習慣化による副次的な介入効果として、運動機能や心理的側面の変化も検討した。介入効果を分析した結果、運動機能検査については、統制群よりも介入群で有意に生活歩数が増加していた。また、心理的側面の変化については、老研式活動能力指標と WHO-5 精神的健康状態表において、統制群よりも介入群で有意に活動能力や精神的健康度が高くなっていた。認知機能検査については、いずれの下位検査においても有意な介入効果はみとめられなかった。一方、MMSE の得点が 26 点以下の群を抽出して分析した結果では、生活歩数の介入効果のほか、注意機能や遂行機能を反映している TMT-B (数字ひらがな追跡課題) において有意な介入効果がみられ、統制群よりも介入群の方がより成績がよくなったことが示された。

全体的な結果から、3 か月のウォーキングプログラムは、認知機能を有意に向上させるまでには至らなかったが、生活歩数や活動能力、精神的健康度を有意に高めることができ、また、少なくとも認知機能の低下抑制という効果をもたらしたということがいえるだろう。一方、MMSE の得点が 26 点以下の群を抽出した下位分析の結果では、注意機能や遂行機能を反映している TMT-B 課題で有意な介入効果が示されており、先行研究と同様の結果が得られている。この結果は、本研究で実施したウォーキングプログラムが、地域高齢者の中でも、

やや認知機能の低下した、いわゆる特定高齢者の認知機能の向上を図るプログラムとして、より効果が期待できることを示唆している。

本研究のもうひとつの成果として、プログラムの出席率や対象者の主観的な満足度、効力感が非常に高かったことがあげられる。結果として、介入群の生活歩数が有意に増加したことを考えると、本研究で実施した介入プログラムは、地域高齢者のウォーキングの習慣化を支援するプログラムとして妥当性が高く、高齢者にとって取り組みやすい内容であったと思われる。引き続き、自主活動の参加率や生活歩数の変化を追跡調査し、長期にウォーキング習慣が定着しているかどうかを検証していく必要があるだろう。

全体的には認知機能に対する介入効果が有意にみられなかったという結果から、いくつかの課題が提示できる。ひとつには、ウォーキング習慣が認知機能にポジティブな影響を及ぼすという仮説を検証する上で、3 か月という介入期間が妥当であったかという問題がある。現行の特定高齢者を対象にした介護予防事業では、3 か月が標準的な介入期間となっているので、本研究でも3 か月の介入期間を設定したが、今後、プログラムの実施回数を増やして介入期間を延ばした場合に、認知機能に対する効果がみられるかどうかを検証する必要があるだろう。

ふたつ目には、本研究のサンプルとして、認知機能の低下抑制プログラムの主要な対象である軽度認知障害の対象者が十分にスクリーニングされなかったという問題がある。本研究では、スクリーニング調査の際に生活機能評価を用いて、認知症に関する項目にひとつでも該当する者を抽出した。しかし、医師面接の結果、軽度認知障害が疑われる CDR=0.5 の者は全体で13名、約1割にすぎなかった。本研究のような研究事業に自主的に参加する者はそうでない者に比べて、健康意識や認知機能の水準が高いということも考えられ、このようなサンプルの特性が研究結果に少なからず影響を与えているのかもしれない。今後、認知機能の低下抑制プログラムのターゲットをより効率的に抽出する方法を検討する必要があるだろう。

資料1;スクリーニング調査の結果概要

1. 回収結果

本報告では、回収された 11,011 票のうち、本調査の対象年齢範囲内（65 歳以上 79 歳以下）に該当する 10,940 票を分析対象とした。

	票数
発送数	22,377
回収票	11,011（回収率 49.2%）
分析対象票	10,940

2. 基本属性

分析対象者の基本属性は以下のとおりである。なお、無回答および誤回答は分析対象外とした。

(1) 性別・年齢（問 1、問 2）

①性別

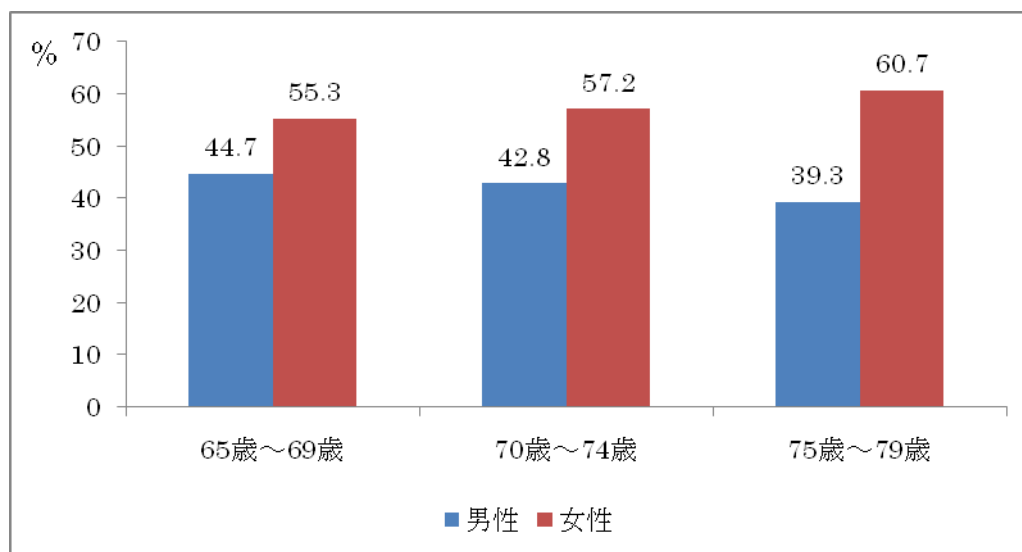
	人数	%
男性	4,597	42.2
女性	6,291	57.8
計	10,888	100.0

②年齢

平均年齢は、男性が 72.08 歳（標準偏差 4.13）、女性が 72.45 歳（標準偏差 4.16）、全体では 72.30 歳（標準偏差 4.15）であった。年齢を 3 区分した結果は以下のとおりである。

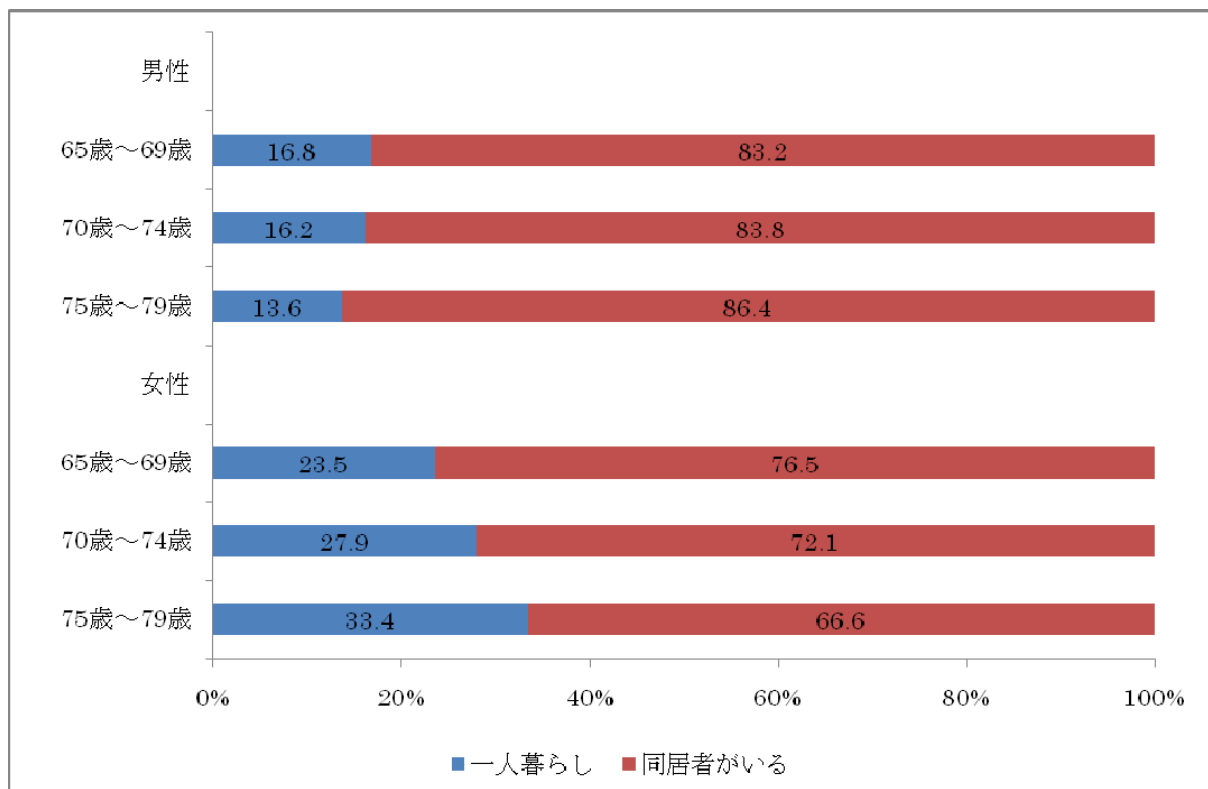
	人数	%
65 歳～69 歳	3,424	31.3
70 歳～74 歳	3,742	34.2
75 歳～79 歳	3,774	34.5
計	10,940	100.0

年齢と性別とのクロス集計の結果は以下のとおりである。



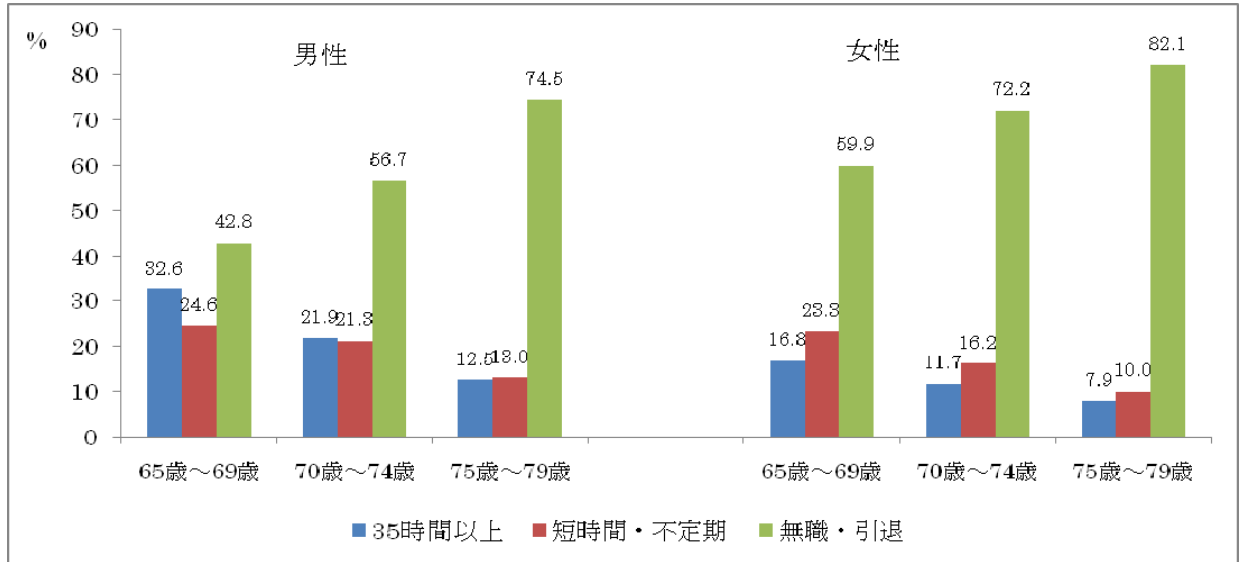
(2) 世帯状況 (問 3)

一人暮らしの割合は男性よりも女性が高く、なかでも「女性・75歳～79歳」の3割が一人暮らしであった。



(3) 就労状況 (問 4)

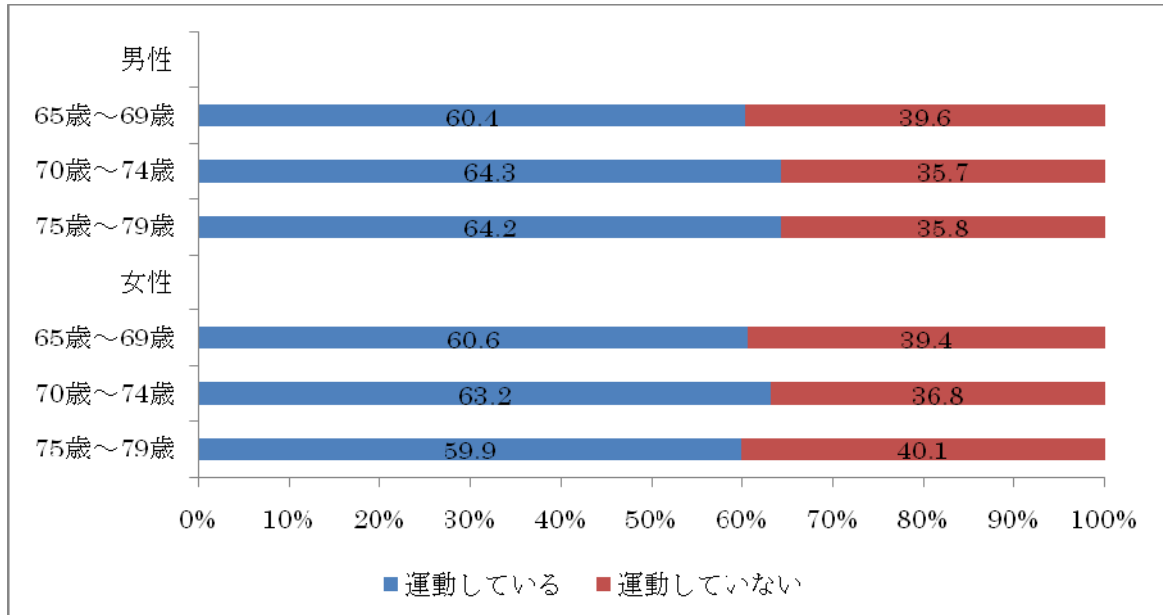
「無職・引退」が圧倒的に高い割合を示し、回答者の大部分は就労していなかった。



3. 運動状況

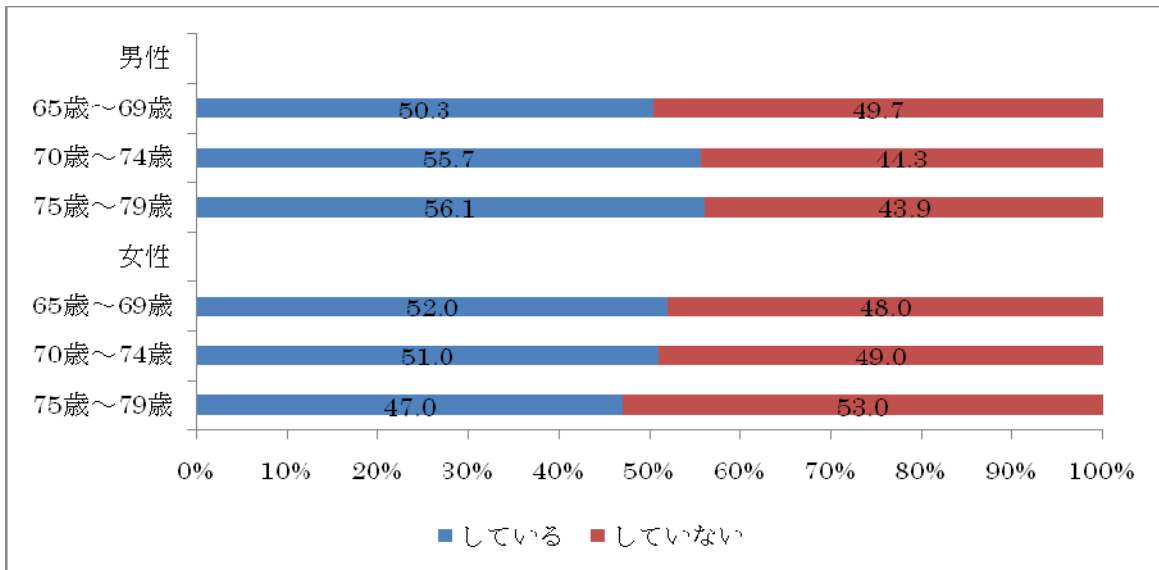
(1) 定期的な運動 (問 5)

「現在、日常生活の中で定期的に運動しているか」という質問に対して、「はい」という回答が男女とも6割以上を占めており、日常生活の中で何らかの定期的な運動の機会を持っていることがわかった。



(2) ウォーキングの実施 (問 6)

「現在、意識してウォーキングをしているか」という質問に対して、全体のほぼ半数が「はい」と回答しており、女性よりも男性で、その割合が高かった。



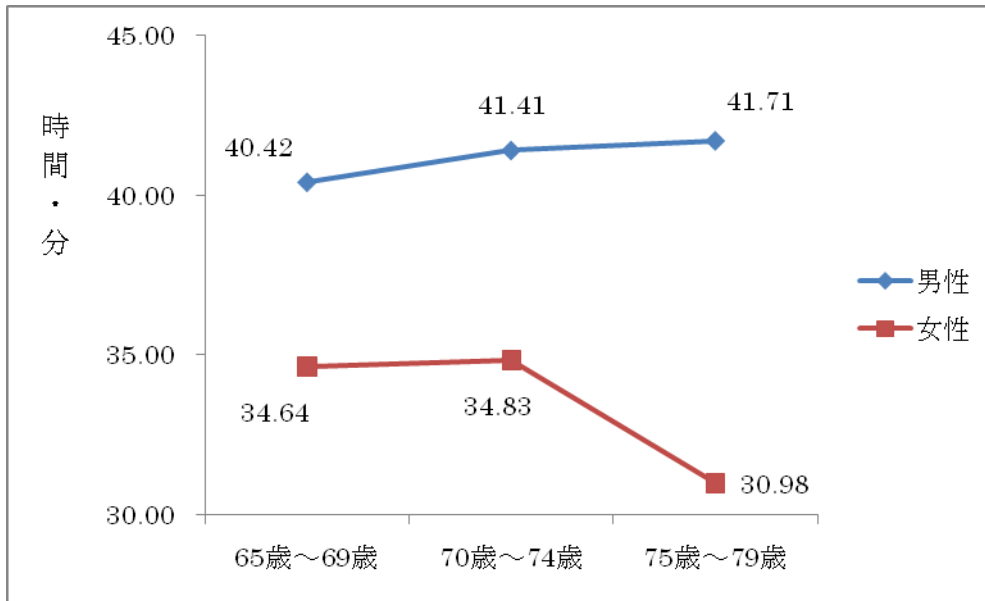
(3) 平均ウォーキング時間 (問 6-a)

前問で「意識してウォーキングしている」と回答した方に対して「1週間、」または1日にどの程度、意識したウォーキングしているか」をたずねた。平均ウォーキング時間は「日数×時間/7日」の式により計算した。

全体の平均ウォーキング時間は 36.94 分 (±31.55) で、最小値 0.36 分、最大値 480 分であった。

性別で比較すると、平均ウォーキング時間は男女間で 6 分程度の差があり、女性よりも男性のウォーキング時間が長かった。また男性では年齢よるウォーキング時間の差は少ないが、女性では年齢によってウォーキング時間に差が見られ、75～79 歳では他の年齢に比べてウォーキング時間が短かった。平均ウォーキング時間に関する結果は以下のとおりである。

	平均(分)	標準偏差
全体	36.94	±31.55
男性	41.19	±33.72
65 歳～69 歳	40.42	±35.21
70 歳～74 歳	41.41	±33.11
75 歳～79 歳	41.71	±32.92
女性	33.54	±29.25
65 歳～69 歳	34.64	±31.02
70 歳～74 歳	34.83	±32.48
75 歳～79 歳	30.98	±22.83



4. 脳の病気やけがの経験（問7）

「脳の病気や頭のけが（脳卒中、脳梗塞、頭部外傷など）をしたことがあるか」をたずねた。

「ある」という回答は、全体で 11.9%あり、男性では 15.3%、女性では 9.5%で、男性の方が脳の病気や頭のケガを経験した割合が幾分か高かった。性別・年齢区分による結果は次のとおりである。

	ある		ない		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%
全体	1,280	11.9	9,453	88.1	10,733	100.0
男性						
65歳～69歳	201	13.3	1,313	86.7	1,514	100.0
70歳～74歳	233	14.7	1,348	85.3	1,581	100.0
75歳～79歳	259	17.9	1,186	82.1	1,445	100.0
全体	693	15.3	3,847	84.7	4,540	100.0
女性						
65歳～69歳	139	7.5	1,722	92.5	1,861	100.0
70歳～74歳	183	8.7	1,920	91.3	2,103	100.0
75歳～79歳	265	11.9	1,964	88.1	2,229	100.0
全体	587	9.5	5,606	90.5	6,193	100.0

5. 足腰の痛み（問8）

「過去 1 ヶ月間に足腰の痛みをどのくらい感じたか」について、「全然なかった」から「非常に激しい痛み」の 6 段階の中から回答してもらった。

全体の 8 割近くが過去 1 ヶ月間に何らかの足腰の痛みを感じていて、男性よりも女性の方が痛みを感じ

じている割合が高かった。また女性では、高齢であるほど「痛みの強さ」が増す傾向が見られた。性別・年齢区分による結果は次のとおりである。

	全然なかった		かすかな痛み ～軽い痛み		中くらいの痛み		強い～非常に 激しい痛み		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	2,281	21.5	5,126	48.3	2,203	20.8	995	9.4	10,605	100.0
男性										
65歳～69歳	413	27.5	724	48.1	257	17.1	110	7.3	1,504	100.0
70歳～74歳	394	25.2	767	49.1	283	18.1	118	7.6	1,562	100.0
75歳～79歳	345	24.2	678	47.5	275	19.3	130	9.1	1,428	100.0
全体	1,152	25.6	2,169	48.3	815	18.1	358	8.0	4,494	100.0
女性										
65歳～69歳	408	22.1	922	49.9	355	19.2	161	8.7	1,846	100.0
70歳～74歳	402	19.5	1,034	50.0	436	21.1	194	9.4	2,066	100.0
75歳～79歳	319	14.5	1,001	45.5	597	27.1	282	12.8	2,199	100.0
全体	1,129	18.5	2,957	48.4	1,388	22.7	637	10.4	6,111	100.0

6. 医師からの運動制限（問9）

「医師から運動制限をされているか」についてたずねたところ、「ある」という回答は男性で5.8%、女性で7.5%、全体で6.8%であった。

性別・年齢区分による結果は次のとおりである。

	ある		ない		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%
全体	718	6.8	9,902	93.2	10,620	100.0
男性						
65歳～69歳	75	5.0	1,426	95.0	1,501	100.0
70歳～74歳	89	5.7	1,482	94.3	1,571	100.0
75歳～79歳	96	6.7	1,336	93.3	1,432	100.0
全体	260	5.8	4,244	94.2	4,504	100.0
女性						
65歳～69歳	108	5.9	1,734	94.1	1,842	100.0
70歳～74歳	142	6.8	1,940	93.2	2,082	100.0
75歳～79歳	208	9.5	1,984	90.5	2,192	100.0
全体	458	7.5	5,658	92.5	6,116	100.0

7. 要介護認定情報（問 10）

「要介護認定の有無」についてたずねたところ、「受けていない・自立」が 93%以上を占めており、「受けている」は 5%程度であった。

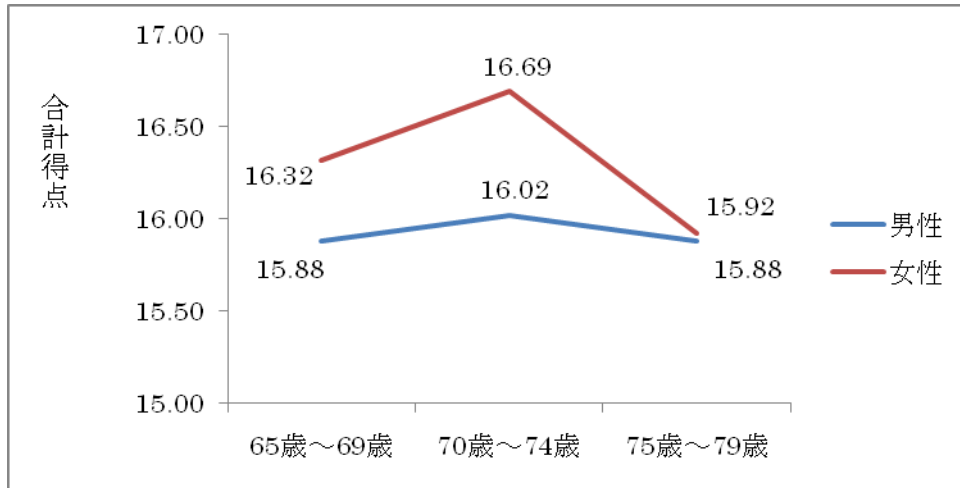
性別・年齢区分による結果は次のとおりである。

	受けている		受けていない・自立		わからない		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	571	5.3	10,040	93.6	114	1.1	10,725	100.0
男性								
65 歳～69 歳	47	3.1	1,444	95.5	20	1.3	1,511	100.0
70 歳～74 歳	65	4.1	1,493	94.3	25	1.5	1,583	100.0
75 歳～79 歳	121	8.4	1,303	90.5	16	1.1	1,440	100.0
全体	233	5.1	4,240	93.5	61	1.3	4,534	100.0
女性								
65 歳～69 歳	44	2.3	1,803	96.6	19	1.0	1,866	100.0
70 歳～74 歳	84	4.0	1,998	95.2	17	0.8	2,099	100.0
75 歳～79 歳	210	9.4	1,999	89.8	17	0.7	2,226	100.0
全体	338	5.4	5,800	93.7	53	0.8	6,191	100.0

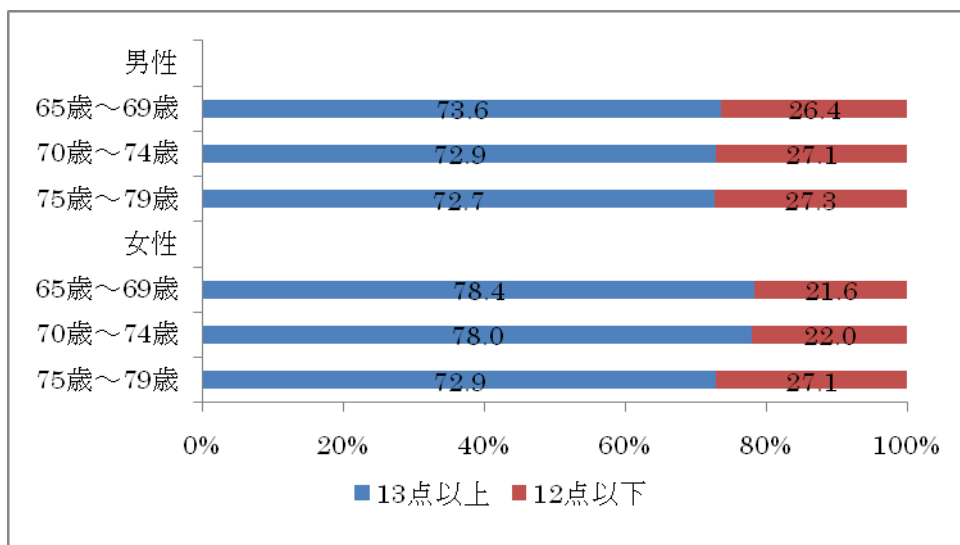
8. 精神的健康状態（問 11）

WHO5 尺度を使用して精神的健康状態について回答してもらった。得点が高いほど精神的健康状態が高い（良い）ことを示している。男女別の比較では男性よりも女性の平均得点が高く、また男女ともに 70 歳～74 歳の得点が高かった。

	平均点	標準偏差
全体	16.21	±6.11
男性	15.93	±6.24
65 歳～69 歳	15.88	±6.15
70 歳～74 歳	16.02	±6.26
75 歳～79 歳	15.88	±6.30
女性	16.43	±6.00
65 歳～69 歳	16.32	±5.70
70 歳～74 歳	16.69	±5.97
75 歳～79 歳	15.92	±6.28



WHO5 の合計得点が 13 点未満の場合、精神的健康状態が低いとされ、大うつ病調査の実施が推奨されている。そこで合計得点を 12 点以下と 13 点以上に 2 区分して比較したところ、全体の 25% 程度の方が該当し、女性よりも男性でその傾向が高かった。



9. もの忘れの自覚 (問 12)

半年前と比べて物忘れの自覚についてたずねたところ、半数以上は「変わらない」と自覚していたが、43.8%の方は「増えた」もしくは「少し増えた」と回答していた。また男女ともに年齢が上昇するほど「もの忘れが増えた」と自覚している傾向が認められた。

性別・年齢区分による結果は次のとおりである。

	増えた～少し増えた		変わらない		少し減った～減った		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	4,584	43.8	5,804	55.4	80	7.6	10,468	100.0
男性								
65歳～69歳	573	38.2	918	61.2	10	0.7	1,501	100.0
70歳～74歳	665	43.1	868	56.3	10	0.6	1,543	100.0
75歳～79歳	699	49.5	704	49.9	9	0.6	1,412	100.0
全体	1,937	43.5	2,490	55.9	29	0.7	4,456	100.0
女性								
65歳～69歳	707	38.4	1,118	60.7	16	0.9	1,841	100.0
70歳～74歳	865	42.3	1,170	57.3	8	0.4	2,043	100.0
75歳～79歳	1,075	50.5	1,026	48.2	27	1.3	2,128	100.0
全体	2,647	44.0	3,314	55.1	51	0.8	6,012	100.0

10. BMI (問13)

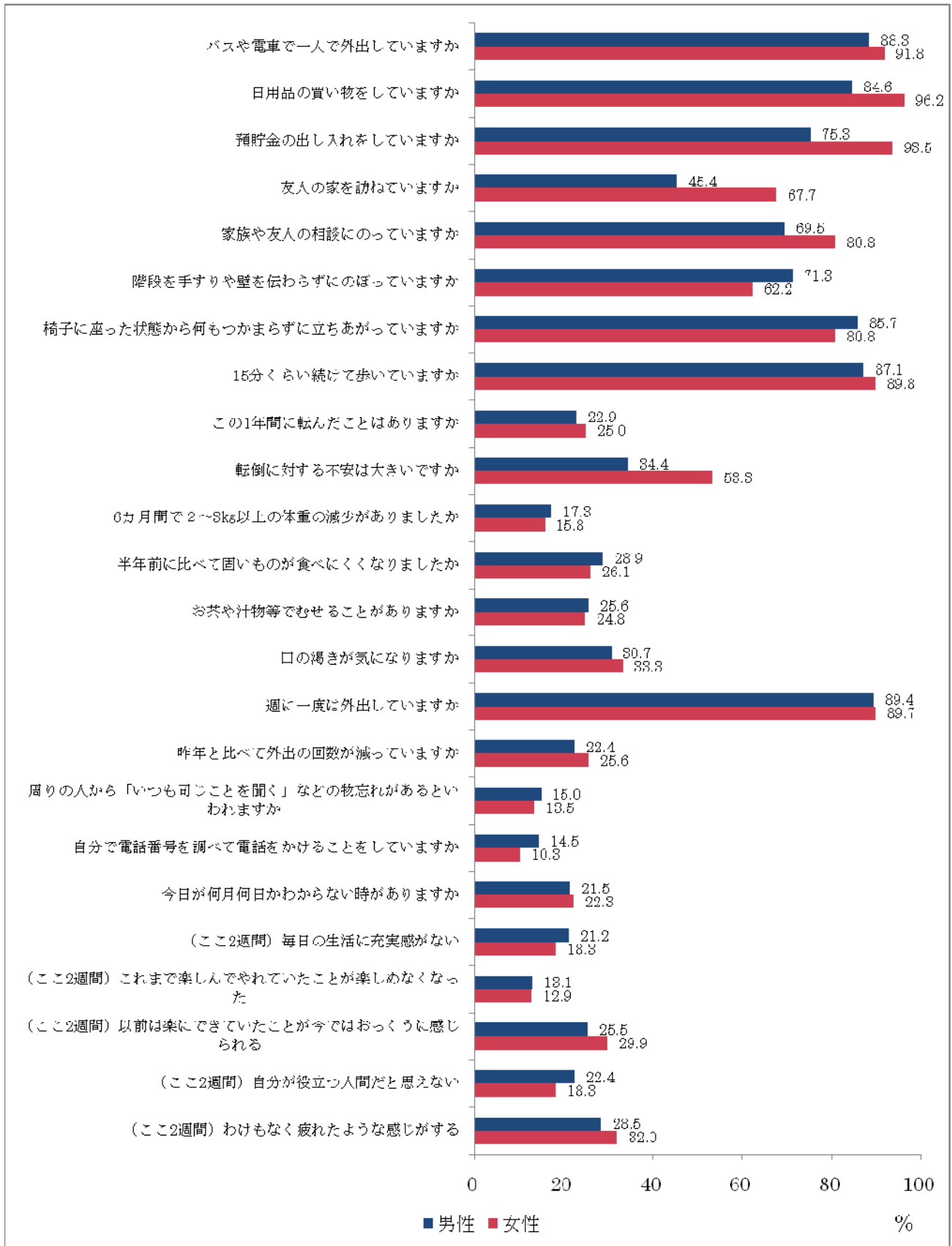
身長と体重からBMIを計算(体重(kg)/身長(m)×身長(m))し、基本チェックリストの栄養改善項目で基準値とされている18.5未満と18.5以上に区分して比較した。その結果、「BMI18.5未満」に該当したのは男性よりも女性の方がやや多かった。

性別・年齢区分による結果は次のとおりである。

	BMI≥18.5		BMI<18.5		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%
全体	9,560	92.1	823	7.9	10,383	100.0
男性						
65歳～69歳	1,422	95.5	67	4.5	1,489	100.0
70歳～74歳	1,462	95.1	76	4.9	1,538	100.0
75歳～79歳	1,296	93.4	91	6.6	1,387	100.0
全体	4,180	94.7	234	5.3	4,414	100.0
女性						
65歳～69歳	1,656	90.2	180	9.8	1,836	100.0
70歳～74歳	1,837	90.1	201	9.9	2,038	100.0
75歳～79歳	1,887	90.1	208	9.9	2,095	100.0
全体	5,380	90.1	589	9.9	5,969	100.0

1.1. 基本チェックリスト項目

基本チェックリスト質問項目に対して「はい」と回答のあった割合を男女別に示す。



1 2. 「知っている人」および「親しい人」の人数（問 15）

「住んでいる地域（自宅から歩いていける範囲）や東京都内での知っている人や親しい人」についておよその人数をたずねた。性別・年齢区分による結果は次のとおりである。

	男性	女性	全体
知っている人			
地域	23.38	18.48	20.60
都内	6.87	6.54	6.68
それ以外	40.88	26.50	32.95
親しい人			
地域	10.93	8.96	9.80
都内	77.45	22.78	48.77
それ以外	15.09	9.06	11.77

※数字は人数

1 3. 地域等への信頼度（安心度や満足度）（問 16）

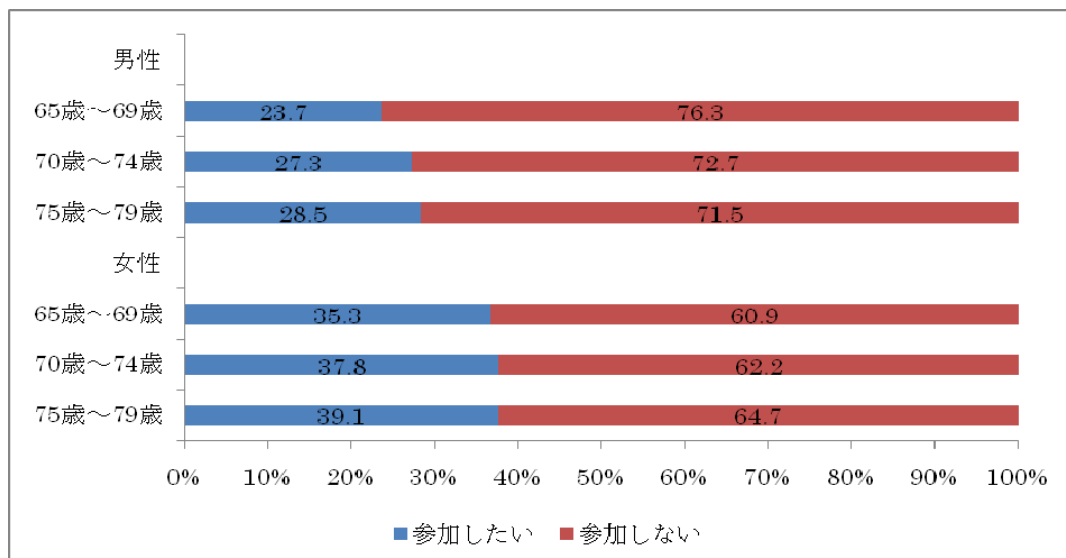
「現在、住んでいる地域や自治体、国への信頼度（安心感や満足度）」について、「ない」から「ある」の中から回答してもらった。性別・年齢区分による結果は次のとおりである。

	男性		女性		全体	
	ある	ない	ある	ない	ある	ない
地域に対して	65.8	34.2	67.6	32.4	66.8	33.2
板橋区に対して	68.6	31.4	67.5	32.5	68.0	32.0
国に対して	41.7	58.3	39.6	60.4	40.6	59.4

※数字は%

1 4. プログラム参加意向

ウォーキングプログラムへの参加意向についてたずねたところ、全体のおよそ3割が「参加してみたい」と回答していた。また男性よりも女性の参加意向割合が高く、男女ともに年齢が高くなるほど参加意向も高くなっていった。



資料2;プログラムへの意見や感想についての自由記述一覧

ここでは、影響評価の一環として介入群に実施したアンケート調査のうち、プログラムについての意見や感想についての自由記述の回答一覧を示す。

質問；このプログラムについてのご意見やご感想がありましたら、ご自由にお書き下さい。

No	回 答 内 容
1	「歩く」ということが生活の中に入って来ました。今までにはなかったことです。有難く思っております。友人が出来て楽しくなりました。
2	ウォーキングカレンダーを書く事により励みになりました。
3	良い企画だと思いました。
4	歩こうという気持ちがめばえたので、よかったと思う。
5	毎週水曜日を楽しみにしている。
6	この活動に参加して良かったと思います。ずっと続く事を願っています。
7	友達が出て良かった。
8	速歩きをするようになった。
9	大変だけど、習慣化したい。
10	一人ではなく皆さんと一緒に歩くので楽しみにしています。
11	楽しく足の痛みも消えて、大変感謝してます。
12	非常によかった。
13	体を動かす事のすばらしさを感じました。
14	時には楽しく 時には重く感じる事がありました。
15	プログラムの来年3月終了まではグループ自主活動が出来ると思いますが、その後は集まるのは、ちょっと無理の様です。
16	運動があまり好きではなかったのですが、これに参加して少し楽しくなりました。暑い時期は苦痛でしたが、季節が良くなり、参加するのが楽しみです。
17	1人では実行しづらいが、約束をし、日頃行きたいと思ってもなかなか行けなかった所へ行ってみようと思いが強そう。情報も増えるし、おしゃべりも出来るので、良かったです。
18	皆さんにお会いするのが楽しみです。
19	もの忘れが変らず、このまま続けてどうかと思う。もっと別の方法はないのかと思う。
20	歩く事が大変重要と思えるようになった。
21	毎週参加できるとは限らないが、極力参加したいと考えています。
22	歩き方や歩く姿勢等の指導プログラムがあると良い。
23	誠に良い集りと考えております。
24	日常から離れて、心身ともにリフレッシュできる機会をもてた。よかったと思う。無理なく、続けてゆこうと思っております。ウォーキングの習慣がはじめて身についた。健康で長寿を旨したい。
25	お知り合も出来色々感想を話し合うことが出来たのでよいことと思います。
26	「速歩き」の程度があいまいで、歩いていても「これは速歩きしているのかどうか、カウントしてよいのかよく判らない。私は散歩などではかなり速く歩くので早歩き？プログラムの中での速歩きの意味、必要性が理解しがたい。

27	このプログラムに参加して良かった点は歩く事が億劫でなくなった事。姿勢が良くなったような気がする事。毎日の早朝ウォーキングが続いて出来ている事。これからも続けるつもり。普段の歩き方も少し速くなったような気がする。こういう機会がなければこんなに積極的に歩けていなかったと思います。ありがとうございました。
28	あたたかい御指導のお蔭で、楽しくプログラムを実行する事が出来ました。あっという間の3ヶ月間でしたが、その間季節も秋から冬へと移り、徐々にではありますが、歩くということが生活の一部となりつつあります。今までは、一步も外に出ない日も多く、気分が落ち込むこともありましたが、縁あってお仲間となった人生の大先輩から沢山の知識や元気を頂き、生活に張りが出てきた様に感じております。これからはよいよ自主活動に入り、3ヶ月、来年それ以後もずっと生涯楽しく皆様と元気で活動していけたらと願っております。山上、千葉両先生はじめ、御支援、御指導賜りました諸先生方には、心より感謝御礼申し上げます。今後も、まだまだお世話になることと思います。よろしくお導き下さいます様。
29	あの道この道歩こう会に参加でき本当に感謝しております。最初はとても無理と思いつつながらメンバーの人達とも会うごとに気も合ひまして、今は一人歩きも気にならず頑張ろうという気持ちが起こり、体も自然に軽くなった様に思えます。今後もできる限り続けたいと思っています。ありがとうございました。
30	足が不自由の人や年齢差のために、一諸にグループ行動をしますとどちらかという疲れを感じる。私は今まで自分なりに健康ジムに行っていましたので。
31	私がプログラムに参加して歩いているのをみて、メタボの家人が自発的にウォーキングを始めました。時々一緒に歩いてくれます。今のところ、これが一番の収穫です。
32	このプログラムに参加させて頂き、自分の体力・体調について認識をあらたに出来たことは非常にありがたいことでした。ご親切なご指導に対し、お礼申し上げます。満足な改善値は出ませんでした。努力を続けることで、良い結果を出そうと思っています。今後ともご指導頂きたく、宜しくお願い申し上げます。
33	とても良い企画だったと思います。最初は参加する事に不安(皆さんと歩けるだろうか? 高血圧でもあるし?)もありましたが、今は続けられた自分に満足しております。毎日の歩数を記録するのも楽しみでした。次回からの自主活動にも是非参加したいと思っています。1日7,000歩を目標にして頑張ります。どうもお世話様でした。
34	このプロジェクトに参加して、毎週金曜日に予定が出来て忙しくなった事です。身体の方では腰の痛みを感じなくなった事。良く眠れるようになり、メリハリのある生活になりました。まだ時に病院の予約など忘れる事があります。
35	メンバーが必ずしも体力と精神とが同じではなく、能力の差がかなりあると思いますが、体力のある人はない人の為に支えあう事が必要だと思いました。歩く事によって地域の事が細かくわかり、とても楽しくなってきました。
36	A班は幸い、「この年齢になってせつかくお友達になれたのだから・・・」と、お互い思いやりのある間柄になれたことは嬉しかった。この中では若い小林さんが大変有能な方で、すてきな記録を作ってください、宝物になりました。ウォーキングの習慣化、私の場合は二十年余りに咳で胸骨を折り、骨量が八十代とされたのに対して、昼休みに散歩を命じられて実行し習慣化できていたことが今では財産になっている事がわかりました。十年余り続けているアクアビクスも。
37	グループでウォーキングをする場合、メンバーの体力レベルに差があると、活動内容(コース・時間・距離)を広げることがむずかしい。
38	皆さんに会って参加させて頂き、毎日が楽しくなりました。色々な面で皆さんとお話しでき、非常に生きる意欲が出ました。自主活動を続けるよう努力します。何卒宜しく指導の程をお願い申し上げます。
39	何でも続ける事が大切だと思います。仲間が問題なければ続けたいです。今のところ、身体上には結果は出ておりませんが、続けることによってそれなりに効果が出ると感じました。楽しいグループになるように努力したいと思いますので種々とアドバイスをお願い致します。

3. 高崎市における認知機能低下の抑制効果に関する研究報告書

群馬大学医学部保健学科山口晴保研究室

高崎市 長寿社会課

【目的】

高齢化社会の進展に伴い認知症の予防法確立は重要性を増している。認知症は発症していないが客観的な認知機能低下を示す軽度認知障害 (mild cognitive impairment: MCI)、および認知機能低下を自覚しているが客観的認知機能低下を欠く者 (subjective memory complaints: SMC) は、認知症への移行リスクの高いことが先行研究により示されている^{1,2}。

近年、有酸素運動等の身体活動による認知機能改善効果が注目され³、認知症患者の認知機能改善効果^{4,5}、MCI高齢者の有酸素運動による認知機能改善効果を示すRandomized Controlled Trial (RCT)介入研究が報告されている⁶。そこで今回、認知症罹患リスクの高いとされる、SMCを対象とし、認知機能低下予防効果のエビデンスを示すことを目的として、RCT法デザインでの介入研究を行った。

運動そのものも効果があるが、楽しい運動はより高い効果のあることが動物実験により示され⁷、また社会活動の高い群では認知症のリスクが低いとの報告もあることから⁸、実施にあたっては、集団の活性化を活用し、楽しく参加できるように配慮をした。

【方法】

1. 研究対象者の抽出

本研究の対象者を以下の方法で募集した。

1) 高崎市在住で、実施地域4か所 (矢中地区周辺、中川地区周辺、群馬地区、吉井地区周辺) に在住の65歳から79歳までの高齢者で、平成21年度実施の生活機能評価を受けたもの。平成22年5月14日に矢中：516通、中川：449通、群馬：512通、吉井：910通、合計2,387通の「高崎市ひらめきウォーキング教室」事業案内チラシを一斉に郵送した。そして申し込みのあった178名に説明会の案内状を送付した。

2) 長寿センター利用者13名が参加を希望した。

2. 説明会の実施と研究協力の同意確認説明会

説明会の実施と研究協力の同意確認説明会参加者166名に、高崎市認知症予防プロジェクト「高崎市ひらめきウォーキング教室」の趣旨説明を行い、162名から同意を得た (4名が辞退)。その後4地区で1回目の評価を行い、医師面接で認知症と判断された5名 (CDR1)、年齢が80歳以上の5名、疾病を有する者2名の計12名を研究対象から除いた。最終的に150名を無作為に

介入群75名、対照群75名に割り付けた。研究対象者の属性は表1のとおりである。平均年齢が71.96歳（SD=3.97）、男性が29.33%、平均教育年数は11.89年（SD=2.41）であった。また、MMSEの平均得点は27.80点（SD=1.93）、MMSEの得点範囲は23点から30点、CDRの評価が0.5であった者は34名（22.67%）であった。

表1 研究対象者の属性

項目	介入群 (n=75)	対照群 (n=75)	全体 (n=150)
年齢	71.93 歳 (SD=4.10)	71.99 歳 (SD=3.86)	71.96 歳 (SD=3.97)
性別	男性 23 名 女性 52 名	男性 21 名 女性 54 名	男性 44 名 女性 106 名
教育年数	11.85 年 (SD=2.52)	11.93 年 (SD=2.32)	11.89 年 (SD=2.41)
MMSE	27.69 点 (SD=1.89)	27.91 点 (SD=1.98)	27.80 点 (SD=1.93)
軽度認知障害 (CDR=0.5)	17 名 (11.33%)	17 名 (11.33%)	34 名 (22.67%)

3. 介入プログラムの内容

介入群には、運動習慣の獲得を目標として、週1回90分のウォーキングプログラムを全12回（約3か月）実施した。介入は高崎市の委託を受けた事業者（医療機関・介護保険事業者）に属する健康運動指導士等が担当した。今回の介入では、参加者の主体性・意欲の重視、およびグループでの相互作用による効果を重視した。そのため、介入担当者を参加者の援助をするファシリテーターと位置づけ、事前に介入趣旨の徹底と介入方法の講習を行い、介入期間中も、高崎市・群馬大学と介入担当者との情報交換により、介入趣旨に沿って実施されているかの確認を行った。

なお、介入群へのプログラム実施期間中、対照群には、研究協力に対する動機づけを維持するために健康講話会を2回実施するとともに、RCT終了後に同じ介入プログラムを実施し、参加者の平等に配慮した。

4. 評価項目

介入の効果を評価するために、介入直接効果の評価として生活歩数、アウトカム評価として下記の評価を測定した。結果評価の評価項目は、プログラム介入前（事前評価）と介入後

(事後評価) の2回測定した (表2)。

表2 評価項目一覧

評価種別	評価項目	事前評価 (1回目)	事後評価 (2回目)
アンケート調査 (自記式)	疾病	○	
	服薬	○	
	もの忘れ	○	○
	対人交流	○	○
	学歴	○	
	参加目的	○	
	健康状態	○	
	性格	○	
	老研式活動能力指標	○	○
	I-ADL、ADL	○	○
	日本語版エプワース眠気尺度	○	○
	Lubben社会ネットワーク指標	○	○
	生活空間評価 (LSA)	○	○
	QOL(日常生活満足度:SDL)	○	○
	うつ傾向 (GDS)	○	○
社会支援スケール	○	○	
認知テスト	MMSE	○	
	CDR	○	
	ファイブ・コグ検査*	○	○
	WAIS-III 符号問題	○	○
	山口符号テスト**	○	○
	TMT-A&B	○	○
	Stroopテスト	○	
運動機能検査	Timed Up&Go	○	○
	5m通常歩行時間	○	○
	5m最大歩行時間	○	○

*ファイブコグ検査は、並行課題(並行処理能力)、再生課題(遅延再生能力)、時計描画(視空間認知能力・実行機能)、言語課題(言語流暢性機能)、類似課題(類推機能)の下位検査からなる。

**山口晴保研究室の HP

<http://orahoo.com/yamaguchi-h/>より無料ダウンロード

5. 分析方法

研究対象者150名のうち、介入群は3名が辞退し72名となった。さらに1名が2回で脱落、1名が事後評価（第2回）を欠席、4名が12回のプログラムに7回以下の参加で分析対象外とした結果、介入群は66名となった。対照群75名は、事後評価（第2回）を8名が欠席し、67名となった。従って、解析の対象は合計133名となった（資料参照）。

分析は、事前・事後の各評価項目を従属変数とした、群×期間の2要因分散分析（repeated measured ANCOVA）を行った。共変量には、年齢、性別、教育年数を投入した。

【介入状況】 介入プログラムの出席率

プログラムには、介入群75名のうち72名が参加した。2回で参加を中断した1例を除くと、全12回のプログラムの出席率は平均87.5%と非常に良好であった。地区ごとの参加率は、矢中90.7%、中川88.0%、群馬80.3%、吉井90.8%であった。

【結果】

1. 介入直接効果の評価：生活歩数増加効果

介入の前後で1週間、歩数の見えない目隠し万歩計を装着して比較した。その結果、介入群では対照群に比べて歩数が有意に上昇していた（ $p=0.008$ ；介入群 介入前 5569 ± 2515 歩 介入後 6887 ± 2883 歩、非介入群 介入前 4534 ± 2018 歩 介入後 4709 ± 2567 歩）。

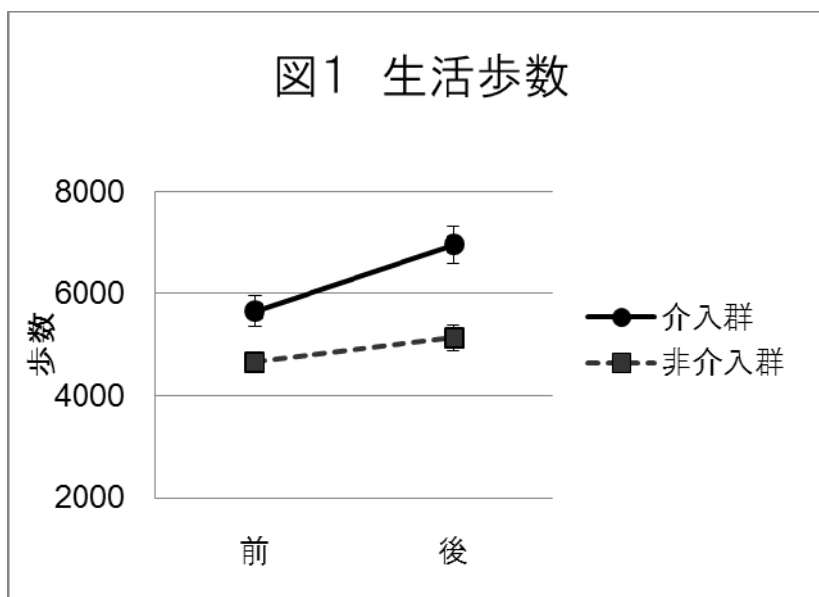


図1 全対象者での生活歩数の変化
介入群で有意に増加した

2. 介入アウトプット評価

A. 認知機能への効果

1) 全対象者 (n=133) で分析を行ったところ、認知検査ではファイブログの言語流暢性課題において、有意な介入効果がみられ、対照群よりも介入群の方がより成績がよくなったことが示された (交互作用 $F(1, 128)=6.833, p=0.010$; 図2参照)。なお、この有意差は健常群(CDR0)のみでも保たれているが ($F(1, 95)=5.436, p=0.022$)、MCI群のみでは有意差はみられなかった ($F(1, 28) =2.063, p=0.162$)。

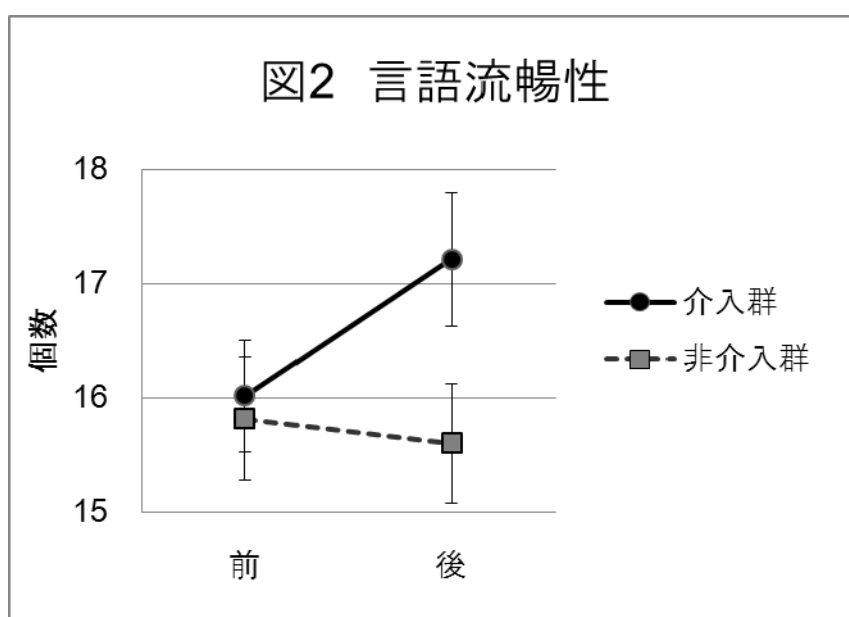


図2 全対象者での言語流暢性
介入群で有意に改善した

2) 軽度認知障害 (MCI; CDR0.5) 群での分析では、実行機能を判定するTMT-B ($F(1, 28)=4.853, p=0.039$; 図3参照)、および前頭葉・注意機能を判定する山口符号テストで有意な改善を認めた ($F(1, 28)=7.090, p=0.013$; 図4参照)。

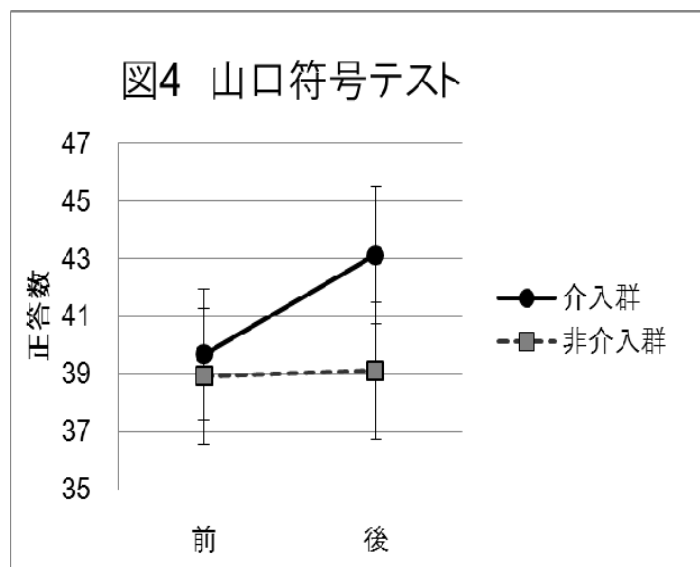
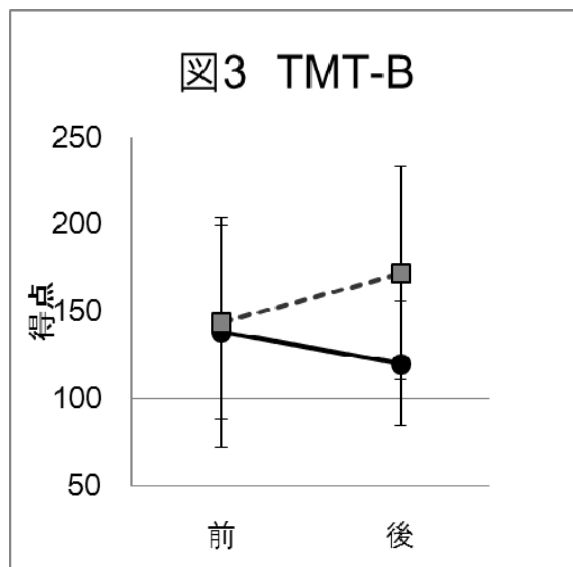


図3/4 MCI群でのTMT-B 山口符号テスト成績 MCI群で有意に改善した

B. 生活機能への効果

生活機能の評価尺度としての老研式活動能力指標は、全対象者で有意な介入効果がみられ ($F(1, 128)=13.055$, $p<0.001$; 図5参照)、有意差は健常群 ($F(1, 95)=6.170$, $p=0.015$) のみ、およびMCI群 ($F(1, 28)=6.907$, $p=0.014$) のみでもみられた。

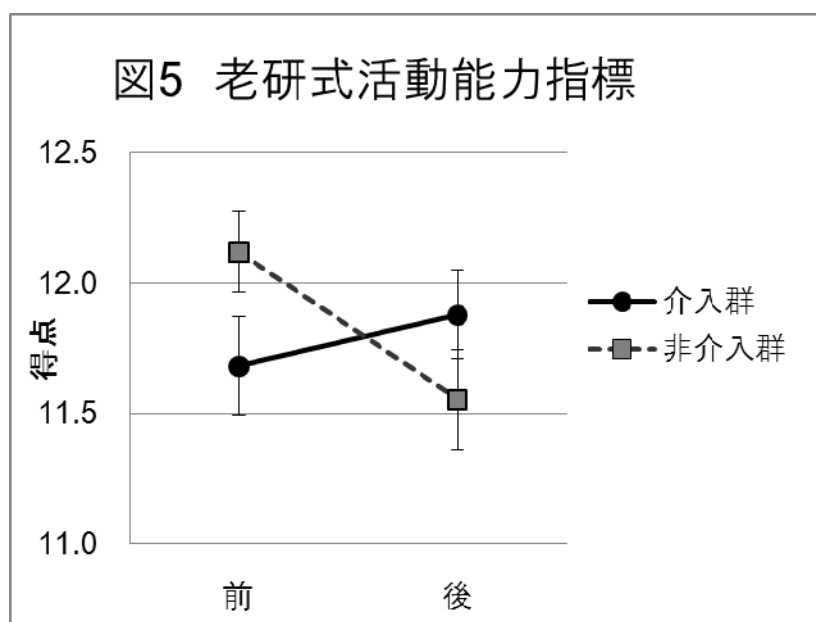


図5 全対象者での老研式活動能力指標介入群で有意に改善した

C. 心理面での効果

自記式SDL調査票でQOLを測定したところ、全対象者で有意な介入効果がみられた ($F(1, 128) = 9.751, p = 0.002$; 図6参照)。この差は健常群のみ ($F(1, 95) = 4.271, p = 0.041$)、MCI群のみ ($F(1, 28) = 14.089, p = 0.001$)でも保たれている。なお、MCI群のみではうつ傾向 (GDS) にも介入効果がみられた ($F(1, 28) = 14.089, p = 0.001$; 図7参照)。

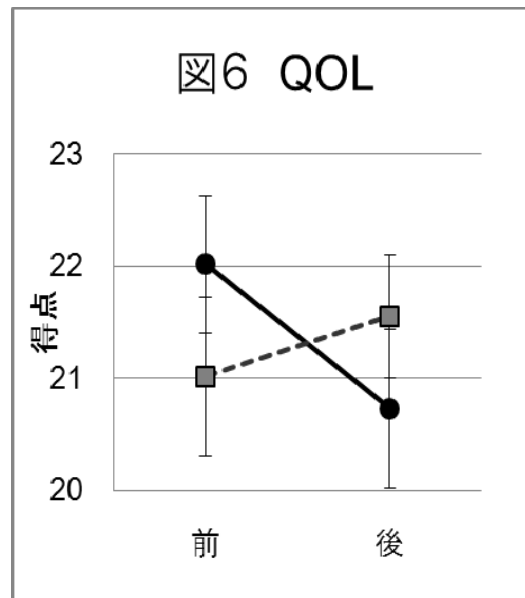


図6 全対象者でのQOL介入群でQOLが改善した (点数低下が改善)

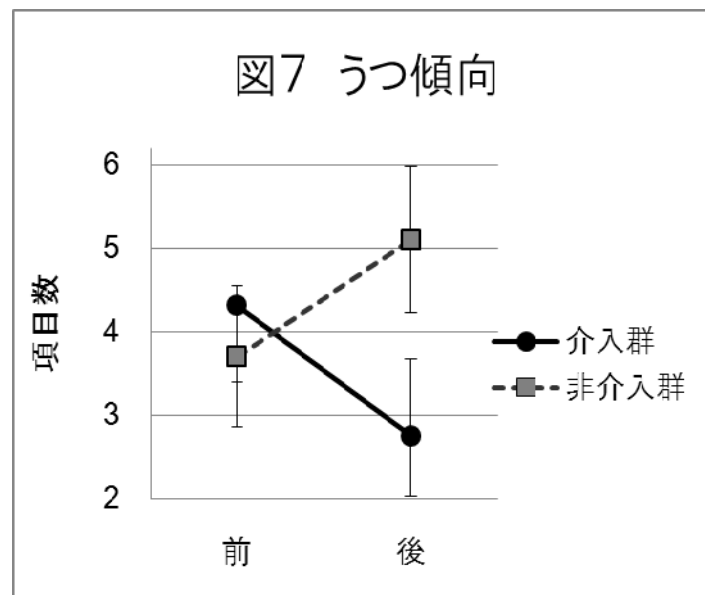


図7 MCI群でのうつ傾向 (GDS) 介入群でうつ傾向が軽減した

D. 運動機能への効果

体力面ではTimed Up&Go で全対象者で有意な介入効果がみられた ($F(1, 127)=10.977$, $p=0.001$; 図8参照, 1名が体力検査を棄権)。健常群のみでも有意差は保たれるが ($F(1, 94)=5.974$, $p=0.016$)、MCI群のみでは有意傾向となった ($F(1, 28)=4.004$, $p=0.066$)。

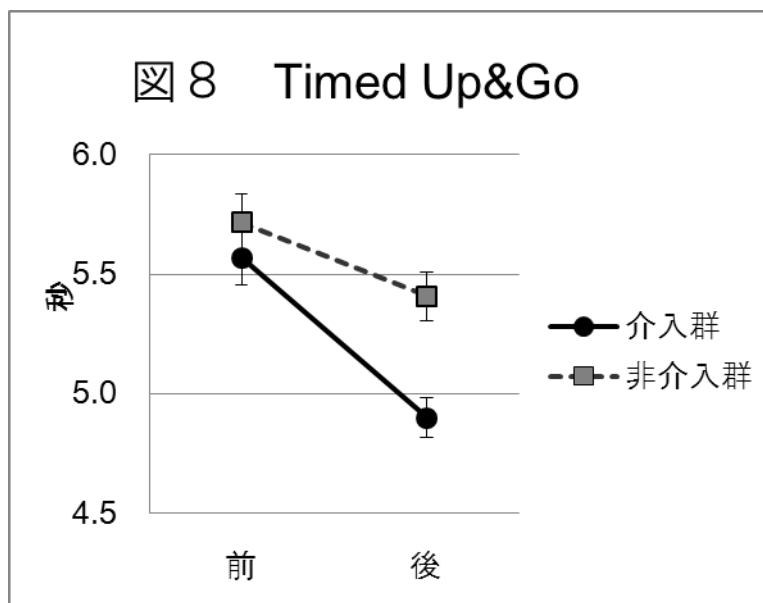


図8 Timed Up&Goテスト介入群で運動機能が改善した

3. 言語流暢性課題で介入効果を示した参加者の要因分析

言語流暢性課題で効果の出た参加者の介入前初期状態の要因を検討した。介入前の社会性の要因の平均+1SD から平均+2SDまでを高群、平均-1SD から平均-2SDまでを低群とし、言語流暢性の結果の群間比較を行った。社会性の要因としては、社会ネットワーク指標

(Lubben)により家族親族・交友関係の社会ネットワークの大きさ、社会支援スケールにより家族親族・交友関係におけるソーシャルサポートを提供・受領の両面に分けて検討した。さらに、個人要因として個人の特性を外向性・神経症的傾向(内向性)・開放性・誠実性・協調性の5面から検討するBig5を用いて同様の分析を行った。

その結果、社会ネットワーク・社会支援スケール両者において家族親族・交友関係、及びサポート提供・受領関係ともに低群に有意な言語流暢性の改善効果が示された。個人要因としては、外向性の低群及び神経症的傾向(内向性)高群に有意な改善効果が見られ、その他の要因では、開放性・誠実性の低群、協調性高群に改善効果が見られた。

この結果により、閉じこもり傾向の参加者が、集団活動に参加することで言語流暢性の改善効果が期待される。

【まとめ】

分析の結果、研究対象者全体では、3か月のウォーキングプログラムによる介入効果は、①認知テストではファイブコグの言語流暢性課題、②生活機能では老研式活動能力指標、③心理面ではQOL、④運動機能ではTimed Up&Goでと、幅広い介入効果が統計学的有意差を持って示された。

さらに、軽度認知障害（MCI;CDR0.5）群単独では、上記の②③に加え、⑤認知機能としてTMT-B、山口符号テストと⑥心理面ではQOLとうつ傾向を測定するGDSでの有意な改善効果が示された。この結果は、本研究で実施したウォーキングプログラムが、認知機能のやや低下した特定高齢者向けのプログラムとして効果的であることを示している。

プログラムの出席率が高かったことや介入群の生活歩数が有意に増加したことを考えると、本研究で実施した介入プログラムは、地域高齢者のウォーキングの習慣化を支援するプログラムとして、妥当性が高く、高齢者にとっても取り組みやすい内容であったと思われる。引き続き、自主活動の参加率や生活歩数の変化を追跡調査し、長期にウォーキング習慣が定着しているかどうかを検証していく必要があるだろう。

現行の特定高齢者を対象にした介護予防事業では、3か月が標準的な介入期間となっているので、本研究でも3か月の介入期間を設定したが、幅広い介入効果を示すことができた。

【高崎市の来年度の事業展開】

高崎市では今年度の結果を受け、来年度より自治体が委託事業として認知機能低下予防介入を行うモデルの作成に着手する。介入プログラムは今年度と同じウォーキングの習慣化を目的とし、実施にあたっては参加者の主体性を重視し意欲を引き出し、集団による効果を活用することに留意する。

介入にあたっては、事前に介入担当者に群馬大学・高崎市による講習を行い介入趣旨の徹底を図り、介入前後の評価を統一することにより、縦断的效果を検討する。さらに、他の自治体にも活用してもらうことにより、効果の横断的比較も可能となる。参加者個人には、他人との比較では無く個人結果の改善効果をフィードバックすることにより、運動習慣継続を促す。

また、認知機能低下予防の取り組みが地域に根付いていくためには、市主体の短期間の活動から地域の自主グループへの移行・定着が重要な要因となる。したがって、介入期間中に参加者が自主グループに移行し、また地域での新たな取り組みの契機となるよう配慮していく。

【研究費】

本研究は、厚生労働省の介護予防実態調査分析支援事業として高崎市が受託した介護予防事業で、高崎市認知症予防プロジェクト「高崎市ひらめきウォーキング教室」として行われた。

【担当者】

群馬大学医学部保健学科山口研究室

山口晴保、牧陽子、村井達彦、山口智晴、篠原るみ、高井恵理子

高崎健康福祉大学保健医療学部

田中聡一、山上徹也

高崎市長寿社会課

砂盃美樹枝、海保 歩、櫻井三容子、佐々木夏季

【参考文献】

1. Petersen RC. Mild cognitive impairment as a diagnostic entity. *J Intern Med* 2004 ; 256(3) : 183-194.
2. Van Oijen M, de Long FJ, Hofman A *et al.* Subjective memory complaints, education, and risk of Alzheimer's disease. *Alzheimers Dement* 2007 ; 3 : 92-97.
3. Hillman CH, Erickson KI, Kramer AF. Be smart, exercise your heart: Exercise effects on brain and cognition. *Nat Rev Neurosci* 2008 ; 9 : 58-65.
4. Colcombe S, Kramer AF. Fitness effects on the cognitive function of older adults: a meta-analytic study. *Psychol Sci* 2003 ; 14 : 125-130.
5. Heyn P, Abreu BC, Ottenbacher KJ. The effects of exercise training on elderly persons with cognitive impairment and dementia: a meta-analysis. *Arch Phys Med Rehabil* 2004 ; 85 : 1694-1704.
6. Lautenschlager NT, Cox KL, Flicker L *et al.* Effect of physical activity on cognitive function in older adults at risk for Alzheimer disease: a randomized trial. *JAMA* 2008 ; 300 : 1027-1037.
7. Lazarov O, Robinson J, Tang YP *et al.* Environmental enrichment reduces A beta levels and amyloid deposition in transgenic mice. *Cell* 2005 ; 120 : 572-574.

8. Fratiglioni L, Wang HX, Ericsson K *et al.* Influence of social network on occurrence of dementia: a community-based longitudinal study. *Lancet* 2000 ; 355 : 1315-1319.

資料 : 図9 研究の流れ

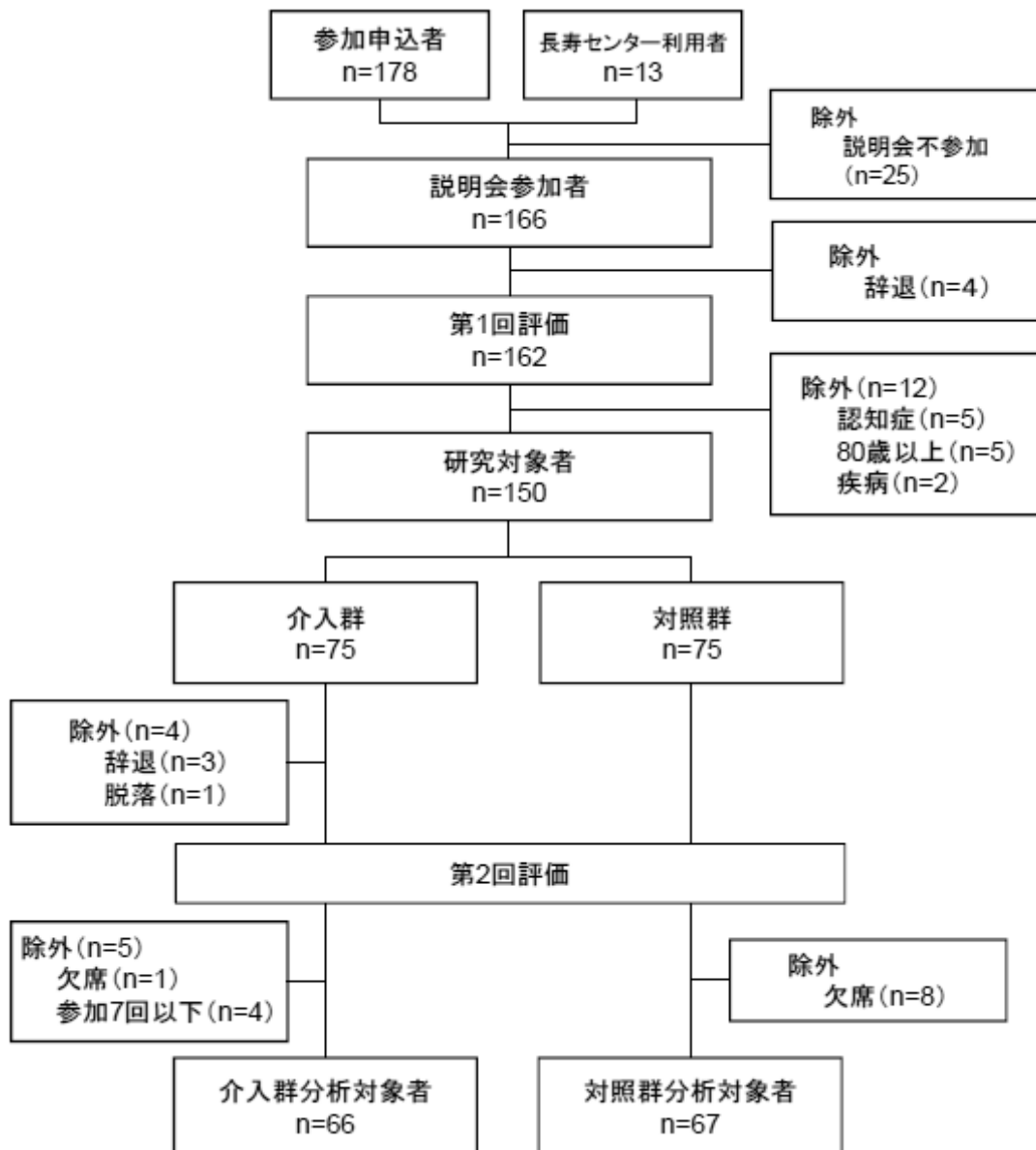


表3 介入群全体での結果一覧

	評価項目	交互作用	下位検定 pre vs. post		介入群		非介入群	
		p	介入群	非介入群	前 (平均±SD)	後 (平均±SD)	前 (平均±SD)	後 (平均±SD)
A	FC並行素点	0.280	0.008*	p<0.001**	21.2±6.4	22.9±6.7	19.1±8.0	21.6±7.1
	FC再生素点	0.531	p<0.001**	p<0.001**	14.2±5.2	17.3±5.9	13.3±5.2	16.1±5.6
	FC時計素点	0.628	0.093	0.311	6.8±0.7	6.9±0.3	6.8±0.7	6.9±0.6
	FC言語流暢性	0.01*	0.003*	0.528	16.0±4.0	17.2±4.8	15.8±4.9	15.6±4.3
	FC類似素点	0.512	0.260	0.04*	10.1±3.6	10.4±3.5	10.2±3.5	10.8±3.0
	TMT-A	0.876	0.704	0.871	41.7±14.8	41.2±17.5	43.4±15.8	43.0±17.5
	TMT-B	0.317	0.064	0.669	130.5±61.0	119.1±53.0	147.0±70.1	135.0±62.5
	WAIS-III	0.963	p<0.001**	p<0.001**	54.8±12.9	58.8±15.7	53.4±14.4	57.4±15.4
	YKSST	0.190	p<0.001**	0.001*	45.0±11.2	48.3±12.1	43.6±10.5	45.7±10.1
B	老研式	p<0.001**	0.146	p<0.001**	11.7±1.6	11.9±1.4	12.1±1.4	11.6±1.6
C	QOL	0.002*	0.005*	0.122	22.0±5.8	20.7±4.4	20.9±5.3	21.6±5.8
	うつ傾向	0.152	0.041*	0.973	3.7±3.4	3.2±3.0	3.4±2.9	3.4±3.0
D	握力	0.068	0.051	p<0.001**	27.5±6.8	28.4±7.5	25.9±6.9	28.1±7.0
	開眼片足	0.634	0.428	0.900	31.7±19.3	32.0±14.2	24.6±17.5	23.2±17.6
	TUG	0.002*	p<0.001**	p<0.001**	5.6±0.9	4.9±0.7	5.7±1.0	5.4±0.8
	5m最大歩行速度	0.343	p<0.001**	p<0.001**	2.6±0.4	2.6±0.3	2.7±4.3	2.7±4.3
E	LSA	0.714	0.002*	0.009*	94.5±16.6	101.1±15.4	90.4±20.0	95.9±18.0
	Lubben合計	0.156	0.776	0.085	16.1±6.3	16.3±5.7	17.8±5.1	16.8±5.2

*p<0.05, **p<0.001

A 認知テスト

FC ファイブコグ
 WAIS-III ウェイスⅢ符号問題
 YKSST 山口符号テスト

B 老研式 老研式活動能力指標

C 心理面検査

D 運動機能

TUG Timed Up&Go

表 4 健常高齢者群の結果一覧

	評価項目	交互作用 p	下位検定 1 pre vs. post		介入群		非介入群	
			介入群	非介入群	前 (平均±SD)	後 (平均±SD)	前 (平均±SD)	後 (平均±SD)
A	FC並行素点	0.234	0.101	0.001*	22.7±5.5	23.9±6.5	21.1±7.1	23.5±5.4
	FC再生素点	0.734	p<0.001**	p<0.001**	15.9±4.7	18.9±5.6	14.9±4.8	17.7±5.3
	FC時計素点	0.725	0.379	0.702	6.8±0.5	6.9±0.3	6.8±0.6	6.8±0.7
	FC言語流暢性	0.022*	0.015*	0.415	16.5±3.9	17.6±4.7	16.3±4.9	15.9±4.4
	FC類似素点	0.544	0.426	0.100	10.6±3.5	10.9±3.4	10.6±3.6	11.1±2.7
	TMT-A	0.564	0.305	0.832	41.2±15.1	39.4±16.8	42.1±15.0	41.8±16.7
	TMT-B	0.742	0.285	0.402	117.8±42.9	105.9±34.6	12.7±39.0	112.6±35.9
	WAIS-III	0.873	p<0.001**	p<0.001**	56.5±13.1	61.4±15.8	55.5±14.2	60.6±14.3
	YKSST	0.705	p<0.001**	p<0.001**	46.7±11.4	49.9±12.4	45.2±10.3	47.9±9.2
B	老研式	0.015*	0.123	0.053	11.7±1.5	12.0±1.2	12.1±1.4	11.8±1.4
C	QOL	0.041*	0.007*	0.856	22.4±5.8	21.0±4.4	20.9±5.1	21.0±5.4
	うつ傾向	0.304	0.461	0.03*	3.5±3.4	3.3±3.1	3.3±2.7	2.8±2.5
D	握力	0.060	0.189	p<0.001**	26.7±5.9	27.4±6.9	25.2±6.6	27.5±7.0
	開眼片足	0.643	0.493	0.974	46.6±20.3	48.8±16.0	40.5±21.3	40.7±21.4
	TUG	0.016*	p<0.001**	p<0.001**	5.5±1.0	4.9±0.7	5.7±0.9	5.3±0.8
	5m最大歩行速度	0.137	0.147	0.513	2.6±0.4	2.6±0.3	2.7±0.5	2.7±0.4
E	LSA	0.460	0.001*	p<0.001**	92.9±17.4	100.2±15.4	88.1±20.1	97.9±16.2
	Lubben合計	0.213	0.765	0.143	16.1±6.6	16.3±5.6	17.6±5.5	16.8±5.4

表5 MCI群での結果一覧

	評価項目	交互作用	下位検定1 pre vs. post		介入群		非介入群	
		p	介入群	非介入群	前 (平均±SD)	後 (平均±SD)	前 (平均±SD)	後 (平均±SD)
A	FC並行素点	0.990	0.024*	0.021*	16.5±6.9	19.7±6.6	13.0±7.9	16.2±8.9
	FC再生素点	0.520	p<0.001**	0.001*	9.1±3.4	12.4±4.0	8.8±3.6	11.5±3.7
	FC時計素点	0.539	0.074	0.319	6.5±1.1	6.9±0.3	6.6±0.8	6.9±0.4
	FC言語流暢性	0.162	0.055	0.990	14.6±4.1	15.9±5.1	14.5±4.5	14.6±3.6
	FC類似素点	0.786	0.444	0.241	8.4±3.6	8.9±3.7	9.1±3.2	9.8±3.6
	TMT-A	0.753	0.622	0.958	43.3±14.2	46.8±19.1	47.4±18.0	46.6±19.8
	TMT-B	0.039*	0.220	0.077	138.1±66.1	124.1±35.7	143.6±55.5	162.7±61.5
	WAIS-III	0.609	0.423	0.928	49.5±11.1	50.6±12.8	47.1±13.2	47.9±15.1
	YKSST	0.013*	0.001*	0.925	39.7±9.1	43.1±9.5	38.9±9.7	39.1±9.8
B	老研式	0.014*	0.882	0.001*	11.6±1.9	11.6±1.7	12.0±1.4	10.9±1.9
C	QOL	0.028*	0.368	0.023*	20.9±5.7	19.9±4.6	20.8±6.0	23.2±6.8
	うつ傾向	0.001*	0.011*	0.014*	4.3±3.7	2.8±2.9	3.6±3.5	5.1±3.6
D	握力	0.843	0.089	0.044*	299±8.7	31.5±8.8	27.9±7.5	29.8±6.9
	開眼片足	0.758	0.611	0.936	46.7±18.6	47.9±17.0	37.1±23.1	38.0±22.8
	TUG	0.066	p<0.001**	0.091	5.8±0.7	4.9±0.6	5.9±1.2	5.6±0.8
	5m最大歩行速度	0.546	0.883	0.471	2.6±0.4	2.5±0.3	2.6±0.4	2.5±0.4
E	LSA	0.192	0.494	0.234	99.6±13.1	104.0±15.4	97.1±18.7	90.2±21.9
	Lubben合計	0.348	0.8	0.273	16.1±5.8	16.3±6.1	18.1±3.9	17.1±4.6

4. 大府市における認知機能低下抑制効果に関する実証研究報告書

国立長寿医療研究センター
大府市

【目的】

加齢とともに増加する認知症は、患者本人や家族の生活を崩壊させるとともに多額の医療や介護費用を要することから、予防や治療方法の確立は急務の課題である。とくにわが国の急速な人口構造の変化を考慮すると、認知症に対する問題は今後ますます重要な課題となる。現在のところ、認知症の主な原因疾患であるアルツハイマー病や脳血管疾患の根治的治療法は確立されていないため、認知症を予防、または発症を遅延するための取り組みが、認知症対策として重要な役割を担う。

認知症ではないが軽度な認知機能の低下を有する状態は、軽度認知障害（mild cognitive impairment: MCI）と呼ばれ、認知症を予防する前駆状態として注目されている。日本の地域在住高齢者を対象とした大規模疫学研究では、MCIの有症率は概ね5～7%とされている。これら地域在住のMCI高齢者は、3年間で3.7%が認知症に移行したのに対して、MCIを持たない高齢者が認知症を発症したのは0.2%であったと報告された。また、38.5%のMCIは5年後に正常に回復するため³、認知症を予防するためには、MCI改善のための取り組みが重要となる。

MCIの改善や認知症発症予防のために、危険因子の排除や発症遅延を目的とした薬物療法と、生活習慣の改善などを含めた非薬物療法による対処がなされている。薬物療法としては、アルツハイマー病や脳血管疾患の危険因子である高血圧症、高脂血症、糖尿病に対する投薬や、アルツハイマー型認知症の発症遅延を目的とした塩酸ドネペジルの処方がある。しかし、危険因子を排除するための薬物療法の直接的な効果は把握することが難しく、塩酸ドネペジルは限定的な効果しか期待できない⁴。

非薬物療法による認知症予防を目的とした介入方法としては、習慣的な運動の促進^{5,6}、抗酸化物質や抗炎症成分を多く含む食物の摂取⁷、社会参加や知的活動への参加⁸が、認知症発症に対する保護的因子として認められている。とくに有酸素運動の実施とアルツハイマー病発症予防との関連は多くの知見が得られており、近年MCI高齢者に対する運動の効果を検証したランダム化比較試験の結果が報告された⁹。その研究では152名の対象者をランダムに有酸素運動、有酸素以外の運動群、ビタミンB服用群、偽薬服用群に割り付け、1年間の介入を実施した。運動は週2回、1回につき60分間実施し、有酸素運動はグループでの歩行練習が行われた。その結果、有酸素運動による認知機能改善に対する有意な効果は認められなかった。ただし、この結果は1回も運動に出席しなかった30名の対象者を含めたintention to treat analysisに基づくものである。有酸素運動群において出席率の高かった高齢者のみを分析対象とすると、記憶や注意力の向上が認められ、MCI高齢者に対する有酸素運動の有効性

が限定的ではあるが確認された。また、近年の報告においては平均 70 歳の MCI 高齢者に対して 75~85%心拍数予備の強度で週 4 回 6 か月間の有酸素運動を行った結果、実行機能の有意な向上が認められたとされている¹⁰。

このように運動が認知機能に対して良好な影響を及ぼす潜在的なメカニズムとして、動物実験からの知見を中心に、神経炎症の減少、血管新生、神経内分泌反応、アミロイド蓄積減少などが示唆されている。また、近年の人を対象とした研究で、6 か月間の有酸素運動によって、加齢による認知機能低下と関連した領域における脳の容量が増加したという報告がある¹¹。これは有酸素運動によってもたらされた血管の新生や脳血流量の増大によるものと考えられている¹²。

これらの研究背景を踏まえ、本研究においては有酸素運動を中心とした運動介入によって MCI 高齢者の認知機能向上が可能かどうか検討することを目的とした。また、機能変化とともに脳容量、脳機能の向上が認められるかどうかをランダム化比較試験にて検証した。

【方法】

1. 対象者

本研究の対象者は、日本語を母国語とする 65 歳以上の高齢者であった。対象者の除外基準を表 1 に示した。対象者の選定は、1 次調査（質問紙調査 n=1,543）、2 次調査（認知機能検査 n=135）、3 次調査（MRI 撮影 n=126）により実施した（図 1）。対象者は大府市に在住する高齢者とし、2 つの集団から募集した。1 つは無作為抽出による集団で、この中から CDR0.5 の高齢者を抽出した。他方は大府市の特定健診受診者から、主観的に記憶に対する問題の訴えがある者を抽出した。基準に該当し研究への参加に同意した 135 名に対して認知機能検査を実施し、125 名が MRI 撮影を受けた。2 次および 3 次調査で 35 名が除外基準あるいは参加を拒否し、100 名の MCI 高齢者が介入対象者として選択された。これらの対象者を健忘型 MCI で層化して無作為に健康講座群（対照群）と運動教室群（介入群）とに割り付けた（図 1、表 2）。

2. 評価項目

調査は介入前後に認知機能検査、運動機能検査、MRI 検査を全対象者に実施した（表 2）。MRI 検査では脳容量計測を行い、統計的パラメトリックマッピングにて標準脳に対する脳全体の中で委縮している領域の割合を求めた。健忘型 MCI の基準を満たした 26 名（対照群 13 名、介入群 13 名）については¹⁸F]fluorodeoxyglucose (FDG) を用いたポジトロン検査 (PET) を実施した。FDG PET は three-dimensional stereotactic surface projection (3DSSP) を用いて標準データベースに対する相対的な FDG 取り込み画像を作成した。また、24 名（対照群 12 名、介入群 12 名）の対象者には near infrared spectroscopy (NIRS) 検査を介入前後に実施した。

介入中には、運動教室群において毎日の運動時間と歩数を記録した。また、運動教室参加時には運動前後の脈拍数の測定を行った。

3. 介入プログラム

運動教室群の介入は、6 か月間、週 2 回、1 回につき 90 分間、計 40 回実施した。1 つの教室は約 17 名の対象者として、理学療法士 2 名、運動補助員 4 名で介入を実施した。介入の内容は、ストレッチ、筋力トレーニング、有酸素運動、脳活性化運動、行動変容技法による運動の習慣化とした。また、運動教室群の対象者には、歩数計の装着をうながし、目標歩数への到達とストレッチ、筋力トレーニングの実施を毎日行うよう推奨した。

健康講座群には、介護や疾病予防に関する健康講座を 6 か月間に 2 回実施した。また、あわせて検査結果の説明を実施した。

【結果】

1. 運動教室の実施状況

運動教室群の 38 名（78%）が、40 回の介入の 80%以上の出席をした。5 名（10%）の対象者は 30%以下の出席であった（図 2）。運動教室実施中の有害事象はなかった。

2. 介入前の健康講座群と介入群の認知機能

ベースライン時における健康講座群と運動教室群間比較において、年齢、運動機能、活動状態、教育歴、認知機能、脳容量すべての項目で、全例および健忘型 MCI 群ともに有意差は認められなかった（表 3）。

3. 介入前後の認知機能の変化と群間比較（全対象者）

健康講座群における介入前後の比較において、Wechsler memory scale (WMS) -I A（即時再生）、II A（30 分後再生）、Rey-Osterrieth Complex Figure Test (ROCF) 30 分後再生、Digit Symbol (DS) において有意な機能の向上を認めた。運動教室群においては、Alzheimer's Disease Assessment Scale-cognitive subscale (ADAS-cog)、WMS-I A、WMS-I B、WMS-I total、WMS-II A、WMS-II B、WMS-II total、Stroop test I において有意な認知機能の向上を認めた（表 4）。

群間差を比較した結果、WMS I B、DS、Word Fluency Test (WFT) -category において有意な交互作用が認められた（表 4、図 4）。

4. 健忘型 MCI 高齢者の介入前後の認知機能の変化と群間比較

健康講座群における介入前後の比較において、Mini Mental State Examination (MMSE) が有意に低下した。しかし、WMS-II B、ROCF3 分後再生と 30 分後再生、DS において有意

な認知機能の向上を認めた。運動教室群では、ADAS-cog、WMS-I A、WMS-I total、WMS-II A、WMS-II B、WMS-II total、Stroop test III、WFT-letter、Digit span forward (DSF) において有意な機能向上を認めた (表 5)。

群間差を比較した結果、MMSE、WMS-I total、WFT-category、WFT-letter において有意な交互作用が認められた (表 5、図 5)。

5. 脳容量測定

介入前後の比較において、脳委縮領域の割合が健康講座群で、全対象者および健忘型 MCI 高齢者の両方の分析にて有意に上昇し、群間比較では健忘型 MCI 高齢者の分析において交互作用が認められた (表 6、図 6)。

6. 脳機能測定 (事例検討)

MCI 高齢者群において交互作用の認められた WMS の値が介入前に同じ得点であった 2 名の対象者の 3DSSP 画像を図 7 (健康講座群対象者)、図 8 (運動教室群対象者) に示した。健康講座群対象者 (80 歳、女性) の WMS-I total 得点は介入前に 13 点、介入後に 12 点とわずかに低下した。一方、運動教室群対象者 (81 歳、男性) の WMS-I total 得点は、介入前に 13 点、介入後には 17 点に上昇した。3DSSP 画像からは、健康講座群対象者では海馬傍回の相対的な FDG 取り込みの上昇が低下した。一方、記憶機能が向上した運動教室群の対象者においては、同部位の取り込み上昇が認められた。

【研究費】

本研究は、厚生労働省の介護予防実態調査分析支援事業として実施した。

【研究業績 (投稿中および発表予定を含む)】

国際論文

1. Shimada H, et al.. Relationship between atrophy of the medial temporal areas and memory function in elderly adults. (in submitting)
2. Makizako H, et al.. Exercise capacity is related to the atrophy of medial temporal areas in community-dwelling older adults with mild cognitive impairment. (in submitting)
3. Yoshida D, et al.. The relationship between atrophy of the medial temporal area and daily activities in community-dwelling older adults. (in submitting)
4. Doi T, et al.. Characteristics of Cognitive Function in Early and Late Stages of Amnesic Mild Cognitive Impairment. (in submitting)

学会発表

1. Makizako H, et al.. Dual-task performance and multi-domain of neurocognitive functions in older adults with and without amnesic mild cognitive impairment. International Conference on Alzheimer's Disease, Paris, 2011. (in submitting)
2. Yoshida D, et al.. The relationship between atrophy of the medial temporal area and daily activities in community-dwelling older adults. International Conference on Alzheimer's Disease, Paris, 2011. (in submitting)
3. Doi T, et al.. Whole brain atrophy and spatiotemporal gait parameters during dual-task gait. International Conference on Alzheimer's Disease, Paris, 2011. (in submitting)
4. Makizako, et al.. Exercise capacity is related to entorhinal cortex atrophy in community - based older adults with mild cognitive impairment. World Confederation for Physical Therapy, Amsterdam, 2011.
5. Doi T, et al.. the characteristics of mobility and cognitive function in early and late stage with mild cognitive impairment. World Confederation for Physical Therapy, Amsterdam, 2011.
6. 島田 裕之 他. 高齢者における嗅内野皮質周囲の萎縮と認知機能との関係. 第53回日本老年医学会学術集会, 東京, 2011年.(査読中)
7. 牧迫 飛雄馬 他. 軽度認知障害を有する高齢者のQOLと関連する要因. 第53回日本老年医学会学術集会, 東京, 2011年.(査読中)
8. 土井 剛彦 他. 文字流暢性課題とカテゴリー流暢性課題の課題特性. 第53回日本老年医学会学術集会, 東京, 2011年.(査読中)
9. 吉田 大輔 他. 認知障害と関連する日常生活活動の検討. 第53回日本老年医学会学術集会, 東京, 2011年.(査読中)
10. 牧迫 飛雄馬 他. 二重課題条件下での反応時間と認知機能および脳萎縮との関連. 第46回日本理学療法学術大会, 宮崎, 2011年
11. 土井 剛彦 他. 高齢者における歩行指標は脳萎縮と関係するのか? 第46回日本理学療法学術大会, 宮崎, 2011年
12. 吉田 大輔 他. 地域高齢者における内側側頭葉の脳萎縮と日常生活活動との関係. 第46回日本理学療法学術大会, 宮崎, 2011年
13. 土井 剛彦 他. 認知障害を有する高齢者における dual-task 歩行. 第1回日本基礎理学療学会学術集会。(査読中)

【担当者】

国立長寿医療研究センター 鈴木隆雄、島田裕之、牧迫飛雄馬、土井剛彦、吉田大輔

【引用文献】

1. 石川智久, 谷向 知. 軽度認知障害 (MCI) を考える : 軽度認知障害の予後に関する疫学調査結果をどう考えるか. *老年精神医学雑誌* 2009;20(3):258-64.
2. 佐々木恵美, 朝田 隆. 茨城県利根町研究の結果から : AD へのコンバージョンを考察する. *老年精神医学雑誌* 2006;17 (増刊-II) :55-60.
3. Ishikawa T, Ikeda M, Matsumoto N, Shigenobu K, Brayne C, Tanabe H. A longitudinal study regarding conversion from mild memory impairment to dementia in a Japanese community. *Int J Geriatr Psychiatry* 2006;21(2):134-9.
4. Petersen RC, Thomas RG, Grundman M, Bennett D, Doody R, Ferris S, et al. Vitamin E and donepezil for the treatment of mild cognitive impairment. *N Engl J Med* 2005;352(23):2379-88.
5. Larson EB, Wang L, Bowen JD, McCormick WC, Teri L, Crane P, et al. Exercise is associated with reduced risk for incident dementia among persons 65 years of age and older. *Ann Intern Med* 2006;144(2):73-81.
6. Yaffe K, Barnes D, Nevitt M, Lui LY, Covinsky K. A prospective study of physical activity and cognitive decline in elderly women: women who walk. *Arch Intern Med* 2001;161(14):1703-8.
7. Lindsay J, Laurin D, Verreault R, Hebert R, Helliwell B, Hill GB, et al. Risk factors for Alzheimer's disease: a prospective analysis from the Canadian Study of Health and Aging. *Am J Epidemiol* 2002;156(5):445-53.
8. Wang HX, Karp A, Winblad B, Fratiglioni L. Late-life engagement in social and leisure activities is associated with a decreased risk of dementia: a longitudinal study from the Kungsholmen project. *Am J Epidemiol* 2002;155(12):1081-7.
9. van Uffelen JG, Chinapaw MJ, van Mechelen W, Hopman-Rock M. Walking or vitamin B for cognition in older adults with mild cognitive impairment? A randomised controlled trial. *Br J Sports Med* 2008;42(5):344-51.
10. Baker LD, Frank LL, Foster-Schubert K, Green PS, Wilkinson CW, McTiernan A, et al. Effects of aerobic exercise on mild cognitive impairment: a controlled trial. *Arch Neurol* 2010;67(1):71-9.
11. Colcombe SJ, Erickson KI, Scalf PE, Kim JS, Prakash R, McAuley E, et al. Aerobic exercise training increases brain volume in aging humans. *J Gerontol A Biol Sci Med Sci* 2006;61(11):1166-70.
12. Fratiglioni L, Paillard-Borg S, Winblad B. An active and socially integrated lifestyle

- in late life might protect against dementia. *Lancet Neurol* 2004;3(6):343-53.
13. Morris MC, Evans DA, Bienias JL, Tangney CC, Hebert LE, Scherr PA, et al. Dietary folate and vitamin B12 intake and cognitive decline among community-dwelling older persons. *Arch Neurol* 2005;62(4):641-5.
 14. Mischoulon D, Raab MF. The role of folate in depression and dementia. *J Clin Psychiatry* 2007;68 Suppl 10:28-33.
 15. Barberger-Gateau P, Letenneur L, Deschamps V, Peres K, Dartigues JF, Renaud S. Fish, meat, and risk of dementia: cohort study. *BMJ* 2002;325(7370):932-3.
 16. Morris MC, Evans DA, Bienias JL, Tangney CC, Bennett DA, Wilson RS, et al. Consumption of fish and n-3 fatty acids and risk of incident Alzheimer disease. *Arch Neurol* 2003;60(7):940-6.
 17. McMahon JA, Green TJ, Skeaff CM, Knight RG, Mann JI, Williams SM. A controlled trial of homocysteine lowering and cognitive performance. *N Engl J Med* 2006;354(26):2764-72.
 18. Freund-Levi Y, Eriksdotter-Jonhagen M, Cederholm T, Basun H, Faxen-Irving G, Garlind A, et al. Omega-3 fatty acid treatment in 174 patients with mild to moderate Alzheimer disease: OmegAD study: a randomized double-blind trial. *Arch Neurol* 2006;63(10):1402-8.
 19. Kotani S, Sakaguchi E, Warashina S, Matsukawa N, Ishikura Y, Kiso Y, et al. Dietary supplementation of arachidonic and docosahexaenoic acids improves cognitive dysfunction. *Neurosci Res* 2006;56(2):159-64.

表 1 対象者の除外基準

神経疾患	パーキンソン病、多発性脳梗塞、ハンチントン病、正常圧水頭症、脳腫瘍、進行性核上性麻痺、てんかん、硬膜下血腫、多発性硬化症、後遺症を残した頭部外傷、糖尿病、その他。
MRI 所見	Screening 時点や Baseline の MRI で感染症、認知機能に影響を与えるような脳梗塞等の局所病変が見つかった場合は除外。 ペースメーカー、動脈瘤クリップ、人工弁、人工内耳その他、体内に金属が入っている場合は除外。
精神科疾患	過去 1 年以内に大うつ病や双極性障害の診断を受けた (DSM-IV) 統合失調症の既往 (DSM-IV) 最近の 3 ヶ月以内に agitation などの精神症状が強く、プロトコルの完了が困難と思われる場合。
アルコール依存	過去 2 年間にアルコールや他の薬物依存の既往がある (DSM-IV)
全身状態・臨床検査	重篤な疾患や状態の安定しない疾患を抱えている。 ビタミン B12 欠乏、梅毒、甲状腺機能異常がある。
施設入所	すでに施設入所している
他の治験への参加	すでに他の治験への参加している場合は除外
ドネペジル	除外
治験薬の服用	除外
他事業への参加	長寿医療研究センター長期縦断研究に参加している場合
その他	研究者が対象者として不相当と判断した場合

表2 評価項目

	検査項目	介入前	介入後	介入中
認知機能検査	Mini mental state examination	○	○	
	ADAS-cog	○	○	
	Wechsler memory scale-logical memory I	○	○	
	Wechsler memory scale-logical memory II	○	○	
	Rey 複雑図形-模写	○	○	
	Rey 複雑図形-3分後再生	○	○	
	Rey 複雑図形-30分後再生	○	○	
	Digit span-順唱	○	○	
	Digit span-逆唱	○	○	
	Word fluency	○	○	
	Category fluency	○	○	
	Trail making test-part A	○	○	
	Trail making test-part B	○	○	
脳形態・機能検査	Volumetric MRI	○	○	
	FDG PET (n=26)	○	○	
	NIRS (n=24)	○	○	
運動機能検査	握力	○	○	
	膝伸展筋力	○	○	
	片脚立位	○	○	
	5m 歩行時間 (通常)	○	○	
	6分間歩行距離	○	○	
日常生活状況	老研式活動能力指標	○	○	
	International physical activity questionnaire	○	○	
	Life space assessment	○	○	
心理状態	Medical outcome scale short form-8	○	○	
	Geriatric depression scale	○	○	
一般健康状態	転倒状況	○	○	
	疾病状況	○	○	
	服薬状況	○	○	
プロセス評価 (運動教室群のみ)	教室出席回数			○
	運動時間			○
	歩数			○
	運動前後の脈拍数			○

表3 ベースライン時における対象者の基本情報

	全例		健忘型 MCI	
	健康講座群	運動教室群	健康講座群	運動教室群
年齢	75.8 ± 6.1	74.8 ± 7.4	76.8 ± 6.8	75.3 ± 7.5
握力	23.5 ± 7.3	24.7 ± 8.1	23.1 ± 8.4	25.2 ± 7.3
膝伸展筋力 (Nm/kg)	1.1 ± 0.4	1.1 ± 0.4	1.1 ± 0.4	1.2 ± 0.5
開眼片足立ち時間	31.2 ± 23.9	34.6 ± 24.6	29.3 ± 23.6	34 ± 25.1
5m 通常歩行	4.7 ± 0.9	4.9 ± 1.9	4.6 ± 0.8	5.2 ± 2.3
TMIG index	12.3 ± 0.9	12.1 ± 1.7	12.3 ± 0.9	12.3 ± 1.1
教育歴	10.4 ± 2.4	10.9 ± 2.8	10.8 ± 2.7	11.1 ± 2.4
MMSE	26.3 ± 2.7	26.8 ± 2.3	26.6 ± 1.6	26.8 ± 1.8
ADAS	6.5 ± 2.8	6 ± 2.8	6.8 ± 2.2	6.3 ± 2.2
CDT	1.3 ± 0.6	1.3 ± 0.7	1.2 ± 0.5	1.3 ± 0.7
WMS-I A	7.4 ± 4.7	7.8 ± 4.3	6.2 ± 3.1	6 ± 3.6
WMS-I B	6.4 ± 3.2	6.8 ± 3.4	5.8 ± 2.4	6.5 ± 3.3
WMS-I total	13.8 ± 7.4	14.6 ± 6.9	12 ± 4.9	12.5 ± 5.9
WMS-II A	5.1 ± 4.5	5.5 ± 4.1	3.3 ± 2.7	4 ± 2.6
WMS-II B	4.3 ± 3.3	5 ± 3.8	3.6 ± 2.8	4.2 ± 3.2
WMS-II total	9.4 ± 7.4	10.5 ± 7.4	6.9 ± 5	8.2 ± 5.4
Rey 模写	34 ± 1.7	33.8 ± 2	33.7 ± 1.6	33.2 ± 2.4
Rey3 分後再生	14.7 ± 7	16.3 ± 5.3	13.4 ± 6.5	14.4 ± 4.9
Rey30 分後再生	14 ± 7.1	15.8 ± 5.9	12.9 ± 6.8	14 ± 6.2
DSC	42.8 ± 14.9	48.9 ± 16	44.3 ± 16.3	47.5 ± 15.4
TMT-A	137.3 ± 52.6	123.3 ± 42.3	130.8 ± 49.7	124.5 ± 49
TMT-B	218 ± 145.2	181.7 ± 82.7	221.8 ± 146.7	185.7 ± 93.5
TMTB-A	81.7 ± 115.6	61 ± 66.4	91.7 ± 120.6	66.6 ± 81.3
ストループ I	22.9 ± 9.8	22.2 ± 9.2	23.4 ± 11.1	22.6 ± 9.7
ストループ III	48.4 ± 34.4	44.9 ± 25.5	41.5 ± 17.7	42 ± 13.7
ストループ III-I	25.5 ± 31.1	22.7 ± 22.2	18.2 ± 18.8	19.4 ± 12.6
WFT-category	31.5 ± 8.7	34.2 ± 7.3	31.2 ± 7.7	33.1 ± 6.9
WFT-letter	16.2 ± 5.9	16.8 ± 6.1	16.9 ± 6	16 ± 5.3
Digit span forward	7.7 ± 2.1	7.6 ± 2.3	7.7 ± 2.2	7.2 ± 2.3
Digit span back	5.2 ± 1.6	5.1 ± 1.7	5 ± 1.4	5 ± 1.8
脳委縮領域の割合	8.3 ± 4.6	7.3 ± 4.7	7.4 ± 3.3	7.9 ± 3.9

表4 全対象者における認知機能の比較

	健康講座群 (n=45)		運動教室群 (n=47)		p‡
	介入前	介入後	介入前	介入後	
MMSE	26.5 ± 2.6	26.2 ± 3.0	26.9 ± 2.2	27.1 ± 2.6	.32
ADAS 注	6.3 ± 2.8	6.1 ± 3.0	5.8 ± 2.7	5.0 ± 3.0††	.16
CDT	1.3 ± 0.6	1.3 ± 0.5	1.3 ± 0.7	1.5 ± 0.7	.28
WMS-I A	7.8 ± 4.7	8.9 ± 4.5*	8.1 ± 4.2	9.9 ± 3.9††	.32
WMS-I B	6.7 ± 3.2	6.5 ± 3.6	6.9 ± 3.5	7.9 ± 3.6†	.05
WMS-I total	13.8 ± 7.4	13.9 ± 8.4	14.6 ± 6.9	16.7 ± 7.9†	.08
WMS-II A	5.5 ± 4.5	6.9 ± 4.9**	5.8 ± 4.0	8.0 ± 4.1††	.23
WMS-II B	4.6 ± 3.2	5.1 ± 3.4	5.1 ± 3.9	6.3 ± 3.6†	.25
WMS-II total	9.4 ± 7.4	10.8 ± 8.1	10.5 ± 7.4	13.4 ± 7.6††	.15
Rey 模写	33.9 ± 1.7	33.3 ± 2.1	33.8 ± 2.0	33.2 ± 2.4	.93
Rey3 分後再生注	15.0 ± 7.0	16.1 ± 5.7	16.5 ± 5.3	17.7 ± 6.9	.97
Rey30 分後再生注	14.2 ± 7.0	15.7 ± 5.5*	16.2 ± 5.5	16.9 ± 6.8	.48
DSC	43.2 ± 15.0	47.2 ± 14.3**	49.6 ± 16.2	50.4 ± 17.8	.03
TMT-A 注	128.2 ± 42.7	123.0 ± 32.9	116.6 ± 32.9	122.4 ± 41.4	.12
TMT-B 注	171.3 ± 56.2	161.7 ± 40.9	153.5 ± 54.7	154.4 ± 48.7	.33
TMTB-A 注	47.7 ± 52.6	45.0 ± 35.7	43.6 ± 52.5	43.5 ± 43.5	.84
ストループ I	22.9 ± 10.0	22.2 ± 6.8	22.0 ± 9.3	19.2 ± 6.3†	.26
ストループ III	48.8 ± 35.7	44.9 ± 17.4	44.9 ± 26.0	41.0 ± 22.3	1.00
ストループ III-I	25.9 ± 32.5	22.7 ± 15.3	23.0 ± 22.7	21.7 ± 18.0	.70
WFT-category	32.2 ± 8.4	30.9 ± 8.5	34.3 ± 7.4	35.5 ± 9.1	.03
WFT-letter	16.6 ± 5.9	16.8 ± 6.3	17.2 ± 6.0	18.5 ± 6.3	.22
Digit span forward	7.7 ± 2.1	7.4 ± 2.0	7.8 ± 2.2	7.9 ± 1.9	.33
Digit span back	5.3 ± 1.6	5.1 ± 1.6	5.2 ± 1.5	5.6 ± 2.2	.16

* $p < .05$, 健康講座群、** $p < .01$, 健康講座群、† $p < .05$, 運動教室群、†† $p < .01$, 健康講座群、‡ 交互作用の検定

注 ADAS : 運動教室群にて 1 名の欠損あり

TMT-A : 健康講座群にて 2 名、運動教室群にて 1 名の欠損あり

TMT-B : 健康講座群にて 9 名、運動教室群にて 8 名の欠損あり

(TMT の中止基準は 300 秒以上)

Rey3 分後再生 : 運動教室群にて 1 名の欠損あり

Rey30 分後再生 : 健康講座群にて 1 名、運動教室群にて 1 名の欠損あり

表5 健忘型 MCI 高齢者における認知機能の比較

	健康講座群 (n = 23)		運動教室群 (n = 24)		p‡
	介入前	介入後	介入前	介入後	
MMSE	26.6 ± 1.6	25.2 ± 2.9*	27.0 ± 1.8	27.2 ± 2.3	.04
ADAS	6.7 ± 2.2	6.7 ± 3.0	6.2 ± 2.2	5.0 ± 2.3††	.10
CDT	1.3 ± 0.5	1.4 ± 0.7	1.3 ± 0.8	1.3 ± 0.6	.30
WMS-I A	6.3 ± 3.0	7.3 ± 3.7	6.2 ± 3.6	9.3 ± 3.9††	.07
WMS-I B	5.9 ± 2.4	5.4 ± 2.6	6.6 ± 3.3	7.3 ± 3.3	.12
WMS-I total	12.2 ± 4.7	12.7 ± 5.1	12.8 ± 5.9	16.5 ± 6.5††	.04
WMS-II A	3.3 ± 2.7	5.0 ± 3.9	4.2 ± 2.6	6.9 ± 3.4††	.27
WMS-II B	3.5 ± 2.6	4.0 ± 2.4*	4.2 ± 3.3	5.2 ± 2.9†	.46
WMS-II total	6.9 ± 4.8	9.0 ± 5.5	8.4 ± 5.5	12.1 ± 5.9††	.26
Rey 模写	33.6 ± 1.6	33.3 ± 1.6	33.3 ± 2.4	33.0 ± 2.4	.96
Rey3 分後再生	12.9 ± 6.4	14.8 ± 5.2*	14.5 ± 4.9	17.1 ± 6.3	.70
Rey30 分後再生	12.1 ± 6.5	14.8 ± 4.1*	14.5 ± 5.5	16.1 ± 5.7	.51
DSC	43.8 ± 16.4	47.3 ± 14.8*	48.0 ± 15.5	47.7 ± 15.2	.10
TMT-A 注	124.7 ± 46.0	129.5 ± 39.8	114.5 ± 33.4	127.7 ± 43.2	.41
TMT-B 注	176.2 ± 57.6	166.7 ± 37.5	157.2 ± 64.3	155.5 ± 51.5	.68
TMTB-A	61.5 ± 55.1	49.5 ± 28.9	49.6 ± 68.3	39.6 ± 46.1	.92
ストループ I	23.6 ± 11.5	22.5 ± 6.8	22.1 ± 9.6	19.0 ± 6.6	.49
ストループ III	41.9 ± 18.4	42.0 ± 15.5	41.8 ± 13.9	37.2 ± 17.4†	.26
ストループ III-I	18.3 ± 19.6	19.6 ± 14.0	19.7 ± 12.8	18.1 ± 12.1	.55
WFT-category	31.0 ± 7.9	29.3 ± 8.5	33.3 ± 7.0	34.8 ± 9.0	.05
WFT-letter	17.0 ± 6.2	16.0 ± 6.0	16.1 ± 5.4	19.0 ± 6.0†	.01
Digit span forward	7.6 ± 2.2	7.5 ± 2.2	7.4 ± 2.2	8.0 ± 1.7†	.20
Digit span back	5.2 ± 1.4	5.1 ± 1.8	5.1 ± 1.6	5.5 ± 1.3	.37

* $p < .05$, 健康講座群、** $p < .01$, 健康講座群、† $p < .05$, 運動教室群、†† $p < .01$, 健康講座群、‡ 交互作用の検定

注 TMT-A : 健康講座群にて 1 名、運動教室群にて 1 名の欠損あり

TMT-B : 健康講座群にて 6 名、運動教室群にて 5 名の欠損あり

(TMT の中止基準は 300 秒以上)

表6 対象者におけるMR I 指標の比較

	健康講座群		運動教室群		<i>p</i> ‡
	介入前	介入後	介入前	介入後	
全対象者					
脳委縮領域の割合	8.3 ± 4.5	8.9 ± 4.7*	6.9 ± 4.2	7.0 ± 4.3	.16
健忘型 MCI 高齢者					
脳委縮領域の割合	7.3 ± 3.4	8.2 ± 3.7*	8.0 ± 4.0	7.9 ± 4.3	.05

* $p < .05$, 健康講座群、‡ 交互作用の検定

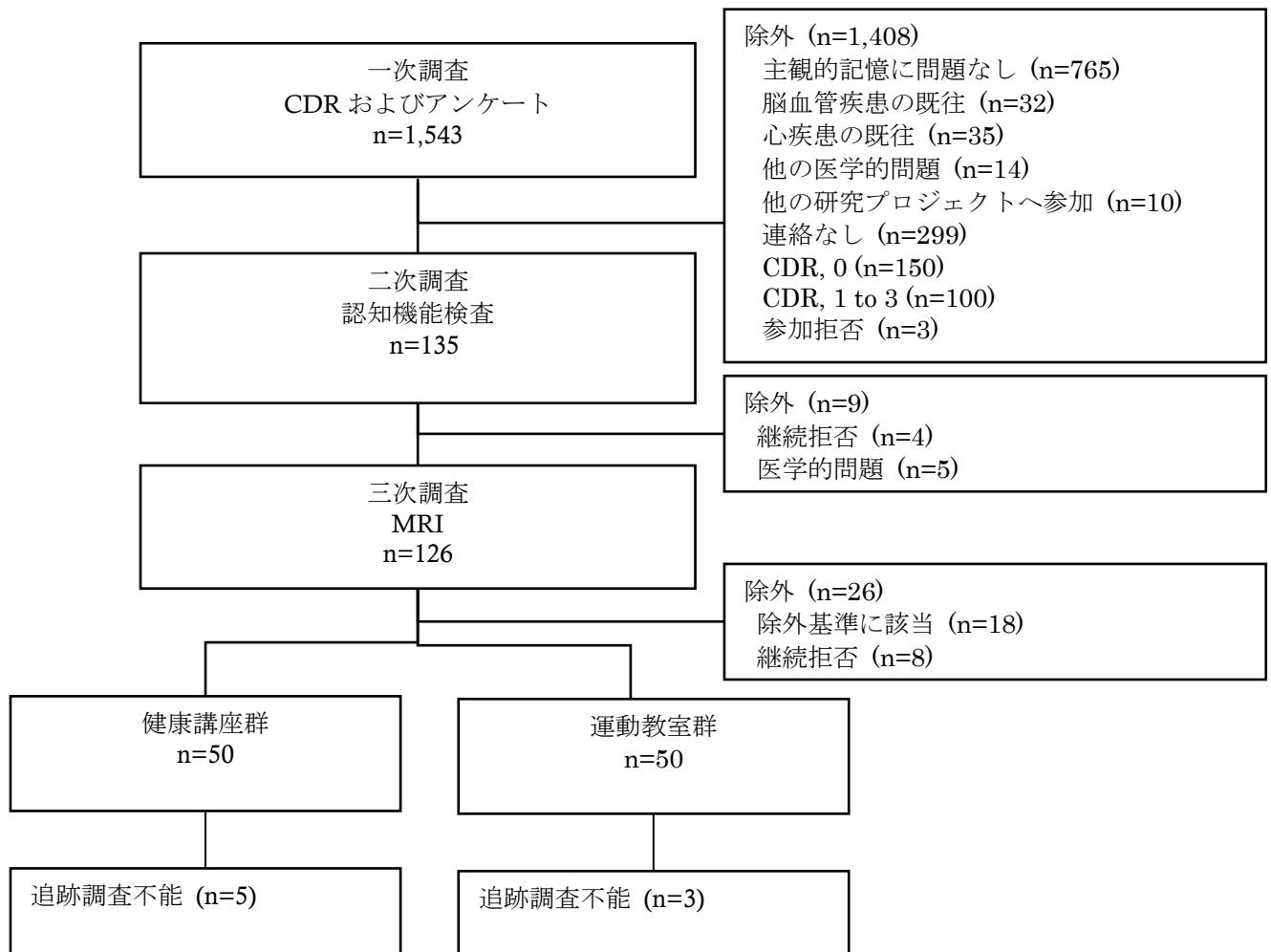


図1 研究の流れ

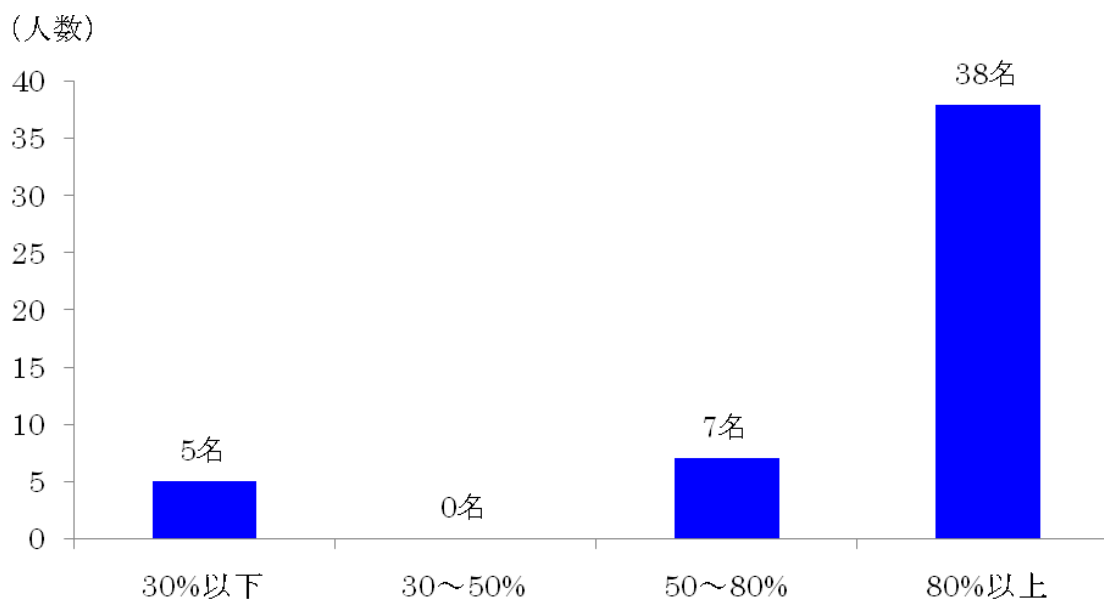


図2：運動教室の参加状況（前半40回終了時）

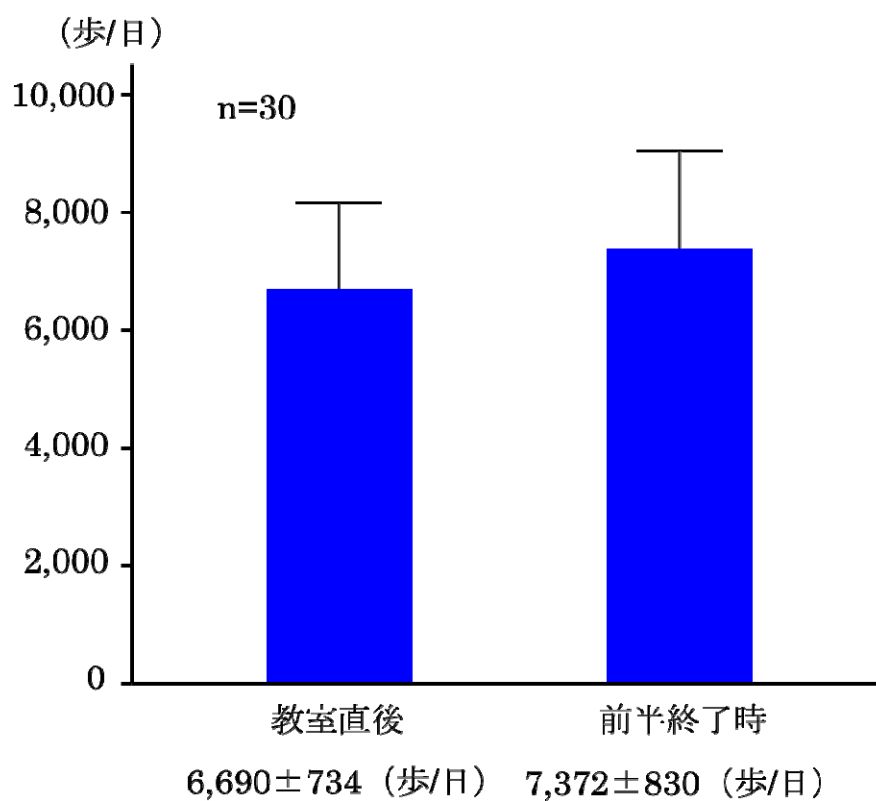
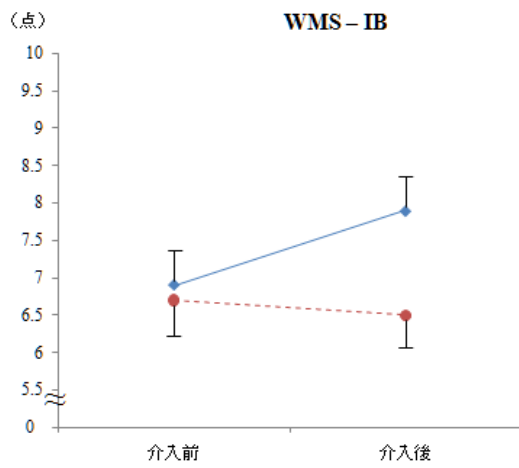
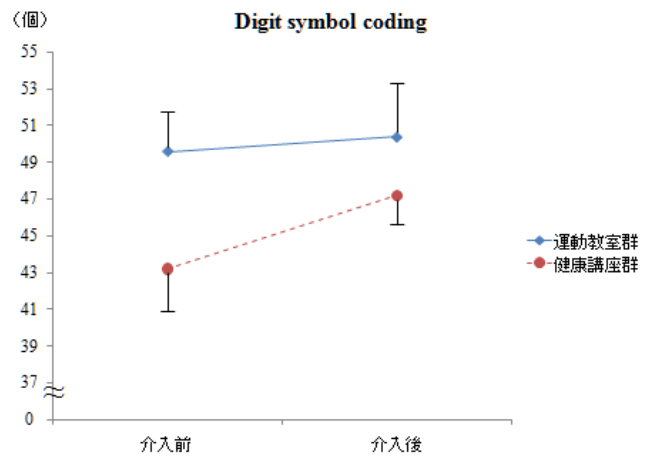


図3 日常における歩行活動量の変化

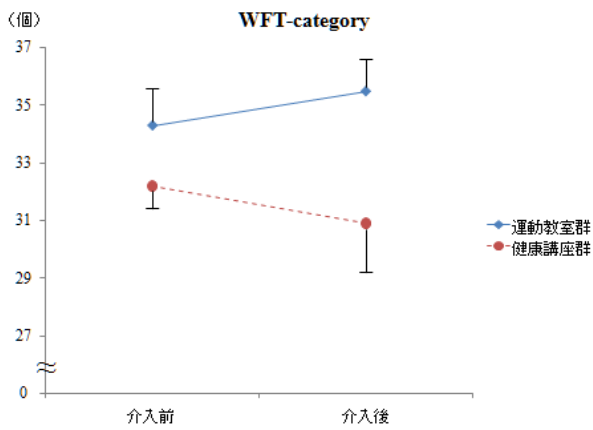
図中の値は1日の平均歩数±平均誤差を示す。



a



b

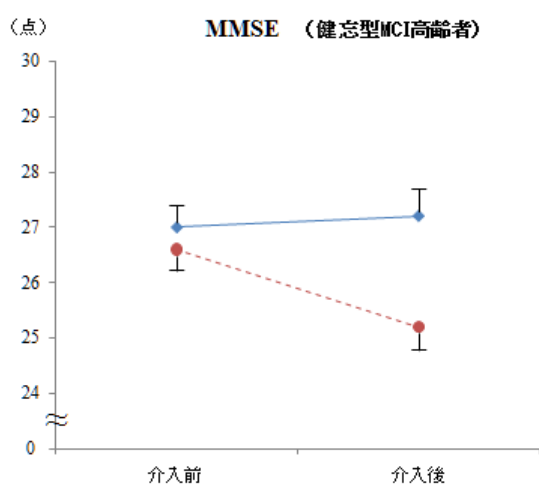


c

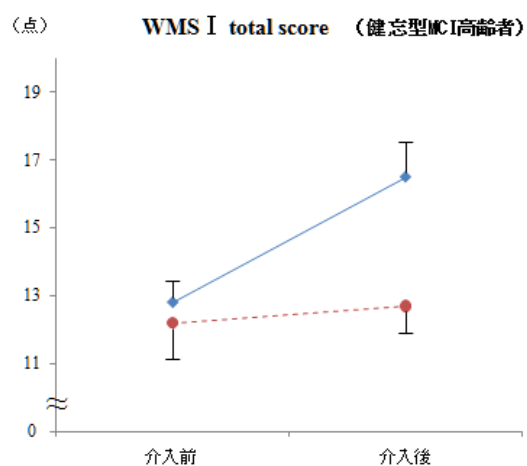
図4 全対象者の認知機能変化

a: Wechsler memory scale-logical memory IB score, b: digit symbol coding, c: word fluency test-category

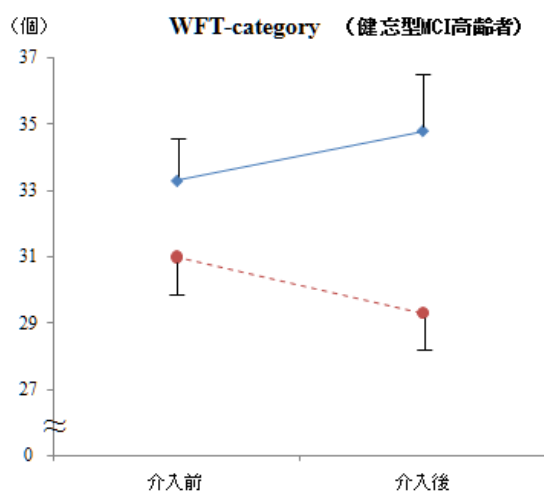
いずれの項目も有意な交互作用を認めた。



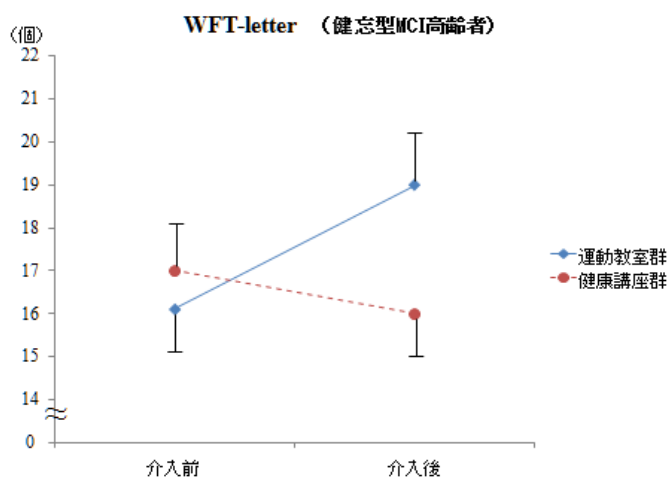
a



b



c



d

図5 健忘型 MCI 高齢者の認知機能変化

a: Mini mental state examination, b: Wechsler memory scale-logical memory I total score, c: word fluency test-category, d: word fluency test-letter.

いずれの項目も有意な交互作用を認めた。

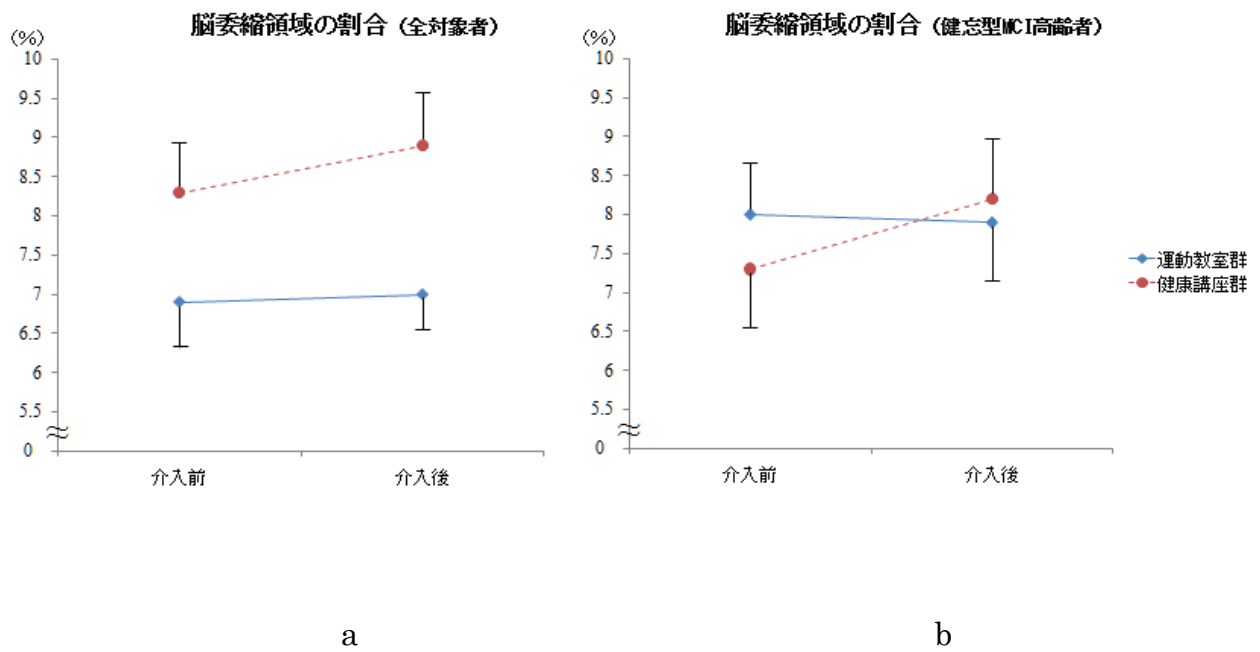


図6 MRI指標による脳萎縮の割合

a: 全対象者における脳萎縮の割合, b: 健忘型MCI高齢者における脳萎縮の割合
 有意な交互作用は健忘型MCI高齢者のみにみられた。

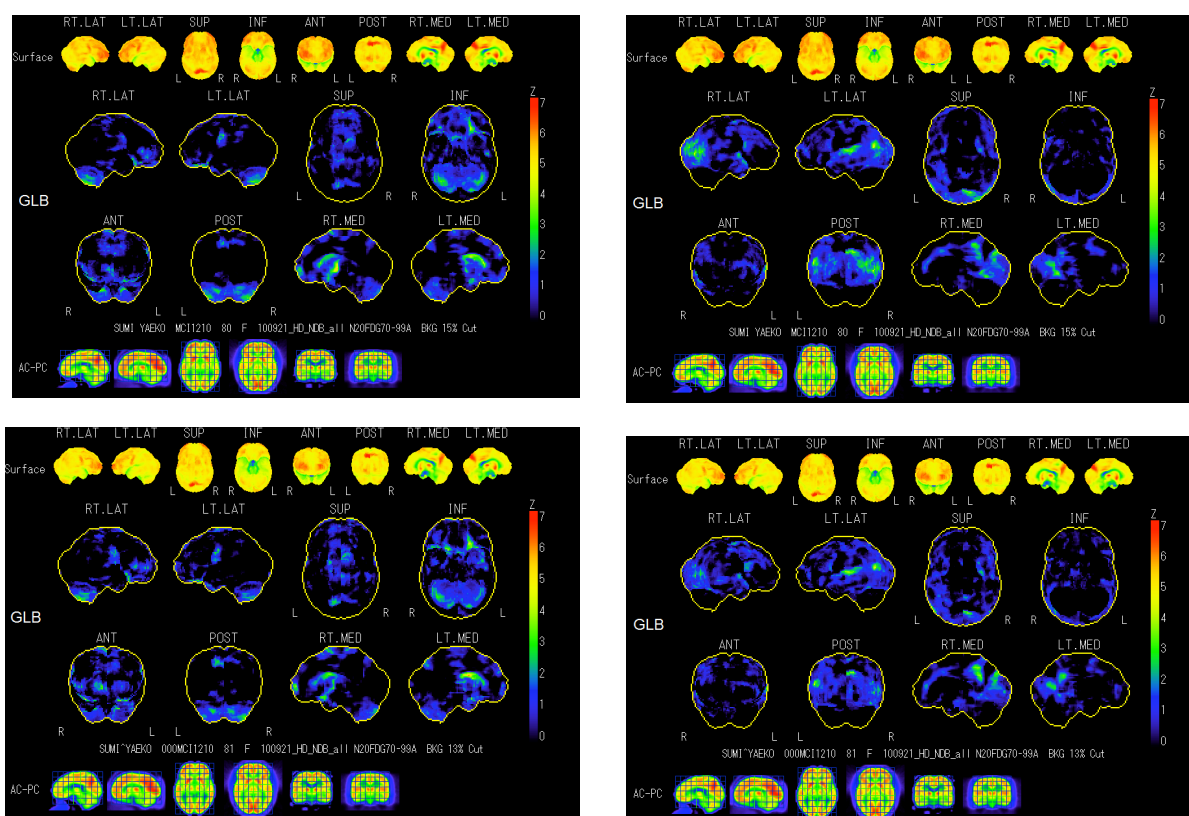


図7 健康講座群対象者における3DSSPによる脳機能画像

上段：介入前、下段：介入後、左側：相対的にFDG取り込み上昇、右側：相対的にFDG取り込み低下

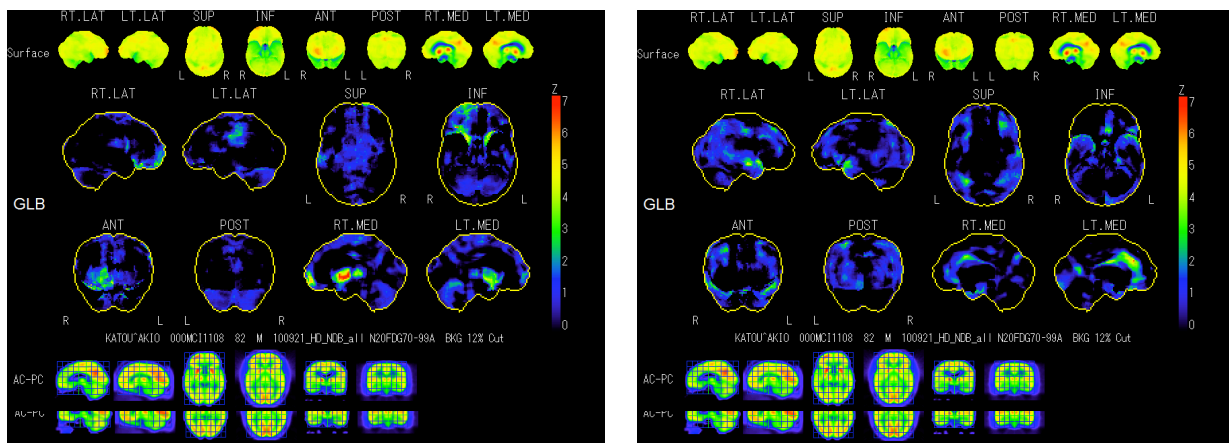


図8 運動教室群対象者における3DSSPによる脳機能画像

上段：介入前、下段：介入後、左側：相対的にFDG取り込み上昇、右側：相対的にFDG取り込み低下

第Ⅱ章 介護予防の総合的評価・分析に関する研究〈進捗管理委員会報告〉

a. 効果評価

北里大学大学院薬学研究科臨床医学(医薬開発学)準教授 成川 衛

1. 背景

介護予防事業の効果等を検証するために平成 18 年度より実施された「継続的評価分析支援事業」において、全国市町村の協力の下で介護予防に係るデータが収集され、施策導入の効果や費用対効果の分析・評価が行われた。その結果、介護予防事業（特定高齢者施策）については、施策導入前後で要介護度が悪化した者の発生率は低下していたが、統計学的有意差を示すには至らなかった。理由として、

- 調査対象群とコントロール群とで属性が大きく異なっていたこと
- 十分な調査対象者数のデータが収集できなかったこと

などが考えられ、これらの要素を考慮しつつ適切なデザインによる調査研究を新たに実施する必要があるとされた。

このような背景を踏まえ、平成 21 年度からの介護予防実態調査分析支援事業（介護予防モデル事業）においては、介護予防事業の効果等を検証するための調査デザインについて既存の情報に基づき予め検討を行った上で事業が実施された。平成 22 年度は、21 年度の経験を踏まえ細部の修正を行いつつも、基本的には 21 年度と同じデザインにて実施された。

2. 研究計画の概要

2.1 システム介入

介護予防事業のシステム面を強化したモデル（システム介入）を実施するものである。具体的には、以下の 2 つの事業を実施することとされた。

- A-1： 地域包括支援センターの担当圏域内の全高齢者（要支援・要介護者を除く）を対象に「基本チェックリスト」を配布し、回収率を上げる（5 割以上を目標）ことにより、より多くの特定高齢者候補者の選定や特定高齢者施策への参加率の向上につながることを検証する。
- A-2： 地域包括支援センターの担当圏域内の高齢者（400 人程度を目安）を対象に介護予防教室を周知し、参加率を上げる（5 割以上を目標）ことにより、より多くの特定高齢者候補者の選定や特定高齢者施策への参加率の向上につながることを検証する。

両事業において、基本チェックリスト実施率、特定高齢者候補者率、生活機能評価実施率、特定高齢者率、特定高齢者施策参加率等の指標に関して平成 20 年度の全国値等との比較を行う。

2.2 プログラム介入

一般高齢者及び特定高齢者に対して、より効果が見込まれる介護予防プログラムを行うモデル（プログラム介入）を実施するものである。具体的には、以下の2つの事業を実施することとされた。

- B-1： 転倒・骨折予防及び膝痛・腰痛対策を重点とした運動器の機能向上プログラム（膝痛対策、腰痛対策又は転倒・骨折予防対策プログラム）を実施し、その有効性を検証する。
- B-2： 栄養改善、口腔機能向上の各プログラムについて、各単体のプログラムを運動器の機能向上プログラムと組み合わせることで、対象者の栄養改善及び口腔機能の向上、並びに生活機能の維持・向上が図られることを検証する。

B-1、B-2のいずれにおいても、プログラム対象者を無作為に2群に分け、第1群（先行群）には3ヶ月間プログラムを実施し、第2群（待機群）は3ヶ月間待機させた後に（待機期間中のデータをコントロールとして用いる）プログラムを実施する。無作為化に当たっては、B-1においては性別及びプログラム種類（膝痛対策、腰痛対策又は転倒・骨折予防対策プログラム）を層とした層別無作為化を、B-2においては性別及び高齢者の状態（一般高齢者、特定高齢者）を層とした層別無作為化を行うこととした。

3. 中間集計結果の概要（平成22年12月末時点）

3.1 システム介入

モデル事業A-1には全国から18の地域包括支援センターが参加し、基本チェックリストの配布・回収が行われている。A-2には全国から10の地域包括支援センターが参加し、介護予防教室の開催、特定高齢者候補者及び特定高齢者の把握が行われている段階にある。

3.2 プログラム介入

モデル事業B-1には全国から12の地域包括支援センターが参加した。以下、必要なデータの入力が完了した対象者における中間集計解析結果の概要を述べる。

プログラム対象者の無作為化の手順は以下のとおりである。

- ①各自治体はプログラム対象者リストを作成し、厚生労働省に送付する。
- ②厚生労働省は、性別及びプログラム種類（膝痛対策、腰痛対策又は転倒・骨折予防対策）を層として、乱数表を用いて無作為割付のコード表を作成し、当該自治体に送付する。
- ③自治体では、コード表に従った介入（プログラム）を実施し、結果を報告する。

各地域包括支援センターへの割付数、完了数（初回及び3ヶ月目の評価が完了）、完了率（完了数／割付数）をTable 1に示す。完了数の内訳は、先行群（介入群）が199例、待機群（コ

ントロール群)が113例であり、不均衡が認められた。この理由として、データ入力・報告が完了していない対象者が待機群に多く偏っていることが考えられるが、今後、データの集積を待つさらに検討する必要がある。完了率についても、センターにより30%~80%程度の幅があることから、データの集積を待つ必要があるとともに、最終的な完了率にセンター間で大きな差が認められる場合には、その原因及び影響についても確認する必要がある。

Table 1 モデル事業 B-1 に参加した地域包括支援センター及び対象者数など

名称	割付数	完了数 (先行群/待機群)	完了率
横手市地域包括支援センター	50	25 (12/13)	50%
福島市中央地域包括支援センター	59	22 (22/ 0)	37%
西会津町にしあいづ地域包括支援センター	67	30 (13/17)	45%
和光市北地域包括支援センター	53	20 (20/ 0)	38%
和光市南地域包括支援センター	57	39 (22/17)	68%
府中市立介護予防推進センター	50	20 (20/ 0)	40%
開成町地域包括支援センター	35	16 (6/10)	46%
松本市西部地域包括支援センター	48	14 (14/ 0)	29%
田原本町地域包括支援センター	45	34 (15/19)	76%
出雲市出雲高齢者あんしん支援センター	50	35 (18/17)	70%
美祿市地域包括支援センター	50	18 (18/ 0)	36%
行橋北地域包括支援センター	50	39 (19/20)	78%

B-1 参加者の背景因子の分布は Table 2 のとおりである。参加者の背景因子を介入群、コントロール群で比較すると、両群間で大きく異なる項目はほとんどなく、両群間の比較可能性については大きな問題はないものと判断した。

Table 2 モデル事業 B-1 参加者の背景因子の分布

項目	カテゴリー	介入群 (先行群)		コントロール群 (待機群)		p 値 ^{注1)}
		例数	%	例数	%	
性別	男	58	29.2%	35	31.0%	p=0.7344
	女	141	70.9%	78	69.0%	
プログラム 種類	膝痛対策	89	44.7%	39	34.5%	p=0.2026
	腰痛対策	78	39.2%	51	45.1%	
	転倒・骨折予防 対策	32	16.1%	23	20.4%	
状態	特定高齢者	50	25.1%	21	18.6%	p=0.1853
	一般高齢者	149	74.9%	92	81.4%	
		例数	平均値 (SD)	例数	平均値 (SD)	
年齢		199	75.6 (6.2)	113	74.9 (5.3)	p=0.3913
身体状況 (介入前)	開眼片足立ち (秒) ^{注2)}	199	34.4 (23.3)	113	28.8 (21.3)	p=0.0454
	TUG (秒) ^{注2)}	199	7.6 (2.5)	113	7.3 (2.1)	p=0.6133
	5m 通常歩行時 間 (秒)	199	4.1 (1.3)	113	4.1 (1.0)	p=0.7346
	5m 最大歩行時 間 (秒)	199	3.2 (1.0)	113	3.2 (0.9)	p=0.9982
運動器疾患 (介入前)	JKOM (VAS)	89	33.6 (27.1)	39	29.8 (26.0)	p=0.5067
	JKOM (総得点)	89	19.8 (14.7)	39	19.8 (14.1)	p=0.8379
	JLEQ (VAS)	77	37.0 (24.9)	51	30.4 (22.1)	p=0.1439
	JLEQ (総得点)	78	27.5 (17.5)	51	22.5 (18.3)	p=0.0926
	転倒不安尺度 (総得点)	32	13.7 (4.4)	23	14.5 (5.5)	p=0.7362

注1) 分類データについては χ^2 検定、計量データについては Wilcoxon 順位和検定による p 値 (両側)

注2) 開眼片足立ちについては2回測定のうち大きい方の値、TUGについては同小さい方の値を使用

主な評価指標について、介入前後の指標の変化量を介入群（介入 3 ヶ月後の値－介入前の値）とコントロール群（観察 3 ヶ月後の値－観察開始時の値）とで比較した結果を Table 3 に示す。全ての指標において介入群の変化（改善）量はコントロール群を上回っており、開眼片足立ち、JLEQ（VAS）及び転倒不安尺度を除く指標において両群間の変化量に統計的に有意な差が認められた。

Table 3 モデル事業 B-1 参加者の主な指標の変化量

項目	カテゴリー	介入群 (先行群)		コントロール群 (待機群)		p 値 ^{注1)}
		例数	変化量の 平均値 (SD)	例数	変化量の 平均値 (SD)	
身体状況	開眼片足立ち (秒) ^{注2)}	197	3.5 (15.4)	113	3.2 (13.4)	p=0.8194
	TUG (秒) ^{注2)}	197	-0.7 (1.5)	113	0.1 (1.0)	p<0.0001
	5m 通常歩行時 間 (秒)	197	-0.3 (0.8)	113	-0.1 (0.8)	p=0.0243
	5m 最大歩行時 間 (秒)	197	-0.3 (0.6)	113	-0.1 (0.5)	p=0.0147
運動器疾患	JKOM (VAS)	88	-13.3 (22.6)	39	2.1 (21.0)	p=0.0002
	JKOM (総得点)	89	-5.0 (8.3)	39	-0.8 (5.9)	p=0.0005
	JLEQ (VAS)	77	-10.1 (29.3)	51	-1.9 (20.2)	p=0.0686
	JLEQ (総得点)	78	-9.3 (15.7)	51	-0.9 (8.2)	p=0.0007
	転倒不安尺度 (総得点)	32	-0.9 (2.5)	23	-0.5 (2.6)	p=0.5538

注 1) Wilcoxon 順位和検定による p 値（両側）

注 2) 開眼片足立ちについては 2 回測定のうち大きい方の値、TUG については同小さい方の値を使用

モデル事業 B-2 には全国から 11 の地域包括支援センターが参加した。以下、必要なデータの入力が完了した対象者における中間集計解析結果の概要を述べる。

プログラム対象者の無作為化の手順は以下のとおりである。

- ①各自治体はプログラム対象者リストを作成し、厚生労働省に送付する。
- ②厚生労働省は、性別及び高齢者の状態（一般高齢者、特定高齢者）を層として、乱数表を用いて無作為割付のコード表を作成し、当該自治体に送付する。
- ③自治体では、コード表に従った介入（プログラム）を実施し、結果を報告する。

各地域包括支援センターへの割付数、完了数（初回及び3ヶ月目の評価が完了）、完了率（完了数／割付数）を Table 4 に示す。完了数の内訳は、先行群（介入群）が 280 例、待機群（コントロール群）が 251 例であり、待機群が若干少なかった。完了率は、センターにより 25%～90%程度の幅があることから、データの集積を待つ必要があるとともに、最終的な完了率にセンター間で大きな差が認められる場合には、その原因及び影響についても確認する必要がある。また、上郡町地域包括支援センターのコード表は、No.1～46（市町村が付けた番号）が先行群、No.47～92 が待機群という割付になっており、無作為化が適切になされていたかどうかを確認する必要があるものとする。

Table 4 モデル事業 B-2 に参加した地域包括支援センター及び対象者数など

名称	割付数	完了数 (先行群/待機群)	完了率
福島市飯坂南地域包括支援センター	27	7 (7/0)	26%
福島市飯坂北地域包括支援センター	39	15 (10/5)	38%
福島市飯坂東地域包括支援センター	61	14 (14/0)	23%
草津町地域包括支援センター	43	32 (14/18)	74%
吉見町包括支援センター	112	80 (42/38)	71%
志摩市地域包括支援センター	51	38 (20/18)	75%
市川町地域包括支援センター	106	75 (37/38)	71%
上郡町地域包括支援センター	92	85 (43/42)	92%
邑南町地域包括支援センター	90	59 (31/28)	66%
小松島市社福協会地域包括支援センター	100	59 (31/28)	59%
美里町地域包括支援センター	103	67 (31/36)	65%

B-2 に参加者の背景因子の分布は Table 5 のとおりである。参加者の背景を介入群、コントロール群で比較すると、両群間で大きく異なる項目はほとんどなく、両群間の比較可能性については大きな問題はないものと判断した。

Table 5 モデル事業 B-2 参加者の背景因子の分布

項目	カテゴリー	介入群 (先行群)		コントロール群 (待機群)		p 値 ^{注1)}
		例数	%	例数	%	
性別	男	71	25.4%	60	23.9%	p=0.6982
	女	209	74.6%	191	76.1%	
状態	特定高齢者	68	24.3%	70	27.9%	p=0.3446
	一般高齢者	212	75.7%	181	72.1%	
		例数	平均値 (SD)	例数	平均値(SD)	
年齢		280	74.1 (5.6)	251	74.1 (5.7)	p=0.9272
口腔機能 (介入前)	RSST (秒)	280	32.7 (22.2)	251	34.4 (25.6)	p=0.3433
	発音・嚥下機能 (回/秒) パ音	280	5.4 (1.1)	251	5.6 (1.0)	p=0.0277
	発音・嚥下機能 (回/秒) タ音	280	5.5 (1.1)	251	5.5 (1.1)	p=0.6620
	発音・嚥下機能 (回/秒) カ音	280	5.3 (1.1)	251	5.3 (1.1)	p=0.8556
	口腔の QOL	280	50.7 (7.6)	251	51.4 (7.7)	p=0.1746
栄養改善 (介入前)	食事摂取量 (総得点)	280	3.6 (0.5)	251	3.7 (0.5)	p=0.3716
	達成度 (総得点)	280	15.8 (2.9)	251	16.1 (2.8)	p=0.3092
身体状況 (介入前)	開眼片足立ち (秒) ^{注2)}	280	34.5 (22.7)	251	34.0 (22.4)	p=0.6881
	TUG (秒) ^{注2)}	280	7.2 (1.7)	251	7.2 (1.7)	p=0.8876

注 1) 分類データについては χ^2 検定、計量データについては Wilcoxon 順位和検定による p 値 (両側)

注 2) 開眼片足立ちについては 2 回測定のうち大きい方の値、TUG については同小さい方の値を使用

主な評価指標について、介入前後の指標の変化量を介入群（介入 3 ヶ月後の値－介入前の値）とコントロール群（観察 3 ヶ月後の値－観察開始時の値）とで比較した結果を Table 6 に示す。ほとんどの指標において介入群の変化（改善）量はコントロール群を上回っていたが、介入群において統計的に有意な改善が認められたのは栄養改善の達成度及び開眼片足立ちのみであった。

Table 6 モデル事業 B-2 参加者の主な指標の変化量

項目	カテゴリー	介入群 (先行群)		コントロール群 (待機群)		p 値 ^{注1)}
		例数	変化量の 平均値 (SD)	例数	変化量の 平均値(SD)	
口腔機能	RSST (秒)	279	-1.2 (17.4)	250	-1.1 (18.9)	p=0.9961
	発音・嚥下機能 (回/秒) パ音	279	0.2 (0.9)	251	0.1 (0.9)	p=0.0537
	発音・嚥下機能 (回/秒) タ音	279	0.2 (0.9)	251	0.1 (1.0)	p=0.2405
	発音・嚥下機能 (回/秒) カ音	279	0.2 (0.9)	251	0.1 (0.9)	p=0.1388
	口腔の QOL	280	1.0 (4.5)	251	0.6 (5.2)	p=0.2705
栄養改善	食事摂取量 (総得点)	280	0.1 (0.4)	251	0.0 (0.5)	p=0.1588
	達成度 (総得点)	280	0.5 (2.4)	251	0.0 (2.5)	p=0.0266
身体状況	開眼片足立ち (秒) ^{注2)}	279	0.4 (16.3)	251	5.9 (18.0)	p=0.0007
	TUG (秒) ^{注2)}	279	-0.3 (1.1)	251	-0.3 (1.2)	p=0.4108

注 1) Wilcoxon 順位和検定による p 値（両側）

注 2) 開眼片足立ちについては 2 回測定のうち大きい方の値、TUG については同小さい方の値を使用

4. 考察

システム介入に関するモデル事業（A-1 及び A-2）については、昨年度同様に順調に進行しているものとする。

プログラム介入に関するモデル事業（B-1 及び B-2）は、プログラム参加者を介入群又はコントロール群に無作為に割り付け、介入の効果をコントロール群と比較して評価するというデザインであり、これにより介入効果に関する信頼度の高いデータを得ることができる。B-1 及び B-2 のいずれにおいても、参加者の 2 群への無作為割り付けは概ね適切に行われていると判断するが、B-1 における介入群とコントロール群の例数の不均衡、B-2 の一部センターにおける無作為割り付けの手続きについて、その具体的状況・理由、結果への影響等について今後検討する必要がある。

介入の効果については、一部データに基づく中間評価ではあるものの、B-1 については期待通りの結果が得られている。一方、B-2 については、統計的に有意な改善効果が認められた指標は多くないことから、今後追加的に得られるデータも合わせてその背景等を詳細に評価・分析した上で、今後の介入プログラムの内容並びに評価指標及びその測定方法等について検討を加えることが必要であると考えられる。

第Ⅱ章 介護予防の総合的評価・分析に関する研究〈進捗管理委員会報告〉

b. モニタリング

福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座 安村誠司

1. はじめに

介護予防事業の推進に関する調査研究委員会のもとにある進捗管理委員会は、モデル事業の実施市町村における進捗状況を第三者的に評価し、事業の適切な実施・継続のためのアドバイス（勧告）を行うことが目的となっている。そして、本進捗管理委員会の下に、モデル事業の進捗管理を行うために進捗モニタリング委員会が設置されている。

進捗モニタリングの内容としては、モデル事業参加市町村に対して、当該市町村における事業の進捗状況に関して進捗管理票を用いて情報収集し、評価し、必要に応じて支援を行うことである。進捗管理票は、事業マニュアルに従って事業が実施されているかどうかを確認するために用いられ、そのおもな着目ポイントは以下の通りであり、基本的に昨年度と同様である。

- 1) システム介入（A-1, A-2）：基本チェックリストの全数配布及び未回収群へのフォローアップの状況、介護予防教室の参加募集、実施及び未参加群へのフォローアップの状況などについての確認等である。
- 2) プログラム介入（B-1, B-2）：実施体制（実施場所、担当者）の確保、プログラム実施対象者の選定、対象者に対する事前説明、初回アセスメント、個別プログラムの内容・実施状況などについての確認等である。また、割付け（介入群・対照群）に従った介入が行われているかについても確認する。

また、モデル事業参加市町村に対して、当該市町村における事業の進捗状況に関して、進捗管理票のみでは把握できない情報や生の声を聴取する目的で、聞き取り調査、または、訪問調査を行うこととした。

以上の視点で、それぞれの市町村で実施されたモデル事業について、検討した。

2. 方法

1) 平成21年度は、進捗管理票（A-1, A-2, B-1, B-2）、及び、介護予防実態調査分析支援事業 進捗管理実施要領を作成し、原則的に毎月1回、モデル市町村から厚生労働省老健局老人保健課に報告してもらうことにした。今年度は新たに対象となった市町村について報告してもらうことにした。今年度は特に進捗で問題になったとの連絡はなく、概ね順調に進行したと判断された。

2) 介護予防事業の推進に関する調査研究委員会委員、厚生労働省担当職員、三菱総合研究所のスタッフ、研究協力者が、モデル市町村における実施状況について、A-1, A-2, B-1, B-2のそれぞれ1市町村を選定し、現地調査を実施した。

3. 結果

1) モデル事業の進捗管理状況

A-1、A-2、B-1、B-2、いずれの事業の実施において特に大きな問題となるような課題・要望等は特になく、市町村すべてで事業は順調に実施されていると判断された。

2) 現地調査

現地調査については、平成23年1月14日(火)に長野県松本市(B-1)を、平成23年1月18日(月)に熊本県下益城郡美里町(B-2)を、1月19日(水)に大分県玖珠郡九重町(A-2)を、平成23年1月26日(水)に山形県長井市(A-1)を、訪問して実施した。

現地調査では、進捗管理票等では把握できない事業実施状況を担当者からのヒヤリング等により情報収集した(別紙、進捗管理報告書参照)。担当者からは進捗調査票からはわからない実施上の工夫や課題を聴取することができ、事業評価を行う上で極めて有益な情報を得ることができたとの意見が多かった。現地調査した市町村においては、事業が円滑に実施されていると判断できた。特徴的な取り組みを実施している自治体も見られた。ただ、取り組みへの担当者の意識、意欲等については、若干の違いがあることも明らかになった。

4. まとめ 事業実施市町村の事業の進捗状況を評価した。

現地調査の実施により、事業の実施状況に関して適切な判断をするために有効であった。現地調査からは、現地調査した市町村においては、事業が円滑に実施されていると判断できた。

いずれの事業に関しても、概ね事業は適正に、かつ、円滑に実施されていると判断された。

■A-1

事例1：山形県長井市

1. 本事業の特徴

本事業は長井市福祉事務所の中にある市直営の地域包括支援センターが中心になって実施されている。平成6年からミニデイサービス事業が開始され、現在市内のほとんどの地域で高齢者の介護予防・閉じこもり予防の活動が行われている。この活動は、地域の前期高齢者が「協力員」としてボランティアとなって行われているのが特徴である。今回、A-1 事業として、全戸配布後、ミニデイサービス開催地域で協力者と利用者への事業説明を行った。

2. 自治体の概要

【長井市の特徴】長井市は、山形県の南部に位置する自然豊かな地域である。

【人口】29,538人（平成22年度）、【高齢化率】29.8%

【その他】要支援・要介護認定率 16.5%

3. 事業の体制

地域包括支援センター保健師2名、事務員2名、及び、主任介護支援専門員1名が、基本チェックリストの発送、回収、電話フォロー、集計等を実施した。

77歳以上の未回収者のフォローをしない在宅介護支援センター2か所に委託し、訪問調査を実施した。

4. 実施状況

1) 基本チェックリストの周知は、市報への計3回掲載した。また、昨年度の調査集計結果についても掲載した。

2) 基本チェックリストの配布は、主に郵送とし、一部持参した。

3) 基本チェックリストの回収は、8月20日を回収目途として、主に郵送で回収され、一部持参された。

4) 基本チェックリスト未回収者へのフォローとしては、未回収者について、9月市報で再度提出を依頼し、9月20日が回収めどに設定された。なお、電話でも協力依頼をした。

5) 77歳以上の未回収者とその同一世帯の未回収者については、市内2か所の在宅介護支援センターに訪問調査が依頼された。

以上の取り組みで、回収率88.25%（5,764部）となった。

5. 課題

本モデル事業実施前の回収率は約20%であり、未回収者の状況は不明であったが、今回、未受診者において生活機能低下で支援が必要な方を受診者よりも多いことが明らかになった。今後の課題は、介護予防が必要な高齢者を介護予防事業にいかに関引き出し、参加して頂き、その後の介護予防につなげていくのかである。

担当者：長井市福祉事務所 地域包括支援センター

■A-2

事例1：大分県九重町 集団教育に焦点を当てた健康づくりプログラム

1. 本事業の特徴

本事業は、地域のつながり強化を目的とし、理学療法士や作業療法士、保健師などから運動の実施や健康づくりに関して、集団教育を主とした事業を特徴としている。また、介護予防教室の不参加者のために、委託した在宅保健師による全数訪問にてフォローし、実態把握を行っている。

2. 自治体の概要

【九重町の特徴】九重町は、標高差が1,000m以上あり、幅広い起床条件と立地条件が内抱し、年平均気温も3度近く差があり、農業と観光を主とした町である。過疎化や介護保険サービス等により、高齢者同士、住民同士の関係が希薄化し、地域での健康づくりや支えあいも希薄になっている。

【人口】10,990人（平成22年度）、【高齢化率】34.9%

【その他】要介護（支援）者数は794人、認定率は20.7%である。民生委員調べによる1人暮らし高齢者は225人である。

3. 事業の体制

介護予防教室は人材派遣委託（健康管理センター保健師）に依頼して開催している。基本チェックリストの提出の有無に関わらず、教室不参加者に対しては、在宅保健師に委託し、全数訪問を行った。介護予防教室の実施場所は地区公民館、事業完了後は、「いきいき夢サロン事業（一般高齢者施策）」について説明・継続へと支援を行っている。

4. 実施状況

本介護予防教室は、地区集会所にて3回（午後）実施し、1会場10～30人程度である。基本チェックリストの実施状況は、対象者数385人中、288人回収（回収率74.8%）であった。これらのうち、実際に事業に参加した者は、189人であった。また、介護予防教室参加へのフォローとして、不参加者に対して電話による確認（75人）を行った。

5. 課題

基本チェックリストの未回収は地域により差がみられる。地域力の底上げのためにも、介護予防教室を主体的に実施していける地域を検討していきたい。そのために、いきいき夢サロン事業（一般高齢者施策）の立ち上げをより強化し、介護予防教室参加後、地域につなげていくことが課題である。

担当者：大分県九重町役場ふれあい生活課

■B-1

事例1：長野県松本市 集団プログラムによる膝痛改善教室の取り組み

1. 本事業の特徴

本事業は、従来の運動機能向上プログラムの中で、膝痛があるため集団プログラムには参加しにくい対象者のニーズがあることから、膝痛がある高齢者のみを対象とした運動器疾患別のプログラムである。膝の筋力増強の運動を中心に実施し、膝痛の緩和を図ることを目的としている。

2. 自治体の概要

【松本市の特徴】 松本市は、長野県中部に位置し、岐阜県と接している。市域は、南北約41.3km、東西約52.2km（面積978.77km²）である。平成の大合併により、2010年3月までに4村1町を編入し、面積は県内1位の広さとなり、人口密度は低下した。

【人口】227,763人【高齢化率】23.4%（平成21年10月1日現在）

【その他】介護保険認定率16.8%（平成22年10月1日）であり、全国、長野県に比較してやや多い。平成20年の特定高齢者件数は52,018人であり、決定者率は4.8%であった。

3. 事業の体制

平成18年度より、運動機能向上プログラムとして「筋力アップ教室」を年2コース（週2回3カ月間）実施してきたが、プログラム利用者の中には膝痛があり、集団でのプログラムに対応ができない高齢者が多かった。また、介護予防事業以外で、膝痛や腰痛などの出前講座を単発で実施してきたが、継続的なプログラムが必要と判断し、「膝痛改善教室」を開催することとした。

4. 実施状況

＜目的＞

膝痛改善と運動機能向上を目的とする。

＜参加者選定＞

これまで運動機能向上プログラムの事業が実施されていない地域を選定し、高齢福祉課に依頼して65歳以上の非認定者を無作為に選んだ520人に郵送によるアンケート調査を実施した。回収率は286人（52%）であり、候補者48人と50人の定員より少なかったため、膝痛があり、運動制限がなく、教室に参加可能な全員を候補者とした。

<p><内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・場所：保健センター、または福祉センター ・人員配置：理学療法士（市職員）2人、在宅看護師（登録看護師）3人 ・スケジュール：週2回3カ月間のプログラムで、先行群と待機群の2グループに分け、1グループの人数は24人とした。具体的なプログラムは表の通りである。 ・役割分担：プログラムは理学療法士が実施し、登録看護師はバイタルチェックなどを行っている。主に、膝の筋力増強の運動を中心に行っている。自宅でも継続して運動が実施できるように、ホームエクササイズの記録票を作成している。 ・かかりつけ医からの意見書：参加候補者になった時点で、主治医に電話で確認した。市医師会所属であれば、委託契約で意見書を1050円で発行できる。医師会所属以外の診療所等では本人に注意事項等を確認していただく。整形外科医と内科医の両方の意見書が必要である。 ・送迎について：徒歩・自転車、自家用車等で開催場所まで移動可能な参加者が多いが、運転等が不可能な参加者には送迎を行っている。 	表 「膝痛改善教室」の一日の例																				
	<p>梓川老人福祉センター</p> <p>参加者：17人</p> <p>スタッフ：理学療法士2人、登録看護師2人</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>時刻</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>9:00-9:30</td> <td>職員集合・打ち合わせ</td> </tr> <tr> <td>9:30-10:00</td> <td>受け付け、自己問診票記入 バイタルチェック</td> </tr> <tr> <td>10:00-10:10</td> <td>学習時間（自宅での実施状況確認）</td> </tr> <tr> <td>10:10-10:30</td> <td>ウォーミングアップ（指の運動など）</td> </tr> <tr> <td>10:30-11:10</td> <td>運動（膝痛対策プログラム）</td> </tr> <tr> <td>11:10-11:20</td> <td>クーリングダウン</td> </tr> <tr> <td>11:20-11:30</td> <td>学習時間</td> </tr> <tr> <td>11:30-12:00</td> <td>解散・片付け</td> </tr> <tr> <td>12:00-12:30</td> <td>カンファレンス</td> </tr> </tbody> </table>		時刻	内容	9:00-9:30	職員集合・打ち合わせ	9:30-10:00	受け付け、自己問診票記入 バイタルチェック	10:00-10:10	学習時間（自宅での実施状況確認）	10:10-10:30	ウォーミングアップ（指の運動など）	10:30-11:10	運動（膝痛対策プログラム）	11:10-11:20	クーリングダウン	11:20-11:30	学習時間	11:30-12:00	解散・片付け	12:00-12:30
時刻	内容																				
9:00-9:30	職員集合・打ち合わせ																				
9:30-10:00	受け付け、自己問診票記入 バイタルチェック																				
10:00-10:10	学習時間（自宅での実施状況確認）																				
10:10-10:30	ウォーミングアップ（指の運動など）																				
10:30-11:10	運動（膝痛対策プログラム）																				
11:10-11:20	クーリングダウン																				
11:20-11:30	学習時間																				
11:30-12:00	解散・片付け																				
12:00-12:30	カンファレンス																				
<p>5. 課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 運動器機能向上のマニュアルに掲載してある運動プログラムだけでは90分間実施ができないため、応用の運動を加えることが必要となった。 2. 膝の変形がある参加者については、運動療法だけでなく足底板の使用や靴の指導、BMIが高い参加者は栄養指導などの生活指導も必要だと考えられる（今回は厚生労働省からは生活指導の実施は不可との指示があった）。 3. 評価については、握力や片足立ちを両足測定し評価する必要があると考える。 4. 心疾患や高血圧などの合併症のある参加者が多く、体調確認や頻回なバイタルチェック、主治医との連絡調整が必要となった。運営スタッフが5人であれば、参加者20人が限度と考えられる。 <p style="text-align: right;">担当課：松本市健康福祉部健康づくり課</p>																					

■B-2

事例1：熊本県美里町 体験による理解を重視した複合型プログラム

1. 本事業の特徴

本事業は、栄養改善、口腔機能の向上を主とし、従来の運動器の機能向上プログラムを付加している複合型プログラムである。それぞれのプログラムにつながりができるよう、テーマをリンクさせ、参加者は同日にそれらのテーマを栄養、口腔機能、運動といった3側面から体験・理解できるような工夫を行っている点が特徴である。

2. 自治体の概要

【美里町の特徴】 美里町は、熊本県のほぼ中央に位置しており、熊本市から南東へ約30km車で40分程度の距離にある自然豊かな地域である。地勢は山地丘陵部が多く、総面積144.03km²での約4分の3(107.59km²)を森林が占める典型的な中山間地である。平成16年に市町村合併し、職種は農業が主である。

【人口】11,847人(平成22年度)、【高齢化率】36.1%(熊本県内第5位)

【その他】要介護(支援)者数は778人、認定率は18.1%である。1人暮らし高齢者は507人である。

3. 事業の体制

人員体制：栄養士1名、理学療法士(運動指導員)1名、歯科衛生士1名、その他職員3名、地域のボランティア。場所は、町福祉保健センターにて開催し、プログラム実施者への研修方法は、事前ミーティングおよびプログラム終了後のミーティングにて実施した。

4. 実施状況

本介護予防教室は、全8回、隔週にて実施した(実施期間は3カ月)。1回のタイムスケジュールは、健康チェック、運動器機能向上、口腔機能向上、調理実習、嚥下体操、会食、栄養講話、口腔機能口授の流れで実施した。教室までの交通手段がない方については送迎した。基本チェックリストの配布は、日常生活圏(6圏域)より無作為抽出した。郵送による調査の結果、配布数500人、回収数は336人で、回収率は67.2%であった。対象者のモチベーションを上げるために、町広報誌への掲載、健康関連資料の送付を実施した。

5. 課題

隔週の開催では、前回の内容を忘れてしまう対象者の方もいるため、毎週開催が望まれる。専門職、場所の確保が難しく、これらの確保が今後の課題である。また評価の中には、専門的知識が必要なものもあり、事前の打ち合わせ・研修などを徹底していくことが課題である。

担当者：熊本県美里町地域包括支援センター

第Ⅲ章 介護予防に関する科学的知見の 収集及び分析委員会

目 次

第Ⅲ章 介護予防に関する科学的知見の収集及び分析委員会	131
概要	131
事業結果	131
1. 目的	132
2. 方法および結果	132
(1) 介護予防事業に関する研究成果の収集	132
(2) 介護予防プログラムに関するエビデンステーブルの Web 公開	136
3. 介護予防事業に関する原著論文・学会発表抄録一覧	138
(1) 運動器	138
(a) 原著論文	138
(b) 学会発表抄録	162
(2) 栄養改善	219
(a) 原著論文	219
(b) 学会発表抄録	221
(3) 口腔機能	225
(a) 原著論文	225
(b) 学会発表抄録	231
(4) 認知機能低下予防	248
(a) 原著論文	248
(b) 学会発表抄録	252
(5) 閉じこもり予防	261
(a) 原著論文	261
(b) 学会発表抄録	263
(6) うつ予防	265
(a) 原著論文	265
(b) 学会発表抄録	266
4. 介護予防に関する公的研究費採択一覧	268
(1) 厚生労働科学研究成果データベース	268
(2) 科学研究費補助金採択課題・成果概要データベース	277
5. まとめ	296

第Ⅲ章 介護予防に係る科学的知見の収集および分析委員会

慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学教授 武林 亨

【概要】

平成 22 年度は、介護予防事業開始後、わが国において実施された介護予防事業等に関する調査研究のうち、医学中央雑誌に掲載されており、日本語で記載された知見の収集を行う。あわせて、公的研究費（厚生労働科学研究費補助金、文部科学省科学研究費補助金）のデータベースからも収集する。さらに、平成 21 年度に作成した PubMed 掲載の英語知見のエビデンステーブルについては、得られた成果の活用を促すため検索機能を付与して Web 上で公開する。

【事業結果】

1. わが国において実施された介護予防事業等に関する調査研究のうち、医学中央雑誌に掲載された日本語知見の検索を行い、原著論文（査読付き、査読なしを含む）596 件、学会抄録 883 件の書誌情報を収集し、データベース化した。
2. わが国において実施された介護予防事業等に関する調査研究のうち、厚生労働科学研究費補助金および文部科学省科学研究費補助金のデータベースの検索を行い、前者 87 件、後者 219 件の情報を収集し、データベース化した。
3. 平成 21 年度に作成した PubMed 掲載の介護予防プログラムに関する英語知見のエビデンステーブルについて、検索可能なデータベースを作成し、Web 上で公開した。

1. 目的

平成 17 年度の介護予防事業の開始から 5 年が経過し、介護予防事業に関する研究成果が発信され、蓄積されつつあることが期待される。本調査では、介護予防事業に関連して実施された研究成果を広く収集することを第一の目的とする。第二には、平成 21 年度の本事業で実施した介護予防プログラムの知見（英語）の収集に基づくエビデンステーブルについて、Web 上で公開することを目的とする。これは、得られた成果の社会からの幅広い活用を図り、現場での効果的なプログラム立案をサポートするとともに、今後の本領域の知見充実を図るためである。

2. 方法および結果

(1) 介護予防事業に関する研究成果の収集

介護予防事業に関する研究成果は、多くが日本語雑誌で公表され、また日本国内の学会で発表されていると期待されること、ならびに英語雑誌に公表された知見については平成 21 年度の本事業で比較対照試験を中心に PubMed の包括的な検索を行い、介護予防プログラム有効性に関するエビデンステーブルを作成済みであることから、本調査では、日本語での研究成果を収集することとした。

原著論文、学会発表とともに、整備されたデータベースとしては医学中央雑誌（以下、医中誌）に掲載されていると考えられることから、医中誌の検索により、平成 17 年度以降の知見を収集することとした。また、公的研究費である厚生労働科学研究費補助金ならびに文部科学省科学研究費補助金による研究成果の蓄積も期待されることから、両研究費補助金のデータベースについても検索を行い、情報の収集を行うこととした。

医中誌検索式の作成

医学文献の検索に豊富な経験を持つ医学図書館の専任図書館司書が医中誌の検索式を作成した。

(1) 基本的な検索語として、以下を設定した。

介護予防 OR 一般高齢者 OR 特定高齢者 OR 予防給付 OR (介護 AND 予防 AND 事業)

(2) その結果、4,129 件がヒットした（原著論文、学会発表抄録（医中誌では会議録）、総説、解説を含む）。なお、検索日は 2011 年 1 月 13 日であった。

(3) そのうえで、以下の 7 点について検索語を設定し、(1)と掛け合わせて検索を行った

- ① 介護予防事業
- ② 運動器機能

- ③ 栄養
- ④ 口腔機能
- ⑤ 認知機能低下予防
- ⑥ 閉じこもり予防
- ⑦ うつ予防

検索式の詳細は、表 1 に示す。

2010年度介護予防事業-医中誌キーワード表

表1. 医中誌検索式 2011/1/27 本検索 医中誌Web

	Key concept	Key concept2	検索語	検索式	件数	備考
			※1~4領域のキーワード一覧は2シート目参照	データベースによるAuto Mappingは記載していない	Aとの組み合わせ	
年代	過去5年		収載誌発行年 2005-2011			
論文タイプ	指定しない(会議録等も含まれる)					
研究デザイン	指定しない			(DT=2005.2011)…全部の検索式につく		
人・動物	指定しない					
言語	指定しない(日本語または英語)					
A) 介護予防			介護予防(シソーラス有り)	4050	介護予防 OR 一般高齢者 OR 特定高齢者 OR 予防給付 OR (介護 AND 予防 AND 事業)	4,129
			一般高齢者	107		
			特定高齢者	236		
			予防給付	97		
			(介護 and 予防and 事業)	1062		
B) 事業と6領域	0. 介護予防事業		介護予防事業		397	397
	1. 運動	運動 サルコペニア 転倒・骨折 関節症・関節痛 腰痛 生活体力	運動 or エネルギー代謝 or サルコペニア or バランス or ファンクショナルリーチ or 握力 or 圧力中心 or 下肢筋力 or 加齢 or 関節 or 起居能力 or 筋萎縮症 or 筋緊張低下 or 筋疾患 or 筋肉減弱症 or 筋肉減少症 or 筋力 or 廃用症候群 or 結合組織疾患 or 嫌氣的閾値 or 腰痛 or 骨 or 姿勢 or 手動作業能力 or 重心動揺 or 除脂肪体重 or 除脂肪量 or 傷害リスク or 身体運動 or 身体活動 or 身体計測 or 身体持久力 or 身体組成 or 身体労作 or 身辺作業能力 or 生活機能 or 生活体力 or 生理的石灰沈着 or 創傷と損傷 or 体位平衡 or 体位とトレーニング or 体平衡 or 体力 or 長座体前屈 or 転倒 or 転落 or 動作 or 日常生活動作 or 平衡機能検査 or 片足立ち or 歩行 or 歩数 or 余暇活動 or 立位 or 労作 or 疼痛 or (functional and fines) or (pedo and mete) or (physical and activity) or (Timed and up and go) or "Center of Pressure" or "Range of Motion"	461,577	2,123	【共通】各領域のキーワードは、H21年度の分科会の式から、領域に関するキーワードを参照した。 以下の語は他の区分とかぶるため、「運動」としては今回は不採用とした 加齢 老人評価 老人看護 老年学 健康促進
	2. 栄養	栄養 栄養評価 栄養教育 栄養状態 味覚障害 食事療法 食事介助 他	栄養 or 健康教育 or 健康教室 or 健康講座 or 健康増進 or 摂食 or 健康状態指標 or マラサス or 味覚障害 or 低蛋白血症 or 食事 or 調理 or 料理 or 食行動 or 食環境 or 治療サービス or "ゼリー(食品)" or ((増粘剤 or 粘度) and (摂食 or 食物 or 食事)) or 間食 or 給食 or 献立 or 食品中の蛋白質 or 保健機能食品 or フォーミュラー食品 or 特定保健用食品 or 増粘食品 or ソフト食 or ミキサー食 or 介護食 or 軟食 or 頻回食 or 流動食 or ミールラウンズ or 食介護 or 食介助 or 体重 or albumin or コルステロール or Transferrin or 血中尿素窒素 or エネルギー摂取量 or 食欲 or 肥満指数	190,120	1,119	■以下の語は「栄養」としては、今回は不採用とした (結腸・結管栄養KW) 胃造瘻術、腸造瘻術、小腸胃造瘻術、腸造瘻増設、内視鏡胃腸増設術(身体計測関連KW) 身体組成、肥満指数、Lean Body Mass、身体計測、上腕筋、上腕、意欲(負血KW) 貧血、ヘマトクリット、Hemoglobins、赤血球計数、鉄、血液(脱水症状KW) 下痢、脱水、体内水分
	3. 口腔	口腔ケア 現在歯数 歯周病 咬合関係 口腔QOL 摂食機能 嚥下機能	口腔 or DMF指数 or RSST or うがい or う触 or オーラルディアドキネシス or ドライマウス or プクプクがいがい or むせ込み or 開口 or 機能菌ユニット or 義歯 or 呼吸訓練 or 誤嚥 or 誤嚥 or 口の渇き or 口渇 or 口臭 or 口唇圧力 or 口唇筋力 or 口唇閉鎖 or 口内乾燥症 or 歯の汚れ or 歯の清掃 or 歯の沈着物 or 歯科健康調査 or 歯科清掃 or 歯科保健教育 or 歯牙清掃 or 歯牙脱落 or 歯間清掃 or 歯口清掃 or 歯垢 or 歯垢指数 or 歯周疾患 or 歯周疾患指数 or 歯周病 or 歯数 or 歯石 or 歯磨き or 食環境指導 or 食事指導 or 食事内容指導 or 食物残さ or 食物残渣 or 声門閉鎖訓練 or 摂食 or 摂食機能障害 or 舌の汚れ or 舌の動き or 舌圧力 or 舌機能 or 舌清掃 or 舌トレーニング or 舌苔 or 洗口剤 or 唾液腺マッサージ or 虫歯 or 入れ歯 or 入歯 or 発音訓練 or 発語 or 発声 or 発話 or 抜歯 or 反復唾液嚥下テスト or 不正咬合 or 開口 or 無歯口腔 or 老人歯科医療 or 咀嚼 or 咬合 or 咬合力 or 嚥下機能訓練 or 嚥下訓練 or 嚥下障害 or 嚥下体操	123,349	540	■以下の語は「口腔」としては、今回は不採用とした 消費者健康情報サービス情報提供(食環境 and 訓練)(食事 and 訓練)表情
	4. 認知	認知症 記憶障害 認知 認知障害 記憶 思考 言語 注意(心理学)	認知症 or 記憶障害 or 認知 or 認知障害 or 記憶 or 思考 or 言語 or "注意心理学"/TH or 注意 or MCI or "mild cognitive impairment" or AACD or 実行機能 or 視空間 or 推論 or 読書 or ビデオゲーム or チェス or ゲーム or 知的活動 or 認知療法 or 認知トレーニング or 認知訓練 or 記憶トレーニング or 記憶訓練 or 認知的予備力 or "cognitive reserve" or 認知活動 or 認知行動 or 処理速度 or ライフレビュー	90,297	555	
	5. 閉じこもり	閉じこもり 訪問ケア 社会的孤立 移動能力	閉じこもり or 準寝たきり or 外出 or 生活空間 or 訪問看護 or 在宅介護支援サービス or 往診 or 訪問診療 or 訪問介護 or デイケア or 通所介護 or デイサービス or 社会的孤立 or 引きこもり or 移動運動 or 移動能力	25,577	958	■以下の語は、「うつ」WJKIに使い、今回の「閉じこもり」のKWからは除いた 自己効力感 or 抑うつ or うつ病 or 不安尺度 ■以下の語は、今回の「閉じこもり」のKWからは省いた 社会的支援 or 地域社会ネットワーク or 社会的スキル or 社会参加 or 社会活動 or 社会的活動
	6. うつ	鬱病 抑うつ症状 抑うつ気分 自己効力感 不安尺度	うつ or 鬱 or 自己効力感 or 抑うつ or うつ病 or 不安尺度	23,865	181	■以下の語を今回追加した 自己効力感 or 抑うつ or うつ病 or 不安尺度

(4) その結果、以下の数の知見がヒットした

① 介護予防事業	397
② 運動器機能	2123
③ 栄養	1119
④ 口腔機能	540
⑤ 認知機能低下予防	555
⑥ 閉じこもり予防	958
⑦ うつ予防	181

医中誌収載知見の収集とデータベース化

収集された知見については、すべての情報をダウンロードした。また、ACCESS を用いたデータベースを作成し、情報を整理して格納した。さらに、原著論文と学会発表抄録については、可能範囲で複写物または PDF ファイルを収集した。原著論文と学会発表抄録の一覧を、「**3. 介護予防事業に関する原著論文・学会発表抄録一覧**」にまとめた。ただし、分類は医中誌に従うため、原著論文には、査読付き、査読なしの両者が含まれており、その区別はできない。

公的研究費データベース収載情報の収集とデータベース化

以下の通り、厚生労働科学研究成果データベースならびに科学研究費補助金採択課題・成果概要データベースの検索を行った。キーワードは、「介護予防」を用い、ヒットした全ての情報を収集した。

① 厚生労働科学研究成果データベース

検索日：2011/1/13

年代：2005 年度-最新

キーワード：介護予防

件数：120

② 科学研究費補助金採択課題・成果概要データベース

検索日：2011/1/13

年代：2005 年度-最新

キーワード：介護予防

件数：219

収集された知見については、すべての情報をダウンロードした。また、ACCESS を用いたデータベースを作成し、情報を整理して格納した。また一覧を、「**4. 介護予防に関する**

る公的研究費採択一覧」にまとめた。

(2) 介護予防プログラムに関するエビデンステーブルの Web 公開

平成 21 年度「介護予防に係る総合的な調査研究事業」において、介護予防に関する科学的知見の収集及び分析委員会が作成した介護予防プログラムに関するエビデンステーブルの内容については、比較対照介入試験を中心に、現時点での包括的な知見の収集がなされていることから、その成果の社会からの幅広い活用を図ることが、今後の介護予防領域の知見充実に重要であると考えられた。そこで、検索機能を付与した公開用データベースを作成し、Web 上で公開することとした。<http://www.preventive-care.net> より利用可能である。

以下に、主な画面イメージを示す。



介護予防ガイドラインデータベース

アカウントをお持ちの方は
こちらからログインしてください。

アカウント:

パスワード:

ログイン

アカウントをお持ちでない方は
登録画面より新しいアカウント
を作成してください。

新規アカウント作成

文献情報検索 詳細一覧

簡易検索

うつ予防 運動器 栄養改善
 口腔器 閉じこもり 認知機能

(キーワードの検索対象は著者、論題、抄録、誌名です)

管理番号	著者	題名	誌名 (ISSN)	年巻(号)頁	
▶ UTSU-0128-0001 PMID-19880930	Alkabaraly TN, Brunner EJ, Ferrie JE, Marmot MG, Kivimaki M, Singh-Manoux A	Dietary pattern and depressive symptoms in middle age	Br J Psychiatry	2009;195(5):408-13	<input type="button" value="詳細"/>
UTSU-0128-0002 PMID-18615497	Wilkinson P, Alder N, Juszczak E, Matthews H, Merritt C, Montgomery H, Howard R, Macdonald A, Jacoby R	A pilot randomised controlled trial of a brief cognitive behavioural group intervention to reduce recurrence rates in late life depression	Int J Geriatr Psychiatry	2009;24(1):68-75	<input type="button" value="詳細"/>
UTSU-0128-0003 PMID-18069829	Eyigor S, Karapolat H, Durmaz B, İbisoğlu U, Cakir S	A randomized controlled trial of Turkish folklore dance on the physical performance, balance, depression and quality of life in older women	Arch Gerontol Geriatr	2009;48(1):84-8	<input type="button" value="詳細"/>
UTSU-0128-0004 PMID-18031575	Gulliksson M, Burell G, Lundin L, Toss H, Svärdsudd K	Psychosocial factors during the first year after a coronary heart disease event in cases and referents	BMC Cardiovasc Disord	2007;21(7):36	<input type="button" value="詳細"/>
UTSU-0128-0007 PMID-17050337	Mastel-Smith B, Binder B, Malecha A, Hersch G, Symes L, McFarlane J	Testing therapeutic life review offered by home care workers to decrease depression among home-dwelling older women	Issues Ment Health Nurs	2006;27(10):1037-49	<input type="button" value="詳細"/>
UTSU-0128-0008 PMID-18690974	Allart-van Dam E, Hosman CM, Hoogduin CA, Schaap CP	Prevention of depression in subclinically depressed adults: follow-up effects on the 'Coping with Depression' course	J Affect Disord	2007;97(1-3):219-28	<input type="button" value="詳細"/>
UTSU-0128-0013 PMID-14570442	Brown SL, Vinokur AD	The interplay among risk factors for suicidal ideation and suicide: the role of depression, poor health, and loved ones' messages of support and criticism	Am J Community Psychol	2003;32(1-2):131-41	<input type="button" value="詳細"/>
UTSU-0201-0001 ICHU-2009940677	平井寛(日本福祉大学地域ケア推進センター), 近藤克則, 尾島俊之, 村田千代栄	地域在住高齢者の要介護認定のリスク要因の検討 AGESプロジェクト3年間の追跡研究	日本公衆衛生雑誌(0546-1766)	2009;56(8):501-512	<input type="button" value="詳細"/>
UTSU-0201-0002 ICHU-2007133139	岩佐一(東京都老人総合研究所 自立促進と介護予防研究チーム), 鈴木隆雄, 吉田祐子, 権珍彦, 吉田英世, 金憲経, 杉浦美穂, 古名丈人	地域在住高齢者における認知機能の縦断変化の関連要因 要介護予防のための包括的健診(「お逢着健診」)についての研究	日本老年医学会雑誌(0300-9173)	2006;43(6):773-780	<input type="button" value="詳細"/>
UTSU-0201-0003 ICHU-2007068034	吉田祐子(東京都老人総合研究所 自立促進と介護予防研究チーム), 熊谷裕, 岩佐一, 杉浦美穂, 金憲経, 吉田英世, 古名丈人, 藤原佳典, 新聞省二, 渡辺修一郎, 鈴木隆雄	地域在住高齢者における運動習慣の定着に関連する要因	老年社会科学(0388-2446)	2006;28(3):348-358	<input type="button" value="詳細"/>

文献情報検索 詳細一覧

詳細検索

うつ予防 運動器 栄養改善
 口腔機能 閉じこもり 認知機能

(キーワードの検索対象は著者、論題、抄録、誌名です)

ISSN 年 巻or巻号

研究デザイン RCT 非ランダム化比較試験 ヒストリカルコントロール研究 コホート研究 その他
 研究セッティング 病院入院 施設入所 地域在住者
 アプローチ 介入 ハイスコア その他

アウトカム (全て選択 全て解除)

共通 basic ADL i ADL QOL 死亡 要介護・要支援
 うつ予防 GDS SDS BDI Vitality Index PGCモラルスケール
 運動器 ADL・GOL サルコペニア 転倒・骨折 関節症・関節痛 腰痛 生活体力
 栄養改善 ADL・GOL 栄養全般 BMI 体重 アルブミン コレステロール ほかに栄養状態測定値 食欲 貧血 脱水症状
 口腔機能 ADL, 包括QOL, Mortality 口腔QOL 嚥下機能 摂食機能 現在歯数 認知機能 認知機能 運動 総医療費
 閉じこもり 移動能力 施設収容 施設収容 身体機能 心理機能 認知機能 社会機能
 認知機能 認知症発症予防 認知機能維持 BPSD 認知機能検査

介入プログラム (全て選択 全て解除)

うつ予防 運動 栄養 教育・学歴 社会活動・社会参加 知的活動 リハビリ全般 治療
 運動器 筋力(増加目的とした)トレーニング 体カトレーニング(有酸素能力) 体カトレーニング(柔軟性) 体カトレーニング(バランス)
 軽スポーツ・レクリエーション 生活活動(活発な家事や就労・作業など) その他の介入プログラム
 栄養改善 栄養全般 栄養全般栄養全般(+公的サービス) 栄養全般(+施設) 栄養評価 栄養教育 食事療法 食事介助
 経腸・経管栄養 味覚障害
 口腔機能 口腔ケア・歯科治療 現在歯数 歯周病の有無 咬合関係
 閉じこもり 閉じこもり 外出頻度 生活空間 訪問(看護) 通所ケア デイサービス
 認知機能 知的活動 社会活動・社会参加 栄養・食事 運動 睡眠 飲酒・飲料 喫煙 血管 リハビリ全般 調整要因 その他

管理番号	著者	題名	誌名 (ISSN)
文献ID			年巻(号)頁

3. 介護予防事業に関する原著論文・学会発表抄録一覧

(1) 運動器

(a) 原著論文

ID=KB15280023<Pre 医中誌> (原著論文)
伊藤裕介;菅沼一男;芹田透;榊原僚子;知念紗嘉;丸山仁司. 介護予防事業の運動介入が運動機能及び健康関連 QOL に及ぼす影響について 転倒経験の有無による検討. 理学療法科学 2010 ; 25(5): 779-784.
ID=KB15280003<Pre 医中誌> (原著論文)
野北好春;松田雅弘;高梨晃;塩田琴美;宮島恵樹;川田教平;勝木員子;加藤宗規. 地域高齢者に対する反応時間測定回数についての検討. 理学療法科学 2010 ; 25(5): 663-666.
ID=KA13460003<Pre 医中誌> (原著論文)
松本玄智江;山下一也;田原和美;片倉賢紀;橋本道男;加藤節司. 地域在住一般高齢者の転倒恐怖感と体力測定との関連. 島根県立大学短期大学部出雲キャンパス研究紀要 2010 ; 40: 19-23.
ID=2011022569 (原著論文)
石毛里美;柴喜崇;上出直人;大塚美保;隅田祥子. 地域在住虚弱高齢者の身体活動セルフ・エフィカシー向上のための取り組み. 理学療法学 2010 ; 37(6): 417-423.
ID=2011006480 (原著論文)
原田和弘;岡浩一郎;柴田愛;蕪木広信;中村好男. 地域在住高齢者における足部に関する問題と転倒経験・転倒不安との関連. 日本公衆衛生雑誌 2010 ; 57(8): 612-623.
ID=2010342186 (原著論文)
峯松亮;後藤尚子;吉崎京子. 介護予防教室参加と自己運動による高齢者の身体機能維持. 理学療法科学 2010 ; 25(4): 625-629.
ID=2010306311 (原著論文)
妹尾弘幸;岡浩一郎;西川亜由. デイサービス利用者における在宅での活動量低下に関連する要因. 応用老年学 2008 ; 2(1): 59-65.
ID=2010306309 (原著論文)
原田和弘;太田暁美;柴田愛;岡浩一郎;中村好男;村岡功. 虚弱な高齢者を対象とした運動特異的主観的健康度・機能状態尺度の開発. 応用老年学 2008 ; 2(1): 40-49.
ID=2010304536 (原著論文)
本多容子;阿曾洋子;伊部亜希;田丸朋子;徳重あつ子. 男性高齢者に対する足浴の転倒予防効果の検討. 人間工学 2010 ; 46(4): 277-281.
ID=2010291910 (原著論文)
長谷川龍一;富山直輝. 地域・家庭型運動プログラムにおいてフィードバックが筋力向上に与える影響. 作業療法 2010 ; 29(4): 488-498.

ID=2010265500 (原著論文)
矢野史也;中村好男. 拮抗動作バランス回復アプローチ(操体法)による高齢者の腰・膝痛改善プログラムの開発. スポーツ科学研究 2007 ; 40: 93-103.
ID=2010249227 (原著論文)
難波剛;内堀昭宜;佐藤三矢. 高齢者におけるマウスピースを用いた運動能力への影響. 医学と生物学 2010 ; 154(6): 299-303.
ID=2010248748 (原著論文)
今井忠則;齋藤さわ子. 個人にとって価値のある活動の参加状況の測定 自記式作業遂行指標(SOPI:Self-completed Occupational Performance Index)の開発. 作業療法 2010 ; 29(3): 317-325.
ID=2010248567 (原著論文)
山田英治;大須賀美恵子;橋本渉;井上裕美子;中泉文孝. 家庭内で身体活動を促進させるシステムの提案とロボットの働きかけの効果について. 人間工学 2010 ; 46(3): 230-236.
ID=2010247633 (原著論文)
磯崎弘司;石井佐和子;高橋美千子. 虚弱高齢者を対象とした機器トレーニングと運動療法の併用による運動機能効果について. 了徳寺大学研究紀要 2007 ; (1): 125-132.
ID=2010242935 (原著論文)
山田実;永井宏達;田中武一;竹岡亨;上村一樹;市橋則明. 転倒予防のための、Multiple-Task Training の開発 無作為化比較対照試験. 健康医科学研究助成論文集 2010 ; (25): 1-10.
ID=2010235401 (原著論文)
田中徹;佐々木美絵;田中和恵;今田まゆみ;国崎彩;佐々木優子;田丸卓弥. 介護予防施設における高齢者低負荷マシントレーニング 2 年間の効果と年齢との関係. 運動療法と物理療法 2010 ; 21(1): 65-74.
ID=2010230241 (原著論文)
金山剛;大平雄一;柳川禎;新井由起子;叶屋友義;田中裕輔;谷隆秀;永木和載;千代憲司;植松光俊. 通所介護利用者の身体活動量と心身機能との関係 要支援利用者における検討. シニアフィットネスリハビリテーション 2009 ; (3): 35-39.
ID=2010218397 (原著論文)
三浦哉;高橋良徳;北畠義典. 定期的なグループトレーニングが中高齢者の脈波伝搬速度に及ぼす影響. 日本公衆衛生雑誌 2010 ; 57(4): 271-278.
ID=2010216393 (原著論文)
青木慶司;山口奈津;鈴木順子;西村一弘;藤原恵子;小林栄二;細江学;韓賢一;塩田薫;清水仁;水野朝敏;酒井雅司. 歩数計を利用した特定高齢者の歩行状況についての報告. 東京都医師会雑誌 2010 ; 63(4): 484-486.

ID=2010187343 (原著論文)
山田拓実;吉田弥央. 多施設で実施した集団運動による介護予防トレーニング(せらばん体操)の効果 ハイリスク、予防給付、および要介護高齢者での比較. 日本保健科学学会誌 2010 ; 12(4): 221-229.
ID=2010180406 (原著論文)
山内賢. 高齢者を対象にした歩行運動専用ポール導入による体力維持・向上の可能性 通常歩行とノルディック・ウォーキングの比較(1). 体育研究所紀要 2010 ; 49(1): 1-7.
ID=2010180392 (原著論文)
小田真千子;梅原慶太;神原康人;堀川朋子;佐久間崇;磯部渉;小野更紗;千葉美由紀. 運動器機能向上トレーニング教室の効果. 浜松リハビリテーション研究会学術誌 2009 ; 40: 52-56.
ID=2010176258 (原著論文)
平岩和美. 広島県における介護予防事業と機能訓練事業のアンケート調査. 理学療法の臨床と研究 2010 ; (19): 117-121.
ID=2010176107 (原著論文)
辻昌伸;森下一幸;宮崎哲哉;中村敦子;鵜野怜子;竹山由里子. 当院での運動器機能向上トレーニング教室の取り組み E-SAS を使用した効果判定. 静岡県理学療法士会学術誌: 静岡理学療法ジャーナル 2010 ; (20): 12-16.
ID=2010160616 (原著論文)
奥野純子;深作貴子;堀田和司;金美芝;藪下典子;大藏倫博;田中喜代次;戸村成男;柳久子. 運動教室開始時と終了3ヵ月目の血清 25-hydroxyvitamin D3 濃度は、体力改善に影響するのか?. プライマリ・ケア 2010 ; 33(1): 35-41.
ID=2010159794 (原著論文)
古城幸子;木下香織;馬本智恵;矢嶋裕樹;真壁幸子. 在宅高齢者の転倒リスクと転倒予防活動への課題 地域密着型集団健康支援活動の評価. 新見公立短期大学紀要 2009 ; 30(1): 1-7.
ID=2010146320 (原著論文)
石黒奈美. 当施設における運動器機能向上プログラムの効果について. 山形理学療法学 2010 ; 60: 35-38.
ID=2010145592 (原著論文)
大久保雄三;山本達也;木下由美子;牧山晃;小金丸敬仁;松坂誠應;井口茂. 壱岐地域の介護予防事業の現状と課題 特定高齢者施策の運動機能向上を中心に. 長崎理学療法 2010 ; 100: 55-56.
ID=2010137114 (原著論文)
吉中康子;小川嗣夫;久保克彦;木村みさか. 介護予防プログラムの基礎研究 体力診断バッテリーテストの評価と介護予防プログラムの効果について. 人間文化研究: 京都学園大学人間文化学会紀要 2008 ; (21): 145-168.

ID=2010112613 (原著論文)
池野多美子. 生活機能改善を目的に作業療法的視点を取り入れた予防型家庭訪問の試験的研究. 北海道医学雑誌 2009 ; 84(6): 439-449.
ID=2010096066 (原著論文)
門脇俊朗;廣田裕. 当院での介護予防への取り組み ポスト・パワーリハについて考える. パワーリハビリテーション 2009 ; (8): 81-83.
ID=2010096063 (原著論文)
加藤雄二;森本益雄;金田弘子. 琴浦町介護予防事業パワーリハ教室 活動報告とフォローアップ. パワーリハビリテーション 2009 ; (8): 72-74.
ID=2010096061 (原著論文)
無藤麻衣;山本春彦;松本睦;高橋侑子;坂本佳子;上條裕朗. 特定高齢者介護予防教室におけるパワーリハビリテーションの効果. パワーリハビリテーション 2009 ; (8): 67-68.
ID=2010092272 (原著論文)
高橋勝巳. 介護予防における生活目標と運動習慣の定着へのとりくみ. 理学療法科学 2009 ; 24(6): 867-871.
ID=2010068818 (原著論文)
佐藤司. 接骨院患者とデイサービス利用者における特定高齢者の運動機能の比較. 柔道整復・接骨医学 2009 ; 18(1): 42-46.
ID=2010068813 (原著論文)
松本和久;山本千鶴;細川竜馬;木村篤史. 運動学習理論に基づいた運動器の機能向上プログラムに関する研究. 柔道整復・接骨医学 2009 ; 18(1): 1-8.
ID=2010068536 (原著論文)
今井忠則;奥野純子;戸村成男;山川百合子;鈴木恵子;柳久子. 介護予防の推進ボランティア活動が健康関連 QOL に及ぼす影響 地域社会への貢献意識に着目して. プライマリ・ケア 2009 ; 32(4): 200-208.
ID=2010063608 (原著論文)
清野諭;藪下典子;金美芝;根本みゆき;松尾知明;深作貴子;奥野純子;大藏倫博;田中喜代次. 特定高齢者の体力を把握するためのテストバッテリー. 日本公衆衛生雑誌 2009 ; 56(10): 724-736.
ID=2010063460 (原著論文)
難波剛;内堀昭宜;亀山一義;佐藤三矢. 高齢者におけるマウスピースのバランスへの影響. 医学と生物学 2009 ; 153(11): 511-515.

ID=2010046361 (原著論文)
佐藤悦子;泉宗美恵;石原恵子;手塚理香. 地域に貢献できる小規模多機能施設の介護予防活動のあり方に関する研究 施設利用者の介護予防ニーズの実態から. 木村看護教育振興財団看護研究集録 2007 ; (14): 27-38.
ID=2010044108 (原著論文)
桂良寛;吉川貴仁;中雄勇人;鈴木崇士;上田真也;坂本弘;奥元多美子;藤本繁夫. 高齢者の水中トレーニングは足関節底屈筋力と動的バランス機能を改善させる. 日本運動生理学雑誌 2009 ; 16(2): 41-48.
ID=2010043598 (原著論文)
長住達樹;小松洋平;堀江淳. IT 機器(ライフコーダ)を活用した介護予防教室の試み. 西九州リハビリテーション研究 2008 ; 10: 47-50.
ID=2010041548 (原著論文)
高橋美砂子;橋本由利子. 介護通所施設利用者における口腔機能低下予防体操の効果 通所施設利用者の口腔機能と QOL. The Kitakanto Medical Journal 2009 ; 59(3): 241-246.
ID=2010038672 (原著論文)
古屋尋子;野村知未;大場文紗子;河村純奈;松山太士;田中実希;矢崎進. 大腿骨近位部骨折患者と一般高齢者における身体機能の違い 段差昇降能力に与える影響について. 八千代病院紀要 2009 ; 29(1): 52-53.
ID=2010031632 (原著論文)
長谷川龍一;イスラム・モハマト・モニルル;李成哲;小泉大亮;富山直輝;竹島伸生. 地域在住高齢女性の下肢筋力 加齢に伴う変化. 作業療法 2009 ; 28(5): 565-577.
ID=2010029276 (原著論文)
伊東浩司;山口典孝;大島行博;横田昇平. 地域における転倒予防教室およびシステム構築に関する一考察 介護予防と運動実践の視点から. 甲南大学スポーツ・健康科学教育研究センター論集 2007 ; (16): 37-44.
ID=2010027448 (原著論文)
北湯口純;鎌田真光;足立清子;須藤晴紀. 地域における活動 通所型介護予防事業に参加する特定高齢者の転倒に関連する要因. Osteoporosis Japan 2009 ; 17(3): 543-545.
ID=2010027447 (原著論文)
山田良;山口義隆;樋口由美. トレーニング方法 デイケアにおけるバランストレーニング教室の効果. Osteoporosis Japan 2009 ; 17(3): 540-542.
ID=2010005115 (原著論文)
堀江淳;村田伸;村田潤;安田直史;樋口善久;堀川悦夫. 介護予防事業に参加している在宅虚弱高齢者の呼吸能と運動機能の関係について. 西九州リハビリテーション研究 2009 ; 20: 7-12.

ID=2010005101 (原著論文)
矢野秀典;風間眞理;糸井志津乃;林美奈子;内山千鶴子;會田玉美;藤谷哲;堤千鶴子. 医療系大学生の健康・健康増進活動に関する知識、意識と生活. 目白大学健康科学研究 2008 ; (1): 159-166.
ID=2009355607 (原著論文)
小松洋平;上城憲司;納戸美佐子;中島龍彦;長住達樹. 介護予防事業に参加した高齢者の日常的活動量 認知機能低下群と健常群と比較. 柳川リハビリテーション学院・福岡国際医療福祉学院紀要 2009 ; 50: 6-9.
ID=2009351534 (原著論文)
成田大一;藤田俊文;對馬均. 特定高齢者に対する運動器機能向上プログラムの効果 弘前大学『てんとう虫体操』の考案. 弘前大学大学院保健学研究科紀要 2009 ; 80: 39-45.
ID=2009349702 (原著論文)
村田伸;村田潤;大田尾浩;松永秀俊;大山美智江;豊田謙二. 地域在住高齢者の身体・認知・心理機能に及ぼすウォーキング介入の効果判定 無作為割付け比較試験. 理学療法科学 2009 ; 24(4): 509-515.
ID=2009345059 (原著論文)
Shoji Tokunaga;Masakazu Washio;Ikuko Miyabayashi;Eric Fortin;ShinYoo-Sun;Yumiko Arai. Burden among Caregivers of Parkinson's Disease Patients. International Medical Journal 2009 ; 16(2): 83-86.
ID=2009341251 (原著論文)
金彦志;丁海龍;韓昌完;高山忠雄. 韓国における地域高齢者の在宅福祉サービスプログラムの実態に関する研究 ソウル市と大田市を中心に. 日本保健福祉学会誌 2009 ; 15(2): 21-31.
ID=2009340677 (原著論文)
平井寛;近藤克則;尾島俊之;村田千代栄. 地域在住高齢者の要介護認定のリスク要因の検討 AGES プロジェクト 3年間の追跡研究. 日本公衆衛生雑誌 2009 ; 56(8): 501-512.
ID=2009336602 (原著論文)
高橋明子;弘津公子;兼安真弓;小林隆司. 要支援高齢者の友人関係と運動能力、健康関連 QOL との関係. 吉備国際大学保健福祉研究所研究紀要 2009 ; (10): 45-50.
ID=2009336600 (原著論文)
末國恵;佐藤三矢;平上二九三;川浦昭彦;小幡太志;亀山一義;濱藤春暉;太田久絵;坂本将徳;下川太一. 在宅高齢者を対象とした介護予防プログラムの考案と効果に関する検討 足趾把握筋力とバランス能力の向上を目的として(パイロットスタディ). 吉備国際大学保健福祉研究所研究紀要 2009 ; (10): 33-38.
ID=2009321181 (原著論文)
鍋島理佐;奈良真梨子;村田美奈;溝口愛子;竹崎久美子. 地域における自立高齢者の介護予防を目的とした場への参加継続につながる要因とその効果. 高知女子大学看護学会誌 2009 ; 34(1): 142-148.

ID=2009319289 (原著論文)
伏木康弘;大西浩文;大浦麻絵;坂内文男;森満. 高齢者の趣味活動と日常の生活状況との関係 健康長寿のための生活状況に関する調査報告. 北海道公衆衛生学雑誌 2009 ; 22(2): 100-106.
ID=2009317549 (原著論文)
中川和昌;金城拓人;半田学;猪股伸晃;今野敬貴;萩原絹代. 群馬県みなかみ町の特定高齢者施策における運動介入報告 運動介入の期間の違いによる比較. 理学療法群馬 2009 ; (20): 17-23.
ID=2009288294 (原著論文)
小林隆司;弘津公子;兼安真弓;三宅優紀;狩長弘親;竹原まり子. 要支援高齢者の唾液中分泌型免疫グロブリン A 濃度について 健常高齢者との比較. 作業療法おこやかやま 2007 ; 17(0): 29-34.
ID=2009285644 (原著論文)
谷本芳美;渡辺美鈴;河野令;広田千賀;高崎恭輔;河野公一. 地域高齢者の客観的咀嚼能力指標としての色変わりチューインガムの有用性について. 日本公衆衛生雑誌 2009 ; 56(6): 383-390.
ID=2009284205 (原著論文)
相原洋子;薬袋淳子;島内節. 後期高齢者における地域包括支援センターの利用と関連要因の検証 小田原市お達者チェックからの分析. 厚生指標 2009 ; 56(7): 32-37.
ID=2009283681 (原著論文)
山田実;上原稔章. 易転倒高齢者における短期記憶を含む動作遂行能力. 身体教育医学研究 2009 ; 10(1): 1-6.
ID=2009269467 (原著論文)
福録恵子;藤田淳子. 骨粗鬆症患者の良好な睡眠のための工夫および睡眠障害と円背、疼痛、活動量との関連. 日本整形外科看護研究会誌 2009 ; 40: 60-67.
ID=2009267861 (原著論文)
岩井浩一;滝澤恵美;阪井康友;山田哲;佐藤たか子;木村知美;豊田和典;山本健太;富田和秀;大瀬寛高;居村茂幸. 介護予防事業における運動プログラムによる呼吸機能の向上効果. 茨城県立医療大学紀要 2009 ; 14(0): 141-148.
ID=2009261679 (原著論文)
伊藤加代子;葭原明弘;高野尚子;石上和男;清田義和;井上誠;北原稔;宮崎秀夫. オーラルディアドコキネシスの測定法に関する検討. 老年歯科医学 2009 ; 24(1): 48-54.
ID=2009245123 (原著論文)
上岡洋晴;津谷喜一郎;奥泉宏康;岡田真平;半田秀一;北湯口純;鎌田真光. 温泉による運動器疼痛の治療効果に関する非ランダム化比較試験のシステマティック・レビュー. 日本温泉気候物理医学会雑誌 2009 ; 72(3): 179-192.

ID=2009233322 (原著論文)
今井七重;佐藤八千子;ルー・ジェニファー;今井一. 農山村地域における高齢者地域づくりプランの効果 健康体操の継続による体力と意識の変化. 日本看護学会論文集: 地域看護 2009 ; (39): 233-235.
ID=2009228778 (原著論文)
征矢野あや子. 【超高齢社会における転倒予防のための看護研究】 地域高齢者に対する転倒予防を目的とした看護研究の動向と課題. 看護研究 2009 ; 42(3): 189-204.
ID=2009228336 (原著論文)
村田伸;大山美智江;大田尾浩;村田潤;木村裕子;豊田謙二;津田彰. 在宅高齢者の運動習慣と身体・認知・心理機能との関連. 行動医学研究 2009 ; 15(1): 1-9.
ID=2009224997 (原著論文)
上野邦子;谷口幸一. 在宅一般高齢者の介護予防に資する運動の生活化に及ぼす心理社会的要因の検討. 東海大学健康科学部紀要 2009 ; (14): 11-25.
ID=2009218625 (原著論文)
田島光和;西下卓美;八木裕介;秦野吉徳. 運動器機能向上事業における経時的変化の検討. 静岡県理学療法士会学術誌: 静岡理学療法ジャーナル 2009 ; (19): 26-30.
ID=2009212158 (原著論文)
清水滉一;横山典子;村上晴香;烏帽子田彰;久野譜也. 全国市町村における筋力トレーニング事業の実施の有無に影響する要因. 日本臨床スポーツ医学会誌 2009 ; 17(2): 324-331.
ID=2009211116 (原著論文)
大淵修一;新井武志;小島基永;河合恒;小島成実. 超音波測定による大腿前面筋厚と膝伸展筋力の関係. 理学療法科学 2009 ; 24(2): 185-190.
ID=2009209813 (原著論文)
柳田昌彦. 地域在住高齢者の介護予防を目的としたレジスタンス運動プログラムの開発 福井県敦賀市の地域支援事業における縦断的運動効果の検証. 同志社スポーツ健康科学 2009 ; (1): 71-78.
ID=2009206649 (原著論文)
石濱照子;江戸聖人;新井美奈子. 特定高齢者候補者における運動機能と抑うつ気分の相関について 東京都中野区における調査から. 社会医学研究 2008 ; 26(1): 15-23.
ID=2009199616 (原著論文)
清野諭;藪下典子;金美芝;根本みゆき;大藏倫博;奥野純子;田中喜代次. 基本チェックリストによる「運動器の機能向上」プログラム対象者把握の意義と課題 「能力」と「実践状況」による評価からの検討. 厚生学の指標 2009 ; 56(5): 23-31.

ID=2009198627 (原著論文)
山田実. Trail Walking Exercise の臨床効果について 特定高齢者における無作為化比較試験. 理学療法学 2009 ; 36(2): 70-71.
ID=2009183180 (原著論文)
岸本美地彦;酒井英志;辰己恵;森田暁;清岡哲也;田中潤;吉川麻美;中川朋世;藤川孝満. 高齢者の視覚依存度の評価方法と足関節位置覚との関係及び影響要因について. 理学療法湖都 2009 ; (28): 79-84.
ID=2009183176 (原著論文)
山崎啓佐;佐藤智美;南彰人. 介護予防事業地域づくり実践モデル事業 マシントレーニングの効果. 理学療法湖都 2009 ; (28): 58-61.
ID=2009172720 (原著論文)
横井和美;国友登久子;草野良子;勅使河原浩美. 住民主体の認知症予防活動をめざした実践的研究 認知症予防活動の継続活動者と非継続活動者の比較からの支援方法の検討. 人間看護学研究 2009 ; (7): 9-18.
ID=2009160703 (原著論文)
染谷真琴;小山浩永. 当院リハビリテーションセンターにおける転倒予防への取り組みと今後の課題について. 旭中央病院医報 2008 ; 30(0): 32-34.
ID=2009160702 (原著論文)
海老拓也;小山浩永;岡野あけみ;志村幸子;小口礼子;長谷川知恵;瀧野貴子. 地域リハビリテーション広域支援センターとしてパワーリハビリテーションに関わった経験 香取市高齢者筋力向上トレーニング事業を通して. 旭中央病院医報 2008 ; 30(0): 29-31.
ID=2009138922 (原著論文)
松村知幸;上原信太郎;荒川武士;林伸浩;盧隆徳;山仲智美;横山明正;寺林大史;正門由久;木村彰男. 地域在宅高齢者に対する転倒予防教室の効果. 静岡県理学療法士会学術誌: 静岡理学療法ジャーナル 2006 ; (13): 12-17.
ID=2009103241 (原著論文)
赤塚清矢;永瀬外希子;真壁寿;日下部明. 地域在住高齢者の運動機能及び活動実態調査. 山形理学療法学 2006 ; 3(0): 15-18.
ID=2009103225 (原著論文)
高尾文子;松本忍. 地域高齢者の筋力向上トレーニング事業支援のプロセスとその成果の質的・量的分析. 広島国際大学医療福祉学科紀要 2007 ; 3(0): 45-55.
ID=2009099378 (原著論文)
広田千賀;渡辺美鈴;谷本芳美;河野令;樋口由美;河野公一. 地域高齢者を対象とした Trail Making Test の意義 身体機能と Trail Making Test の成績についての横断分析から. 日本老年医学会雑誌 2008 ; 45(6): 647-654.

ID=2009099085 (原著論文)
坂口郁美;村井洋子;佐藤由季;林田千津子;小出将志;碓神奈;杉浦哲平;石橋経久. 予防給付事業におけるパワーリハビリテーションの効果 運動器機能と要介護度の視点から. パワーリハビリテーション 2008 ; (7): 168-170.
ID=2009099066 (原著論文)
平大地;松尾慎太郎;沼佐和美;吉谷敬;鈴木昭治;湊屋洋一;佐藤由美子;古谷文美;本間奈都美;道順裕之. 南幌町におけるパワーリハビリテーションの取り組み(第3報) 地域支援事業を实践して. パワーリハビリテーション 2008 ; (7): 120-121.
ID=2009099060 (原著論文)
横山真也;森田正治;中島譲治;九郎丸裕和;一瀬美晴;長門寿美子;山本晶子. パワーリハビリテーションが高齢者の動的バランス機能および歩行機能に与える影響. パワーリハビリテーション 2008 ; (7): 102-104.
ID=2009099053 (原著論文)
坂口隆一. 介護予防・パワーリハビリテーションの取り組みとバランス能力. パワーリハビリテーション 2008 ; (7): 86-87.
ID=2009099035 (原著論文)
藤吉剛弘;畑中慎太郎;津留文絵;古賀美里. パワーリハビリテーションを用いた、地域支援事業の成果とその後のフォローアップについて当センターにおける取り組み. パワーリハビリテーション 2008 ; (7): 43-44.
ID=2009099034 (原著論文)
五十嵐和男;丸山宰;棚橋泉;田上等;渡部綾子;加藤直樹;柏谷美幸;川上洋平;相場真彦;齋藤美優紀. パワーリハビリテーションにおける健康増進の取り組み. パワーリハビリテーション 2008 ; (7): 40-42.
ID=2009085833 (原著論文)
山田実;河内崇. 地域在住高齢者における trail walking test の信頼性および妥当性の検討. 理学療法ジャーナル 2009 ; 43(1): 33-37.
ID=2009072987 (原著論文)
山本大誠;備酒伸彦;奈良勲;川越雅弘. 要支援者の身体機能および主観的健康感に関する研究. 神戸学院総合リハビリテーション研究 2008 ; 4(1): 3-11.
ID=2009068824 (原著論文)
中園徳生. 【保健福祉領域の現状と問題点】 介護予防通所リハビリテーションの効果と役割. 理学療法いばらき 2008 ; 12(1): 6-9.
ID=2009040423 (原著論文)
戸村成男;奥野純子. 高齢者における血清ビタミン D(25(OH)D3)濃度、およびビタミン D 製剤補充の歩行能力・生活機能・転倒に及ぼす効果に関する研究. 共済エグザミネーター通信 2008 ; (23): 10-16.

ID=2008375353 (原著論文)
諸角一記;藤原孝之;烏野大;半田健壽;杉本淳;北村博孝. 高齢者を対象とした随意的重心移動能力評価の再現性と妥当性に関する検討. 理学療法 2008 ; 25(9): 1339-1345.
ID=2008374319 (原著論文)
渡辺美鈴;谷本芳美;孫い;河野令;樋口由美;広田千賀;齊藤昌久;河野公一;橋口範弘;渚紀子;島原武司;島原政司;木村章二. 介護予防に向けた客観的な評価指標の開発 生活機能と身体機能との関連. 大阪医科大学雑誌 2008 ; 67(2): 77-83.
ID=2008365082 (原著論文)
河本耕一;井福裕俊;高橋修一朗. 介護予防教室中の自宅でのトレーニング頻度が転倒予防効果に及ぼす影響. Osteoporosis Japan 2008 ; 16(3): 546-547.
ID=2008349130 (原著論文)
中川和昌;猪股伸晃;今野敬貴;中澤理恵;坂本雅昭. 要介護高齢者に対する運動介入において、集団運動と個別運動がもたらす効果の特徴. 理学療法群馬 2008 ; (19): 6-12.
ID=2008328533 (原著論文)
河村孝幸;石田篤子;藤田和樹;鈴木玲子;齋藤昌宏;今西里佳;松本香好美;上月正博. 介護予防運動教室参加者の腹腔内脂肪および血中アディポネクチンの推移. 体力科学 2008 ; 57(3): 365-375.
ID=2008323036 (原著論文)
高比良祥子;古川秀敏;吉田恵理子;永峯卓哉;中尾八重子. 高齢者筋力向上トレーニング事業の効果と運動継続を促す支援 事業参加者のインタビュー調査から. 県立長崎シーボルト大学看護栄養学部紀要 2006 ; 60: 11-22.
ID=2008322210 (原著論文)
佐藤寿晃;千葉登;神先秀人;赤塚清矢;後藤順子;藤井浩美;日下部明. 山形県介護予防意識改革キャンペーン事業に伴う介護予防体操の開発と介入効果 介入前と介入2ヵ月後の身体機能の比較から. 山形県作業療法士会誌 2007 ; 5(1): 31-35.
ID=2008320500 (原著論文)
治面地順子;宮川俊平. アルファベクス運動が高齢者の身体機能と日常生活活動に及ぼす影響. 日本臨床スポーツ医学会誌 2008 ; 16(3): 426-434.
ID=2008313408 (原著論文)
滝本幸治;宮本謙三;竹林秀晃;井上佳和;宅間豊;宮本祥子;岡部孝生. 介護予防を目的とした運動教室の効果検証 体力標準値作成及び得点化による方法を用いて. 高知県理学療法 2007 ; (14): 15-20.
ID=2008306805 (原著論文)
浅川康吉;遠藤文雄;山口晴保;高橋龍太郎. 地域在住高齢者向け Self-paced Resistance Training(自己裁量型筋力トレーニング)における参加者特性とトレーニング結果に及ぼす影響 住民主導型介護予防事業「鬼石モデル」初級コースより. 理学療法学 2008 ; 35(5): 229-236.

ID=2008306796 (原著論文)
中川和昌;猪股伸晃;今野敬貴;中澤理恵;坂本雅昭. 要支援・軽度要介護高齢者に対する個別運動介入に集団運動がもたらす効果. 理学療法科学 2008 ; 23(4): 501-507.
ID=2008303615 (原著論文)
中菌貴志;諫武稔;諸隈泉絵;秋満加奈子;中原雅美;渡利一生;森田正治. 地域高齢者における介護予防事業の効果. 柳川リハビリテーション学院・福岡国際医療福祉学院 紀要 2008 ; 40: 31-34.
ID=2008301953 (原著論文)
寺門厚彦;長岡正範;寺門敬夫. 【高齢障害者の機能維持】 高齢者筋力トレーニングの効果. 総合リハビリテーション 2008 ; 36(8): 743-748.
ID=2008255629 (原著論文)
中村佳奈. 老人会活動に組み込んだ健康体操教室の試み 認知症予防に配慮した体操. 作業療法 2008 ; 27(3): 283-289.
ID=2008250668 (原著論文)
岩崎香子;草間朋子. 軽度な下肢運動による高齢者の踵骨量への影響. 保健の科学 2008 ; 50(5): 351-357.
ID=2008228798 (原著論文)
小松泰喜;上内哲男;武藤芳照;山本巖. バランス能力からみた転倒予防プログラムにおける身体機能の変化. 理学療法: 進歩と展望 2006 ; (20): 28-33.
ID=2008225485 (原著論文)
種田行男;諸角一記;中村信義;北畠義典;塩澤伸一郎;佐藤慎一郎;三浦久実子;西朗夫;板倉正弥. 変形性膝関節症を有する高齢者を対象とした運動介入による地域保健プログラムの効果 無作為化比較試験による検討. 日本公衆衛生雑誌 2008 ; 55(4): 228-237.
ID=2008216530 (原著論文)
野村卓生;菅野伸樹;長野聖;高戸仁郎;植木章三;柳尚夫;菊地臣一;安村誠司. 太極拳を取り入れた体操の開発と介護予防効果に関する予備検証. Journal of Rehabilitation and Health Sciences 2007 ; 50: 1-6.
ID=2008211398 (原著論文)
須藤明治;角田直也;渡辺剛. 海洋深層水を用いた水中運動の効果. 国土館大学体育研究所報 2008 ; 260: 1-8.
ID=2008208296 (原著論文)
福川裕司;丸山裕司;中村恭子. 運動教室が地域在住高齢者の心身に及ぼす影響について 介護予防を目的とした運動教室を事例として. 順天堂大学スポーツ健康科学研究 2008 ; (12): 52-57.

ID=2008196697 (原著論文)
奥壽郎;榎本康子;石原房子;小川憲治;猪股藤彰;内野滋雄. 品川区委託介護予防事業 理学療法士による「身近でトレーニング」の介入効果. 専門リハビリテーション 2008 ; 70: 62-67.
ID=2008195379 (原著論文)
長谷川美津子;田中美穂;蜂ヶ崎令子;木原令夫. 太極拳八段錦運動時の運動強度の検討 夜間在宅酸素療法高齢者と一般高齢者の場合. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌 2007 ; 17(3): 246-250.
ID=2008190658 (原著論文)
前田信道;山本泰三. 介護予防教室に対するアンケート調査. 理学療法いばらき 2008 ; 11(3): 113-116.
ID=2008188431 (原著論文)
茅野裕美;櫻井しのぶ;西出りつ子;間裕美子. 虚弱高齢者への効果的な筋力トレーニングの介入について 介護予防特定高齢者施策を終えて. 三重看護学誌 2008 ; 100: 23-32.
ID=2008178785 (原著論文)
岩井浩一;滝澤恵美;阪井康友;山田哲;佐野歩;三宅守;佐藤たか子;木村知美;山本健太;大瀬寛高;居村茂幸. 地域の介護予防事業における運動プログラム参加者の体力向上効果. 茨城県立医療大学紀要 2008 ; 130: 47-56.
ID=2008170526 (原著論文)
清野諭;藪下典子;金美芝;深作貴子;大藏倫博;奥野純子;田中喜代次. ハイリスク高齢者における「運動器の機能向上」を目的とした介護予防教室の有効性. 厚生指標 2008 ; 55(4): 12-20.
ID=2008158562 (原著論文)
島妃穂;平大地;長尾俊;松岡和美;久慈隆之;松原恭子;小川孝. 通所サービス 当通所リハビリテーションにおける長期パワーリハ実施者の傾向. パワーリハビリテーション 2007 ; (6): 77-78.
ID=2008158377 (原著論文)
井口茂. 在宅高齢者に対する介護予防事業の展開 長崎市「転倒・骨折予防教室」への関わりから. 保健学研究 2007 ; 20(1): 1-7.
ID=2008139711 (原著論文)
河津弘二;槌田義美;本田ゆかり;大田幸治;緒方美湖;吉川桂代;山下理恵;山鹿眞紀夫;古閑博明;松尾洋. 介護予防を目的とした運動プログラム構成の試み ポピュレーションアプローチ「長寿きくちゃん体操」の紹介. 理学療法学 2008 ; 35(1): 23-29.
ID=2008139708 (原著論文)
日下隆一;原田和宏;金谷さとみ;浅川康吉;島田裕之;萩原章由;二瓶健司;佐藤留美;吉井智晴;加藤めぐ美;長野聖;藤本哲也. 介護予防における総合的評価の研究 運動機能、活動能力、生活空間の相互関係から. 理学療法学 2008 ; 35(1): 1-7.

ID=2008139644 (原著論文)
日下隆一;小森昌彦;田中康之;逢坂伸子;長野聖;黒川直樹;藤本哲也. 介護予防における理学療法士の視点 ICF コアセットを用いて. 理学療法科学 2008 ; 23(1): 29-33.
ID=2008139373 (原著論文)
丹羽敦;矢倉千昭;江崎好美;龍尚子;田淵由貴;古川昭人;田原弘幸. 高齢者に対する運動機能向上プログラムが運動パフォーマンスおよび健康関連 QOL に及ぼす影響. 国際医療福祉大学福岡リハビリテーション学部紀要 2007 ; 30: 27-36.
ID=2008121844 (原著論文)
木林勉. 調査・研究 富山市における介護予防の取り組み 一般高齢者に対するパワーリハビリテーション. パワーリハビリテーション 2007 ; (6): 152-154.
ID=2008121818 (原著論文)
柳武隆博;中村梨恵;山口可奈子;馬場崎順子. 通所サービス 当施設におけるパワーリハビリテーションを用いた予防給付事業への取り組み. パワーリハビリテーション 2007 ; (6): 86-87.
ID=2008121816 (原著論文)
中原和宏;秋葉浩樹;菊池慎介;下條洋子;武原光志. 通所サービス パワーリハビリテーション実施連続 100 例の 3 年後. パワーリハビリテーション 2007 ; (6): 81-83.
ID=2008121813 (原著論文)
蔵元隆史. 通所サービス 自宅での自主運動習慣化を目指して パワーリハを活用した介護予防. パワーリハビリテーション 2007 ; (6): 73-74.
ID=2008121810 (原著論文)
木林勉. 介護予防 特定高齢者に対するパワーリハビリテーションの有効性. パワーリハビリテーション 2007 ; (6): 66-68.
ID=2008121809 (原著論文)
千北晃;村井洋子;林田千津子;坂口香織;川嶋克之;石橋経久. 介護予防 超高齢者におけるパワーリハビリテーション. パワーリハビリテーション 2007 ; (6): 64-65.
ID=2008121806 (原著論文)
横山真也;森田正治;中島讓治;九郎丸裕和;一瀬美晴;長門寿美子;高橋一美. 介護予防 介護予防におけるパワーリハビリテーションの効果. パワーリハビリテーション 2007 ; (6): 55-57.
ID=2008109576 (原著論文)
佐藤亮;金子浩之;澁澤隆之;水梨勝次;久保田章仁. パワーリハビリテーションが介護予防から社会参加までに与える影響 理学療法士・作業療法士としての専門的視点の重要性. 専門リハビリテーション 2006 ; 50: 52-55.

ID=2008109568 (原著論文)
磯崎弘司;久保田章仁;田口孝行;藤縄理;高柳清美;細田多穂;細田昌孝;宮原拓也;鶴岡祥江. 機器トレーニングと運動療法の併用による介護予防効果. 専門リハビリテーション 2006 ; 50: 14-18.
ID=2008107047 (原著論文)
佐田律子;泉キヨ子;平松知子. 大腿骨頸部骨折高齢者の再転倒に対する対処行動. 日本看護科学会誌 2007 ; 27(4): 54-62.
ID=2008106534 (原著論文)
佐竹恵治. はじめよう介護予防プラクティス 運動器の介護予防の実際 レジスタンストレーニングと介護 予防. GPnet 2007 ; 54(10): 56-61.
ID=2008103741 (原著論文)
奥壽郎;与那嶺司;榎本康子;小川憲治;小幡かつ子;吉田瞳;内野滋雄. 品川区委託介護予防事業 理学療法士による「身近でリハビリ」の介護予防効果. 理学療法科学 2007 ; 22(4): 439-443.
ID=2008098868 (原著論文)
柳久子;奥野純子;戸村成男;大蔵倫博;田中喜代次. 軽度要介護者の血中ビタミン D レベルの分布状況とビタミン D・乳酸カルシウム製剤補充による 介護予防効果 生活機能・身体機能と血中ビタミン D レベルとの関連より. Osteoporosis Japan 2007 ; 15(4): 677-681.
ID=2008094076 (原著論文)
奥壽郎;榎本康子;石原房子;小川憲治;猪股藤彰;小幡かつ子. 理学療法士による「身近でリハビリ」の介護予防効果 品川区委託介護予防事業. 老年社会科学 2008 ; 29(4): 539-545.
ID=2008087999 (原著論文)
横山真也;中島讓治;一瀬美晴;九郎丸裕和;中原雅美;森田正治. 後期高齢者におけるパワーリハの影響. 柳川リハビリテーション学院・福岡国際医療福祉学院紀 要 2007 ; 30: 49-51.
ID=2008074479 (原著論文)
金憲経;吉田英世;鈴木隆雄. 介護保険で要支援と認定された者の転倒予防を目指す介入プログラムの成果と課題について. 教 育医学 2007 ; 53(2): 205-214.
ID=2008060470 (原著論文)
川井八重;入野了士;橋本和子;大西昭子;藤井誠;葛西宏美;千頭一世;三谷倫加;本山理恵. ジョーバ運動が中高年者の身体機能に及ぼす効果の検討. 看護・保健科学研究誌 2006 ; 6(1): 17-25.
ID=2008060357 (原著論文)
芝山江美子;池田優子;宮崎有紀子;倉林しのぶ;木暮深雪;山西加織;北宮千秋;野田美保子;恒屋昌一; 釜中明;上谷いつ子;大島貞子;入野恵美子. 群馬県 F 市高齢者の生活習慣と接地足裏の関連について(第一報) H 地区における接地足裏の状 況. 高崎健康福祉大学紀要 2007 ; (6): 11-20.

ID=2008047258 (原著論文)
山本大誠;備酒伸彦;川越雅弘. 高齢者の運動機能に関する横断的研究. 神戸学院総合リハビリテーション研究 2007;3(1): 31-41.
ID=2008027971 (原著論文)
吉田弥央;山田拓実;武田円. 介護予防トレーニングの運動強度の検討. 日本保健科学学会誌 2007 ; 10(2): 73-79.
ID=2008024762 (原著論文)
桜田由紀子;白井純一郎;大久保千明. 十和田市における高齢者筋力トレーニング事業の取り組み. 理学療法研究 2007 ; (24): 28-33.
ID=2008009927 (原著論文)
植田秀樹;島田永和. 高齢者の介護予防にむけた筋力トレーニング効果. 大阪医学 2007 ; 41(1): 27-30.
ID=2008003481 (原著論文)
乾富士男;長谷川裕. 低速度斜面歩行時の傾斜勾配と生理的運動強度の関係式の開発 生活習慣病予防および介護予防への応用に向けて. 日本未病システム学会雑誌 2007 ; 13(1): 1-7.
ID=2007344543 (原著論文)
中山昇平;松井一人;村中徳市;吉本與史一;塩澤仁志;笠羽竜太郎;藤原浩二;谷口英巳;坂腰祐介;磯川優子. 地域支援事業における理学療法士介入による効果. 理学療法福井 2007 ; 11(0): 26-32.
ID=2007344541 (原著論文)
湯口智恵;白崎浩隆;川口江美. 介護予防における転倒予防とプログラムの効果. 理学療法福井 2007 ; 11(0): 20-23.
ID=2007344540 (原著論文)
柴田恵輔;白崎浩隆;湯口智恵;藏谷佳代子;石田勝也. 外来リハビリテーションでの体力維持・向上をめざして 体力測定の結果から. 理学療法福井 2007 ; 11(0): 15-19.
ID=2007307501 (原著論文)
新垣盛宏. 介護予防事業における PT の役割 転倒骨折予防教室への関わりを通して. 沖縄県理学療法士会学術誌 2007 ; 8(0): 5-10.
ID=2007291345 (原著論文)
奥野純子. 転倒および介護予防を目指した取り組み 茨城県八千代町における取り組み. 臨床運動療法研究会誌 2007 ; 9(1): 25-29.

ID=2007291341 (原著論文)
嶋田佳津子;梅田陽子;藤原允子;渡邊祐巳;林達也. 椅子を補助に用いた高齢者の転倒予防運動プログラムの実践経験. 臨床運動療法研究会誌 2007 ; 9(1): 6-9.
ID=2007283769 (原著論文)
石橋智昭;池上直己. 介護予防施策における対象者抽出の課題 特定高齢者と要支援高齢者の階層的な関係の検証. 厚生 生の指標 2007 ; 54(5): 24-29.
ID=2007276866 (原著論文)
佐藤三矢;亀山一義;濱藤春暉;太田久絵;末國恵;竹本了. 要支援レベルの高齢者における介護予防体操(古都式体操)の介入効果に関する研究. 吉備国際大 学保健福祉研究所研究紀要 2007 ; (8): 7-13.
ID=2007275835 (原著論文)
野見山真人;小柳靖裕. 介護予防事業に対する取り組み 理学療法士の役割. 理学療法福岡 2007 ; (20): 69-73.
ID=2007260873 (原著論文)
中原和美. 最大下肢伸展筋力および生活機能と 30 秒椅子立ち上がりテストの関連性. 理学療法科学 2007 ; 22(2): 225-228.
ID=2007260355 (原著論文)
征矢野あや子;古畑英子;中田勝子;上原ます子. 健康体操教室に長期間参加している地域高齢者の身体機能. 身体教育医学研究 2007 ; 8(1): 53-58.
ID=2007236917 (原著論文)
炭谷直哉. 高齢者筋力トレーニング事業の効果と課題. 赤穂市民病院誌 2007 ; (8): 74-76.
ID=2007235111 (原著論文)
西脇祐司;武林亨;菊池有利子. 効果的な介護予防の確立に向けた地域在住高齢者の運動器機能に関するコホート研究. 大和証券 ヘルス財団研究業績集 2007 ; (30): 40-45.
ID=2007225022 (原著論文)
白山靖彦;園田茂;永井将太;坂本利恵;櫻井しのぶ. 志摩市における地域リハビリテーション介入研究. 総合リハビリテーション 2007 ; 35(5): 495-499.
ID=2007221022 (原著論文)
小松泰喜;朴眩泰;上内哲男;上岡洋晴;岡田真平;奥泉宏康;武藤芳照;山本巖. 高齢者福祉施設(従来型ケアハウス)入居者への運動・生活指導による効果の検証. 理学療法 2007 ; 24(3): 489-494.

ID=2007210737 (原著論文)
小松山佳奈絵;兼田雪江. 田野畑村における「パワーリハビリテーション」の実践 運動器の機能向上と口腔機能の向上の 関連性について. 日本歯科衛生学会雑誌 2006 ; 1(1): 158-159.
ID=2007209484 (原著論文)
岩佐一;権藤恭之;増井幸恵;稲垣宏樹;鈴木隆雄. 地域在宅超高齢者における廃用症候群の予防を目指した訪問型介入プログラム「自分史くらぶ」 の開発 予備的検討. 老年社会科学 2007 ; 29(1): 75-83.
ID=2007209431 (原著論文)
柳田昌彦;交野好子. 福井県における楽しい集団的介護予防体操「ふくいイッチョライダンベル体操」の創作. 北陸公 衆衛生学会誌 2007 ; 33(2): 60-69.
ID=2007207196 (原著論文)
土屋育恵;中村崇. 理学療法士が関わった転倒予防事業の周知度調査. 理学療法研究・長野 2007 ; (35): 60-61.
ID=2007207147 (原著論文)
小島真二;徳森公彦;坂野紀子;汪達紘;鈴木久雄;池田敏;平田幸久;岡隆;原浩平;荻野景規. 地域高齢者への運動指導における運動定着に寄与する要因の検討. 体育学研究 2007 ; 52(2): 227-235.
ID=2007176848 (原著論文)
徳田安弘. 生活介護型入所施設における機能訓練事業のシステム作りに関する調査結果. 理療 2007 ; 36(4): 25-26.
ID=2007162021 (原著論文)
小柳傑;溝口記広;小樽麻美;陣貝満彦;渡邊佳奈. 【高齢者に対する筋力トレーニング】 高齢者に対する筋力トレーニング. 理学療法探求 2007 ; 90: 8-12.
ID=2007144565 (原著論文)
横山真也;中島譲治;栗山真津子;九郎丸裕和;一瀬美晴;森田正治;中原雅美. CVA・介護予防 後期高齢者におけるパワーリハの影響. パワーリハビリテーション 2006 ; (5): 40-41.
ID=2007144559 (原著論文)
山口尚人;山本春彦;後藤正樹;上條裕朗. CVA・介護予防 継続的運動習慣が介護予防にもたらす影響 パワーリハビリテーションを1年 以上継続した利用者の結果から. パワーリハビリテーション 2006 ; (5): 23-24.
ID=2007144557 (原著論文)
永富多恵子. CVA・介護予防 介護予防市町村モデル事業「筋力向上」を実施して. パワーリハビリテーショ ン 2006 ; (5): 16-19.

ID=2007144179 (原著論文)
榎本雪絵;木村義徳;井上直子;望月秀樹;竹内孝仁. パワーリハビリテーションの手法による低負荷運動プログラムの要介護高齢者への改善効果. 理学療法 2006 ; 23(12): 1657-1663.
ID=2007134892 (原著論文)
川嶋紗代;岩本斉;白石成明;久世裕子;伊藤卓也;井田正子;川村陽一. 介護予防 当院通所リハビリテーションにおけるパワーリハビリテーション導入後の変化について. パワーリハビリテーション 2005 ; (4): 77-78.
ID=2007134891 (原著論文)
坂本隆司;藤原静香;森本益雄;金田弘子;神波悟. 介護予防 琴浦町パワーリハビリテーション事業実践報告 介護予防・地域支え合い事業における取り組み. パワーリハビリテーション 2005 ; (4): 73-76.
ID=2007134890 (原著論文)
宮本智彦;稲次正敬;稲次美樹子;高田信二郎;中健太郎;高橋亜希;橋本礼子. 介護予防 2号被保険者に対するパワーリハビリの効果について. パワーリハビリテーション 2005 ; (4): 70-72.
ID=2007134889 (原著論文)
弘瀬大士;三好康隆;小原牧;堀川俊一;神崎明子;田中佐知. 介護予防 高知市におけるパワーリハビリテーション事業効果 要介護度の変化を中心に. パワーリハビリテーション 2005 ; (4): 68-69.
ID=2007134888 (原著論文)
吉国親吾;相馬智加子;服部優香理;村瀬英樹;長縄伸幸. 介護予防 パワーリハビリ卒業生運動サークルの試み デイケアにおけるグループエクササイズ. パワーリハビリテーション 2005 ; (4): 64-67.
ID=2007134887 (原著論文)
竜田庸平;國友一史;直江貢;山上久. 介護予防 当法人におけるパワーリハビリテーションの実践と効果. パワーリハビリテーション 2005 ; (4): 61-63.
ID=2007134885 (原著論文)
金澤寿久;末永英文;新垣盛宏;源古康博. 介護予防 通所介護におけるマシントレーニングの役割について. パワーリハビリテーション 2005 ; (4): 54-56.
ID=2007134884 (原著論文)
武藤久司;野田友和;久下沼元晶;田中繁;寺門貴;福田友美;藤田夕子;鈴木邦彦. 介護予防 茨城北西総合リハビリテーションセンターでのパワーリハの開始とこの間の効果について. パワーリハビリテーション 2005 ; (4): 50-53.
ID=2007134881 (原著論文)
前屋光宏. 介護予防 やごろう苑におけるパワーリハの成果と介護度調査. パワーリハビリテーション 2005 ; (4): 43-44.

ID=2007134880 (原著論文)
常福恵里. 介護予防 超高齢者におけるパワーリハビリテーションの実際. パワーリハビリテーション 2005 ; (4): 41-42.
ID=2007134879 (原著論文)
秋葉浩樹;西喜博;中原和宏;遠藤信子;菊池慎介;武原光志. 介護予防 パワーリハビリテーション実施連続 100 例の一年後. パワーリハビリテーション 2005 ; (4): 38-40.
ID=2007134878 (原著論文)
加藤直樹. 介護予防 「転倒骨折予防教室」の取り組み. パワーリハビリテーション 2005 ; (4): 35-37.
ID=2007134877 (原著論文)
石井美佳;湊屋洋一;吉谷敬;山本泰則;伏木康弘. 介護予防 南幌町におけるパワーリハビリテーションの取り組み ST が実践して得たその魅力について. パワーリハビリテーション 2005 ; (4): 31-34.
ID=2007134876 (原著論文)
木林勉. 介護予防 富山市におけるパワーリハビリテーション指導者養成の取り組み. パワーリハビリテーション 2005 ; (4): 27-30.
ID=2007134875 (原著論文)
来栖宏二;磯中祐子;長谷川朋子;本持英児. 介護予防 介護予防におけるパワーリハの有効性について 地域での介護予防活動の経験から. パワーリハビリテーション 2005 ; (4): 23-26.
ID=2007133140 (原著論文)
新井武志;大淵修一;小島基永;松本侑子;稲葉康子. 地域在住高齢者の身体機能と高齢者筋力向上トレーニングによる身体機能改善効果との関係. 日本老年医学会雑誌 2006 ; 43(6): 781-788.
ID=2007133139 (原著論文)
岩佐一;鈴木隆雄;吉田祐子;権珍嬉;吉田英世;金憲経;杉浦美穂;古名丈人. 地域在宅高齢者における認知機能の縦断変化の関連要因 要介護予防のための包括的健診(「お達者健診」)についての研究. 日本老年医学会雑誌 2006 ; 43(6): 773-780.
ID=2007133137 (原著論文)
稲葉康子;大淵修一;岡浩一郎;新井武志;長澤弘;柴喜崇;小島基永. 虚弱高齢者の身体活動セルフ・エフィカシー尺度の開発. 日本老年医学会雑誌 2006 ; 43(6): 761-768.
ID=2007122276 (原著論文)
竹前貴志;佐藤豊. パワーリハビリテーションを通じた介護予防への取り組み. 新潟整形外科研究会会誌 2006 ; 22(1): 53-58.

ID=2007117399 (原著論文)
千葉敦子;三浦雅史;大山博史;竹森幸一;山本春江. 虚弱高齢者における包括的筋力トレーニングが QOL に及ぼす影響. 日本公衆衛生雑誌 2006 ; 53(11): 851-858.
ID=2007116877 (原著論文)
中山博識. 出雲市多伎町における高齢者筋力向上トレーニングの効果. 島根医学 2006 ; 26(3): 192-197.
ID=2007114507 (原著論文)
井口茂;松坂誠應;北谷正浩;山本和儀. 在宅虚弱～要介護高齢者に対する転倒予防プログラムの検討 転倒ハイリスク者に対するアプローチ. 地域医療 2007 ; 44(3): 393-398.
ID=2007090043 (原著論文)
坂田悍教;小牧宏一;土居通哉;細川武;岡本順子;五味敏昭;須藤裕子;木村有里. 要支援・介護 I・II に対する筋力向上トレーニングの有効性について. 埼玉圏央リハビリテーション研究会雑誌 2006 ; 6(1): 3-7.
ID=2007068034 (原著論文)
吉田祐子;熊谷修;岩佐一;杉浦美穂;金憲経;吉田英世;古名丈人;藤原佳典;新開省二;渡辺修一郎;鈴木隆雄. 地域在住高齢者における運動習慣の定着に関連する要因. 老年社会科学 2006 ; 28(3): 348-358.
ID=2007068032 (原著論文)
佐藤ゆかり;齋藤圭介;原田和宏;香川幸次郎. 認知症の有無別にみた要支援・要介護 1 の在宅高齢者における ADL と移動動作との縦断的な関係. 老年社会科学 2006 ; 28(3): 321-333.
ID=2007067946 (原著論文)
岡隆;原浩平. 矢掛町における転倒予防教室の評価. 日本予防医学会雑誌 2006 ; 1(1): 41-45.
ID=2007016006 (原著論文)
増野伸幸;中島一成;吉田留美;小野英子;横田洋子;増井玲子;帆秋孝幸. 健康高齢者から要介護者までを対象とする転倒予防教室の取り組み 「健脚度」を用いた比較. 大分県リハビリテーション医学会誌 2005 ; 30: 35-39.
ID=2006315057 (原著論文)
諸角一記;種田行男;中村信義;佐藤慎一郎;塩澤伸一郎;山本巖;藤原孝之;烏野大;杉本淳. 在宅自立高齢者の膝関節痛および生活動作能力に関する運動介入の効果. 理学療法学 2006 ; 33(3): 126-132.
ID=2006313987 (原著論文)
矢野純子;居林晴久;西山知宏;田中政幸;佐藤茂夫;酒井和代;松田晋哉;小林篤;矢倉尚典. 鹿児島県離島における高齢者の運動器の機能向上プログラムの実践. 産業医科大学雑誌 2006 ; 28(2): 229-237.

ID=2006303444 (原著論文)
稲員紀章;原田麻美;八道慶子;國光裕仁;久保昌昭;吉松富美恵. 萩市における高齢者筋力向上トレーニング事業. 心臓リハビリテーション 2006 ; 11(1): 75-78.
ID=2006303299 (原著論文)
古川照美;恒屋昌一;北宮千秋;芝山江美子;石崎智子;野田美保子;鳴海寧子;浅利覚;対馬栄輝;齋藤久美子;工藤恵;扇野綾子;木田和幸. 青森県 T 町高齢者の生活習慣と接地足裏の関連について. 弘前大学医学部保健学科紀要 2006 ; 50: 55-64.
ID=2006299132 (原著論文)
久保晃信;捻金秀子;岡野和子;神宝誠子;武田則昭;足立稔. 介護予防に有効と考えられる運動のエネルギー消費量,心拍数,心理状態(気分)について. 旭川荘研究年報 2006 ; 37(1): 21-26.
ID=2006290206 (原著論文)
勝平純司;谷口敬道;下井俊典;霍明;齋藤里果;杉原素子. 介護予防トレーニング前後における歩行能力の比較. 理学療法科学 2006 ; 21(3): 215-219.
ID=2006285500 (原著論文)
中井聖一;小柳靖裕;岡田朋子. 転倒予防マニュアル作成に向けての取り組み 生活機能低下予防教室における PT の関わり. 理学療法福岡 2006 ; (19): 37-40.
ID=2006267517 (原著論文)
稲葉康子;大淵修一;新井武志;後藤寛司. 包括的高齢者運動トレーニングに参加した地域在住高齢者の長期的身体機能の変化. 日本老年医学会雑誌 2006 ; 43(3): 368-374.
ID=2006266047 (原著論文)
安彦奈津;西村一弘;島田真;藤原恵子;鈴木順子;川越智子;稲畑好美;木幡清子;鈴木邦穂;酒井雅司. 筋力向上トレーニングの介護予防効果の検証. 東京都医師会雑誌 2006 ; 59(4): 455-458.
ID=2006259401 (原著論文)
清水暢子;細谷たき子;平井一芳;日下幸則. 地域高齢者における転倒予防を目指した音楽運動プログラムの効果. 北陸公衆衛生学会誌 2005 ; 32(1): 8-15.
ID=2006223130 (原著論文)
辻下守弘;甲田宗嗣;鶴見隆正;川村博文;岡崎大資. 高齢者の身体機能に及ぼす音楽運動療法の効果に関する研究. 理学療法の臨床と研究 2006 ; (15): 75-79.
ID=2006218163 (原著論文)
史明;藤野圭司;丸田敏昭;角南義文. 【転倒予防】 転倒・介護予防におけるセラバンドの導入効果について. 運動療法と物理療法 2006 ; 17(1): 24-27.

ID=2006208839 (原著論文)
勝平純司;谷口敬道;下井俊典;霍明;齋藤里果;杉原素子. 介護予防トレーニング前後における歩行の変化. バイオメカニズム学術講演会予稿集 2005 ; 26 回(): 259-262.
ID=2006208557 (原著論文)
高橋正行;菅井京子;豊田一成. 高齢者に対する運動教室の有用性. 臨床運動療法研究会誌 2006 ; 8(1): 1-5.
ID=2006197739 (原著論文)
三浦早苗;後藤ゆり;高橋由美子. 介護予防事業の取り組みと発展について 南幌町における転倒骨折予防教室「足腰シャンシャン 教室」の事業評価を中心に. 北海道公衆衛生学雑誌 2006 ; 19(1~2): 79-87.
ID=2006170698 (原著論文)
井出友洋;中村崇;林英俊;飯島圭子;関賢一. 地域での足底圧測定器を用いた転倒予防事業の試み ペル 38・TWIN99 を用いて. 理学療法研 究・長野 2006 ; (34): 52-53.
ID=2006156003 (原著論文)
羽村実;澤田義久;辻正純. 要介護高齢者に対する筋力向上トレーニングの試み. 練馬医学会誌 2006 ; 12(): 61-64.
ID=2006153801 (原著論文)
芝山江美子;恒屋昌一;北宮千秋;古川照美;石崎智子;齋藤久美子;対馬栄輝. 二地域における女性高齢者の接地足裏の比較と地域保健活動への示唆. 国際医療福祉大学紀要 2006 ; 10(3): 9-18.
ID=2006150620 (原著論文)
岡田真平;上岡洋晴;正村宣広;山浦恵美子. 移動能力評価を活用した地域介護予防事業モデル. 身体教育医学研究 2005 ; 6(1): 71-77.
ID=2006150617 (原著論文)
征矢野あや子;岡田佳澄;横井佳代;岡田真平;上岡洋晴;武藤芳照. 生きがい型介護予防支援事業利用者の移動能力,転倒恐怖と外出状況. 身体教育医学研究 2005 ; 6(1): 49-55.
ID=2006102943 (原著論文)
山本美江子;進俊夫;中園敬生;長田穰二;原口毅;韓正任;原正義;岡田弘一;野口久美子;松田晋哉. 地域高齢女性に対する運動プログラムの効果. 産業医科大学雑誌 2005 ; 27(4): 339-348.
ID=2006099852 (原著論文)
星野純子;堀容子;近藤高明;平野幸伸;岡本和土. つまずきの関連要因についての検討 長野県 M 町の転倒予防事業に参加した女性の後期高齢者 を対象として. 日本看護医療学会雑誌 2005 ; 7(2): 10-16.

ID=2006068586 (原著論文)
竹田紫野;大浦秀子;國友明美;山内香織;高岡未来子;佐藤妙子;小林智子;内海敬子;松岡礼香;大田晴美. 転倒予防教室 地域での実践を試みて. 地域医療 2005 ; (第 44 回特集): 356-358.
ID=2006068585 (原著論文)
神原正泰;今若貴美. 転倒予防教室の取り組みとその効果. 地域医療 2005 ; (第 44 回特集): 354-356.
ID=2006068527 (原著論文)
梶原亘弘;木村啓介;高井一志. 介護予防を目的とした高齢者の筋力トレーニングについて. 地域医療 2005 ; (第 44 回特集): 199-201.
ID=2006063789 (原著論文)
宮本謙三;竹林秀晃;島村千春;井上佳和;宅間豊;宮本祥子;岡部孝生. 介護予防を目的とした運動教室の展開 小規模自治体からの実践報告. 理学療法学 2005 ; 32(6): 384-388.
ID=2006040849 (原著論文)
大山さく子;本田春彦;植木章三;河西敏幸;高戸仁郎;芳賀博. 高齢者の転倒予防教室に対する不参加者の特性. 介護福祉学 2005 ; 12(1): 147-157.
ID=2005262108 (原著論文)
中山博識;楠田敦子;江本小百合;黒谷道子;森山泰江;三原美和子;吉田二美;石飛貴子. 多伎町における高齢者介護予防筋力向上トレーニングの効果 中間報告. 島根県立中央病院医学雑誌 2005 ; 29(0): 19-26.
ID=2005203362 (原著論文)
大石正子. 介護予防について 名寄市高齢者体力向上トレーニングの実践報告. 北海道公衆衛生学雑誌 2005 ; 18(2): 43-45.
ID=2005203361 (原著論文)
佐竹恵治;金澤奈緒美;竹村慎二;藤田久美子;山瀬智美;西島宏隆. 要介護高齢者に対する筋力トレーニングの効果. 北海道公衆衛生学雑誌 2005 ; 18(2): 34-42.
ID=2005200608 (原著論文)
大井孝;菊池雅彦;玉澤佳純;服部佳功;坪井明人;高津匡樹;佐藤智昭;岩松正明;伊藤進太郎;小牧健一朗;山口哲史;寶沢篤;辻一郎;渡邊誠. 都市部住宅地域における在宅高齢者の口腔状態 鶴ヶ谷プロジェクト. 東北大学歯学雑誌 2005 ; 24(1): 16-23.
ID=2005188986 (原著論文)
里見和子;今野佳代子;相沢潤;柳谷泰三;大江裕子;本田美和;薄井啓. 筋力トレーニングを主とした高齢者運動教室の効果について. 総合健診 2005 ; 32(2): 225-229.

ID=2005176190 (原著論文)
奥宮清人;和田泰三;石根昌幸;藤澤道子;西永正典;土居義典;小澤利男;松林公蔵. 高齢者総合的機能評価ガイドライン,健康増進と介護予防 健康増進 実態調査と提言 本邦地域高齢者の生活機能. 日本老年医学会雑誌 2005 ; 42(2): 164-166.
ID=2005173184 (原著論文)
北潔;佐浦隆一;西村保朗;吉矢晋一. 【診療所における運動器のリハビリテーション】 運動器虚弱高齢者に対する転倒介護予防. 整形・災害外科 2005 ; 48(6): 697-704.
ID=2005165986 (原著論文)
熊谷修. <ILSI PAN プロジェクト>2.自立高齢者の介護予防をめざして 高齢者の運動と食生活に関する複合プログラム Take10!を用いた地域介入の効果の評価. イルシー 2005 ; (81): 55-68.

(b) 学会発表抄録

ID=KB22450056<Pre 医中誌> (会議録)
中井崇. 介護予防・運動器機能向上プログラム実施への一考察. 理学療法いばらき 2010 ; 14(1): 89.
ID=2011016236 (会議録)
文鐘聲. 高齢者の軽度な運動継続が心身に及ぼす影響に関する検討. 日本健康医学会雑誌 2010 ; 19(3): 158-159.
ID=2011009630 (会議録)
安村誠司. 介護予防のための太極拳ゆったり体操. 日本認知症ケア学会誌 2010 ; 9(2): 208.
ID=2010336724 (会議録)
高杉紳一郎;岩本幸英. 高齢者に対する筋力訓練の実際と啓発活動 高齢者リハビリテーションに有用な伝統武術「太極拳」. 日本整形外科スポーツ医学会雑誌 2010 ; 30(4): 396.
ID=2010335006 (会議録)
貴島真佐子;糸田昌隆. 大阪府介護予防標準プログラムにおける健口体操実施による口腔機能および口腔衛生状況の評価. 日本顎頭蓋機能学会誌 2008 ; 21(1): 66.
ID=2010320486 (会議録)
山田実;永井宏達;田中武一;竹岡亨;上村一貴;大明篤史;高島慎吾;市橋則明. Trail Walking Exercise には転倒予防効果があるのか? 特定高齢者を対象とした RCT. 身体教育医学研究 2010 ; 11(1): 45.
ID=2010319565 (会議録)
河合恒;新井武志;小島基永;大淵修一. 介護予防プログラム参加者のための歩行改善アドバイスシステムの開発. 生活支援工学系学会連合大会講演予稿集 2009 ; 7回0: 182.

ID=2010316705 (会議録)
福録恵子. 運動器症状を有する地域在住高齢者における介護予防事業の認知度と支援策の検討. 日本看護科学学会学術集会講演集 2009 ; 29 回(): 441.
ID=2010316523 (会議録)
平岡敬子;山内京子. 島嶼部および急傾斜地に居住する高齢者の介護予防に関する調査 口腔衛生と運動能力との関係について. 日本看護科学学会学術集会講演集 2009 ; 29 回(): 350.
ID=2010304358 (会議録)
新居直実;仁後真記子;神山由美子;宮島至郎;鈴木史香;西山佳秀. 特定高齢者に対する通所型介護予防事業での取り組みと成果(第 2 報) 口腔機能向上レクリエーションの効果について. 日本歯科衛生学会雑誌 2010 ; 5(1): 258.
ID=2010304290 (会議録)
朝田美鈴;村留和子;阿南敦子;榎原道子;大木文枝;中川由美子;松井左知子;梶原恵子;御代出三津子. 兵庫県西宮市における特定高齢者を対象とした介護予防プログラムの評価 運動・口腔・栄養の 3 本柱で介護予防プログラムを実施して. 日本歯科衛生学会雑誌 2010 ; 5(1): 190.
ID=2010304250 (会議録)
小山代子;宮本由香;佐藤美智子. 小諸市における自立高齢者の介護予防意識・実態調査について. 日本歯科衛生学会雑誌 2010 ; 5(1): 150.
ID=2010302392 (会議録)
荻澤俊彦. 特定高齢者の膝関節疾患における運動療法の有効性について. 柔道整復・接骨医学 2010 ; 18(5): 402.
ID=2010302301 (会議録)
三谷誉;藤田正一;細野昇;山本光彦;大田原英一;増井英明. 平成 21 年度全国地域支援事業実態調査報告 運動器の機能向上事業. 柔道整復・接骨医学 2010 ; 18(5): 372.
ID=2010302300 (会議録)
藤田正一;三谷誉;細野昇;大田原英一;山本光彦;増井英明. 平成 21 年度全国地域支援事業実態調査報告 参加者の意識調査. 柔道整復・接骨医学 2010 ; 18(5): 372.
ID=2010301843 (会議録)
串間圭祐;河崎章賢;笠原佐和子;小林小永子;寺岡いづみ;長澤陽子. 運動器の機能向上事業を実施して. 福山医学 2010 ; (17): 106.
ID=2010295219 (会議録)
福富江利子;和田泰三;石本恭子;笠原順子;木村友美;石根昌幸;奥宮清人;松林公蔵. 地域在住高齢者に対する介護予防運動教室の効果の検討. 日本老年医学会雑誌 2010 ; 47(Suppl.): 86-87.
ID=2010295150 (会議録)
梅垣宏行;柳川まどか;井口昭久;遠藤英俊. 特定高齢者の転倒に関連する因子の検討. 日本老年医学会雑誌 2010 ; 47(Suppl.): 70.

ID=2010294999 (会議録)
宮地元彦. サルコペニアの臨床 サルコペニアに対する治療の可能性 運動. 日本老年医学会雑誌 2010 ; 47(Suppl.): 26.
ID=2010259850 (会議録)
谷田惣亮;分木ひとみ;柴田奈緒美;安田孝志;藤川孝満;宇於崎孝;砂川勇. 特定高齢者に対する運動介入がバランス機能に及ぼす影響について. 理学療法学 2010 ; 37(Suppl.2): 1116.
ID=2010259839 (会議録)
安間立;竹内真太. 地域在住高齢者の下腿周径と筋力・運動機能との関係 下腿周径差を用いた検討. 理学療法学 2010 ; 37(Suppl.2): 1105.
ID=2010259832 (会議録)
小林泰喜;太田真英;山根孝一;古志野正文;種田真吾;田中敬子;前田諒平;伊達祐貴. 介護予防運動器機能向上サービスを実践する要支援高齢者における徒手的な介入の有無による差異 利用開始から 3 ヶ月の身体要因、日常生活活動、生活空間の変化. 理学療法学 2010 ; 37(Suppl.2): 1098.
ID=2010259560 (会議録)
新井武志;大淵修一;小島基永;小島成実;西澤哲;河合恒. 運動器の機能向上プログラム参加者の基本チェックリスト得点と運動介入効果の関係. 理学療法学 2010 ; 37(Suppl.2): 825.
ID=2010259447 (会議録)
田口孝行;廣瀬圭子;久保田章仁;須永康代;荒木智子;鈴木陽介;木戸聡史;原和彦;高柳清美. 特定高齢者と一般女性高齢者(60歳代・70歳代)の運動機能の比較. 理学療法学 2010;37(Suppl.2): 712.
ID=2010259444 (会議録)
平野真貴子;高柳公司;大石賢;有村圭司. 介護予防通所介護利用中の後期高齢者における介護度変化と身体機能の関係. 理学療法学 2010 ; 37(Suppl.2): 709.
ID=2010259443 (会議録)
山本美和;金指巖;横内亜紀;田村直子. 介護予防事業における運動を中心とした自主活動組織の育成・支援について 事業開始から 8 年を経た経験から. 理学療法学 2010 ; 37(Suppl.2): 708.
ID=2010259442 (会議録)
清水新悟;徳田康彦;伊藤一博;前田健博;横地正裕;猪田邦雄. 介護予防事業の取り組みと有効性 能力別による有効性の比較. 理学療法学 2010 ; 37(Suppl.2): 707.
ID=2010259240 (会議録)
橋立博幸;島田裕之;長田けさ枝;森本頼子;笹本憲男. 介護予防通所介護における 12 ヶ月間の運動器機能向上プログラムが地域在住する 85 歳以上の要支援高齢者の生活機能に及ぼす効果. 理学療法学 2010 ; 37(Suppl.2): 505.

ID=2010258936 (会議録)
高野吉朗;羽田圭宏;前田貴司;久保高明;志波直人. 高齢者に対するマシントレーニングが筋力・筋量・骨密度に及ぼす影響. 理学療法学 2010 ; 37(Suppl.2): 198.
ID=2010258123 (会議録)
清水洋子;平賀千夏;国松明美. 介護予防を目指した温水体操教室の効果 参加者と教室アシスタントの主観的観点から. 日本健康教育学会誌 2010 ; 18(Suppl.): 87.
ID=2010256935 (会議録)
大前賢史;市川徳和;宮本謙三. 医療機関での高齢者健康増進活動の試み. 運動療法と物理療法 2010 ; 21(2): 159.
ID=2010256863 (会議録)
吉中康子;木村みさか. 虚弱高齢者に対する運動による介護予防 体操と足踏みを用いた軽費老人ホームでの試み. 老年社会科学 2010 ; 32(2): 260.
ID=2010256858 (会議録)
田口孝行;廣瀬圭子;丸橋悦子;松本博良;本村英二. 特定高齢者の介護予防複合プログラム(運動機能と栄養改善コラボプログラム)の効果. 老年社会科学 2010 ; 32(2): 255.
ID=2010256856 (会議録)
浜崎優子;森本茂人;中村幸志;若林久美子;森河裕子;福間和美;中川秀昭. 自立高齢者の閉じこもりの頻度及びその特徴 特定高齢者把握事業として行ったU町の全数調査結果分析. 老年社会科学 2010 ; 32(2): 253.
ID=2010256801 (会議録)
西真理子;吉田裕人;深谷太郎;藤原佳典;天野秀紀;土屋由美子;新開省二. 孤立感のある在宅高齢者の特徴 介護予防健診受診者を対象とした検討. 老年社会科学 2010 ; 32(2): 197.
ID=2010254017 (会議録)
坂田悍教. ロコモティブシンドロームと介護予防 地域在住高齢者の体力と介護予防. 日本整形外科学会雑誌 2010 ; 84(3): S201.
ID=2010254016 (会議録)
岩谷力;飛松好子;藤野圭司;畑野栄治;川島真人. ロコモティブシンドロームと介護予防 高齢運動器疾患患者の要介護化モデル. 日本整形外科学会雑誌 2010 ; 84(3): S200.
ID=2010254015 (会議録)
星野雄一;星地亜都司;岩谷力;土肥徳秀. ロコモティブシンドロームと介護予防 ロコモティブシンドローム診断ツール(足腰指数 25)の開発. 日本整形外科学会雑誌 2010 ; 84(3): S200.
ID=2010249332 (会議録)
小林真美;遠藤健吾;榛葉博;木村知典;小高永里加;山梨雅透;長尾邦彦. 予防通所リハビリテーションにおける移動・歩行能力の結果について. 静岡県理学療法士会学術誌: 静岡理学療法ジャーナル 2010 ; (21): 90.

ID=2010244174 (会議録)
小寺隆三;矢野寛一. 当院でのロコモティブシンドローム(運動器症候群)の啓蒙活動について. 整形外科と災害外科 2010 ; 59(Suppl.1): 61.
ID=2010236692 (会議録)
高杉紳一郎. ロコモティブシンドロームの運動療法 継続して効果を上げるロコトレの創意工夫. 日本運動療法 学会大会抄録集 2010 ; 35 回(): 19.
ID=2010236691 (会議録)
大江隆史. ロコモティブシンドロームの運動療法 ロコチェックとロコトレ. 日本運動療法学会大会抄録集 2010 ; 35 回(): 18.
ID=2010236689 (会議録)
岩谷力;飛松好子;赤居正美;星野雄一;土肥徳秀. ロコモティブシンドロームの運動療法 ロコモティブシンドローム(運動器症候群) 総論. 日本運 動療法学会大会抄録集 2010 ; 35 回(): 16.
ID=2010234134 (会議録)
安間立;竹内真太. 介護予防事業における下腿周径の測定意義 筋力、男女差に着目して. 東海北陸理学療法学術大 会誌 2009 ; 25 回(): 140.
ID=2010234019 (会議録)
宮腰弘之;木村優一;松並由夏;梶川民子;松村健市;池上勲;木村知行;柴田克之. 一般高齢者の転倒予防への意識づけに及ぼす影響について. 東海北陸理学療法学術大会誌 2009 ; 25 回(): 99.
ID=2010231919 (会議録)
谷川里子;酒井真紀;横澤慎太郎;佐藤君枝. 特定高齢者介護予防事業の現状と課題 運動器の機能向上事業を通して. 地域医療 2009 ; (第 48 回特集): 1180-1181.
ID=2010231779 (会議録)
佐藤さおり;三浦美江子;齋藤美枝子;畠山真姫子;阿部郁美. 特定高齢者に対するマシントレーニング教室の成果について. 地域医療 2009 ; (第 48 回特集): 631-635.
ID=2010212666 (会議録)
山田実. 座位での Dual-Task Stepping Exercise によって Dual-task Walking が改善する 特定高齢者を 対象とした RCT. 体力科学 2010 ; 59(2): 252.
ID=2010205704 (会議録)
葛西雄介;永野靖典;石田健司;谷俊一. 高齢者の運動機能向上を目指したオリジナルステップ運動の開発. The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine 2010 ; 47(Suppl.): S201.

ID=2010205699 (会議録)
山本美江子;岩室あゆみ;高尾聖二;大野素子;大野重雄;梅津祐一;藤田雅章;浜村明徳. 地域高齢者を対象とした運動プログラムおよび地域交流プログラムの生活関連動作及び活動性への効果. The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine 2010 ; 47(Suppl.): S200.
ID=2010205698 (会議録)
山本美江子;岩室あゆみ;高尾聖二;大野素子;大野重雄;梅津祐一;藤田雅章;浜村明徳. 地域高齢者を対象とした運動プログラムおよび地域交流プログラムの体力及び気分への効果. The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine 2010 ; 47(Suppl.): S199.
ID=2010174777 (会議録)
木村みさか. 高齢者の体力・運動と介護予防. リハビリテーション科診療近畿地方会誌 2006 ; (6): 23.
ID=2010162148 (会議録)
安間立. 運動器機能向上トレーニング教室の効果と課題. 日本赤十字リハビリテーション協会誌 2010 ; (24): 72-73.
ID=2010153795 (会議録)
丹羽敦;矢倉千昭. 「特定高齢者」に対する運動パフォーマンスおよび QOL 維持・向上を目指した「運動機能向上事業」の成果 大川市介護予防事業への取組. 国際医療福祉大学紀要 2010 ; 14(2): 179-180.
ID=2010153678 (会議録)
下井俊典;鈴木理恵子;小林ひろみ;橋本奈織. 継ぎ足歩行テストの信頼性・妥当性の検討および地域在住高齢者への臨床応用(研究 2) 地域在住高齢女性における継ぎ足歩行テストの転倒予測妥当性. 国際医療福祉大学紀要 2010 ; 14(2): 72-73.
ID=2010134327 (会議録)
高橋真紀子. いきいき百歳体操から生きがづくり・まちづくりへ. 四国公衆衛生学会雑誌 2010 ; 55(1): 90-91.
ID=2010134326 (会議録)
池上直子. いきいき百歳体操で元気に! 実態調査を通して. 四国公衆衛生学会雑誌 2010 ; 55(1): 88-89.
ID=2010130134 (会議録)
大藏倫博;尹智暎;鴻田良枝;角田憲治;辻大士;重松良祐;中垣内真樹. 3 ヶ月間のスクエアステップ教室が高齢者の認知機能と体力に与える影響. 体力科学 2009 ; 58(6): 963.
ID=2010129891 (会議録)
坂井智明. 日常生活における身体活動と下肢身体機能の関係. 体力科学 2009 ; 58(6): 831.
ID=2010129815 (会議録)
長住達樹;中山朗. 年齢要因からみた介護予防教室実施期間の妥当性について. 体力科学 2009 ; 58(6): 792.

ID=2010129578 (会議録)
小林量作;椿淳裕;地神裕史. 地域高齢者における Timed Up & Go Test の運動相別時間と運動機能の関係. 体力科学 2009 ; 58(6): 673.
ID=2010129576 (会議録)
分木ひとみ;寄本明;坂手誠治. 特定高齢者に対する介護予防事業実施前後の体力および呼吸機能の変化. 体力科学 2009 ; 58(6): 672.
ID=2010129575 (会議録)
寄本明;南和広;坂手誠治;分木ひとみ. 中高年者の重心動揺に及ぼす加齢と運動介入の影響. 体力科学 2009 ; 58(6): 672.
ID=2010129554 (会議録)
中西礼;重松良祐. 運動教室による介入が高齢者の注意機能に及ぼす効果. 体力科学 2009 ; 58(6): 661.
ID=2010079464 (会議録)
佐藤司. 介護予防デイサービスにおける運動器疾患対策の効果. 柔道整復・接骨医学 2009 ; 17(5): 406.
ID=2010079259 (会議録)
石橋正和;高橋憲司. 高齢者における膝関節屈筋群強化とファンクショナルリーチ能力向上について. 柔道整復・接骨医学 2008 ; 16(5): 421.
ID=2010079258 (会議録)
佐藤司;青木主税. 接骨院における特定高齢者の出現率に関する研究. 柔道整復・接骨医学 2008 ; 16(5): 421.
ID=2010077148 (会議録)
小室裕保;大木美智代;奥田昌子;佐藤正至;鈴木亨;山寺令子. 介護予防のための基本チェックリストを用いた運動機能に関する調査および介護予防における薬剤師の関わりについて. 千葉県薬剤師会雑誌 2009 ; 55(11): 1014.
ID=2010062287 (会議録)
尹智暎;大藏倫博;相原育依;村木敏明. 特定高齢者と一般高齢者の認知機能と体力との関連性に関する検討. 日本認知症ケア学会誌 2009 ; 8(2): 217.
ID=2010052583 (会議録)
三和田富美;与儀恵子;稲葉裕子;森裕子;福原理華;柏陽子;山田拓実. 荒川ころばん体操継続参加者と中断者の調査からみた事業評価. 東京都福祉保健医療学会誌 2008 ; 平成 20 年度(口頭・ポスターセッション発表): 85-86.
ID=2010049211 (会議録)
田口孝行;廣瀬圭子;池田誠. 特定高齢者の運動プログラム実施後の運動機能と一般高齢者の運動機能の比較. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2009 ; 68 回(0): 606.

ID=2010048794 (会議録)
市川勉;石田淳子;田邊恵理子. 介護予防体操「元気一番!!ふちゅう体操」の開発および普及活動の評価. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2009 ; 68 回(): 484.
ID=2010048787 (会議録)
大淵修一;小島基永;三木明子;伊藤和彦;辻一郎;大久保一郎;大里里子;杉山みち子;鈴木隆雄;曾根稔雅;安村誠司. 運動器の機能向上プログラム評価基準 介護予防継続的評価分析支援事業より. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2009 ; 68 回(): 482.
ID=2010048779 (会議録)
辻博明;塩田直子;河内宣子;清川恭子. 足圧分布によるバランス・歩行機能の評価・訓練システムの開発. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2009 ; 68 回(): 480.
ID=2010048763 (会議録)
原美弥子;土屋奈央;綿貫愛;本多朋美;齋藤基. 太極拳の教室と自主グループへの参加が高齢者の QOL と介護予防に及ぼす影響. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2009 ; 68 回(): 476.
ID=2010048743 (会議録)
稲葉康子;松本和美. 運動器の機能向上プログラム期間中の地域在住高齢者の身体活動量. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2009 ; 68 回(): 471.
ID=2010048740 (会議録)
竹本朋代;大淵修一;窪田由利子;石田光広;柴田愛;岡浩一朗. おたっしや 21 受診者に対する包括的高齢者運動トレーニングが心身機能に及ぼす影響. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2009 ; 68 回(): 471.
ID=2010048738 (会議録)
相馬優樹;田宮菜奈子;柏木聖代. 特定高齢者に対する運動器の機能向上プログラムの評価および効果に関連する要因の検討. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2009 ; 68 回(): 470.
ID=2010047986 (会議録)
山田拓実;福原理華;森裕子. 介護予防転倒予防教室でのリスク管理の検討. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2009 ; 68 回(): 220.
ID=2010047985 (会議録)
藤本聡;山崎幸子;松崎裕美;若林章都;安村誠司. 「太極拳ゆったり体操」の介護予防効果の検証. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2009 ; 68 回(): 220.
ID=2010047984 (会議録)
岩上優美;今泉一哉;山下和彦. インターネットを用いた虚弱高齢者の転倒予防のための下肢機能向上支援システムの開発. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2009 ; 68 回(): 220.
ID=2010047983 (会議録)
藪下典子;金美芝;清野諭;深作貴子;奥野純子;田中喜代次. 運動器の機能向上プログラムの効果 特定高齢者の 1 年後. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2009 ; 68 回(): 219.

ID=2010047982 (会議録)
山口靖子;松原建史;黒柳洋介;柳川真美;黒田利香;松永里香;小池城司. 転倒予防を目的とした「祝いめでた体操」の創作とモデル教室の取り組み. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2009 ; 68 回(): 219.
ID=2010047977 (会議録)
原田和宏;萩原章由;島田裕之;古名丈人;浅川康吉;二瓶健司;加藤めぐ美;金谷さとみ;石崎達郎;安村誠司. 地域高齢者の外出行動に着目した介護予防に対する指導者の意識変化 無作為化比較試験. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2009 ; 68 回(): 218.
ID=2010047673 (会議録)
植木章三. 地域高齢者の運動プログラムの実践を通じた介護予防事業の推進に関する研究. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2009 ; 68 回(): 48.
ID=2010031733 (会議録)
高木大輔;山田孝. 予防的作業療法 地域高齢者の健康統制感が運動機能や健康関連 QOL に及ぼす影響. 作業行動研究 2009 ; 13(2): 99-100.
ID=2010031447 (会議録)
中村祐子;森田浩庸;野口利香;太田克矢. 元気もりもり教室(特定高齢者運動器機能向上事業)参加における介護認定率の低下. 信州公衆衛生雑誌 2009 ; 4(1): 56-57.
ID=2010019253 (会議録)
佐藤美智子. 運動の習慣付けを中心としたアプローチ 小諸市特定高齢者地域支援事業運動機能向上の活動報告. 日本農村医学会雑誌 2009 ; 58(3): 364.
ID=2010018869 (会議録)
戸山芳昭. 我が国の高齢化と運動器疾患. 日本農村医学会雑誌 2009 ; 58(3): 170.
ID=2010015137 (会議録)
溝渕大志. いきいき百歳体操への理学療法士介入の必要性について. 高知県理学療法 2009 ; (16): 73.
ID=2009349420 (会議録)
稲山貴代. リハビリテーション・運動療法と栄養 運動療法と栄養 運動療法の成果から栄養サポートと運動療法の連携を考える 栄養の立場から. New Diet Therapy 2009 ; 25(2): 146.
ID=2009349054 (会議録)
源野広和. 介護予防における効果的な運動指導 インターバル速歩で指導現場の課題解決. 理学療法学 2009 ; 36(Suppl.3): 84.
ID=2009329909 (会議録)
木室ゆかり;森祥子;高野陽子;堀川悦夫. 特定高齢者に対する介護予防事業の効果の検討(第三報) 水中運動を実施して. 日本看護研究学会雑誌 2009 ; 32(3): 240.

ID=2009302823 (会議録)
山岸元;高橋友子;宮崎俊聡;桜井拓. 特定高齢者運動機能向上事業の委託を受けて. 理学療法学 2009 ; 36(Suppl.2): 1636.
ID=2009302817 (会議録)
木原太史. 市の特定高齢者通所型介護予防事業における当院の取り組み 運動器機能向上・栄養改善・口腔機能向上の3つのプログラムを実施して. 理学療法学 2009 ; 36(Suppl.2): 1630.
ID=2009302599 (会議録)
加藤真弓;鳥居昭久;寺社下葉子;本田真弓. 理学療法士養成学校と自治体の共同企画による介護予防事業の展開 清須方式について. 理学療法学 2009 ; 36(Suppl.2): 1412.
ID=2009302581 (会議録)
中村潤二;生野公貴;鶴田佳世;小嶋康介;古手川登;河口朋子;林佑樹;柳野浩司;高取克彦;庄本康治. 介護予防教室における運動介入が動脈硬化に与える影響 心臓足首血管指数による検討. 理学療法学 2009 ; 36(Suppl.2): 1394.
ID=2009302557 (会議録)
飯野朋彦;田川安浩;井口茂. 一般高齢者における運動習慣定着にかかる要因について. 理学療法学 2009 ; 36(Suppl.2): 1370.
ID=2009302161 (会議録)
官野亜麻妃;室井宏育;高田和秀;大竹政充;村上聡;吉田恵一;村岡祐太. 急性期病院における大腿骨頸部骨折の連続歩行距離について 介護予防の観点から. 理学療法学 2009 ; 36(Suppl.2): 974.
ID=2009302024 (会議録)
淵岡聡;樋口由美;奥田邦晴;林義孝. 介護予防事業における介入方法の違いが転倒発生率に及ぼす影響. 理学療法学 2009 ; 36(Suppl.2): 837.
ID=2009302022 (会議録)
上島隆秀;高杉紳一郎;河野一郎;藤吉大輔;宮本秀和;原祐一;岩本幸英. 「介護予防を目的とした筋力向上トレーニングロボットシステム」の介入効果. 理学療法学 2009 ; 36(Suppl.2): 835.
ID=2009302017 (会議録)
井口茂;藤島涼子;吉峯悦子;中原和美;飯野朋彦;松坂誠應. 特定高齢者施策における運動器の機能向上事業の効果と対象者の経時的変化. 理学療法学 2009 ; 36(Suppl.2): 830.
ID=2009302016 (会議録)
室井宏育;高田和秀;官野亜麻妃;大竹政充;村岡祐太;村上聡;吉田恵一;山口和之. 目標設定が運動機能に及ぼす影響 特定高齢者の目標設定に着目して. 理学療法学 2009 ; 36(Suppl.2): 829.
ID=2009301521 (会議録)
高橋昌二;藤田紗輝;平柳良太;佐野幸伸;川上正人;中島一彦;須崎拓也. 介護予防特定高齢者施策の通所型介護予防事業における自重トレーニングの効果. 理学療法学 2009 ; 36(Suppl.2): 334.

ID=2009301463 (会議録)
高橋勝巳. 介護予防における生活目標と運動習慣の獲得へのとりくみ 生活目標継続指向的アプローチのとりくみ(第2報). 理学療法学 2009 ; 36(Suppl.2): 276.
ID=2009301430 (会議録)
河野一郎;高杉紳一郎;上島隆秀;藤吉大輔;剣持一;橋爪誠;岩本幸英. 介護予防のための新しい筋力トレーニングロボットの開発. 理学療法学 2009 ; 36(Suppl.2): 243.
ID=2009301196 (会議録)
山田実;市橋則明. Trail Walking Exercise の転倒予防効果 特定高齢者を対象とした無作為化比較対照試験. 理学療法学 2009 ; 36(Suppl.2): 9.
ID=2009301194 (会議録)
浅川康吉;遠藤文雄;山口晴保. Self-paced resistance training(自己裁量型筋力トレーニング)による地域在住高齢者の筋力増強. 理学療法学 2009 ; 36(Suppl.2): 7.
ID=2009301193 (会議録)
玉利光太郎. 高齢者に対する集団体操が QOL に与える短期的効果と予後予測因子の検討 3 ヶ月間の集団体操は効果的か?. 理学療法学 2009 ; 36(Suppl.2): 6.
ID=2009299417 (会議録)
小林しげ子;迫田信子;関久美子;江守真樹;岡安律子;小西健一郎;有路光暁. 一般住民による高齢者運動指導の効果. 栃木県公衆衛生学会抄録集 2007 ; 45 回(): 47-49.
ID=2009299415 (会議録)
飛田知恵;来栖博;村山恵美;吉田琴;広野典男;小林美枝子;市瀬俊子. 宇都宮市介護予防教室における共通運動メニューの介入による効果. 栃木県公衆衛生学会抄録集 2007 ; 45 回(): 41-43.
ID=2009286713 (会議録)
飛田知恵;来栖博;村山恵美;内田光則;広野典男;小林美枝子;市瀬俊子. 宇都宮市介護予防教室における共通運動メニューの介入による効果(第2報). 栃木県公衆衛生学会抄録集 2008 ; 46 回(第1分冊): 91-93.
ID=2009286711 (会議録)
山縣千開;猿山悦子;熊倉典子;大塚京子;藤田ゆかり;北城早織里;水越香織;米満梓;中村好一. 小山市の継続的な介護予防システムについて 運動器の機能向上を中心にした事業と高齢者と地域をつなぐアプローチ. 栃木県公衆衛生学会抄録集 2008 ; 46 回(第1分冊): 86-87.
ID=2009282747 (会議録)
富山直輝;長谷川龍一. 地域在住高齢者に対する運動教室の取り組み ゴムバンド運動による体力への効果について. 日本作業療法学会抄録集 2009 ; 43 回(): H6-I-1.

ID=2009282659 (会議録)
外館正幸. 介護予防事業(特定高齢者施策・運動機能向上教室)における作業療法士の関わりについて. 日本作業療法学会抄録集 2009 ; 43 回(): G6-II-5.
ID=2009282655 (会議録)
佐藤寿晃;千葉登;赤塚清矢;永瀬外希子;後藤順子. 介護予防体操参加頻度の違いが介入効果に及ぼす影響 山形県オリジナル介護予防体操を導入して. 日本作業療法学会抄録集 2009 ; 43 回(): G6-II-1.
ID=2009282652 (会議録)
佐藤正英. 運動器特定高齢者転倒予防教室において有意改善したプログラム 筋力訓練用ゴムと運動日誌帳を利用し自宅での運動を促した方法. 日本作業療法学会抄録集 2009 ; 43 回(): G6-I-3.
ID=2009282643 (会議録)
鳴井美和;鈴木恵子;大高恵美子;大田仁史. 茨城県における介護予防事業(運動)の取り組み シルバーリハビリ体操指導士養成事業と指導士活動. 日本作業療法学会抄録集 2009 ; 43 回(): G5-II-5.
ID=2009282642 (会議録)
鈴木恵子;鳴井美和;大高恵美子;大田仁史. シルバーリハビリ体操指導士養成講習会 住民が専門知識を学ぶ視点から. 日本作業療法学会抄録集 2009 ; 43 回(): G5-II-4.
ID=2009282511 (会議録)
相原育依;村木敏明;大藏倫博;尹智暎;鴻田良枝. 新転倒・認知症予防教室プログラムにおける在宅高齢参加者の性格と自己効力感に関する検討. 日本作業療法学会抄録集 2009 ; 43 回(): F3-II-4.
ID=2009282508 (会議録)
長谷川龍一;富山直輝;竹島伸生. 地域在住高齢女性における下肢筋力の加齢変化と評価基準の設定. 日本作業療法学会抄録集 2009 ; 43 回(): F3-II-1.
ID=2009281775 (会議録)
宮崎由美;西村満志;吉野実;西田智;野村秀幸. 転倒予防教室における参加者の転倒経験と転倒予防自己効力感について. 日本作業療法学会抄録集 2008 ; 42 回(): P372.
ID=2009281768 (会議録)
須崎基美;吉川桂代;槌田義美;山鹿眞紀夫;古閑博明. 虚弱高齢者向け介護予防体操開発と効果検証を支援して. 日本作業療法学会抄録集 2008 ; 42 回(): P365.
ID=2009281365 (会議録)
山本武範;船間聡;藤田優子;児島和美;大村恵里香. 元氣いきいき教室の役割 元氣になるための仲間作り. 日本作業療法学会抄録集 2008 ; 42 回(): O250.

ID=2009281319 (会議録)
望月秀樹;木村義徳;榎本雪絵;大嶋伸雄. パワーリハビリテーション事業における集団の活用について その効果及び行動変容との関連についての検討. 日本作業療法学会抄録集 2008 ; 42 回(): O204.
ID=2009281316 (会議録)
森直樹;原督;小林法一;鎌田房代;奥村博信. 利用者が選んで作るオーダーメイド介護予防プログラム 通所リハビリテーションにおける自己選択型ホームエクササイズを紹介. 日本作業療法学会抄録集 2008 ; 42 回(): O201.
ID=2009281174 (会議録)
中村めぐみ;富永渉;松林潤;三谷章. 座位での運動プログラムが高齢者下肢運動機能に及ぼす効果. 日本作業療法学会抄録集 2008 ; 42 回(): O58.
ID=2009279525 (会議録)
吉田英世;鈴木隆雄;金憲経;島田裕之;吉田祐子. 地域在住高齢者における筋肉減少症(Sarcopenia)と QOL との関連. 日本老年医学会雑誌 2009 ; 46(Suppl.): 79.
ID=2009279475 (会議録)
小川純人;山田思鶴;浜達哉;神崎恒一;鳥羽研二;秋下雅弘;大内尉義. 地域在住高齢者における転倒リスクの経年変化と介護予防指標との関連性. 日本老年医学会雑誌 2009 ; 46(Suppl.): 66.
ID=2009279455 (会議録)
関口春美;工藤美奈子;中村茂美;大川弥生. 介護予防における実用歩行向上の重要性. 日本老年医学会雑誌 2009 ; 46(Suppl.): 61.
ID=2009279291 (会議録)
井形昭弘. 老衰の成因と対策 老衰とその予防 介護ケアシステムから見た自立支援と介護予防. 日本老年医学会雑誌 2009 ; 46(Suppl.): 4.
ID=2009271593 (会議録)
畑野栄治. 運動器機能向上介入による介護予防効果. 運動療法と物理療法 2009 ; 20(2): 169.
ID=2009271540 (会議録)
森谷敏夫. 高齢者の筋トレーニングの意義. 運動療法と物理療法 2009 ; 20(2): 107.
ID=2009257399 (会議録)
宇良千秋;野中久美子;矢富直美. 講演会が半年後のウォーキング習慣に及ぼす影響について なぜ彼らは習慣化しなかったのか?. 老年社会科学 2009 ; 31(2): 206.

ID=2009257398 (会議録)
吉田裕人;藤原佳典;深谷太郎;天野秀紀;渡辺直紀;李相侖;西真理子;土屋由美子;岡部たづる;新開省二. 高齢者の開眼片足立ち時間が総死亡と医療・介護費用に及ぼす影響. 老年社会科学 2009 ; 31(2): 205.
ID=2009257393 (会議録)
吉中康子;小川嗣夫;久保克彦;木村みさか. 虚弱高齢者に対する運動による介護予防 軽費老人ホームでの試み. 老年社会科学 2009 ; 31(2): 200.
ID=2009240458 (会議録)
平田総一郎;黒坂昌弘. 膝関節痛と転倒歴は特定高齢者候補の選定に影響する. The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine 2009 ; 46(Suppl.): S293.
ID=2009215377 (会議録)
藪下典子;大田仁史;金美芝;田中喜代次. 身体機能改善のための要介護化予防プログラム 虚弱高齢者(特定高齢者)を対象とした身体機能評価と運動プログラムの提案 健康長寿、元気長寿を目指した要介護化予防とは 運動器機能および栄養改善、活動意欲の向上を目的とした介護予防プログラムの長期的効果の検証. 体力科学 2009 ; 58(1): 41.
ID=2009215376 (会議録)
大藏倫博;奥野純子;深作貴子;金美芝. 身体機能改善のための要介護化予防プログラム 虚弱高齢者(特定高齢者)を対象とした身体機能評価と運動プログラムの提案 健康長寿、元気長寿を目指した要介護化予防とは 運動器機能と栄養の改善および活動意欲の向上を目指す包括的介護予防プログラムの提案. 体力科学 2009 ; 58(1): 40.
ID=2009215375 (会議録)
金憲経;鈴木隆雄. 身体機能改善のための要介護化予防プログラム 虚弱高齢者(特定高齢者)を対象とした身体機能評価と運動プログラムの提案 健康長寿、元気長寿を目指した要介護化予防とは 大都市在住高齢者における転倒経験者の転倒予防を目的とした介入プログラムの効果検証. 体力科学 2009 ; 58(1): 39.
ID=2009215374 (会議録)
田中喜代次;金美芝;清野諭;藪下典子. 身体機能改善のための要介護化予防プログラム 虚弱高齢者(特定高齢者)を対象とした身体機能評価と運動プログラムの提案 健康長寿、元気長寿を目指した要介護化予防とは 元気高齢者から虚弱高齢者(特定高齢者)の身体機能の評価できる包括的評価指標の提案. 体力科学 2009 ; 58(1): 38.
ID=2009215373 (会議録)
菅野昌明. 運動による高齢者の健康づくり 高齢者の理解と支援のために 高齢者のレジスタンス運動に対する速度を意識した運動方法の提案 滋賀県甲良町の教室から. 体力科学 2009 ; 58(1): 37.

ID=2009215368 (会議録)
<p>本山貢. 運動による高齢者の健康づくり 高齢者の理解と支援のために わかやま型シニアエクササイズ の取り組み. 体力科学 2009 ; 58(1): 35.</p>
ID=2009201196 (会議録)
<p>山本忠芳;梶井元樹;青山崇;磯山朝子;菊地康久. 介護予防を目的とした軽度要介護者に対するばんび式健康体操の有効性の検証. 東京医科大学雑 誌 2009 ; 67(1): 101.</p>
ID=2009195075 (会議録)
<p>新村政敏;井上義文;居倉裕子;真野泰宏;関野典子. 転倒予防教室の効果について. 静岡県理学療法士会学術誌: 静岡理学療法ジャーナル 2009 ; (18): 129.</p>
ID=2009195022 (会議録)
<p>辻昌伸;鶴野令子;竹山由里子;中村敦子;森下一幸;宮崎哲哉. 当院での運動器機能向上トレーニング教室の取り組み E-SAS を使用した効果判定. 静岡県理学 療法士会学術誌: 静岡理学療法ジャーナル 2009 ; (18): 74.</p>
ID=2009191516 (会議録)
<p>天本健司. 運動器リハビリテーションと介護予防リハ 介護予防と運動器リハビリテーション. 日本整形外科学 会雑誌 2009 ; 83(3): S664.</p>
ID=2009191515 (会議録)
<p>石井光一. 運動器リハビリテーションと介護予防リハ 地域における介護予防リハの実際と問題点. 日本整形 外科学会雑誌 2009 ; 83(3): S664.</p>
ID=2009191514 (会議録)
<p>北潔;新村秀幸;糟谷明彦;浅井剛. 運動器リハビリテーションと介護予防リハ 外来リハビリテーションと介護予防. 日本整形外科学 会雑誌 2009 ; 83(3): S663.</p>
ID=2009191513 (会議録)
<p>大野孝生. 運動器リハビリテーションと介護予防リハ 維持期のリハビリの問題点. 日本整形外科学会雑誌 2009 ; 83(3): S663.</p>
ID=2009190871 (会議録)
<p>天本健司. ロコモティブシンドロームと運動器不安定症 運動器健診の実施による介護予防を目指して 運 動器の機能向上および運動器リハビリテーション. 日本整形外科学会雑誌 2009 ; 83(3): S327.</p>
ID=2009190870 (会議録)
<p>藤野圭司. ロコモティブシンドロームと運動器不安定症 運動器健診の実施による介護予防を目指して 運 動器不安定症に対するリハビリテーションの効果. 日本整形外科学会雑誌 2009 ; 83(3): S327.</p>

ID=2009190869 (会議録)
遠藤直人. ロコモティブシンドロームと運動器不安定症 運動器健診の実施による介護予防を目指して 運動器不安定症の要因である骨粗鬆症の現状と今後の対応. 日本整形外科学会雑誌 2009 ; 83(3): S326.
ID=2009190868 (会議録)
星野雄一;星地亜都司. ロコモティブシンドロームと運動器不安定症 運動器健診の実施による介護予防を目指して 運動器健診に向けて ロコモ診断ツールの作成. 日本整形外科学会雑誌 2009 ; 83(3): S326.
ID=2009190867 (会議録)
戸山芳昭;堀内圭輔. ロコモティブシンドロームと運動器不安定症 運動器健診の実施による介護予防を目指して ロコモと新健康フロンティア戦略. 日本整形外科学会雑誌 2009 ; 83(3): S325.
ID=2009190866 (会議録)
伊藤博元. ロコモティブシンドロームと運動器不安定症 運動器健診の実施による介護予防を目指して 運動器不安定症とロコモティブシンドローム. 日本整形外科学会雑誌 2009 ; 83(3): S325.
ID=2009165225 (会議録)
平田総一郎;小野くみ子;小野玲;黒坂昌弘;勝真理. 地域在宅自立高齢者に対する歩行支援プログラムの介護予防効果. 日本整形外科学会雑誌 2009 ; 83(2): S183.
ID=2009142518 (会議録)
櫻井裕美;五味高義;加藤明浩;牛山直子;若田真実;百瀬公人. パワーリハビリテーションの一部を取り入れた介護予防事業の身体機能改善への効果と今後の課題. 日本農村医学会雑誌 2009 ; 57(5): 750.
ID=2009142467 (会議録)
奥野亜由美;井上裕美子;曾我佳代;佐藤竜吾;松尾秀子. JA の介護予防教室における健康運動実践指導者としての取り組みについて. 日本農村医学会雑誌 2009 ; 57(5): 730.
ID=2009138734 (会議録)
松岡一樹. 特定高齢者施策・運動機能向上事業における測定結果と効果 事業プログラム修了者の生活状況調査の報告. 理学療法: 技術と研究 2009 ; (37): 21.
ID=2009138408 (会議録)
中村一平;藤戸郁久;藤田貴士;大谷紀美;松本久美子. 居宅高齢者に対する健康増進支援レターの効果について. 理学療法福岡 2009 ; (22Suppl.): 23.
ID=2009136363 (会議録)
吉田光由. 全身健康はお口の健康から 咬合と転倒 介護予防に向けて. 日本顎頭蓋機能学会誌 2006 ; 19(1): 59.

ID=2009134728 (会議録)
高杉紳一郎;河野一郎;上島隆秀;藤吉大輔;岩本幸英. 介護予防のための新しいトレーニングマシンによる腸腰筋と前脛骨筋の強化. 体力科学 2008 ; 57(6): 953.
ID=2009134606 (会議録)
山内賢;ラウ優紀子;太田喜久子;川喜田恵美;秋葉茂季. 介護予防策としての健康増進プログラムの立案 スティックウォーキングを介護予防運動として導入する可能性. 体力科学 2008 ; 57(6): 886.
ID=2009134558 (会議録)
柳田昌彦;石原一成. 福井県 K 市の地域支援事業における「ふくいイッチョライダンベル体操」の介護予防効果. 体力科学 2008 ; 57(6): 862.
ID=2009134543 (会議録)
祝原豊;大志万翔;伊藤秀志;富田寿人;杉山康司. 中高齢者の介護予防を目的とした運動プログラムの検討. 体力科学 2008 ; 57(6): 854.
ID=2009134460 (会議録)
根本みゆき;薮下典子;金美芝;清野諭;深作貴子;奥野純子;大藏倫博;田中喜代次. 特定高齢者の身体機能の改善に及ぼす要因の検討. 体力科学 2008 ; 57(6): 807.
ID=2009134457 (会議録)
大曾彰子;藤本貴大;本山貢. 虚弱高齢者を対象とした運動プログラムの運動実施時間の違いがトレーニング効果に及ぼす影響について. 体力科学 2008 ; 57(6): 806.
ID=2009134453 (会議録)
本山貢;藤本貴大;大曾彰子;和田晃;土屋義弘. 骨盤補正二段ベルトを活用した介護予防のための体力向上トレーニングが筋横断面積に及ぼす影響. 体力科学 2008 ; 57(6): 804.
ID=2009134451 (会議録)
松本希;宮地元彦;吉岡哲;小野寺昇. 集団運動プログラムが中高年及び特定高齢者の循環機能・体組成・体力に与える影響. 体力科学 2008 ; 57(6): 803.
ID=2009108390 (会議録)
齋藤京子;吉田英世;金憲経;島田裕之;吉田祐子;岩佐一;鈴木隆雄. 血漿ビタミン C 濃度は高齢者の運動機能に影響を及ぼすか?. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2008 ; 67 回(): 601.
ID=2009108184 (会議録)
松本侑子;大淵修一;小島基永;新井武志;小島成実;河合恒. 介護予防における遠隔型膝痛改善プログラムの開発と効果の検討. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2008 ; 67 回(): 538.
ID=2009108179 (会議録)
野村卓生;菅野伸樹;長野聖;高戸仁郎;植木章三;柳尚夫;安村誠司. 太極拳ゆったり体操の開発と特定高齢者での介護予防効果の検証. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2008 ; 67 回(): 537.

ID=2009108178 (会議録)
竹村慎二;高橋睦子;佐竹恵治;村上猛. 特定高齢者の生活機能改善には筋力トレーニングが有効である. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2008 ; 67 回(): 536.
ID=2009108159 (会議録)
吉川幸江;和智由里子;岩崎知恵子;立花鈴子. 特定高齢者を対象とした回想法を用いたうつ予防プログラムの取り組み. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2008 ; 67 回(): 532.
ID=2009108086 (会議録)
山内賢;秋葉茂季;市河勉;ラウ優紀子;川喜多恵美;太田喜久子. 介護予防策としての健康増進プログラムの立案 スティックウォーキング導入の留意点. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2008 ; 67 回(): 513.
ID=2009108085 (会議録)
串間敦郎;植木章三;春日井淳夫;小笠原正志;河西敏幸;高戸仁郎;犬塚剛;本田春彦;芳賀博. 地域における介護予防運動プログラムの開発と姿勢改善効果. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2008 ; 67 回(): 513.
ID=2009108079 (会議録)
島貫秀樹;荒若直子;大平ひろ子;渡邊美智子. 特定高齢者運動器機能向上プログラム修了者による自主運動サークルの設立と運営. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2008 ; 67 回(): 512.
ID=2009108077 (会議録)
坂田悍教;細川武;小牧宏一;岡本順子;五味敏昭. 介護予防における運動機能チェックリストと実測体力評価. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2008 ; 67 回(): 511.
ID=2009108054 (会議録)
山田拓実;福原理華;森裕子;金田麻里子. 介護予防プログラム「荒川ころばん・せらばん体操」の中断者のアンケート調査. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2008 ; 67 回(): 505.
ID=2009108053 (会議録)
福原理華;森裕子;金田麻里子;山田拓実. マシンを使わない運動機能向上を目的とした介護予防体操の効果に関する調査研究. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2008 ; 67 回(): 505.
ID=2009108052 (会議録)
松本たか子;芳賀信彦. 介護予防の基盤整備 「文の京介護予防体操」の開発と普及啓発. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2008 ; 67 回(): 505.
ID=2009108048 (会議録)
奥野純子;戸村成男;柳久子;薮下典子;KimMi-Ji;深作貴子;大蔵倫博;田中喜代次. 腎機能は運動効果に影響するか. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2008 ; 67 回(): 504.
ID=2009108026 (会議録)
吉田英世;鈴木隆雄;齋藤京子. 地域在住の高齢女性におけるビタミン D 受容体遺伝子多型と筋肉との関連. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2008 ; 67 回(): 498.

ID=2009107993 (会議録)
瀧野睦子;西村洋子. 介護予防機能訓練事業参加高齢者の参加期間と自己効力感、閉じこもり度との関係. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2008 ; 67 回(): 490.
ID=2009107988 (会議録)
逢坂伸子;上柳より子;足立安正;中川美智子. 大東市における介護予防パッケージ(運動・口腔・栄養・認知症)教室の効果について. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2008 ; 67 回(): 489.
ID=2009107982 (会議録)
岩佐一;吉田祐子;吉田英世;熊谷修;鈴木隆雄. 地域高齢者における抑うつが生活機能低下に及ぼす影響 12年間の縦断調査結果から. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2008 ; 67 回(): 487.
ID=2009107975 (会議録)
吉田祐子;熊谷修;岩佐一;吉田英世;木村美佳;鈴木隆雄. 地域在住高齢者における食習慣および運動習慣の改善を目的とした地域介入効果の検討. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2008 ; 67 回(): 486.
ID=2009107963 (会議録)
森鼻裕子;柳本有二;名畑節子;若松勝彦. 予防通所介護における運動指導の実際 運動を継続するための要因. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2008 ; 67 回(): 483.
ID=2009107962 (会議録)
柳本有二;名畑節子;高藤真理;森鼻裕子;若松勝彦. 予防通所介護における運動指導の実際と評価. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2008 ; 67 回(): 482.
ID=2009107960 (会議録)
金憲経;鈴木隆雄;吉田英世. 大都市在住高齢者における転倒経験者の転倒予防を目的とした介入プログラムの効果検証. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2008 ; 67 回(): 482.
ID=2009107283 (会議録)
池上洋未;富澤美奈子. 住民と協働で進める健康づくり・介護予防 年間5万人が参加する体操の支援を通して. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2008 ; 67 回(): 294.
ID=2009107243 (会議録)
清水洋子;國松明美;柴田健雄;遠藤有人. 行政・住民の協働によるヘルスプロモーションの展開と効果 介護予防事業の効果. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2008 ; 67 回(): 284.
ID=2009106976 (会議録)
青柳潔. 転倒・骨折と介護予防. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2008 ; 67 回(): 113.

ID=2009084975 (会議録)
中田理恵子;榎本貴文;中林秀究;村上聡美. 当診療所における新予防給付対象者の経過及び結果について 運動器の機能向上プログラムを再考するために. 地域医療 2008 ; (第 47 回特集): 923-927.
ID=2009080728 (会議録)
岩谷力. 介護予防における運動器疾患対策. 整形外科と災害外科 2008 ; 57(Suppl.2): 3.
ID=2009080106 (会議録)
田中徹;田丸卓弥. 介護予防施設における高齢者マシントレーニング 18 ヶ月間の効果に対する報告. 日本臨床スポーツ医学会誌 2008 ; 16(4): S174.
ID=2009079918 (会議録)
上村伯人. 高齢者筋トレ教室 5 年継続者の体力評価. 日本臨床スポーツ医学会誌 2008 ; 16(4): S121.
ID=2009054317 (会議録)
永野靖典;谷俊一;石田健司. 高知県黒潮町佐賀地区における特定高齢者把握事業と運動教室の検討. The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine 2008 ; 45(11): 761.
ID=2009028474 (会議録)
桜木康広;埜健一;四ツ谷隆輔. 介護予防に有効な大腿四頭筋の筋力トレーニング方の開発に関する研究 膝関節伸展位における肢位による違いの検討. 青森県立保健大学雑誌 2007 ; 8(1): 195-196.
ID=2009019011 (会議録)
加賀谷善教;池田志保子;若松直樹;柴喜崇;西菌秀嗣. デイサービスにおける介護予防高齢者筋力向上トレーニングの効果に関する研究. 昭和大学保健医療学雑誌 2008 ; (5): 49.
ID=2009018717 (会議録)
西村晃;高橋秀幸;稲葉ちあき. 行政との介護予防事業の連携について 木島平村筋力アップ教室での取り組み. 日赤医学 2008 ; 60(1): 286.
ID=2009014488 (会議録)
臼井達矢;吉川貴仁;中雄勇人;上田真也;桂良寛;藤本繁夫;永倉栄一;阿守勇介;八嶋光湖;山本沙織. 要支援・要介護高齢者における 3 分間パネル運動の有効性の検討. 教育医学 2008 ; 54(1): 94-95.
ID=2009006083 (会議録)
石原将行;佐藤正裕;津久井恵利;虻川祐子;太附広明. 当院における転倒予防教室への理学療法士の関わり 相模原市地域介護予防教室の一環として. 日本農村医学会雑誌 2008 ; 57(3): 490.

ID=2009006014 (会議録)
南部泰士;桐原優子;月澤恵子;石成誠子;長澤邦雄;佐々木司郎;荻原忠;林雅人. 特定高齢者の現状と生活機能評価の問題点. 日本農村医学会雑誌 2008 ; 57(3): 421.
ID=2009006012 (会議録)
奥野純子;戸村成男;柳久子;薮下典子;深作貴子;清野諭;金美芝;大蔵倫博;田中喜代次. 特定高齢者を対象とした介護予防の運動器の機能向上にビタミン D 補充は有効か?. 日本農村医学会雑誌 2008 ; 57(3): 419.
ID=2009002110 (会議録)
木室ゆかり;森祥子;古賀明美;高野陽子;堀川悦夫;岡本京子. 特定高齢者に対する介護予防事業の効果の検討(第二報) 水中運動教室を実施して. 日本看護研究学会雑誌 2008 ; 31(3): 169.
ID=2008360668 (会議録)
亀井智子;梶井文子;山田艶子;川上千春;杉本知子. 看護大学のアウトリーチ実践による都市部在住高齢者のための転倒骨折予防体操教室の短期的効果とインパクト. 日本看護科学学会学術集会講演集 2007 ; 27回(): 400.
ID=2008333766 (会議録)
能勢博. インターバル速歩による生活習慣病・介護予防と評価 松本市熟年体育大学現状と将来. 理学療法学 2008 ; 35(Suppl.3): 24.
ID=2008328536 (会議録)
桂良寛;吉川貴仁;中雄勇人;鈴木崇士;上田真也;藤本繁夫;坂本弘;八木基之;門之園久雄. 高齢者の介護予防をめざした新しい水中運動プログラムの試み 水中抵抗用具を用いた下肢筋力とバランス機能の検証. 体力科学 2008 ; 57(3): 393.
ID=2008328501 (会議録)
宇良千秋;矢富直美;宮前史子. 7ヵ月後のウォーキング実行に対する講演会の影響. 老年社会科学 2008 ; 30(2): 359.
ID=2008328460 (会議録)
蝦名直美;遠藤忠;小野寺敦志;渡部宣子;川崎裕彰;長嶋紀一. 介護予防活動への参加と、高齢者の自己評価の変化に関する検討. 老年社会科学 2008 ; 30(2): 318.
ID=2008328432 (会議録)
植木章三;高戸仁郎;野村卓生;安村誠司. 対象者の健康度や地域資源の充足度に対応した運動器の機能向上プログラムモデルの検討. 老年社会科学 2008 ; 30(2): 290.
ID=2008328431 (会議録)
野村卓生;菅野伸樹;長野聖;高戸仁郎;植木章三;柳尚夫;菊地臣一;安村誠司. 太極拳を取り入れた体操の開発と特定高齢者に対する介護予防効果. 老年社会科学 2008 ; 30(2): 289.

ID=2008309077 (会議録)
内藤久士. スポーツロジからの生活習慣病・介護予防のアプローチ アスリート遺伝子からみた一般高齢者の筋機能 介護予防への応用可能性. 日本抗加齢医学会総会プログラム・抄録集 2008 ; 8 回(): 97.
ID=2008309076 (会議録)
澤田亨. スポーツロジからの生活習慣病・介護予防のアプローチ 体力と生活習慣病に関する運動疫学研究 (東京ガス・スタディー). 日本抗加齢医学会総会プログラム・抄録集 2008 ; 8 回(): 97.
ID=2008309075 (会議録)
白澤卓二;青木晃;中尾和子. スポーツロジからの生活習慣病・介護予防のアプローチ バランスボールを用いたメタボ予防プログラムの開発. 日本抗加齢医学会総会プログラム・抄録集 2008 ; 8 回(): 96.
ID=2008309074 (会議録)
島田和典;大西朋;深尾宏祐;比企誠;正木克由規;住吉克彦;井上奈穂;代田浩之. スポーツロジからの生活習慣病・介護予防のアプローチ 心血管疾患の予防と治療のためのスポーツロジ研究. 日本抗加齢医学会総会プログラム・抄録集 2008 ; 8 回(): 96.
ID=2008286086 (会議録)
河本耕一;高橋修一郎;山永裕明. 包括的地域ケアサポートシステムにおける運動器機能向上に関する取り組み 元気高齢者から施設入所利用者までの包括的介護予防. リハビリテーションスポーツ 2008 ; 27(1): 19-20.
ID=2008285740 (会議録)
梅田のり子. 介護予防体操への道筋. 東京都福祉保健医療学会誌 2007 ; 平成 19 年度(誌上発表): 304-305.
ID=2008262114 (会議録)
吉田英世;鈴木隆雄. 地域在住高齢者を対象にしたビタミン D と骨密度との関係. Osteoporosis Japan 2007 ; 15(Suppl.1): 190.
ID=2008257016 (会議録)
片岡幸美;山中主範;松井正昭;田中克昭;木村咲香;秦紘. 当事業所における介護予防通所リハビリテーションの「運動器の機能向上」の取り組みについて. 三重県理学療法学会 2008 ; 19 回(): 13-14.
ID=2008257015 (会議録)
今村厚美;松浦聖;白石成明. 四日市市における特定高齢者への理学療法士のかかわり. 三重県理学療法学会 2008 ; 19 回(): 11-12.
ID=2008256774 (会議録)
山本圭彦;坂光徹彦;山根寛司;宮崎孝広;福原千史;浦辺幸夫. 特定高齢者介護予防事業における転倒予防プログラムの効果. 運動療法と物理療法 2008 ; 19(2): 131.

ID=2008251313 (会議録)
獅々堀彊;森口靖子;横川絹恵;人見裕江;吉本知恵;一原由美子. 高齢者の介護予防・介護のための機器 使用済乗用車のシートを脚運動支援機能付き椅子および車椅子に活用する試み. 生活支援工学系学会連合大会講演予稿集 2007 ; 5 回(): 203.
ID=2008250307 (会議録)
許表楷. 自治体と共同で行った転倒予防教室(第 2 報). The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine 2008 ; 45(Suppl.): S429.
ID=2008249878 (会議録)
平田総一郎. 地域在住高齢者に対する歩行支援プログラム(第 2 報). The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine 2008 ; 45(Suppl.): S267.
ID=2008249877 (会議録)
川手信行;飯島伸介;吉岡尚美;小野玄;諸富伸夫;依田光正;水間正澄. 品川区介護予防事業「身近でリハビリテーション」の日常生活活動量への効果の検討. The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine 2008 ; 45(Suppl.): S267.
ID=2008249505 (会議録)
久野譜也. 高齢化社会における QOL 向上の方策 地域連携システムの構築に果たすリハビリテーションの役割 IT を利用した e-wellness による地域介護予防システムの成果と課題. The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine 2008 ; 45(Suppl.): S96.
ID=2008235415 (会議録)
山本忠芳;久松忠男;磯山朝子;島津美保子;野村和江. 運動が歩行能力とバランス能力に与える影響. いばらき医療福祉研究集会記録集 2008 ; 20 回(): 78.
ID=2008229016 (会議録)
柳田昌彦;交野好子. 福井県民の介護予防を目的とした楽しい集団的運動機能向上トレーニングの開発. 北陸と公衆衛生 2007 ; (53): 21.
ID=2008226812 (会議録)
柳田昌彦;交野好子;櫻井陽子. 福井県勝山市の地域支援事業における「ふくいイッチョライダンベル体操」の介護予防効果. 北陸公衆衛生学会誌 2007 ; 34(学会特集): 39.
ID=2008222503 (会議録)
元井康弘;佐藤由布子;中村尚人;橋田潤. 介護予防事業における利用者の身体機能の追跡. 理学療法学 2008 ; 35(Suppl.2): 850.
ID=2008222502 (会議録)
吉田大輔;中垣内真樹;井口茂;松坂誠應. 運動器機能向上事業で利用できる体力年齢推定式の作成. 理学療法学 2008 ; 35(Suppl.2): 850.

ID=2008222499 (会議録)
齋藤弘;辻正純;小野和恵;高田治実;江口英範;奥壽朗;石垣栄司;坂本雄;甲斐みどり;塩田紀章;神田太郎;榎本康子;内田学;渡邊敦由;吉葉則和. 当施設における地域支援事業終了後の参加者の動向 高齢者筋力向上トレーニング後の運動施設利用状況. 理学療法学 2008 ; 35(Suppl.2): 848.
ID=2008222498 (会議録)
藤尾哲也;細川明日香;栗林徹;小原朋子. 介護予防高齢者筋力向上トレーニング事業の実施報告 体力測定結果による効果判定. 理学療法学 2008 ; 35(Suppl.2): 848.
ID=2008222496 (会議録)
広瀬好郎;前田真治. 地域転倒予防教室における老年症候群と転倒リスク保有との関連について. 理学療法学 2008 ; 35(Suppl.2): 847.
ID=2008222490 (会議録)
河野奈美;赤藤祥子. 自己身体認識と姿勢改善を目的とした運動プログラムの効果に関する研究. 理学療法学 2008 ; 35(Suppl.2): 844.
ID=2008222487 (会議録)
大西康平;濱田和範;河野博史. 徳島県吉野川市地域支援事業『パワーデイ』の紹介. 理学療法学 2008 ; 35(Suppl.2): 842.
ID=2008222485 (会議録)
槌田義美;河崎靖範;河津弘二;本田ゆかり;大田幸治;緒方美湖;太田晶子;富岡勇貴;吉川桂代;四丸美保;須崎基美;山鹿眞紀夫;古閑博明. 介護予防体操開発と効果検証を支援して. 理学療法学 2008 ; 35(Suppl.2): 841.
ID=2008222482 (会議録)
仲貴子;島田裕之;平田崇;菊池敬士郎;遠藤洋介;安原謙;島田圭;井土哲也;保家茂則;及川清志;鈴木隆雄. 地域在住高齢者に対する歩行アシストロボット使用によるウォーキングエクササイズ介入の影響. 理学療法学 2008 ; 35(Suppl.2): 840.
ID=2008222030 (会議録)
宮原拓也;磯崎弘司;加藤宗規;坂上昇;森山英樹;須永康代;細田多穂. 転倒から見た特定高齢者選定の妥当性と特定高齢者の特性. 理学療法学 2008 ; 35(Suppl.2): 614.
ID=2008222025 (会議録)
遠藤敏;安部井聡;森本はつき;増田基嘉. 地域支援事業における体力測定について. 理学療法学 2008 ; 35(Suppl.2): 611.
ID=2008222022 (会議録)
金指巖;武田士郎;山本美和;岡島直子. 一般高齢者への映像媒体を活用した介護予防の効果について. 理学療法学 2008 ; 35(Suppl.2): 610.

ID=2008222021 (会議録)
長住達樹;堀江淳;小松洋平. 運動の習慣化を目的とした介護予防教室の取り組み. 理学療法学 2008 ; 35(Suppl.2): 609.
ID=2008221745 (会議録)
野見山真人;小柳靖裕;岩坂敏彦;黒山荘太;松永裕也;吉塚淳. 介護予防事業における簡便な足関節制御の評価法の開発. 理学療法学 2008 ; 35(Suppl.2): 471.
ID=2008221611 (会議録)
藤原映美;高野吉朗;齊場三十四. 地域在住高齢者の QOL と体力測定との関連性. 理学療法学 2008 ; 35(Suppl.2): 404.
ID=2008221609 (会議録)
喜多崇致;金ヶ江光生;松藤晶子;志岐哲也;釜崎敏彦;水上諭;太田大作;渡辺進. 地域在住高齢者における身体活動量と身体機能との関連. 理学療法学 2008 ; 35(Suppl.2): 403.
ID=2008221608 (会議録)
伊藤滋唯;森島健;大津昌弘;青木いつみ;西田恭子;池田恵;吉澤隆治;黒川健次郎;小鷹順子;渡辺栄子; 南波知春. 在宅高齢者の生活活動量を規定する要因(第 2 報). 理学療法学 2008 ; 35(Suppl.2): 403.
ID=2008221597 (会議録)
大谷知晃;諸角一記;杉本淳;西谷拓也;市川富啓;青木賢宏;藤原孝之. 介護予防事業参加者抽出方法の検証 当院実施の基本健診、体力測定の現場から. 理学療法学 2008 ; 35(Suppl.2): 397.
ID=2008221596 (会議録)
内田武. 運動指導方法と心身機能の変化. 理学療法学 2008 ; 35(Suppl.2): 397.
ID=2008221595 (会議録)
島俊也;岩本久生;金澤浩;出口直樹;吉田和代;亀井聡美;千原知美;白川泰山. 当院における介護予防の取り組み 元気向上プロジェクト. 理学療法学 2008 ; 35(Suppl.2): 396.
ID=2008221592 (会議録)
滝本幸治;宮本謙三;竹林秀晃;井上佳和;宅間豊;宮本祥子;岡部孝生. 体力測定値の得点化による高齢者運動教室の効果検証 効果に影響を及ぼした要因を踏まえて. 理学療法学 2008 ; 35(Suppl.2): 395.
ID=2008221591 (会議録)
柳瀬克典;石橋信志;奥田直也;宮森奈津子;牧野三佳子;五十嵐聡巳;徳田裕;高野隆. 運動器介護予防の介入効果について 筋力トレーニングマシンを使用しない運動での 3 ヶ月効果 検討. 理学療法学 2008 ; 35(Suppl.2): 394.

ID=2008221448 (会議録)
小林量作;山本智章. 一般高齢者における転倒リスクと骨粗鬆症患者 QOL 評価簡略質問票の関連. 理学療法学 2008 ; 35(Suppl.2): 323.
ID=2008221341 (会議録)
山田実;河内崇;小野玲. 転倒リスク評価としての Trail walking test の有用性 特定高齢者における検討. 理学療法学 2008 ; 35(Suppl.2): 269.
ID=2008221195 (会議録)
堀秀昭;藤本昭;山崎美帆;伊藤のぞみ;大谷浩樹;小林康孝;林正岳. 高齢者スポーツ別の身体機能調査. 理学療法学 2008 ; 35(Suppl.2): 196.
ID=2008221167 (会議録)
山城緑;豊田平介;山本紘靖;新美英里;東村幸枝;山崎美保;金枝芳明;坂本真一;藤田康孝;工藤考記. 運動器の機能向上教室における当院リハビリテーション科の取り組み. 理学療法学 2008 ; 35(Suppl.2): 182.
ID=2008221165 (会議録)
小塚典子;田中康之. 当市における特定高齢者運動器機能向上事業の取り組みについて. 理学療法学 2008 ; 35(Suppl.2): 181.
ID=2008220838 (会議録)
大淵修一;渡辺修一郎;古名丈人;長澤弘;柴喜崇;新井武志;小島基永. ランダム化比較試験(RCT)による理学療法介入のエビデンス 多施設大規模無作為化比較対照試験による、筋力向上トレーニングの効果について. 理学療法学 2008 ; 35(Suppl.2): 3.
ID=2008175278 (会議録)
大淵修一. ランダム化比較試験(RCT)による理学療法介入のエビデンス 多施設大規模無作為化比較対照試験による、筋力向上トレーニングの効果について. 理学療法学 2008 ; 35(Suppl.1): 32.
ID=2008172448 (会議録)
田井中幸司;青木純一郎. 特定高齢者に対する運動指導の効果. 体力科学 2007 ; 56(6): 852.
ID=2008172400 (会議録)
富山直輝;小泉大亮;李成哲;那須英里子;長谷川龍一;竹島伸生. 運動方法の違いによるゴムバンド運動の効果. 体力科学 2007 ; 56(6): 828.
ID=2008172354 (会議録)
茨島朋子;三本木温;渡辺英次. 階上町における運動指導事業を通じた健康づくり支援の効果. 体力科学 2007 ; 56(6): 799.

ID=2008172352 (会議録)
山内賢;秋葉茂季. 介護予防策としての健康増進プログラムの立案 地域包括支援事業への提案. 体力科学 2007 ; 56(6): 798.
ID=2008172344 (会議録)
河本耕一;高橋修一郎;井福裕俊. 介護予防教室の回数と自宅でのトレーニング頻度が転倒予防効果に及ぼす影響. 体力科学 2007 ; 56(6): 794.
ID=2008172338 (会議録)
大曾彰子;藤本貴大;勝田仁康;田中章慈;本山貢. 介護予防を目的とした効果的な運動プログラムの検討. 体力科学 2007 ; 56(6): 791.
ID=2008172318 (会議録)
梅田陽子;林達也;森谷敏夫. 椅子座位から立位へ段階的に強度を上げた介護予防事業における運動教室の効果について. 体力科学 2007 ; 56(6): 781.
ID=2008172250 (会議録)
藤本貴大;大曾彰子;上田耕臣;本山貢. 介護予防のための運動プログラムが大腰筋容積に及ぼす効果について. 体力科学 2007 ; 56(6): 745.
ID=2008165009 (会議録)
伊藤香奈子;市川彰;井出直美. 地域支援事業への PT の関わり 評価と運動指導を通じて. 理学療法研究・長野 2008 ; (36): 78-79.
ID=2008164993 (会議録)
安藤彰吾;小宮山恵美;館陽平. 当町介護予防事業における PT/OT の関わり 病院から介護保険事業所に関することの意義. 理学療法研究・長野 2008 ; (36): 34-35.
ID=2008159474 (会議録)
丹羽敦;大庭潤平;早坂友成;矢倉千昭. 「介護予防事業」における QOL 向上を目指した運動器機能向上プログラムの成果. 国際医療福祉大学紀要 2008 ; 12(2): 140-141.
ID=2008154437 (会議録)
村上美由紀;大田晴美;佐藤有美;竹田紫野;内海敬子;佐藤妙子;高岡未来子;山内香織;国友明美;大浦秀子. 介護予防事業について考える 介護予防健診と高齢者運動機能向上トレーニング事業を試みて. 地域医療 2007 ; (第 46 回特集): 1006-1009.
ID=2008154251 (会議録)
山本真由美;山本直子;葛原誠人. 土庄町における転倒予防教室の取り組み 実践を通して教室のあり方を考える. 地域医療 2007 ; (第 46 回特集): 449-452.

ID=2008154250 (会議録)
葛原誠人;山本直子;山本真由美. 転倒予防教室を動機付けとした定期的な運動習慣が高齢者に及ぼす短期的効果. 地域医療 2007 ; (第 46 回特集): 447-449.
ID=2008147986 (会議録)
富山直輝;片山妙恵;長谷川龍一. 地域型運動教室終了後の運動継続に関する調査 運動に対するイメージとの関連について. 日本作業療法学会抄録集 2006 ; 40 回(): P236.
ID=2008127752 (会議録)
滝本幸治;宮本謙三;竹林秀晃;井上佳和;宅間豊;岡部孝生. 介護予防を目的とした運動教室の効果検証 体力標準値作成及び体力測定値の総合得点化による方法を用いて. 体力科学 2007 ; 56(5): 541.
ID=2008125471 (会議録)
久野譜也. 生活機能病予防としての筋力トレーニングの重要性 EBH に基づく評価・指導システムの構築. Osteoporosis Japan 2008 ; 16(1): 87.
ID=2008100879 (会議録)
大宮司貴子;木村八重子;八木真由美;小山一郎;木村志緒;酒元誠治. 介護予防に関する介入研究(第 2 報) ハイカロリー飲料による運動指標の改善効果. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2007 ; 66 回(): 617.
ID=2008100596 (会議録)
植木章三;河西敏幸;高戸仁郎;犬塚剛;本田春彦;串間敦郎;春日井淳夫;小笠原正志;芳賀博. 介護予防を目的とした運動教室のプログラムと開催頻度の違いが身体機能に与える影響. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2007 ; 66 回(): 532.
ID=2008100590 (会議録)
野村卓生;長野聖;菅野伸樹;鈴木直子;安村誠司. 地域支援事業対象者への「太極拳を取り入れた体操」を用いた介護予防効果の予備検証. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2007 ; 66 回(): 530-531.
ID=2008100589 (会議録)
迫田芳生;上土井まゆみ;松尾洋. 虚弱な高齢者向けの介護予防体操「いすに座ってできるきくちゃん体操」の効果検証. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2007 ; 66 回(): 530.
ID=2008100588 (会議録)
柳田昌彦;羽川尚宏;大枝薫;廣部すみえ. 福井県 T 市の地域支援事業における「ふくいイッチョライダンベル体操」の介護予防効果. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2007 ; 66 回(): 530.
ID=2008100587 (会議録)
松本侑子;大淵修一;小島基永;新井武志;竹本朋代;岡浩一郎. 介護予防における運動器の機能向上プログラム研修の開発とその評価. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2007 ; 66 回(): 530.

ID=2008100586 (会議録)
太田暁美;原田和弘;柴田愛;岡浩一郎;中村好男. 虚弱高齢者における5回椅子立ち座りテストと心理尺度との関係. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2007 ; 66 回(): 529-530.
ID=2008100585 (会議録)
原田和弘;太田暁美;柴田愛;岡浩一郎;中村好男. 虚弱高齢者の身体活動・運動場面での使用を目的とした QOL 尺度の開発. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2007 ; 66 回(): 529.
ID=2008100581 (会議録)
藤田久美子;山瀬智美;徳茂久美子;佐竹恵治;金澤奈緒美;田頭正一;竹村慎二;村上猛. 介護予防筋力トレーニング事業の介護時間の改善に対する効果. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2007 ; 66 回(): 528.
ID=2008100579 (会議録)
後藤順子;松田悦子. 介護予防体操の介入と効果. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2007 ; 66 回(): 528.
ID=2008100578 (会議録)
森裕子;金田麻里子;山田拓実. 特定・新予防給付高齢者向けプログラム荒川せらばん体操の開発と技術支援の取り組み. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2007 ; 66 回(): 527-528.
ID=2008100577 (会議録)
山田拓実;森裕子;金田麻里子. 特定・新予防給付高齢者向けプログラム荒川せらばん体操の多施設で実施した効果. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2007 ; 66 回(): 527.
ID=2008100575 (会議録)
杉山真澄;永田順子;久保田晃生. 介護予防教室等における事故や脱落に関する調査研究. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2007 ; 66 回(): 527.
ID=2008100571 (会議録)
串間敦郎;植木章三;春日井淳夫;小笠原正志;河西敏幸;高戸仁郎;犬塚剛;本田春彦;芳賀博. 地域における転倒予防体操と高齢者向け介護予防運動プログラムの開発. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2007 ; 66 回(): 526.
ID=2008100568 (会議録)
能村友紀;二木淑子. 地域高齢者の転倒恐怖感による活動制限に影響を及ぼす要因. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2007 ; 66 回(): 525.
ID=2008100567 (会議録)
高戸仁郎;植木章三;野村卓生;安村誠司. 転倒骨折予防教室、IADL 訓練、筋力向上トレーニングなど介護予防事業の類型化(第二報). 日本公衆衛生学会総会抄録集 2007 ; 66 回(): 525.

ID=2008100566 (会議録)
村田伸;大山美智江;大田尾浩;村田潤;豊田謙二. 前期・後期高齢者の運動習慣が身体・認知・心理機能に及ぼす影響. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2007 ; 66 回(): 524.
ID=2008100441 (会議録)
名畑節子;柳本有二. 歩数計を活用した介護予防の取り組みについて. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2007 ; 66 回(): 492.
ID=2008100433 (会議録)
坂田悍教;土居通哉;細川武;岡本順子;小牧宏一;五味敏昭;柳川洋. 介護予防における生活機能と地域在住高齢者の体力. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2007 ; 66 回(): 490.
ID=2008100428 (会議録)
浅井英典;下田優也;矢野映子. 特定高齢者の運動教室参加前後の日常生活状況の変化に関する検討. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2007 ; 66 回(): 488.
ID=2008100417 (会議録)
岡村太郎;田辺直仁;古西勇;竹下安希子;篠田邦彦;関奈緒;鈴木宏. 作業・理学療法士の在宅訪問による転倒予防のための生活・環境改善対策の試み. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2007 ; 66 回(): 485-486.
ID=2008099805 (会議録)
稲垣敦;桜井礼子;影山隆之;平野互;品川佳満;高波利恵;草間朋子. 介護予防のために基本健診時に相応しい体力テストは何か?. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2007 ; 66 回(): 305.
ID=2008099685 (会議録)
吉田祐子;岩佐一;吉田英世;熊谷修;鈴木隆雄. 地域在住高齢者における身体機能の変化と運動習慣との関連. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2007 ; 66 回(): 269.
ID=2008072404 (会議録)
原田敦. 転倒と転倒骨折の予防. 日本職業・災害医学会会誌 2007 ; 55(臨増): 別 131.
ID=2008030441 (会議録)
寺門厚彦;長岡正範. 高齢者筋力向上トレーニング参加者の QOL 評価. 日本臨床スポーツ医学会誌 2007;15(4): S156.
ID=2008028284 (会議録)
牧田光代. 介護予防事業利用者半年間の運動機能変化. 日本健康医学会雑誌 2007 ; 16(3): 38-39.

ID=2008015971 (会議録)
高橋美幸;磯毅彦;山下淳一. 転倒予防教室における運動継続に関する調査. 東海北陸理学療法学会誌 2007 ; 23 回(): 63.
ID=2008003081 (会議録)
木室ゆかり;森祥子;古賀明美;高野陽子;堀川悦夫;岡本京子. 特定高齢者に対する介護予防事業の効果の検討(第一報) 水中運動教室を実施して. 日本看護研究学会雑誌 2007 ; 30(3): 124.
ID=2007331274 (会議録)
小島真二;汪達紘;坂野紀子;徳森公彦;荻野景規. 地域保健事業における高齢者の運動指導の効果と課題 自験例の評価. 体力・栄養・免疫学雑誌 2006 ; 16(2): 120-122.
ID=2007330453 (会議録)
加藤潤一;広瀬洋;中根康雄;高井國之;関谷日登美;渡辺郁雄. 高齢者要介護予防教室における運動指導の意義 運動・健康に対する意識の変化について. 岐阜県医師会医学雑誌 2007 ; 200: 137.
ID=2007325397 (会議録)
山津幸司;東保子;中江悟司;千葉仁志;石井好二郎. 歩数計とステップ運動を用いた在宅運動と健康教室併用プログラムが高齢者の介護予防に及ぼす影響. 体力科学 2007 ; 56(4): 446.
ID=2007318858 (会議録)
柳田昌彦;多田信彦. 福井県における楽しい集団的介護予防体操「ふくいイッチョライダンベル体操」の創作 動作の筋電図解析、エネルギー消費量および主観的運動強度. 体力科学 2007 ; 56(3): 381.
ID=2007318623 (会議録)
宮野伊知郎;西永正典;高田淳;清水祐司;奥宮清人;松林公蔵;安田誠史;土居義典. 高齢者介護予防健診における Up&Go テストの有用性についての検討 地域在住高齢者における検討. 日本老年医学会雑誌 2007 ; 44(Suppl.): 130.
ID=2007318549 (会議録)
村上英之;浦信行;島本和明. 高齢者運動機能とメタボリックシンドローム. 日本老年医学会雑誌 2007 ; 44(Suppl.): 111.
ID=2007318544 (会議録)
小嶋麻悠子;小野玲. 高齢者における靴の適合性の歩行への影響. 日本老年医学会雑誌 2007 ; 44(Suppl.): 110.
ID=2007318543 (会議録)
大河内二郎. 自立高齢者に対する介護予防プログラムの転倒および介護予防プログラムの長期効果. 日本老年医学会雑誌 2007 ; 44(Suppl.): 110.

ID=2007318541 (会議録)
宮野伊知郎;櫻井章吾;西永正典;高田淳;清水祐司;桐野智江;奥宮清人;松林公蔵;安田誠史;土居義典. 高齢者介護予防健診における Up&Go テストの1年後再検の意義 地域在住高齢者における検討. 日本老年医学会雑誌 2007 ; 44(Suppl.): 109.
ID=2007318490 (会議録)
浜達哉;堰免雄一;井上慎一郎;山田思鶴;山口潔;秋下雅弘;大内尉義;神崎恒一;鳥羽研二. 特定高齢者における転倒予防プログラムへの参加希望と問題点. 日本老年医学会雑誌 2007 ; 44(Suppl.): 96.
ID=2007318378 (会議録)
神崎恒一;鳥羽研二;小川純人;秋下雅弘;大内尉義;浜達哉;山田思鶴. 地域在住高齢者における運動の効果. 日本老年医学会雑誌 2007 ; 44(Suppl.): 68.
ID=2007318216 (会議録)
林泰史. 高齢者の転倒防止. 日本老年医学会雑誌 2007 ; 44(Suppl.): 23.
ID=2007318194 (会議録)
大川弥生. 介護予防の老年医学:介護予防の現状 介護予防と廃用症候群. 日本老年医学会雑誌 2007 ; 44(Suppl.): 16.
ID=2007315461 (会議録)
辻下守弘;鶴見隆正;川村博文;菅原憲一;田辺暁人. 行動変容法を用いた転倒予防教室の効果. The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine 2007 ; 44(Suppl.): S562.
ID=2007315460 (会議録)
許表楷. 自治体と共同で行った転倒予防教室. The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine 2007 ; 44(Suppl.): S561.
ID=2007314939 (会議録)
平田総一郎. 歩行支援プログラムは地域在住者の歩行を支援し、健康関連 QOL を向上させるのか?. The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine 2007 ; 44(Suppl.): S340.
ID=2007314938 (会議録)
寺門厚彦;長岡正範;林明人;林康子. 高齢者筋力向上トレーニング参加者の QOL 評価. The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine 2007 ; 44(Suppl.): S339.
ID=2007314629 (会議録)
石田健司;永野靖典;下保訓伸;明神亮博;居相浩之;田辺暁人;谷口慎一郎;川崎元敬;廣瀬大祐;谷俊一. 骨関節疾患のリハビリテーション 高齢者運動機能維持への取り組み 地域リハビリテーション への IT 通信の導入の意義. The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine 2007 ; 44(Suppl.): S153.

ID=2007314627 (会議録)
高杉紳一郎. 骨関節疾患のリハビリテーション 高齢者運動機能維持への取り組み 太極拳やゲーム機など地域資源を活用した介護予防. <i>The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine</i> 2007 ; 44(Suppl.): S151.
ID=2007314626 (会議録)
大淵修一. 骨関節疾患のリハビリテーション 高齢者運動機能維持への取り組み 介護予防を目的とした運動機能向上への取り組み(包括的高齢者運動トレーニングとその効果). <i>The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine</i> 2007 ; 44(Suppl.): S150.
ID=2007311388 (会議録)
杉本由利子;西山知宏;矢野純子;居林晴久;松田晋哉. 介護予防の一手法としてのマシンを用いた筋力向上プログラムの有効性について. <i>日本公衆衛生学会総会抄録集</i> 2005 ; 64 回(): 839.
ID=2007311375 (会議録)
伊藤マモル;古川歌子;中田まゆみ. 町田市介護予防モデル構築のための研究(第 1 報) 運動指導に対する意識改革を目指して. <i>日本公衆衛生学会総会抄録集</i> 2005 ; 64 回(): 833.
ID=2007311362 (会議録)
菅野伸樹;安村誠司;若林章都;松崎裕美;佐藤順子. 太極拳による介護予防教室の有効性の評価 体力測定および重心動揺の要因の検討. <i>日本公衆衛生学会総会抄録集</i> 2005 ; 64 回(): 826.
ID=2007311296 (会議録)
島田裕之;大淵修一;吉田英世;金憲経;古名丈人;杉浦美穂;吉田祐子;平野浩彦;鈴木隆雄. Sarcopenia の指標の検討 高齢者の骨格筋量および筋力と身体機能低下との関係. <i>日本公衆衛生学会総会抄録集</i> 2005 ; 64 回(): 793.
ID=2007311257 (会議録)
佐竹恵治;金澤奈緒美;竹村慎二;藤田久美子;山瀬智美;森田憲輝;沖田孝一;西島宏隆. 要介護高齢者に対する漸増筋力トレーニングの介護予防効果 無作為化比較対照試験. <i>日本公衆衛生学会総会抄録集</i> 2005 ; 64 回(): 774.
ID=2007311233 (会議録)
種田行男;北嶋義典. 膝 OA 高齢者の膝痛緩和による介護予防を目的とした運動プログラムの開発. <i>日本公衆衛生学会総会抄録集</i> 2005 ; 64 回(): 762.
ID=2007311219 (会議録)
石川裕哲;早瀬須美子;後藤恵子;武隈清;津下一代. 虚弱高齢者を対象とした 2 種類の運動プログラムによる介入効果の比較. <i>日本公衆衛生学会総会抄録集</i> 2005 ; 64 回(): 755.
ID=2007310556 (会議録)
近成久美子;中西園弓;寺添千恵子;鈴木まき;増田伸子;石濱信之;北村純. 地域における運動習慣定着の試み 健康御師養成から介護予防へ. <i>日本公衆衛生学会総会抄録集</i> 2005 ; 64 回(): 404.

ID=2007305206 (会議録)
岡本かおり;堀田邦子;田中仁. 介護予防における筋力増強を目的とした集団訓練の効果について. 日本健康教育学会誌 2007 ; 15(Suppl.): 58-59.
ID=2007273739 (会議録)
李恩兒;秋山由里;中村好男. 地域高齢者と行政が連携した介護予防運動実践ボランティア活動について 埼玉県狭山市の事例からみた問題点と展望. 老年社会科学 2007 ; 29(2): 267.
ID=2007273707 (会議録)
北澤一利;大島寿美子;田辺毅彦. 「ふまねっと運動プログラム」の新しい理念と今日的利用価値について. 老年社会科学 2007 ; 29(2): 235.
ID=2007273669 (会議録)
植木章三;河西敏幸;高戸仁郎;犬塚剛;本田春彦;芳賀博;安村誠司;安田誠史. 運動器の機能向上プログラム該当者を判定するための簡易運動機能測定指標 長座位立ち上がり時間による判定基準値の提案. 老年社会科学 2007 ; 29(2): 196.
ID=2007270604 (会議録)
岡田真平. 骨粗鬆症と転倒予防 転倒予防のスクリーニングと啓発のための地域ぐるみの取り組み. Osteoporosis Japan 2006 ; 14(Suppl.1): 94.
ID=2007211248 (会議録)
竹田伊希子. 「運動器機能向上」講習会の試み. 東海北陸理学療法学会誌 2006 ; 22 回(): 215.
ID=2007211235 (会議録)
関艶子;明星隆希;高山文博;芦田勝文;倉田ひとみ. 高齢者筋力向上トレーニング事業の効果について. 東海北陸理学療法学会誌 2006 ; 22 回(): 202.
ID=2007210535 (会議録)
春原博;大竹繁;池田達則;細野昇;加藤一也;三谷誉. 運動メニューの策定について. 柔道整復・接骨医学 2007 ; 15(3): 207.
ID=2007209411 (会議録)
柳田昌彦;交野好子. 福井県民の介護予防を目的とした楽しい集団的運動機能向上トレーニングの開発. 北陸公衆衛生学会誌 2006 ; 33(学会特集): 8.
ID=2007209307 (会議録)
堰免雄一;浜達哉;山田思鶴;山口潔;神崎恒一;秋下雅弘;大内尉義;鳥羽研二. 地域在住高齢者における転倒リスクと介護予防の実態について(第 1 報). 日本老年医学会雑誌 2007 ; 44(2): 275.

ID=2007199599 (会議録)
山本精三;石橋英明;穴水依人;村木重之;今井一博. 高齢者運動器障害者の運動機能とその治療 高齢者大腿骨頸部骨折術後患者の機能予後. 日本整形 外科スポーツ医学会雑誌 2007 ; 27(1): 25.
ID=2007196679 (会議録)
木下智子;中子和恵;市東康之;品川靖子;千葉祥子;井上貴美枝;篠原和子;平澤恵美. 高齢者における運動の習慣化を目指した地域での取り組み. 東京都福祉保健医療学会誌 2006 ; 平成 18 年度(誌上発表): 270-271.
ID=2007196660 (会議録)
石崎韶;深石直之;中村繁雄. 介護予防運動 DVD「いきいき体操」の制作及びその活用について. 東京都福祉保健医療学会誌 2006 ; 平成 18 年度(誌上発表): 232-233.
ID=2007196646 (会議録)
近藤美智代;森倉三男;櫻井恵三子;井上富美子;笹井俊彦;寺田勇人;大井照. 健康あっぷパワーリハビリテーションの身体機能の効果について. 東京都福祉保健医療学会誌 2006 ; 平成 18 年度(誌上発表): 204-205.
ID=2007186179 (会議録)
小林量作;園田裕久;姉崎静記;武藤圭子. 一般高齢者・虚弱高齢者に対する「転倒予防 10 種(自主)運動」の効果. 理学療法学 2007 ; 34(Suppl.2): 599.
ID=2007186064 (会議録)
足立景子;木村亜紗子;小谷麻耶;有賀裕記;大田仁史. シルバーリハビリ体操指導士養成事業の現状と課題 PT の視点から. 理学療法学 2007 ; 34(Suppl.2): 542.
ID=2007186061 (会議録)
坂本親宣;浦上遊子;中藤佳絵;橋元隆;石橋敏郎;堤文生;福田聖子;諸富真理;大丸幸;宮永敬市. リハウオーキング教室による身体機能向上の検証. 理学療法学 2007 ; 34(Suppl.2): 540.
ID=2007186059 (会議録)
分木ひとみ;寄本明. 高齢者に対する 1 年間の低強度・低頻度運動介入効果. 理学療法学 2007 ; 34(Suppl.2): 539.
ID=2007186057 (会議録)
市原靖子;能勢博;源野広和. インターバル速歩トレーニングの介護予防への応用. 理学療法学 2007 ; 34(Suppl.2): 538.
ID=2007185648 (会議録)
多田利信;伊橋光二;原田順二. 介護予防対象者の快適・最大歩行速度決定因子について. 理学療法学 2007 ; 34(Suppl.2): 334.

ID=2007185622 (会議録)
仲貴子;山田拓実;金子誠喜;島田裕之;鈴木隆雄. 側対歩(ナンバ歩き)の運動力学的分析(第 5 報) 反復練習課題中の歩行比の変化. 理学療法学 2007 ; 34(Suppl.2): 321.
ID=2007185383 (会議録)
太田誉人;隆島研吾;庄司育代. 長期の運動機能向上プログラム継続による体力の変化について. 理学療法学 2007 ; 34(Suppl.2): 201.
ID=2007185375 (会議録)
小島肇;林謙司;吉川恵美子;柳田俊次;吉田創;脇野有里子;田中沙緒里;山田拓実. 障害高齢者の握力と 6 分間歩行距離の推移. 理学療法学 2007 ; 34(Suppl.2): 197.
ID=2007185374 (会議録)
堀秀昭;藤本昭;福谷保;大谷浩樹;竹内美帆;小林康孝;林正岳. 重心動揺及び足底圧から見た非機器使用介護予防プログラムの効果. 理学療法学 2007 ; 34(Suppl.2): 197.
ID=2007185369 (会議録)
吉野瑞得;目崎保. 転倒と片脚立位時間の関連性について. 理学療法学 2007 ; 34(Suppl.2): 194.
ID=2007185351 (会議録)
西川典男;辰巳俊宏;岩崎正和. 予防給付受給者における身体機能が要介護度に及ぼす影響. 理学療法学 2007 ; 34(Suppl.2): 185.
ID=2007185336 (会議録)
渡辺純;笹澤悦子;碓井由果;井艸明子;安田睦. ミニデイサービス・介護予防事業利用者の状況について. 理学療法学 2007 ; 34(Suppl.2): 178.
ID=2007185335 (会議録)
中島浩二;菊地千聖;齋藤大輔;中村信義;佐藤洋一;中澤好章. 介護予防事業(地域デイサービス)参加者の生活体力. 理学療法学 2007 ; 34(Suppl.2): 177.
ID=2007185325 (会議録)
滝本幸治;宮本謙三;竹林秀晃;井上佳和;宅間豊;宮本祥子;岡部孝生. 介護予防教室の効果検証 Timed Up & Go test に着目した検討. 理学療法学 2007 ; 34(Suppl.2): 172.
ID=2007185321 (会議録)
寺内歩;鈴木結;渡辺知子. 利用回数より本人のヤル気!! 介護予防通所リハビリテーションに移行した方の体力推移について. 理学療法学 2007 ; 34(Suppl.2): 170.

ID=2007185030 (会議録)
上村太一;野田隆行;松本秀子;渋谷祐子. 介護予防特定高齢者施策における運動器機能向上事業での活動報告 理学療法評価と、ADL 指導プログラムの必要性. 理学療法学 2007 ; 34(Suppl.2): 25.
ID=2007168427 (会議録)
石崎韶;篠原菖子. 介護予防プログラムへの利用者の参加意識について 面接聞き取りを中心に. 東京都福祉保健医療学会誌 2005 ; 平成 17 年度(): 374-375.
ID=2007163721 (会議録)
中谷敏昭. 運動と介護予防 よりよい介護予防に向けて スポーツ実践を目指しての介護予防活動 奈良県河合町豆筋クラブ. 体力科学 2007 ; 56(1): 47.
ID=2007163720 (会議録)
市橋則明. 運動と介護予防 よりよい介護予防に向けて 高齢者の運動機能とトレーニング. 体力科学 2007 ; 56(1): 46.
ID=2007163719 (会議録)
亀澤徹郎. 運動と介護予防 よりよい介護予防に向けて 地域支援事業の試行展開例と問題点. 体力科学 2007 ; 56(1): 45.
ID=2007163718 (会議録)
河合秀彦. 運動と介護予防 よりよい介護予防に向けて 介護予防の進め方と現場の考え方. 体力科学 2007 ; 56(1): 44.
ID=2007152026 (会議録)
徳森公彦;小島真二;坂野紀子;瀧川智子;汪達紘;荻野景規. 高齢者における転倒評価スケールの検討 転倒予防・易転倒性評価における全身反応時間測定の意義. 日本衛生学雑誌 2007 ; 62(2): 536.
ID=2007152018 (会議録)
池野多美子;久野紀子;吉岡英治;岸玲子. 介護予防を目的とした訪問の試み 介護予防訪問プロジェクト(1). 日本衛生学雑誌 2007 ; 62(2): 528.
ID=2007134300 (会議録)
山本美輪;和泉京子;中塘二三生;金谷志子;阿曾洋子. 女性高齢者の推定筋肉量と活動能力からみた介護予防の検討. 日本看護科学学会学術集会講演集 2006 ; 26 回(): 359.
ID=2007126265 (会議録)
後藤順子;神先秀人;赤塚清矢;佐藤寿晃;千葉登;藤井浩美;日下部明. 介護予防体操の主観的効果と家族への影響. 山形県公衆衛生学会講演集 2007 ; 33 回(): 101-102.

ID=2007126264 (会議録)
佐藤寿晃;千葉登;神先秀人;赤塚清矢;後藤順子;藤井浩美;日下部明. 介護予防体操の介入効果 上肢運動機能を中心にして. 山形県公衆衛生学会講演集 2007 ; 33 回 (): 99-100.
ID=2007126263 (会議録)
赤塚清矢;神先秀人;千葉登;佐藤寿晃;後藤順子;藤井浩美;日下部明. 介護予防体操の開発と介入効果. 山形県公衆衛生学会講演集 2007 ; 33 回(): 97-98.
ID=2007124197 (会議録)
村田伸. 高齢社会の健康支援 運動による介護予防事業の実態とその成果. 健康支援 2007 ; 9(1): 46-47.
ID=2007120052 (会議録)
三浦雅史. 介護予防筋力向上トレーニングにおけるトレーニング頻度がその効果に及ぼす影響. 体力科学 2006 ; 55(6): 904.
ID=2007120050 (会議録)
根木亨;川初清典. 高齢者に対する介護予防トレーニングの一施策について. 体力科学 2006 ; 55(6): 903.
ID=2007120049 (会議録)
安川生太;藤枝賢晴;水上健一;三浦剛士;斎藤雄大;並木貴之;安部久貴. 介護予防を目的とした電磁負荷式トレーニング・マシンの測定値の検討(2). 体力科学 2006 ; 55(6): 902.
ID=2007120047 (会議録)
齊藤雄大;三浦剛士;藤枝賢晴;並木貴之;水上健一;藤崎巖;瀬戸口祐剛. 介護予防を目的とした電磁負荷式トレーニング・マシンの測定値の検討. 体力科学 2006 ; 55(6): 900.
ID=2007119978 (会議録)
高橋健;山口幸雄;小川芳弘;田中歩;齋藤義信;鈴木清美;小堀悦孝. 高齢者に対する介護予防を目指した自重負荷トレーニングの効果について. 体力科学 2006 ; 55(6): 836.
ID=2007119956 (会議録)
中村信義;佐藤慎一郎;諸角一記;北畠義典;種田行男. 膝痛の軽減および自立能力の低下予防を目的とした地域リハビリテーション(介護予防)プログラ ムの開発(第 8 報) 準 WOMAC 痛み得点の臨床的に意味のある値. 体力科学 2006 ; 55(6): 813.
ID=2007119935 (会議録)
本山貢;大曾彰子;藤本貴大;西川智美. 介護予防における水中運動と陸上運動のトレーニング効果に関する研究. 体力科学 2006 ; 55(6): 794.

ID=2007119934 (会議録)
<p>本山貢;西川智美;藤本貴大;大曾彰子. 虚弱高齢者に対する体力向上トレーニングプログラムの効果について. 体力科学 2006 ; 55(6): 794.</p>
ID=2007119933 (会議録)
<p>藤本貴大;大曾彰子;本山貢. 「わかやまシニアエクササイズ」介入が以後の医療費に及ぼす影響. 体力科学 2006 ; 55(6): 793.</p>
ID=2007119928 (会議録)
<p>柳本有二;大下和茂;伊藤宏之;樫本俊兵;押田芳治. 高齢者福祉施設利用者における歩行状況と体力の関係および運動介入効果. 体力科学 2006 ; 55(6): 790.</p>
ID=2007119925 (会議録)
<p>柳田昌彦;多田信彦. 福井県版楽しい集団的介護予防体操の開発 「ふくいイッチョライダンベル体操」が中高年者の生体に及ぼす生理学的影響. 体力科学 2006 ; 55(6): 789.</p>
ID=2007119878 (会議録)
<p>岡山寧子;木村みさか. 介護予防を地域で支援するためのサポーター養成講座の試み. 体力科学 2006 ; 55(6): 734.</p>
ID=2007119877 (会議録)
<p>柴田愛;釜場栄直;勝木道夫;勝木建一. 高齢者における公衆浴場を利用した介護予防支援の効果. 体力科学 2006 ; 55(6): 734.</p>
ID=2007119875 (会議録)
<p>眞竹昭宏;佐藤広徳. 介護予防における高齢者の下肢筋力の測定とその評価について. 体力科学 2006 ; 55(6): 733.</p>
ID=2007116023 (会議録)
<p>高杉紳一郎. 介護予防時代とバランス機能訓練. Equilibrium Research 2006 ; 65(5): 380.</p>
ID=2007112349 (会議録)
<p>大石典史;年徳裕美;豊住寿明;竹元紀美代;押淵徹;真辺すみ子. 当院における転倒予防事業への関わり(第2報). 地域医療 2006 ; (第45回特集): 737-739.</p>
ID=2007112267 (会議録)
<p>高岡未来子;大田晴美;山中美由紀;佐藤有美;竹田柴野;内海敬子;桑田浩子;石田奈奈恵;山内香織;国友明美;大浦秀子. 介護予防事業について考える 転倒予防教室と筋力トレーニング事業を試みて. 地域医療 2006 ; (第45回特集): 486-489.</p>

ID=2007092985 (会議録)
熊谷修;渡邊里弥;芳賀博;植木章三;河西敏幸;高戸仁郎;犬塚剛;伊藤弓月;本田晴彦;安村誠司;新野直明. 食生活改善と運動推進活動からなる地域介護予防活動が食品摂取習慣に及ぼす効果. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2006 ; 65 回(): 810.
ID=2007092917 (会議録)
矢野純子;居林晴久;田中政幸;西山知宏;松田晋哉. 鹿児島県離島における高齢者の運動器の機能向上プログラムの実践. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2006 ; 65 回(): 776.
ID=2007092916 (会議録)
古賀真澄. 介護予防事業に於ける包括的プログラム開発とその評価 「お茶の間筋トレ」を元に. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2006 ; 65 回(): 775.
ID=2007092912 (会議録)
松本たか子;吉田あき子;蜂谷幸夫. エアロビックダンスによる介護予防(2) 高齢指導者による介護予防事業の有用性. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2006 ; 65 回(): 773.
ID=2007092911 (会議録)
吉田あき子;松本たか子;蜂谷幸夫;長田久雄. エアロビックダンスによる介護予防(1) ダイアビックの開発と高齢指導者による普及. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2006 ; 65 回(): 773.
ID=2007092893 (会議録)
迫田芳生;上土井まゆみ. 菊池地域の介護予防体操「いすに座ってできるきくちゃん体操」の開発と普及について. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2006 ; 65 回(): 764.
ID=2007092887 (会議録)
征矢野あや子;古畑英子;上原ます子;中田勝子;中條淑恵. 健康体操教室の介護予防効果. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2006 ; 65 回(): 761.
ID=2007092885 (会議録)
三谷管雄;森井まゆみ;小谷和彦;黒沢洋一. 運動介入法による体力テストへの影響に対する検討. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2006 ; 65 回(): 760.
ID=2007092882 (会議録)
若林章都;松崎裕美;佐藤順子;菅野伸樹;鈴木直子;安村誠司. 太極拳を取り入れた体操開発を含めた喜多方市での介護予防事業への取り組み. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2006 ; 65 回(): 758.
ID=2007092881 (会議録)
長野聖;菅野伸樹;鈴木直子;安村誠司. 「太極拳を取り入れた体操」を用いた介護予防効果の予備的検証. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2006 ; 65 回(): 758.

ID=2007092854 (会議録)
工藤大地;渡邊里弥;植木章三;長野聖;安村誠司. 転倒骨折予防教室、IADL 訓練事業、筋力向上トレーニング事業など介護予防事業の類型化. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2006 ; 65 回(): 744.
ID=2007092853 (会議録)
武内さやか;小松美砂;梶田悦子;江藤真紀;吉田久美子. 地域在住の要介護高齢者における転倒恐怖感と閉じこもりの関連. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2006 ; 65 回(): 744.
ID=2007092851 (会議録)
宮前美紀;福山祥子. 転倒予防教室の取り組みの成果と課題についての一考察. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2006 ; 65 回(): 743.
ID=2007092849 (会議録)
大倉和子;宮田淳子;諏訪美香;佐藤裕見子;横田昇平;井尻紀子;庄田晴美;山口典孝;大島行博. 転倒予防強化モデル事業(第 2 報) ポピュレーションアプローチの効果的な展開. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2006 ; 65 回(): 742.
ID=2007092843 (会議録)
石井弓子;石川貴美子;井上尚子;宇佐美賀代;大澤由香;渋谷ちづる;佐藤真琴;岩室紳也;藤本眞一. 秦野市高齢者保健福祉計画の実践(その 20) 介護予防事業での行政健康運動指導士の役割. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2006 ; 65 回(): 739.
ID=2007092832 (会議録)
奥野純子;戸村成男;柳久子;薮下典子;大蔵倫博;田中喜代次. 介護予防運動教室参加者の 6 ヶ月目時点における調査結果 ビタミン D に着目して. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2006 ; 65 回(): 733.
ID=2007092831 (会議録)
稲垣敦. 介護予防・転倒予防に必要な体力水準と体力評価基準. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2006 ; 65 回(): 733.
ID=2007092826 (会議録)
河野あゆみ;津村智恵子;板東彩;今木雅英;串山京子;元重あき子. 独居高齢者における介護予防事業対象者把握のための基礎調査. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2006 ; 65 回(): 730.
ID=2007092458 (会議録)
土居通哉;坂田悍教;小牧宏一;細川武;岡本順子;五味敏昭;藤縄理;柳川洋;原口章子. 地域高齢者の体力に関する研究(2) 介護予防における筋力向上トレーニング. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2006 ; 65 回(): 534.
ID=2007092273 (会議録)
工藤奈織美;千葉敦子;山本春江;三浦雅史. 高齢者運動教室を支えるスポーツボランティアの継続性の検討. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2006 ; 65 回(): 436.

ID=2007091871 (会議録)
小椋直美. 安全で安心して暮らせるまちづくり 高齢期の健康づくりと福祉増進 「元気わくわく教室」の取組み 生涯現役を旨として. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2006 ; 65 回(): 68.
ID=2007060845 (会議録)
梶井文子;亀井智子;山田艶子;杉本知子. Web による高齢者向けの転倒骨折予防体操ビデオ教材の作成と評価. 聖路加看護学会誌 2006 ; 10(2): 51.
ID=2007060844 (会議録)
山田艶子;亀井智子;梶井文子;杉本知子. 大学のアウトリーチ活動としての地域の高齢者に向けた転倒・骨折予防体操教室の実施と評価. 聖路加看護学会誌 2006 ; 10(2): 50.
ID=2007050404 (会議録)
矢吹知之;加藤伸司;阿部哲也;吉川悠貴. 地域在住高齢者における運動プログラムの習慣化に関する検討 加齢と健康に関する縦断的介入研究(大島 Study). Health Sciences 2006 ; 22(4): 550.
ID=2007050397 (会議録)
藪下典子;中垣内真樹;田中喜代次. 介護予防を意図した取り組みによる体力および医療費への長期的効果. Health Sciences 2006 ; 22(4): 543.
ID=2007041538 (会議録)
矢吹知之;加藤伸司;阿部哲也;吉川悠貴;浅野弘毅;長嶋紀一. 地域在住高齢者における介護予防の習慣化に向けたプログラムの検討と適用 加齢と健康に関する第 2 次縦断調査(大島 Study). 老年社会科学 2006 ; 28(2): 260.
ID=2007032212 (会議録)
前田清;山田晴生;加納英子;片山香菜子;金田晴美;鈴木綾子;二村陽一;梶田美穂;眞島悦子. 高齢者の健康支援活動としての介護予防教室への関与. 日本農村医学会雑誌 2006 ; 55(3): 527.
ID=2007032021 (会議録)
松井洋子;河合利衣;青山留美子;塚田圭子;岡田ひろみ;伊藤眞知子;早川富博. 積み木パズルを利用した介護予防事業の取り組みについて. 日本農村医学会雑誌 2006 ; 55(3): 336.
ID=2006318976 (会議録)
植田秀樹;大西敏之;西村貴宏;金子育代;井頭菜津美;佐々木君子;島田永和;三木隆巳;西沢良記. 高齢者の介護予防への取り組み 介護予防筋力トレーニング事業を実施して. 日本老年医学会雑誌 2006 ; 43(4): 541.
ID=2006296595 (会議録)
寛田司. 介護予防における運動器の機能向上について. 日本整形外科学会雑誌 2006 ; 80(4): S417.

ID=2006296593 (会議録)
岩谷力. 介護予防と運動器リハビリテーション. 日本整形外科学会雑誌 2006 ; 80(4): S416.
ID=2006287316 (会議録)
小椋直美;金田千恵子;大角香織;竹島寿代;村田佳代子;野坂真澄;松島圭子;広清和子;西島千恵子;矢木恭江;梅津初子;藤田義治;鍋谷良和. 富山県入善町の『元気わくわく教室』の取り組み. 身体教育医学研究 2006 ; 7(1): 56.
ID=2006287315 (会議録)
江口泰正;高野美紀;前川実穂;石橋和義;安武敏. アレンジも楽しむ「てんとうむし体操」の創作. 身体教育医学研究 2006 ; 7(1): 55.
ID=2006287313 (会議録)
樋口由美;渡辺丈眞;渡辺美鈴;松浦尊磨. 地域在住男性高齢者における転倒恐怖感が社会的活動性に及ぼす影響. 身体教育医学研究 2006 ; 7(1): 53.
ID=2006287068 (会議録)
本間義規. 虚弱高齢者における介護予防事業の取り組み モデル事業'わかガエる体操'を通して. 高知県理学療法 2006 ; (13): 67.
ID=2006286666 (会議録)
田代富夫;藤田正一;加藤一也;三谷誉;田中達也;山崎義彦;日本柔道整復師会保険部介護保険対策班. 通所による個別機能訓練研究開発事業に関する総括報告 平成 16 年度厚生労働省老人保健健康増進等事業より. 柔道整復・接骨医学 2006 ; 14(3): 182.
ID=2006286665 (会議録)
佐藤司. 介護予防筋力トレーニング モデル事業との比較. 柔道整復・接骨医学 2006 ; 14(3): 181.
ID=2006286662 (会議録)
森田友良. 介護予防マネジメントと施術所サービス 自立支援を促す歩行支援バンド. 柔道整復・接骨医学 2006 ; 14(3): 178.
ID=2006260416 (会議録)
小野正人. 転倒及び介護予防を目指した取り組み 埼玉県小鹿野町における健康増進運動について 公的病院が核をになう健康増進システム構築と運営. 臨床運動療法研究会誌 2006 ; 8(2): 13.
ID=2006260415 (会議録)
中垣内真樹. 転倒及び介護予防を目指した取り組み 長崎県諫早市における取り組み. 臨床運動療法研究会誌 2006 ; 8(2): 12.

ID=2006260414 (会議録)
鈴木隆雄. 転倒及び介護予防を目指した取り組み 転倒予防/東京都老人総合研究所の取り組み. 臨床運動療法研究会誌 2006 ; 8(2): 11.
ID=2006260413 (会議録)
奥野純子. 転倒及び介護予防を目指した取り組み 茨城県八千代町における取り組み. 臨床運動療法研究会誌 2006 ; 8(2): 10.
ID=2006260412 (会議録)
鳥山佳則. 転倒及び介護予防を目指した取り組み 基調講演 転倒及び介護予防を目指した取り組み. 臨床運動療法研究会誌 2006 ; 8(2): 9.
ID=2006260411 (会議録)
新村由恵;田中喜代次;坂井智明;藪下典子. 筑波大学における要支援・特定高齢者向け運動プログラム. 臨床運動療法研究会誌 2006 ; 8(2): 8.
ID=2006260410 (会議録)
角田真美;重松良祐;中垣内真樹;大藏倫博. 新転倒予防プログラム「スクエアステップ」. 臨床運動療法研究会誌 2006 ; 8(2): 7.
ID=2006254613 (会議録)
石田健司;永野靖典;谷俊一. IT 通信を用いて介護予防を支援できるシステム構築の試み. 運動療法と物理療法 2006 ; 17(2): 157.
ID=2006254609 (会議録)
史明;藤野圭司;丸田敏昭;角南義文. 介護予防におけるセラバンドの導入効果について(第 2 報). 運動療法と物理療法 2006 ; 17(2): 153.
ID=2006254588 (会議録)
永野靖典;石田健司;上田英輝;池本竜則;川田倫子;牛田享宏;谷俊一;中村裕之. 三世代ふれあい健診の意義と支援事業(介護予防・転倒予防)の試み 高知県佐賀町における 2 年間の報告. 運動療法と物理療法 2006 ; 17(2): 128.
ID=2006242760 (会議録)
高杉紳一郎. 新介護予防時代の運動療法. 運動療法と物理療法 2006 ; 17(2): 87.
ID=2006242029 (会議録)
梶本まどか;角野文彦;笠貴乃;山川正信. 在宅高齢者(ハイリスク者)を対象とした介護予防活動の評価. 日本健康教育学会誌 2006 ; 14(Suppl.): 78-79.

ID=2006242019 (会議録)
小正裕佳子;松本佳子;山崎喜比古;住川陽子;伊藤美千代;田口良子;古川英利;田中啓道;石川ひろの;柳在貞. 高齢者のための 3 タイプの集団運動プログラムが及ぼす効果の検討(第 2 報) 参加に対する perception を中心に. 日本健康教育学会誌 2006 ; 14(Suppl.): 56-57.
ID=2006242014 (会議録)
松本佳子;山崎喜比古;石川ひろの;柳在貞;住川陽子;伊藤美千代;田口良子;小正裕佳子;古川英利;田中啓道. 介護予防を目的とする 3 タイプの集団運動プログラムが及ぼす効果の検討(第 1 報) 主観的 QOL への効果を中心に. 日本健康教育学会誌 2006 ; 14(Suppl.): 46-47.
ID=2006228083 (会議録)
杉村美佳;中野正剛;田中宏暁;山田達夫. 運動療法による運動能力と血中コレステロール値の変動(第一報) 安心院プロジェクトより. 日本老年医学会雑誌 2006 ; 43(Suppl.): 135.
ID=2006227808 (会議録)
広崎真弓;岡田武夫. 地域在住高齢者の心身の健康に対する笑いと運動の介入効果の検討. 日本老年医学会雑誌 2006 ; 43(Suppl.): 66.
ID=2006227697 (会議録)
西永正典. 老年症候群 わずかな視・聴覚機能低下が生活機能や QOL に与える影響. 日本老年医学会雑誌 2006 ; 43(Suppl.): 24.
ID=2006211267 (会議録)
古賀眞澄. 介護予防・新予防給付における運動処方. 運動疫学研究: Research in Exercise Epidemiology 2006 ; 8(): 46.
ID=2006208581 (会議録)
梅田陽子;藤林真美;清原夏樹;園田幸子;林みちる;森谷敏夫. 高齢者向け集団指導型の新有酸素運動プログラムの検討. 臨床運動療法研究会誌 2006 ; 8(1): 24.
ID=2006207847 (会議録)
照屋秀人;上地ゆかり;宮城まゆみ;玉城真奈美. パワーリハビリテーションの導入 3 ヶ月後の変化. 日本ハンセン病学会雑誌 2006 ; 75(2): 175.
ID=2006200935 (会議録)
伊藤倫之;山内克哉;美津島隆;長野昭. 健常高齢者に対する週 1 回の筋力トレーニングの効果. リハビリテーション医学 2006 ; 43(Suppl.): S388.
ID=2006200862 (会議録)
熊野修. 地域における介護予防事業の経験(第 2 報). リハビリテーション医学 2006 ; 43(Suppl.): S362.

ID=2006200808 (会議録)
植田秀樹;島田永和. 高齢者の介護予防への取り組み 介護予防筋力トレーニング事業を実施して. リハビリテーション医学 2006 ; 43(Suppl.): S338.
ID=2006200615 (会議録)
竹前貴志;佐藤豊;曾川裕一郎;工藤由理. 介護予防筋力向上トレーニングにおける SF-36 の変化. リハビリテーション医学 2006 ; 43(Suppl.): S264.
ID=2006195542 (会議録)
山本美江子;松田晋哉. 地域高齢者の自主グループによる運動プログラムの効果. 日本衛生学雑誌 2006 ; 61(2): 235.
ID=2006191002 (会議録)
野村幸代;村木敏明;興野純子;大里良乃;吉原秀子;関屋弘美. 転倒骨折予防教室に参加した在宅高齢者とデイケア利用者の比較検討. いばらき医療福祉研究集会記録集 2006 ; 18 回(): 137.
ID=2006191001 (会議録)
直井洋明;青木由有子;中川洋子. モデル事業として,介護予防筋力向上トレーニング事業を実施して. いばらき医療福祉研究集会記録集 2006 ; 18 回(): 136.
ID=2006191000 (会議録)
田邊康二;小澤多賀子;小谷麻耶;斉藤秀之;小関迪;大田仁史. これからの介護予防に必要な体操の紹介. いばらき医療福祉研究集会記録集 2006 ; 18 回(): 135.
ID=2006190999 (会議録)
田邊康二;小澤多賀子;小谷麻耶;斉藤秀之;小関迪;大田仁史. シルバーリハビリ体操指導士養成事業の現状と課題. いばらき医療福祉研究集会記録集 2006 ; 18 回(): 134.
ID=2006190976 (会議録)
狩谷美弥子;時枝美保子;荒木忠臣. 住民参加による"介護予防の取り組み"を目指して 利根町シルバーリハビリ体操指導士の活動. いばらき医療福祉研究集会記録集 2006 ; 18 回(): 111.
ID=2006190975 (会議録)
小谷麻耶;田邊康二;小澤多賀子;斉藤秀之;小関迪;大田仁史. 「シルバーリハビリ体操指導士養成」の取り組みについて. いばらき医療福祉研究集会記録集 2006 ; 18 回(): 110.
ID=2006188733 (会議録)
下井俊典;杉原素子;谷口敬道;丸山仁司;勝平純司;齋藤里果. 介護予防事業を想定した運動療法 8 ヶ月後の心身機能の改善・持続効果. 理学療法学 2006 ; 33(Suppl.2): 591.

ID=2006188720 (会議録)
佐々木久登;庄本康治;松尾篤;冷水誠;峯松亮. 高齢者筋力向上トレーニング事業に関わっての一考察. 理学療法学 2006 ; 33(Suppl.2): 585.
ID=2006188704 (会議録)
眞保実;東浦徳也. 相模原市における「高齢者筋力トレーニング教室」の実施状況. 理学療法学 2006 ; 33(Suppl.2): 577.
ID=2006188703 (会議録)
石橋敏郎;坂本親宣;橋元隆;堤文生;浦上遊子;久保かおり;福田聖子;大丸幸;宮永敬市;上原美香;村上奈美枝;藤川真琴. 集団エクササイズによる身体機能向上および生活機能向上の検証(第 2 報) 北九州市版アセスメント(自立支援評価)および Frenchay Activities Index 自己評価法からの考察. 理学療法学 2006 ; 33(Suppl.2): 576.
ID=2006188702 (会議録)
坂本親宣;石橋敏郎;橋元隆;堤文生;浦上遊子;久保かおり;大丸幸;福田聖子;宮永敬市;上原美香;村上奈美枝;藤川真琴. 集団エクササイズによる身体機能向上および生活機能向上の検証(第 1 報) 総合的体力評価からの考察. 理学療法学 2006 ; 33(Suppl.2): 576.
ID=2006188699 (会議録)
小川哲史;門川明広;又木浩二;佐藤英樹;井上裕愛;東明. 転倒骨折予防教室等モデル評価事業報告 介護予防一体化事業報告. 理学療法学 2006 ; 33(Suppl.2): 574.
ID=2006188680 (会議録)
浅川康吉;遠藤文雄;山口晴保;岩本光一. 簡易運動プログラム提供によるデイサービス利用者の介護予防. 理学療法学 2006 ; 33(Suppl.2): 565.
ID=2006188675 (会議録)
大久保雄;矢島麻美;村上明子;友常里美;照沼良紀;鎌田きみ子;吉田重良. デイサービスにおける介護予防事業の効果 3 ヶ月間のマシントレーニングを通して. 理学療法学 2006 ; 33(Suppl.2): 562.
ID=2006188656 (会議録)
新垣盛宏;金澤寿久;小橋川敦;嶋田智明. 介護予防事業における PT の役割 転倒骨折予防教室への関わりを通して. 理学療法学 2006 ; 33(Suppl.2): 553.
ID=2006188655 (会議録)
田邊康二;小谷麻耶;斉藤秀之;小関迪;大田仁史. シルバーリハビリ体操指導士養成事業における理学療法士の活動報告. 理学療法学 2006 ; 33(Suppl.2): 552.
ID=2006188651 (会議録)
中村仁;余頃友香;田坂厚志. 広島県大和町における水中運動「介護予防生きがい活動支援事業」と理学療法士の関わり. 理学療法学 2006 ; 33(Suppl.2): 550.

ID=2006188634 (会議録)
若居佐恵子;工藤尚哉;半澤宏美;三河史恵;大西敬子;上村太一;坪田朋子;櫻井いずみ;中野渡達哉;吉澤礼子;本川亮;村上恵子;小宮英生;土川光弘;小野秀俊. 総合型地域スポーツクラブにおける介護予防事業の展開の可能性を探る. 理学療法学 2006 ; 33(Suppl.2): 542.
ID=2006188625 (会議録)
中田淳一;石原亜紀子;蒲生奈々恵;石田亜紀子;倉橋徹;磯辺康行;大濱満;新宮彦助. 入院早期の転倒予防を目的とした介入の検討 頸部に着目して. 理学療法学 2006 ; 33(Suppl.2): 537.
ID=2006188624 (会議録)
井上由里;成瀬進;里内靖和;岡英世;小枝英輝;大島豊. ケアハウス入所者に対する低強度短時間グループ運動の効果. 理学療法学 2006 ; 33(Suppl.2): 537.
ID=2006188609 (会議録)
滝本幸治;宮本謙三;竹林秀晃;島村千春;井上佳和;宅間豊;宮本祥子;岡部孝生. 異なる住環境が高齢者の心身機能に及ぼす影響について 高知県香我美町における高齢者健診を通して. 理学療法学 2006 ; 33(Suppl.2): 529.
ID=2006188601 (会議録)
阿部容子;大淵修一;柴喜崇;水田亜矢. 下肢衝撃緩衝能に対する高負荷レジスタンストレーニングの効果. 理学療法学 2006 ; 33(Suppl.2): 525.
ID=2006188600 (会議録)
根木亨;岡本祐一郎;村岡卓哉;大堀克己;森誠;坂田さゆり;小野智恵;田中美幸;川初清典. マシントレーニングと介護予防 地域型在宅介護支援センターでの試み. 理学療法学 2006 ; 33(Suppl.2): 525.
ID=2006188598 (会議録)
堀秀昭;藤本昭;小林康孝;林正岳. 運動機能向上に対する介護予防プログラムの検討 柔軟性向上運動と機器使用運動の併用. 理学療法学 2006 ; 33(Suppl.2): 524.
ID=2006188595 (会議録)
伊能幸雄;村永信吾;平野清孝. 高齢者筋力向上トレーニング事業における対象者の検討. 理学療法学 2006 ; 33(Suppl.2): 522.
ID=2006188594 (会議録)
大淵修一;小島基永;岡浩一朗;西澤哲;島田裕之;仲貴子;竹本朋代;新多正典;松本侑子;新井武志. 多施設による高齢者筋力向上トレーニングの効果について. 理学療法学 2006 ; 33(Suppl.2): 522.
ID=2006188583 (会議録)
大原洋子;桑田稔丈;大久保智明;野尻晋一;山永裕明;米満弘之;坂田俊一. 訪問リハビリテーションにおける生活活動の評価. 理学療法学 2006 ; 33(Suppl.2): 516.

ID=2006188581 (会議録)
梅田典宏;張本浩平;近藤将人;長田麻岐;杉野貴志;植田由理;小山樹. 介護予防系デイサービスの効果検討にもちいる体力測定項目の検討. 理学療法学 2006 ; 33(Suppl.2): 515.
ID=2006188575 (会議録)
稲葉康子;大淵修一;新井武志;岡浩一郎;柴喜崇;長澤弘;二見俊郎;小島基永;西澤哲. 虚弱高齢者に対する身体活動セルフエフィカシーの開発. 理学療法学 2006 ; 33(Suppl.2): 512.
ID=2006188574 (会議録)
高柳公司;平野真貴子;野口浩孝;大石賢;大場潤一;内田由美子;有村圭司;山崎裕司;大城昌平;中野裕之. 高齢者の介護予防事業に関わっての一考察(第二報) 歩数と身体機能の関連について. 理学療法学 2006 ; 33(Suppl.2): 512.
ID=2006188571 (会議録)
藤井昭宏;中村一平;浅海岩生;鹿毛治子. 日常の運動習慣が介護予防にもたらす効果について 農村地帯における 2 年間の追跡調査の結果. 理学療法学 2006 ; 33(Suppl.2): 510.
ID=2006175675 (会議録)
仲貴子;金子誠喜;大淵修一;小島基永;渡会昌広;山田拓実. 側対歩(ナンバ歩き)の運動力学的分析(第 4 報) 反復練習課題直後の平地普通歩行の変化. 理学療法学 2006 ; 33(Suppl.2): 421.
ID=2006175607 (会議録)
新井智之;加藤仁志;安原健太;大淵修一;渡辺修一郎;柴喜崇;柴田博. 施設利用高齢者における動的バランストレーニングの効果 歩行変動からの検討. 理学療法学 2006 ; 33(Suppl.2): 387.
ID=2006175605 (会議録)
吉田弥央;山田拓実;伊藤弥生;武田円;木村雅彦. 介護予防プログラムの運動強度の検証 荒川ころばん体操・荒川せらばん体操を用いて. 理学療法学 2006 ; 33(Suppl.2): 386.
ID=2006175003 (会議録)
平原寛隆;太田義人;入江将考;濱田和美;福田文雄;野村秀幸. 短期間の転倒予防教室による運動機能と転倒経験率の変化 自宅での実施率に着目して. 理学療法学 2006 ; 33(Suppl.2): 85.
ID=2006174601 (会議録)
松本佳子;山崎喜比古;楠永敏恵;石川ひろの. 新しい評価手法による介護予防プログラムの効果把握の試み. 保健医療社会学論集 2006 ; 17(特別): 78.
ID=2006166314 (会議録)
岡浩一郎. 身体活動・運動の推進に果たす疫学の役割 「行動疫学」という考え方. 体力科学 2006 ; 55(1): 105.

ID=2006166284 (会議録)
中村好男. 介護予防 老年期の健康増進 介護予防を実現するためのマーケティング戦略. 体力科学 2006 ; 55(1): 32.
ID=2006166283 (会議録)
岡浩一郎. 介護予防 老年期の健康増進 介護予防への行動科学的アプローチ. 体力科学 2006 ; 55(1): 30-31.
ID=2006166282 (会議録)
原英二. 介護予防 老年期の健康増進 介護予防を目指した行政の取り組み. 体力科学 2006 ; 55(1): 29.
ID=2006166281 (会議録)
大淵修一. 介護予防 老年期の健康増進 介護予防のまちづくり. 体力科学 2006 ; 55(1): 27-28.
ID=2006164200 (会議録)
トンプソン雅子;李恩兒;中村好男. QOL 向上を目的とした介護予防運動プログラムの開発. 体力科学 2005 ; 54(6): 694.
ID=2006164179 (会議録)
羽崎完;丸尾朝之;松尾篤;田平一行. 要支援・要介護 1 認定者に対する介護予防サービスの効果 生駒市高齢者活動動作向上教室参加者についての検討. 体力科学 2005 ; 54(6): 679.
ID=2006164177 (会議録)
石田篤子;河村孝幸;上月正博. 介護予防運動教室の終了 3 ヶ月後における運動機能および内臓脂肪面積の推移. 体力科学 2005 ; 54(6): 678.
ID=2006158337 (会議録)
山田大. 高齢者対象筋力増強トレーニング効果(第 1 報)筋力増強効果について. 山口県医学会誌 2006 ; (40): 183-184.
ID=2006158246 (会議録)
鹿毛治子;奥田昌之;中村一平;國次一郎;杉山真一;芳原達也. 歩行速度は介護認定の予測因子となる. 山口県医学会誌 2006 ; (40): 140.
ID=2006151993 (会議録)
北畠義典;種田行男;中村信義;諸角一記;塩澤伸一郎;佐藤慎一郎;板倉正弥. 膝痛の軽減および自立能力の低下予防を目的とした地域リハビリテーション(介護予防)プログラムの開発第 7 報:介入量と効果指標との量-反応関係. 体力科学 2005 ; 54(6): 630.

ID=2006151987 (会議録)
中村信義;塩澤伸一郎;佐藤慎一郎;諸角一記;北嶋義典;種田行男. 膝痛の軽減および自立能力の低下予防を目的とした地域リハビリテーション(介護予防)プログラムの開発 第6報:介入効果指標間の関連性. 体力科学 2005 ; 54(6): 626.
ID=2006151969 (会議録)
竹本朋代;仲貴子;岡浩一郎;小島基永;大淵修一. 介護予防のまちづくりを推進するための実践研究. 体力科学 2005 ; 54(6): 613.
ID=2006151946 (会議録)
本山貢;藤本貴大;田中宏暁. 「わかやま型筋力向上トレーニング」による血清脂質および血圧に及ぼす影響について. 体力科学 2005 ; 54(6): 587.
ID=2006151945 (会議録)
本山貢;藤本貴大;田中宏暁. 介護予防を目的とした「わかやま型筋力向上トレーニングプログラム」の効果について. 体力科学 2005 ; 54(6): 586.
ID=2006151922 (会議録)
岡山寧子;木村みさか;糸井亜弥;奥野直. 軽度要介護者に対する運動介入の試み(1) 生活や気持ちの変化. 体力科学 2005 ; 54(6): 567.
ID=2006147286 (会議録)
藤川愛;藤川健二;小松月子;秋山みさき;金倉留美子;増田小夜子;藤田容三;平尾衣代;大西聡. 高松市社会福祉協議会の協力を得て実施した転倒骨折予防教室について. 四国公衆衛生学会雑誌 2006 ; 51(1): 89-90.
ID=2006147285 (会議録)
豊永ゆかり;小谷由香;有澤文里;林由希;舛田純;斎藤充哉;三谷健二;鈴木順一郎. ほっとサロンへの筋力向上訓練導入の長期継続効果について. 四国公衆衛生学会雑誌 2006 ; 51(1): 87-88.
ID=2006145529 (会議録)
藤島未央子;大竹まり子;齋藤明子;鈴木育子;小林淳子;叶谷由佳;金澤京子. 転倒予防体操の介入効果 自宅での体操実施状況による分析. 山形県公衆衛生学会講演集 2006 ; 32回(): 75-76.
ID=2006139673 (会議録)
宮谷昌枝;宮地元彦;樋口満;薄井澄誉子;河野寛;岡島真由美;田畑泉. 年齢別全身持久力ならびに筋力水準と介護予防関連因子との関係. 体力科学 2005 ; 54(6): 558.
ID=2006106955 (会議録)
大川弥生;中井定;工藤美奈子;玉木健太郎;関口春美;川内敦文. 災害時における高齢者の生活機能に関する研究 生活不活発病予防ガイドライン作成にむけて. 日本集団災害医学会誌 2006 ; 10(2): 163.

ID=2006094353 (会議録)
菅野伸樹;安村誠司;若林章都;松崎裕美;佐藤順子. 太極拳による介護予防教室の有効性の評価 重心動揺の検討. 東北公衆衛生学会誌 2005 ; (54): 35.
ID=2006094352 (会議録)
渡辺幸子;佐藤裕美;村井文子;草野つぎ;長澤脩一;相楽新平;牧上久仁子;安村誠司. 高齢者健診及び高齢者健診アンケート調査結果に基づく介護予防事業の取組み. 東北公衆衛生学会誌 2005 ; (54): 34.
ID=2006094351 (会議録)
佐藤裕美;村井文子;渡辺幸子;草野つぎ;長澤脩一;牧上久仁子;安村誠司. 高齢者における生活機能の把握と介護予防・健康づくり事業の試み. 東北公衆衛生学会誌 2005 ; (54): 33.
ID=2006087730 (会議録)
北潔;高橋功;菊田勇;草野恒輔;渡辺正紀;山中芳;大濱満;岡野宏二;鶴田敏幸;吉良貞伸. 運動器虚弱高齢者と転倒介護予防. 日本整形外科学会雑誌 2005 ; 79(3): S8.
ID=2006079129 (会議録)
榊原由起子;三木そとみ. 高齢者筋力向上トレーニング(パワーリハビリテーション)事業の取組みと今後の課題について. 神奈川県公衆衛生学会誌 2005 ; (51): 82.
ID=2006073004 (会議録)
高橋志保;水戸祐子;高津匡樹;菊池雅彦;服部佳功;坪井明人;佐藤智昭;岩松正明;小牧健一朗;伊藤進太郎;玉澤佳純;渡辺誠;大森芳;辻一郎. 地域高齢者における食品摂取状況と口腔状態の関連. 老年歯科医学 2005 ; 20(3): 241-242.
ID=2006062873 (会議録)
上村順一. 経時別にみたパワーリハビリテーション終了後の評価値の変化について. 総合リハビリテーション 2005 ; 33(10): 982.
ID=2006061369 (会議録)
岡部孝生;島村千春. 介護予防を目的とする高齢者健診と運動教室の展開. 日本老年医学会雑誌 2005 ; 42(5): 584.
ID=2006055857 (会議録)
畑洋一;畑知二;中尾宏;畑一郎;矢永尚士;西山保弘;牧野直樹. 高齢者を対象とした「湯けむり健康教室」での運動効果. 日本温泉気候物理医学会雑誌 2005 ; 69(1): 33.
ID=2006045318 (会議録)
岡山寧子;木村みさか;小松光代;原田和代;谷村真司;大谷秀之. デイサービス利用者への運動を用いた介護予防の試み(2) 生活や気持ちの変化. 老年社会科学 2005 ; 27(2): 262.

ID=2006045317 (会議録)
木村みさか;岡山寧子;小松光代;原田和代;溪村真司;大谷秀之. デイサービス利用者への運動を用いた介護予防の試み(1) 介入プログラムと体力測定の結果. 老年社会科学 2005 ; 27(2): 261.
ID=2006045266 (会議録)
伊藤麻里子;藤井慶子;安原耕一郎;工藤夕貴;照井孫久;野村豊子. 通所介護におけるプールと併用した回想法の応用 対人交流の変化を基にした検討. 老年社会科学 2005 ; 27(2): 209.
ID=2006044382 (会議録)
田畑泉. 厚生労働行政における「介護予防のための筋力トレーニング」. 体力科学 2005 ; 54(5): 390.
ID=2006044368 (会議録)
鈴木修治. 介護予防と運動トレーニング 介護予防事業実施上の課題. 体力科学 2005 ; 54(5): 383.
ID=2006044367 (会議録)
内田幸雄. 介護予防と運動トレーニング ケアマネジャーの立場から. 体力科学 2005 ; 54(5): 382.
ID=2006044366 (会議録)
佐藤和宏. 介護予防と運動トレーニング 介護認定に関わる医師の立場から. 体力科学 2005 ; 54(5): 382.
ID=2006044365 (会議録)
藤田和樹. 介護予防と運動トレーニング 運動指導者の立場から. 体力科学 2005 ; 54(5): 381.
ID=2006044364 (会議録)
辻一郎. 介護予防と健康寿命. 体力科学 2005 ; 54(5): 381.
ID=2006021874 (会議録)
森井まゆみ;小谷和彦;松井浩. 地域在宅高齢者に対する転倒予防事業の取り組み 転倒予防教室修了後に自立・継続を促すための地域内資源活用の試み. Osteoporosis Japan 2005 ; 13(1): 168.
ID=2006021873 (会議録)
松田美可子. 地域在宅高齢者に対する転倒予防事業の取り組み 宇治市パワーリハビリ教室に取り組んで. Osteoporosis Japan 2005 ; 13(1): 167.

ID=2006021865 (会議録)
澤由美子;瀧口美奈子;伊藤寿佳子. 地域在宅高齢者に対する転倒予防事業の取り組み ちょこっとリハビリ 転倒予防教室の取り組み. Osteoporosis Japan 2005 ; 13(1): 159.
ID=2006021839 (会議録)
吉田健志;太田哲也;戸舘啓介. 地域在宅高齢者に対する転倒予防事業の取り組み 当通所サービス利用者の転倒予防支援の取り組みについて. Osteoporosis Japan 2005 ; 13(1): 131.
ID=2006021827 (会議録)
根來信也;岡田修一;根來直輝. 転倒予防のための運動プログラム 柔道の動きを取り入れた転倒予防体操の効果について. Osteoporosis Japan 2005 ; 13(1): 119.
ID=2006021826 (会議録)
大久保恵子. 転倒予防のための運動プログラム 転倒予防体操の導入と介護予防としての効果 地域での実践から. Osteoporosis Japan 2005 ; 13(1): 118.
ID=2006020782 (会議録)
西川英樹. 廃用症候群から介護保険まで. 柔道整復・接骨医学 2005 ; 14(1): 32.
ID=2005261588 (会議録)
山田拓実;細田昌孝;伊藤弥生;小島肇;武田円;吉田弥央;小島祥子;小林理恵;五月女洋;根岸英里子. 虚弱・要介護高齢者向け筋力向上トレーニングの3ヵ月効果 荒川せらばん体操の開発. 理学療法学 2005 ; 32(Suppl.2): 385.
ID=2005261587 (会議録)
日野真;財津菜穂子;松尾志織;秦直美;井口茂. 転倒予防教室における体操プログラム立案の検討. 理学療法学 2005 ; 32(Suppl.2): 384.
ID=2005261585 (会議録)
大淵修一;小島基永;岡浩一郎;西澤哲;島田裕之;鈴木隆雄. 介護予防にはハイリスク戦略とポピュレーション戦略のどちらが有効か. 理学療法学 2005 ; 32(Suppl.2): 383.
ID=2005261584 (会議録)
藤沼佳奈;石井義則;高橋賢;木賀洋;谷口豪;島田浩. 介護事業に対する理学療法士の役割 転倒予防教室を通して. 理学療法学 2005 ; 32(Suppl.2): 383.
ID=2005261526 (会議録)
鹿毛治子;奥田昌之;國次一郎;杉山真一;中村一平;藤井昭宏;松原麻子;丹信介;浜本義彦;久長穰;芳原達也. 高齢者介護予防・体力維持のための遠隔指導システムの紹介. 理学療法学 2005 ; 32(Suppl.2): 354.

ID=2005261460 (会議録)
仲貴子;山田拓実;金子誠喜. 側対歩(ナンバ歩き)の運動力学的分析(第3報) 直後の立位平衡機能に及ぼす影響. 理学療法学 2005 ; 32(Suppl.2): 321.
ID=2005248580 (会議録)
植田秀樹;島田永和. 高齢者介護予防への取り組み. 日本老年医学会雑誌 2005 ; 42(Suppl.): 134.
ID=2005248532 (会議録)
宮崎智哉子;畑山清香;西永正典;高田淳;奥宮清人;松林公蔵;小澤利男;土居義典. 総合機能評価に基づく介護予防プログラムは死亡前要介護期間を短縮したか 香北町縦断研究. 日本老年医学会雑誌 2005 ; 42(Suppl.): 122.
ID=2005248488 (会議録)
山田思鶴;浜達哉;林秀生;西谷弘美;秋下雅弘;大内尉義;神崎恒一;鳥羽研二. 地域在住健常高齢者の認知機能,運動機能に対する運動教室の効果. 日本老年医学会雑誌 2005 ; 42(Suppl.): 111.
ID=2005248474 (会議録)
小林義雄. 介護予防対象の自立度低下要因,自立度による縦断層別解析. 日本老年医学会雑誌 2005 ; 42(Suppl.): 107.
ID=2005242057 (会議録)
矢吹知之;小玉一彦;小崎浩信;加藤伸司. 日常生活に適応した介護予防運動開発とその有効性に関する研究. リハビリテーションスポーツ 2005 ; 24(1): 34.
ID=2005235810 (会議録)
西村一弘;藤原恵子;武井司. 介護予防のためのパワーリハビリの有用性の検討. 日本老年医学会雑誌 2005 ; 42(Suppl.): 76.
ID=2005222625 (会議録)
鶴飼俊忠. 新予防給付に対応した,筋力向上と転倒予防を組み合わせた「自立のリハビリ」について. リハビリ テーション医学 2005 ; 42(Suppl.): S422.
ID=2005221347 (会議録)
野村幸代;村木敏明;川田尚美;興野純子;灘村妙子;稲垣宏. 転倒骨折予防教室参加の在宅高齢者と老健デイケア利用高齢者の介護予防に関する検討. 作業療 法 2005 ; 24(特別): 378.
ID=2005220926 (会議録)
山内加奈子;木藤伸宏;杉木知武;奥村晃司. 転倒骨折予防教室に参加した地域高齢者の身体活動と精神機能の関連性について(第一報). 作業 療法 2005 ; 24(特別): 164.

ID=2005220924 (会議録)
村木敏明;伊藤文香;藤田真樹;花岡秀明. 農村地区と市街地区に在住する高齢者の夏季と冬季における日常生活身体活動量と生活リズムの特徴. 作業療法 2005 ; 24(特別): 163.
ID=2005220913 (会議録)
小池奈緒美;竹田徳則. ラジオ体操を用いた痴呆性高齢者の転倒予防の試み. 作業療法 2005 ; 24(特別): 158.
ID=2005212604 (会議録)
史明;藤野圭司;丸田敏昭;角南義文. 転倒・介護予防におけるセラバンドの導入効果について. 運動療法と物理療法 2005 ; 16(2): 112.
ID=2005205918 (会議録)
前原愛和;山本雄大;米須功;石田百合子;湧上聖;今村義典;末永英文. 通所リハビリテーション利用患者の現状と在宅生活の維持の要因について. リハビリテーション医学 2005 ; 42(Suppl.): S309.
ID=2005205549 (会議録)
松永慶子;松永茂樹;松永厚美;藤本恭司;森永美智子;鈴木八重;島田景江. 介護老人保健施設における水中運動療法の介護予防効果. リハビリテーション医学 2005 ; 42(Suppl.): S181.
ID=2005205380 (会議録)
奥泉宏康;武藤芳照;長谷川亜弓;太田美穂;黒柳律雄. 転倒 その予防と対策 医療機関における転倒予防教室-その内容と効果. リハビリテーション医学 2005 ; 42(Suppl.): S92.
ID=2005178473 (会議録)
松尾亜弓;川副巧成;山内淳;池田定倫;田原弘幸. 要介護高齢者における筋力向上トレーニングの効果について. 理学療法学 2005 ; 32(Suppl.2): 98.
ID=2005178466 (会議録)
河津弘二;槌田義美;松岡達司;本田ゆかり;大田幸治;久野美湖;吉川桂代;山下理恵;山鹿眞紀夫;古閑博明;岡本和喜子. 介護予防を目的とした運動プログラム開発の試み(第一報) 体力アップ体操「長寿きくちゃん体操」の作成. 理学療法学 2005 ; 32(Suppl.2): 94.
ID=2005178465 (会議録)
宮本祥子;竹林秀晃;島村千春;宮本謙三;井上佳和;宅間豊;岡部孝生. 介護予防のための健診システムと運動教室の成果. 理学療法学 2005 ; 32(Suppl.2): 94.
ID=2005178454 (会議録)
眞保実;東浦徳也;清水香奈子;大淵修一. 相模原市における「足・腰体力テスト」の実施状況. 理学療法学 2005 ; 32(Suppl.2): 88.

ID=2005178435 (会議録)
竹内美帆;堀秀昭;藤本昭;大谷浩樹;伊藤のぞみ;福谷保;村田寛一郎;佐治仁美;小林康孝. 自治会型デイホームにおける転倒予防事業の取り組み(第2報) 転倒予防体操実施2ヵ月後の変化. 理学療法学 2005 ; 32(Suppl.2): 79.
ID=2005178434 (会議録)
堀秀昭;竹内美帆;福谷保;村田寛一郎;佐治仁美;藤本昭;大谷浩樹;伊藤のぞみ;小林康孝. 自治会型デイホームにおける転倒予防事業の取り組み(第1報) 転倒の有無及び転倒リスクと身体機能との関連性. 理学療法学 2005 ; 32(Suppl.2): 78.
ID=2005178433 (会議録)
村上亨;伊藤俊一;柏木学. 転倒予防教室におけるPTの役割と今後の課題 道内80市町村へのアンケート調査より. 理学療法学 2005 ; 32(Suppl.2): 78.
ID=2005169498 (会議録)
石橋和正. 高齢者の筋力トレーニングと運動について 機能訓練中心のデイサービスより. 柔道整復・接骨医学 2005 ; 13(3): 299.
ID=2005169497 (会議録)
三谷誉;加藤一也;田代富雄;藤田正一;田中達也;山崎義彦. 個別機能訓練の満足度 アンケート調査結果より. 柔道整復・接骨医学 2005 ; 13(3): 298.
ID=2005169496 (会議録)
加藤一也;田代富夫;三谷誉;藤田正一;田中達也;山崎義彦. 機能訓練指導員による個別機能訓練研究開発事業の実証実験に関する研究 平成15年度厚生労働省老人保健健康増進等事業. 柔道整復・接骨医学 2005 ; 13(3): 297.
ID=2005169490 (会議録)
佐藤司. 介護予防筋力トレーニング 機能訓練型通所介護について. 柔道整復・接骨医学 2005 ; 13(3): 291.
ID=2005161352 (会議録)
古賀眞澄. 地域密着型介護予防ネットワークの構築について 岱明町「お茶の間筋トレ教室」をモデルに. 健康支援 2005 ; 7(1): 78.
ID=2005150661 (会議録)
岡浩一郎;安永明智;中村菜々子;東郷史治;朴眩泰;渡辺英次;青柳幸利. 健康日本21「身体活動・運動」分野における歩数の目標値を満たす高齢者はどのような特徴を持っているか?. 運動疫学研究: Research in Exercise Epidemiology 2005 ; 7(0): 20-21.
ID=2005130063 (会議録)
藤川健二;白鳥里子;戸村恵子;植村えつ子;植村久美;小松月子;藤川愛;秋山みさき;金倉留美子;増田小夜子;近藤奨;大西聡. 在宅虚弱高齢者を訪問し,転倒予防体操の実施による介護予防への試み. 四国公衆衛生学会雑誌 2005 ; 50(1): 67-68.

ID=2005130062 (会議録)
白鳥里子;戸村恵子;植村えつ子;植村久美;小松月子;藤川健二;藤川愛;秋山みさき;金倉留美子;増田小夜子;近藤奨;大西聡. 在宅虚弱高齢者の訪問による転倒予防指導で QOL 向上を認めた一事例. 四国公衆衛生学会雑誌 2005 ; 50(1): 65-66.
ID=2005107729 (会議録)
横内亜紀;岡田美由紀;黒川直樹;金指巖;藤田結香;岡田春美;近藤弘一;中村清司;芝信明;上田昭. 介護予防事業としての健康教室(機能訓練 B 型)の実践. 四国公衆衛生学会雑誌 2005 ; 50(1): 69-70.

(2) 栄養改善

(a) 原著論文

ID=2006092745 (原著論文/特集)
五味郁子;福島秀樹;三輪佳行;森脇久隆;安藤喬;高井國之. 【血清(漿)アルブミン値と栄養評価】 一般高齢者における血清アルブミン値と年齢の関係. 栄養・評価と治療 2005 ; 22(6): 651-654.
ID=2006092736 (原著論文/症例報告)
榎裕美;加藤昌彦;葛谷雅文;井澤幸子;岡田希和子;井口昭久. 在宅要介護高齢者における栄養指標と ADL との関係. 栄養・評価と治療 2005 ; 22(6): 607-610.
ID=KA13460005<Pre 医中誌> (原著論文)
山下一也;松本玄智江;田原和美;橋本道男;加藤節司. 地域在住高齢者の高血圧と食塩摂取量の関係. 島根県立大学短期大学部出雲キャンパス研究紀要 2010 ; 40: 33-38.
ID=2010270967 (原著論文)
小多沙知;井上啓子;渡邊道代;森奥登志江;加藤昌彦. 要介護高齢者におけるデイサービスの利用が栄養状態、ADL および QOL に及ぼす影響. 日本臨床栄養学会雑誌 2010 ; 31(4): 144-150.
ID=2010237483 (原著論文)
新開省二;渡辺直紀;吉田裕人;藤原佳典;天野秀紀;李相侖;西真理子;土屋由美子. 要介護状態化リスクのスクリーニングに関する研究 介護予防チェックリストの開発. 日本公衆衛生雑誌 2010 ; 57(5): 345-354.
ID=2010233288 (原著論文)
浅野恭代;大藪加代子;野秋秀子;高取克彦;岡田洋平;松尾篤;冷水誠;田平一行;今北英高;福本貴彦;瓜谷大輔;前岡浩;松本大輔;庄本康治. KIO 元気塾参加者における食事指導と運動療法 食意識の改善が血清脂質と身体運動機能に及ぼす効果. 畿央大学紀要 2010 ; (11): 25-34.
ID=2010197058 (原著論文)
高松まり子;櫻村修生. 料理教室への自主活動参加高齢者の食生活に関する実態調査. 東京農業大学農学集報 2010 ; 54(4): 315-321.

ID=2010160616 (原著論文)
奥野純子;深作貴子;堀田和司;金美芝;藪下典子;大藏倫博;田中喜代次;戸村成男;柳久子. 運動教室開始時と終了3ヵ月目の血清25-hydroxyvitamin D3濃度は、体力改善に影響するのか?. プライマリ・ケア 2010 ; 33(1): 35-41.
ID=2010130932 (原著論文)
宅見央子;中村弘康;福田真一;松田紫緒;小城明子;大野友久;白石浩荘;米谷俊;藤島一郎;植松宏. 付着性の異なるビスケットと摂食・嚥下機能との関係 咀嚼と嚥下の回数・時間、口腔内残留量. 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会雑誌 2009 ; 13(3): 183-191.
ID=2010059329 (原著論文)
山下一也;井山ゆり;松本亥智江;井上千晶;松岡文子;梶谷みゆき;吾郷美奈恵;齋藤茂子;福澤陽一郎; 片倉賢紀;橋本道男;加藤節司. 地域在住高齢者のメタボリック症候群の実態 島根県の3地域における検討. 島根県立大学短期大学部出雲キャンパス研究紀要 2008 ; 20: 1-6.
ID=2009285644 (原著論文)
谷本芳美;渡辺美鈴;河野令;広田千賀;高崎恭輔;河野公一. 地域高齢者の客観的咀嚼能力指標としての色変わりチューインガムの有用性について. 日本公衆衛生雑誌 2009 ; 56(6): 383-390.
ID=2009271859 (原著論文)
三瓶彰子;外山健二;井上由紀;巴美樹. 高齢者施設における食事の遊離グルタミン酸含量についての検討. 栄養学雑誌 2009 ; 67(3): 122-127.
ID=2009228523 (原著論文)
青木慶司;山口奈津;鈴木順子;藤原恵子;西村一弘;細江学;小林栄二;韓賢一;塩田薫;清水仁;古川潤子; 酒井雅司. 特定高齢者通所型介護予防事業の効果. 東京都医師会雑誌 2009 ; 62(4): 409-414.
ID=2009228336 (原著論文)
村田伸;大山美智江;大田尾浩;村田潤;木村裕子;豊田謙二;津田彰. 在宅高齢者の運動習慣と身体・認知・心理機能との関連. 行動医学研究 2009 ; 15(1): 1-9.
ID=2009206653 (原著論文)
松井順子. 高齢者の会食会の有効性に関する考察 事例調査を中心にして. 社会医学研究 2008 ; 26(1): 53-64.
ID=2009192659 (原著論文)
板東彩;河野あゆみ;津村智恵子. 独居虚弱高齢者の身体的機能、心理社会的機能、生活行動における性差の比較. 日本地域看護学会誌 2008 ; 11(1): 93-99.
ID=2009143248 (原著論文)
深作貴子;奥野純子;戸村成男;権海善;清野諭;金美芝;藪下典子;大藏倫博;田中喜代次;柳久子. 特定高齢者における食品摂取の多様性と生活機能、生活の質及び身体機能との関連について. プライマリ・ケア 2009 ; 32(1): 32-39.
ID=2009114943 (原著論文)
森圭子;加藤友佳;朽名宏恵;塩井紅;平瀬悠;下方浩史. 地域自立高齢者の栄養改善と Quality of Life. 愛知学院大学論叢 心身科学部紀要 2009 ; (4): 75-81.

ID=2009014059 (原著論文)
RahmanNor Azlina A.;IsmailAziz Al-Safi;YaacobNor Azwany. Use of CPG on Management of Type 2 Diabetes among Diabetes Care Teams in North-East Malaysia. International Medical Journal 2008 ; 15(3): 213-216.
ID=2008304554 (原著論文)
東口みづか;中谷直樹;大森芳;島津太一;曾根稔雅;寶澤篤;栗山進一;辻一郎. 低栄養と介護保険認定・死亡リスクに関するコホート研究 鶴ヶ谷プロジェクト. 日本公衆衛生雑誌 2008 ; 55(7): 433-439.
ID=2008288325 (原著論文)
伊藤英俊;菊谷武;田村文誉;羽村章. 在宅要介護高齢者の咬合、摂食・嚥下機能および栄養状態について. 老年歯科医学 2008 ; 23(1): 21-30.
ID=2008235774 (原著論文)
吉田英世;鈴木隆雄. 地域在住高齢者を対象にしたビタミン D と骨密度との関係. Osteoporosis Japan 2008 ; 16(2): 229-232.
ID=2008211398 (原著論文)
須藤明治;角田直也;渡辺剛. 海洋深層水を用いた水中運動の効果. 国士館大学体育研究所報 2008 ; 26(0): 1-8.
ID=2008152410 (原著論文)
石原るみ子;山崎きよ子. 食支援を通じた高齢者の QOL の向上と介護予防. 九州保健福祉大学研究紀要 2008 ; (9): 73-80.
ID=2008088108 (原著論文)
藤田倫子;山崎きよ子;石原るみ子. 宮崎県北部地域に暮らす自立老人及びホームヘルプサービス利用者の食生活及びその関連項目に関する実態調査. 九州保健福祉大学研究紀要 2007 ; (8): 45-49.
ID=2007238070 (原著論文)
初鹿静江. 介護予防の観点から認知症高齢者グループホームの食生活支援のあり方の検討. 医療看護研究 2007 ; 3(1): 22-28.
ID=2005189246 (原著論文)
中出美代;平井寛;近藤克則;吉井清子;末盛慶;市田行信. 日本の高齢者 介護予防に向けた社会疫学的大規模調査 高齢者の歯・口腔・栄養状態 社会経済格差と地域格差の実態. 公衆衛生 2005 ; 69(4): 313-317.

(b) 学会発表抄録

ID=2011021740 (会議録)
野地有子;信川益明;杉山みち子;加藤昌彦;小山秀夫;小山和作;宇田淳;宮本啓子;木村隆次;清水瑠美子;若木陽子. 低栄養状態の改善を目的とした「予防給付栄養改善サービス」推進にむけた地域体制づくりに関する研究. 日本健康・栄養システム学会誌 2010 ; 10(1): 56.

ID=2010304290 (会議録)
朝田美鈴;村留和子;阿南敦子;楨原道子;大木文枝;中川由美子;松井左知子;梶原恵子;御代出三津子. 兵庫県西宮市における特定高齢者を対象とした介護予防プログラムの評価 運動・口腔・栄養の 3本柱で介護予防プログラムを実施して. 日本歯科衛生学会雑誌 2010 ; 5(1): 190.
ID=2010295105 (会議録)
小川純人;柴崎孝二;山口潔;山田思鶴;神崎恒一;鳥羽研二;秋下雅弘;大内尉義. 高齢者食生活習慣と世帯構造および介護予防指標との関連性. 日本老年医学会雑誌 2010 ; 47(Suppl.): 59.
ID=2010294982 (会議録)
鈴木隆雄. 高齢者の栄養管理を考える 高齢者の食と栄養 介護予防の視点から. 日本老年医学会雑誌 2010 ; 47(Suppl.): 19.
ID=2010256858 (会議録)
田口孝行;廣瀬圭子;丸橋悦子;松本博良;本村英二. 特定高齢者の介護予防複合プログラム(運動機能と栄養改善コラボプログラム)の効果. 老年社会 科学 2010 ; 32(2): 255.
ID=2010242662 (会議録)
平田芳浩;須崎尚;岡田希和子;石田静乃;角谷亜矢;小島千明;伊藤勇貴;山中克己;水口くるみ;神野順 子;千葉桂代子;伊藤日奈子;伊東あゆみ. 介護予防としての口腔機能向上事業と栄養改善事業の同時実施の試み. 日本口腔ケア学会雑誌 2010 ; 4(1): 84.
ID=2010089913 (会議録)
江尻和子;菅原有為子;金石敦子;太田カツ子;奥村勝枝;津川園美;金内潤. 高齢者施設における介護予防を兼ねた食育の試み. 東京都福祉保健医療学会誌 2008 ; 平成 20 年 度(誌上発表): 235-236.
ID=2010052584 (会議録)
森裕子;与儀恵子;稲葉裕子;三和田富美;福原理華;柏陽子;山田拓実. 学校給食を活用した高齢者会食サービスの効果検証(体力測定とアンケートを実施して). 東京都 福祉保健医療学会誌 2008 ; 平成 20 年度(口頭・ポスターセッション発表): 87-88.
ID=2010049232 (会議録)
深作貴子;奥野純子;戸村成男;清野諭;金美芝;藪下典子;大藏倫博;田中喜代次;柳久子. 特定高齢者への栄養指導による介入効果の検証 介入群と対照群の比較調査から. 日本公衆衛生 学会総会抄録集 2009 ; 68 回(): 612.
ID=2010049229 (会議録)
齋藤京子;吉田英世;金憲経;平野浩彦;島田裕之;吉田祐子;岩佐一;鈴木隆雄. 地域在宅高齢女性の排便頻度(お通じ頻度)と食生活習慣との関係. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2009 ; 68 回(): 612.
ID=2010048807 (会議録)
野地有子;信川益明;杉山みち子;加藤昌彦;小山秀夫;小山和作;宇田淳;宮本啓子;木村隆次;清水瑠美 子;若木陽子. 介護予防における予防給付栄養改善サービス推進のための地域体制づくりに関する研究. 日本公 衆衛生学会総会抄録集 2009 ; 68 回(): 487.

ID=2010048762 (会議録)
山城秋美;小松正子. 介護予防教室の効果と体格・栄養の関連 フォローアップを含めて. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2009 ; 68 回(): 476.
ID=2009349420 (会議録)
稲山貴代. リハビリテーション・運動療法と栄養 運動療法と栄養 運動療法の成果から栄養サポートと運動療法の連携を考える 栄養の立場から. New Diet Therapy 2009 ; 25(2): 146.
ID=2009302817 (会議録)
木原太史. 市の特定高齢者通所型介護予防事業における当院の取り組み 運動器機能向上・栄養改善・口腔機能向上の3つのプログラムを実施して. 理学療法学 2009 ; 36(Suppl.2): 1630.
ID=2009299414 (会議録)
尾花百合子;小林陽子;寺内ミチ子;福田恵子. 介護予防事業「栄養改善」 「食べて体イキイキ教室」を実施して. 栃木県公衆衛生学会抄録集 2007 ; 45 回(): 38-40.
ID=2009270067 (会議録)
福岡康子;横田恵美子. 高齢者の元気は 食べられる・選べる・食事から!(住民参加型栄養指導). いばらき医療福祉研究集会記録集 2009 ; 21 回(): 68.
ID=2009112351 (会議録)
岩田幸広;鈴木基郎;佐藤潤一;瀬戸秀子;石渡正男;吉田亜由美;福田有里;小林真弓;飯塚勇. 介護予防健診における栄養指標の検討. 静脈経腸栄養 2009 ; 24(1): 340.
ID=2009108366 (会議録)
深作貴子;奥野純子;柳久子;戸村成男;金美芝;薮下典子;大藏倫博;田中喜代次. 特定高齢者への栄養指導による介護予防効果. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2008 ; 67 回(): 595.
ID=2009107988 (会議録)
逢坂伸子;上柳より子;足立安正;中川美智子. 大東市における介護予防パッケージ(運動・口腔・栄養・認知症)教室の効果について. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2008 ; 67 回(): 489.
ID=2009107977 (会議録)
渡邊美紀;湯川晴美;吉田英世;小島基永;大淵修一;鈴木隆雄. 在宅高齢者における過栄養および低栄養と要介護状態の関連. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2008 ; 67 回(): 486.
ID=2009107975 (会議録)
吉田祐子;熊谷修;岩佐一;吉田英世;木村美佳;鈴木隆雄. 地域在住高齢者における食習慣および運動習慣の改善を目的とした地域介入効果の検討. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2008 ; 67 回(): 486.
ID=2008262114 (会議録)
吉田英世;鈴木隆雄. 地域在住高齢者を対象にしたビタミン D と骨密度との関係. Osteoporosis Japan 2007 ; 15(Suppl.1): 190.

ID=2008177441 (会議録)
渡邊美紀;湯川晴美;吉田英世;大淵修一;鈴木隆雄. 地域在宅高齢者の要介護認定に関連する栄養状態、口腔機能、運動器機能. 日本衛生学雑誌 2008 ; 63(2): 567.
ID=2008100559 (会議録)
犬塚剛;植木章三;河西敏幸;高戸仁郎;本田春彦;熊谷修;芳賀博. 地域在宅高齢者における食品摂取の多様性に関連する要因. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2007 ; 66 回(): 522-523.
ID=2008100558 (会議録)
奥野純子;深作貴子;戸村成男;柳久子;薮下典子;大蔵倫博;田中喜代次. 開始時のビタミン D 濃度とビタミン D 補充が虚弱高齢者の介護予防に及ぼす効果. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2007 ; 66 回(): 522.
ID=2008100408 (会議録)
岡村智教;早川岳人;門脇崇;寶澤篤;村上義孝;喜多義邦;岡山明;上島弘嗣. NIPPON DATA80 における血清アルブミン、コレステロールと日常生活動作・死亡の関連. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2007 ; 66 回(): 483.
ID=2008099793 (会議録)
宇佐美賀代;飯塚由紀子;渋谷ちづる;石川貴美子;井上尚子;山口佐和;岩室紳也. 健康はだの 21(その 11) 食の介護予防活動を発展に導く管理栄養士の役割. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2007 ; 66 回(): 301-302.
ID=2008091446 (会議録)
鈴木順子;西村一弘;藤原恵子;川越智子;安彦奈津;青木慶司;酒井雅司;調進一郎. 介護予防事業における栄養士の介入症例報告. 日本病態栄養学会誌 2007 ; 10(4): 522.
ID=2008048899 (会議録)
井山ゆり;山下一也;松本玄智江;井上千晶;松岡文子;橋本道男;片倉賢紀;加藤節司. 地域在住一般高齢者の不眠と食事、主観的幸福感. 脂質栄養学 2007 ; 16(2): 171.
ID=2008012375 (会議録)
中村あつ子;河合紀嘉;村田幸紀;三浦よね子;鈴江妃佐子;倉島恵美;山内真智. 閉じこもり予防教室における栄養改善活動の取り組み. 日本農村医学会雑誌 2007 ; 56(3): 456.
ID=2007311429 (会議録)
渡邊美紀;湯川晴美;吉田英世;鈴木隆雄. 低栄養予防プログラムの開発と効果検証(第二報) 介入効果に関する検討. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2005 ; 64 回(): 860.
ID=2007311425 (会議録)
権珍嬉;鈴木隆雄;吉田英世;金憲経;吉田祐子;岩佐一;杉浦美穂;古名丈人. 高齢者における血清アルブミンと血中ビタミン D の水準と体力との関連. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2005 ; 64 回(): 858.
ID=2007248198 (会議録)
鈴木順子;西村一弘;藤原恵子;川越智子;安彦奈津;調進一郎;酒井雅司. 介護予防事業参加者の食事に関する意識調査 国民健康・栄養調査との比較. 日本病態栄養学会誌 2006 ; 9(4): 519.

ID=2007234621 (会議録)
山崎智子;谷本裕子;渡邊和枝;安喜恵子. 肥満に焦点をあてた生活習慣病予防事業の取り組み スリムサポート"Active・Aging 教室"を実施して. 四国公衆衛生学会雑誌 2007 ; 52(1): 23-24.
ID=2007211266 (会議録)
河田輝子;山本キミ子;桜井絵美;岸本みどり. 介護及び介護予防教室の取り組み. いばらき医療福祉研究集会記録集 2007 ; 19 回(): 73.
ID=2007207280 (会議録)
稲葉裕子;与儀恵子;原田香苗;深瀬叔子;森裕子;山田拓実. 学校給食を活用した高齢者会食サービスの介護予防効果. 東京都福祉保健医療学会誌 2006 ; 平成 18 年度(口頭発表): 82-83.
ID=2007100705 (会議録)
片桐陽香;菊谷武;田村文誉;須田牧夫;萱中寿恵;榎本麗子;福井智子;児玉実穂;伊野透子;高橋賢晃;西脇恵子. 健康づくり事業に参加した地域高齢者の口腔機能について. 障害者歯科 2006 ; 27(3): 366.
ID=2007092985 (会議録)
熊谷修;渡邊里弥;芳賀博;植木章三;河西敏幸;高戸仁郎;犬塚剛;伊藤弓月;本田晴彦;安村誠司;新野直明. 食生活改善と運動推進活動からなる地域介護予防活動が食品摂取習慣に及ぼす効果. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2006 ; 65 回(): 810.
ID=2006227756 (会議録)
水野洋子. 高齢者の健康と食 栄養のサポートと高齢者の介護・疾病予防. 日本老年医学会雑誌 2006 ; 43(Suppl.): 49.
ID=2006086903 (会議録)
久野建夫;西永善彦;久野一恵. 低栄養ケアを通じた介護予防に寄与する,地域栄養療養指導士(L-NST)の育成について. 糖尿病 2006 ; 49(1): 95.
ID=2006073004 (会議録)
高橋志保;水戸祐子;高津匡樹;菊池雅彦;服部佳功;坪井明人;佐藤智昭;岩松正明;小牧健一郎;伊藤進太郎;玉澤佳純;渡辺誠;大森芳;辻一郎. 地域高齢者における食品摂取状況と口腔状態の関連. 老年歯科医学 2005 ; 20(3): 241-242.

(3) 口腔機能

(a) 原著論文

ID=KA14390007<Pre 医中誌> (原著論文)
濱元一美. 要介護高齢者における口腔機能評価に関する報告 RSST 評価からの一考察. 老年歯科医学 2010 ; 25(2): 139-142.
ID=KA14390003<Pre 医中誌> (原著論文)

堤千代;原等子;宮林郁子. 予防給付における口腔機能向上サービス立案に影響する要因 地域包括支援センター職員の口腔に関するアセスメントの実態. 老年歯科医学 2010 ; 25(2): 107-114.
ID=2011011272 (原著論文)
Takiko Masutani;Yasuji Yamamoto;Junya Konishi;Kiyoshi Maeda. Effects of music and art education in early life and oral functions on the QOL of the Takarazuka Revue Company OG compared with general elderly females. Psychogeriatrics 2010 ; 10(1): 4-14.
ID=2010317661 (原著論文)
堤千代;原等子;宮林郁子. 指定介護予防支援事業従事者の口腔機能の向上サービスに関する意識. オーラルケアメイト 2010 ; (5): 5-8.
ID=2010271022 (原著論文)
相原洋子;菊池有紀;葉袋淳子. 口腔体操と高齢者の嚥下機能、身体、精神的健康への効果 介護予防支援事業の取り組みから. 保健の科学 2010 ; 52(7): 499-502.
ID=2010262427 (原著論文)
富田かをり;石川健太郎;新谷浩和;関口晴子;向井美恵. 高齢者における口腔機能向上プログラムの効果の経時的変化. 老年歯科医学 2010 ; 25(1): 55-63.
ID=2010249227 (原著論文)
難波剛;内堀昭宜;佐藤三矢. 高齢者におけるマウスピースを用いた運動能力への影響. 医学と生物学 2010 ; 154(6): 299-303.
ID=2010214343 (原著論文)
佐藤保;佐々木勝忠;琵琶坂和江;坂田清美. 岩手県における口腔機能向上サービスの実施状況に関する調査. 岩手公衆衛生学会誌 2010 ; 21(2): 18-22.
ID=2010150607 (原著論文)
Yumi Chiba;Akiko Sasaki;Kumiko Morita;Yoichi Otsuka;Takahide Nakayama;Kayo Teraoka;Kyoko Yamasaki. Effectiveness of Care Intervention Related to Ingestion and Deglutition for the Elderly Using Day Services in the Community. International Medical Journal 2009 ; 16(4): 293-303.
ID=2010130932 (原著論文)
宅見央子;中村弘康;福田真一;松田紫緒;小城明子;大野友久;白石浩荘;米谷俊;藤島一郎;植松宏. 付着性の異なるビスケットと摂食・嚥下機能との関係 咀嚼と嚥下の回数・時間、口腔内残留量. 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会雑誌 2009 ; 13(3): 183-191.
ID=2010122182 (原著論文)
三角洋美. 生活機能低下の防止を目指した通所リハビリテーションにおける口腔機能向上プログラムについて. 日本歯科衛生学会雑誌 2010 ; 4(2): 90-96.
ID=2010092142 (原著論文)
保科エミ;河合祥雄. 介護予防事業における嚥下体操および呼吸筋トレーニングの口腔機能、呼吸機能、食事に関するQOLに及ぼす影響. 順天堂スポーツ健康科学研究 2009 ; 1(2): 289-290.

ID=2010063460 (原著論文)
難波剛;内堀昭宜;亀山一義;佐藤三矢. 高齢者におけるマウスピースのバランスへの影響. 医学と生物学 2009 ; 153(11): 511-515.
ID=2010051045 (原著論文)
上森尚子;尾崎由衛;榊原葉子;服部信一;唐木純一;木村貴之;柿木保明. 介護保険関連施設における口腔ケアの現状と今後の課題に関する調査報告. 九州歯科学会雑誌 2009 ; 63(3): 115-121.
ID=2010041548 (原著論文)
高橋美砂子;橋本由利子. 介護通所施設利用者における口腔機能低下予防体操の効果 通所施設利用者の口腔機能と QOL. The Kitakanto Medical Journal 2009 ; 59(3): 241-246.
ID=2010005115 (原著論文)
堀江淳;村田伸;村田潤;安田直史;樋口善久;堀川悦夫. 介護予防事業に参加している在宅虚弱高齢者の呼吸能と運動機能の関係について. 西九州リハビリテーション研究 2009 ; 20: 7-12.
ID=2009330728 (原著論文)
増田美紅;藁科有香;福與悦子;松下文彦;竹内啓人. 在宅訪問における口腔ケア管理・連携システムの確立を目指して(第 1 報) 現状の評価とシステムの構築について. 榛原総合病院学術雑誌 2009 ; 5(1): 99-101.
ID=2009288294 (原著論文)
小林隆司;弘津公子;兼安真弓;三宅優紀;狩長弘親;竹原まり子. 要支援高齢者の唾液中分泌型免疫グロブリン A 濃度について 健常高齢者との比較. 作業療法おこやま 2007 ; 17(0): 29-34.
ID=2009285644 (原著論文)
谷本芳美;渡辺美鈴;河野令;広田千賀;高崎恭輔;河野公一. 地域高齢者の客観的咀嚼能力指標としての色変わりチューインガムの有用性について. 日本公衆衛生雑誌 2009 ; 56(6): 383-390.
ID=2009267641 (原著論文)
貴島真佐子;糸田昌隆;伊藤美季子;田中信之. 大阪府介護予防標準プログラムにおける口腔機能向上の効果(第 2 報) 口腔機能および口腔衛生状況の変化. 日本口腔ケア学会雑誌 2009 ; 3(1): 37-43.
ID=2009261679 (原著論文)
伊藤加代子;葭原明弘;高野尚子;石上和男;清田義和;井上誠;北原稔;宮崎秀夫. オーラルディアドコキネシスの測定法に関する検討. 老年歯科医学 2009 ; 24(1): 48-54.
ID=2009225683 (原著論文)
野口有紀;相田潤;丹田奈緒子;伊藤恵美;金高弘恭;小関健由;小坂健. 介護予防「口腔機能向上」プログラム対象者選定項目と歯科医療ニーズとの関連 要介護者を対象とした分析. 口腔衛生学会雑誌 2009 ; 59(2): 111-117.
ID=2009217781 (原著論文)
貴島真佐子;糸田昌隆;伊藤美季子;大塚佳代子;川合清毅. 大阪府介護予防標準プログラムにおける口腔機能向上の効果. 日本口腔ケア学会雑誌 2008 ; 2(1): 15-22.

ID=2009183158 (原著論文)
武井典子;藤本篤士;木本恵美子;竹中彰治;福島正義;奥瀬敏之;岩久正明;石川正夫;高田康二. 高齢者の口腔機能の評価と管理のシステム化に関する研究(第1報) 自立者の総合的な検査法、改善法、効果の評価法について. 老年歯科医学 2009 ; 23(4): 384-396.
ID=2009160423 (原著論文)
河野令. 地域高齢者の咬合力と介護予防因子との関連について. 日本老年医学会雑誌 2009 ; 46(1): 55-62.
ID=2009126584 (原著論文)
金子正幸;葭原明弘;伊藤加代子;高野尚子;藤山友紀;宮崎秀夫. 地域在住高齢者に対する口腔機能向上事業の有効性. 口腔衛生学会雑誌 2009 ; 59(1): 26-33.
ID=2009084501 (原著論文)
堤千代;原等子;宮林郁子. デイサービス利用者に対する看護・介護職員による口腔ケアの効果. 老年歯科医学 2008 ; 23(3): 338-345.
ID=2008371090 (原著論文)
内田陽子;上山真美;小泉美佐子. 地域在住高齢者における頻尿・尿失禁の可能性と背景条件との関連 介護予防講習会の参加者の自己評価から. 日本在宅ケア学会誌 2008 ; 12(1): 44-52.
ID=2008288325 (原著論文)
伊藤英俊;菊谷武;田村文誉;羽村章. 在宅要介護高齢者の咬合、摂食・嚥下機能および栄養状態について. 老年歯科医学 2008 ; 23(1): 21-30.
ID=2008265854 (原著論文)
大岡貴史;拝野俊之;弘中祥司;向井美恵. 日常的に行う口腔機能訓練による高齢者の口腔機能向上への効果. 口腔衛生学会雑誌 2008 ; 58(2): 88-94.
ID=2008191687 (原著論文)
細元裕里;生野繁子. 介護予防教室に参加している高齢者の義歯の使用の有無とQOLとの関連 General Oral Health Assessment Index(GOHAI)を用いて. 日本看護学会論文集: 老年看護 2008 ; (38): 132-134.
ID=2008185220 (原著論文)
中島丘;浅野倉栄;三宅一徳;岡田春夫;中島俊明;遠見治;磯部博行;加藤喜夫;深山治久;長坂浩. 予防給付における口腔機能向上に関するケアマネジャーへのアンケート調査. 老年歯科医学 2008 ; 22(4): 377-382.
ID=2008136408 (原著論文)
葭原明弘;高野尚子;宮崎秀夫. 65歳以上高齢者における全身状態と口腔健康状態の関連 特定高齢者判定項目から. 口腔衛生学会雑誌 2008 ; 58(1): 9-15.
ID=2008127161 (原著論文)
関口晴子;倉林國子;佐藤弘美;青木佳子;平野浩彦;細野純;新谷浩和. 通所施設における口腔機能向上サービスのモデル事業報告. 日本歯科衛生学会雑誌 2008 ; 2(2): 80-83.

ID=2008084419 (原著論文)
足立三枝子;原智子;斉藤敦子;坪井明人;石原和幸;阿部修;奥田克爾;渡邊誠. 歯科衛生士が行う専門的口腔ケアによる気道感染予防と要介護度の改善. 老年歯科医学 2007 ; 22(2): 83-89.
ID=2008028513 (原著論文)
浪岡多津子;高橋光恵;晴山婦美子;佐々木祥子;升沢博子;大友さつき;米澤真理美;千葉茂美;山内宏美;浅沼陽子;佐藤美津子;澤田テル子. 介護予防事業に対応する歯科衛生士の資質向上を目指して 岩手県歯科衛生士会研修事業報告(第2報). 日本歯科衛生学会雑誌 2007 ; 2(1): 206-207.
ID=2008028512 (原著論文)
新居直実. 歯科衛生士による口腔ケア介入についての意識調査. 日本歯科衛生学会雑誌 2007 ; 2(1): 204-205.
ID=2008028490 (原著論文)
猪野恵美;山本美保子;下濱佐都美;山下浩子. 介護予防における「口腔機能の向上」 地域支援事業の取り組み. 日本歯科衛生学会雑誌 2007 ; 2(1): 160-161.
ID=2008028489 (原著論文)
永田千里;坂口貴代美;藤井航;園田茂. 当院デイケアの口腔機能向上サービスの実施状況. 日本歯科衛生学会雑誌 2007 ; 2(1): 158-159.
ID=2008028488 (原著論文)
力久生子;吉廣むつ子;古野一世;中村由紀;中野佐知子. 介護予防事業「歯つらつ教室」での口腔機能向上の取り組み. 日本歯科衛生学会雑誌 2007 ; 2(1): 156-157.
ID=2008028487 (原著論文)
早川由希;杉本さつき;重森由貴;森香織;辻本時子;長岡さとみ;植木良恵;福本志津香;橋本瑞穂;橋本昌美. 介護予防事業への歯科医院の取り組み. 日本歯科衛生学会雑誌 2007 ; 2(1): 154-155.
ID=2008028470 (原著論文)
関口晴子;倉林國子;佐藤弘美;青木佳子;平野浩彦;細野純;新谷浩和. 通所施設での円滑な口腔機能向上サービスを目指して モデル事業から見えてきたこと. 日本歯科衛生学会雑誌 2007 ; 2(1): 120-121.
ID=2008028469 (原著論文)
尾形由美子. 口腔機能向上を有意義に進め効果を出すための評価と工夫. 日本歯科衛生学会雑誌 2007 ; 2(1): 118-119.
ID=2008028468 (原著論文)
三角洋美;星野浩子;竹中春美;藤田綾;水谷伸一;古山明夫. 通所リハビリテーションにおける口腔機能向上サービスプログラムの内容の有用性について. 日本歯科衛生学会雑誌 2007 ; 2(1): 116-117.
ID=2007264581 (原著論文)
加山栄子;今吉千夏;山川登志枝;笹野美幸;肥田綾;村内利光. ハンセン病療養所における口腔ケアおよび嚥下障害に関する職員の意識調査. 中国四国地区国立

病院機構・国立療養所看護研究学会誌 2006 ; 2(1): 117-120.
ID=2007225770 (原著論文)
千葉安代. 介護の現状と課題 名寄市における家族のための介護講座アンケートからの一考察. 名寄市立大学紀要 2007 ; 10: 61-68.
ID=2007211747 (原著論文)
田家英二. 高齢者福祉の基礎研究(II) 口腔ケアの教育方法. 鶴見大学紀要(保育・歯科衛生編) 2007 ; (44): 59-64.
ID=2007210737 (原著論文)
小松山佳奈絵;兼田雪江. 田野畑村における「パワーリハビリテーション」の実践 運動器の機能向上と口腔機能の向上の関連性について. 日本歯科衛生学会雑誌 2006 ; 1(1): 158-159.
ID=2007210736 (原著論文)
佐藤美智代;古賀登志子;清水けふ子. 介護予防型ミニデイサービス事業での口腔機能向上の取り組み. 日本歯科衛生学会雑誌 2006 ; 1(1): 156-157.
ID=2007210735 (原著論文)
堀正子;中川律子;廣石マサ子;中澤千賀子;藤井千春;太田郁恵;三澤洋子;加藤明美;今西香苗;大原里子;北原稔;渡辺晃子;小柴秀世. 虚弱高齢者および要介護高齢者に対する口腔機能の向上と口腔清掃自立支援に関する研究. 日本歯科衛生学会雑誌 2006 ; 1(1): 154-155.
ID=2007151223 (原著論文)
深田順子;鎌倉やよい;万歳登茂子;北池正. 高齢者における嚥下障害リスクに対する他者評価尺度に関する研究. 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会雑誌 2006 ; 10(3): 220-230.
ID=2007133707 (原著論文)
木村年秀;成行稔子;戸田知美;佐藤美穂;加地弘毅;齋藤早苗. 香川県下の通所サービス事業所における口腔機能向上プログラムの実施状況. 三豊総合病院雑誌 2006 ; 27(0): 3-8.
ID=2007081055 (原著論文)
居林晴久;矢野純子;PhamTruong Minh;田中政幸;西山知宏;酒井和代;松田晋哉;小林篤;矢倉尚典. 高齢者の口腔清掃指導および口腔体操実施による口腔機能の変化. 産業医科大学雑誌 2006 ; 28(4): 411-420.
ID=2006133233 (原著論文)
森野智子. 介護老人保健施設における歯科衛生士の活動報告. 日本歯科衛生士会学術雑誌 2006 ; 34(2): 54-58.
ID=2006072994 (原著論文)
田村文誉;菊谷武;須田牧夫;青木美好子;清水夏子;丸山みどり. 口腔機能訓練を行った要介護者の口腔にかかわる諸症状の変化 聞き取り調査の結果より. 老年歯科医学 2005 ; 20(3): 222-226.

ID=2006072991 (原著論文)
伊野透子;田村文誉;菊谷武;西脇恵子. 摂食機能不全症状である「食べこぼし」に関わる要因分析. 老年歯科医学 2005 ; 20(3): 202-207.
ID=2005200608 (原著論文)
大井孝;菊池雅彦;玉澤佳純;服部佳功;坪井明人;高津匡樹;佐藤智昭;岩松正明;伊藤進太郎;小牧健一朗;山口哲史;寶沢篤;辻一郎;渡邊誠. 都市部住宅地域における在宅高齢者の口腔状態 鶴ヶ谷プロジェクト. 東北大学歯学雑誌 2005 ; 24(1): 16-23.
ID=2005189246 (原著論文)
中出美代;平井寛;近藤克則;吉井清子;末盛慶;市田行信. 日本の高齢者 介護予防に向けた社会疫学の大規模調査 高齢者の歯・口腔・栄養状態 社会経済格差と地域格差の実態. 公衆衛生 2005 ; 69(4): 313-317.

(b) 学会発表抄録

ID=KA14390126<Pre 医中誌> (会議録)
笠井公子;伊藤眞知子;山崎嘉余子;小枝義典;湯浅清一;野村良二;勝俣正之. 目黒区介護予防事業における歯科衛生士の取り組み 目黒区口腔ケア研究会について. 老年歯科医学 2010 ; 25(2): 238-239.
ID=KA14390074<Pre 医中誌> (会議録)
渡邊裕;武井典子;植田耕一郎;菊谷武;北原稔;戸原玄;平野浩彦;渡部芳彦;有岡享子;岩佐康行;飯田良平;柏崎晴彦;伊藤加代子;石田瞭;野原幹司;眞木吉信;枝広あや子;山根源之. 介護予防における口腔機能向上サービスの推進に関する研究(第1報) 平成21年度介護報酬改定の通所事業所への影響. 老年歯科医学 2010 ; 25(2): 199-200.
ID=KA14390069<Pre 医中誌> (会議録)
藤本篤士;武井典子;竹中彰治;福島正義;石川正夫;石井孝典;高田康二;渡邊勉;岩久正明. 高齢者の口腔ケアに関する研究(第6報) 総合的な口腔機能向上プログラムの試行と介護予防への実践. 老年歯科医学 2010 ; 25(2): 195-196.
ID=KA14390064<Pre 医中誌> (会議録)
塩沢恵美;江面晃. 新潟県介護予防事業における口腔機能向上. 老年歯科医学 2010 ; 25(2): 191-192.
ID=KA14390060<Pre 医中誌> (会議録)
酒寄孝治;平田創一郎;岡田真人;石井拓男;石田瞭;大久保真衣;眞木吉信. 口腔機能の向上を目的とした地域支援事業(介護予防)の効果. 老年歯科医学 2010 ; 25(2): 188-189.
ID=KA14390041<Pre 医中誌> (会議録)
久保田あゆみ;久保田守;荒川秀樹;鍵和田豊;川瀬俊夫. 特定高齢者口腔機能向上事業への開業医の参加・協力の模索. 老年歯科医学 2010 ; 25(2): 175.
ID=KA14390039<Pre 医中誌> (会議録)
小林敏伸;井田満夫;遠藤慶一;横島弘和;宮田悌治;広瀬忠正;高見澤豊. 川崎市歯科医師会の特定高齢者に対する介護予防・口腔機能向上の取り組み(第2報). 老年歯科医学 2010 ; 25(2): 173-174.

ID=2011011812 (会議録)
大原里子;宮下順子;柳澤智仁;大山篤;俣木志朗. 介護予防における口腔機能向上サービスの推進に関する研究 特定高齢者・一般高齢者共用教育ツールの開発. 口腔衛生学会雑誌 2010 ; 60(4): 529.
ID=2011011811 (会議録)
酒寄孝治;平田創一郎;岡田真人;眞木吉信;石井拓男;大久保真衣;石田瞭. 口腔機能向上を目的とした地域支援事業(介護予防)における口腔環境変化の評価. 口腔衛生学会雑誌 2010 ; 60(4): 528.
ID=2011011810 (会議録)
横山正明;渡邊裕;池主憲夫;武井典子;相田潤;伊藤加代子;石田瞭;平野浩彦;北原稔;大原里子;眞木吉信. 介護予防における口腔機能向上サービスの推進に関する研究 21 年度介護報酬改定の都道府県・市への影響. 口腔衛生学会雑誌 2010 ; 60(4): 527.
ID=2010335006 (会議録)
貴島真佐子;糸田昌隆. 大阪府介護予防標準プログラムにおける健口体操実施による口腔機能および口腔衛生状況の評価. 日本顎頭蓋機能学会誌 2008 ; 21(1): 66.
ID=2010316523 (会議録)
平岡敬子;山内京子. 島嶼部および急傾斜地に居住する高齢者の介護予防に関する調査 口腔衛生と運動能力との関係について. 日本看護科学学会学術集会講演集 2009 ; 29 回(): 350.
ID=2010316362 (会議録)
堤千代;原等子;宮林郁子. 介護予防給付における口腔機能の向上サービス立案に影響する要因(第 2 報) プランニングを阻害する要因. 日本看護科学学会学術集会講演集 2009 ; 29 回(): 266.
ID=2010304358 (会議録)
新居直実;仁後真記子;神山由美子;宮島至郎;鈴木史香;西山佳秀. 特定高齢者に対する通所型介護予防事業での取り組みと成果(第 2 報) 口腔機能向上レクリエーションの効果について. 日本歯科衛生学会雑誌 2010 ; 5(1): 258.
ID=2010304355 (会議録)
村留和子;朝田美鈴;阿南敦子;榎原道子;大木文枝;中川由美子;松井左知子;梶原恵子;御代出三津子. 兵庫県西宮市における特定高齢者口腔機能向上プログラムの取り組み. 日本歯科衛生学会雑誌 2010 ; 5(1): 255.
ID=2010304251 (会議録)
武藤智美;小林元子;的場博美;館千佳;宮原千晶;安田久美子;菅頼子;齊藤美香;佐藤万里子;伊藤峰子;久保田美和;日高一枝;佐藤雅代;澤谷幸絵;大津久子;瀧川裕子;金山優子;池田佳代;東清美;秋野憲一;武井典子;藤本篤士. 北海道歯科衛生士会における介護予防「口腔機能向上」従事者拡大モデル事業の実施報告. 日本歯科衛生学会雑誌 2010 ; 5(1): 151.
ID=2010295354 (会議録)
原修一;三浦宏子;山崎きよ子. 養護老人ホーム入所高齢者のオーラルディアドコキネシスと ADL および摂食・嚥下機能との関連性. 日本老年医学会雑誌 2010 ; 47(Suppl.): 118.

ID=2010270673 (会議録)
坊岡峰子;山路明美;尾崎麻里;大久保知加;宮島仁美. 介護予防事業での口腔機能に関する多職種連携での取り組みとその効果. リハビリテーション連携科学 2010 ; 11(1): 72.
ID=2010242662 (会議録)
平田芳浩;須崎尚;岡田希和子;石田静乃;角谷亜矢;小島千明;伊藤勇貴;山中克己;水口くるみ;神野順子;千葉桂代子;伊藤日奈子;伊東あゆみ. 介護予防としての口腔機能向上事業と栄養改善事業の同時実施の試み. 日本口腔ケア学会雑誌 2010 ; 4(1): 84.
ID=2010242632 (会議録)
貴島真佐子;糸田昌隆;伊藤美季子;田中信之. 大阪府介護予防標準プログラムにおける口腔機能評価項目についての検討. 日本口腔ケア学会雑誌 2010 ; 4(1): 73.
ID=2010231881 (会議録)
鷺尾憲文;澤田弘一;金盛久展;富川和哉;難波久美子;奥典永. 特定高齢者の口腔機能向上による介護予防. 地域医療 2009 ; (第 48 回特集): 1051-1054.
ID=2010231880 (会議録)
桑原円;岡林志伸;重本真理子. 介護予防への取り組み 口腔機能の向上に対する取り組みを行って. 地域医療 2009 ; (第 48 回特集): 1047-1050.
ID=2010226174 (会議録)
赤坂幾子;小野寺圭子;民部田政彦;山口重子;鈴木智子;晴山婦美子;佐藤美津子. 地域支援事業における口腔機能向上サービスの成果と課題 介護予防教室「お達者湯々塾」の取り組み. 口腔衛生学会雑誌 2010 ; 60(2): 180-181.
ID=2010147945 (会議録)
晴山婦美子;高橋光恵;浪岡多津子;佐々木祥子;升沢博子;赤坂幾子;千葉征子;高橋好江;斉藤眞喜子;中野千恵子;富手由歌里;千葉裕子;石田かつこ;及川恵利子;菅原美佐子;南幅久美子;竹本章子;小野寺圭子;畑村成子;多田英子;梅原照子;佐藤美津子. 介護予防通所事業所職員に対する「口腔機能向上サービス普及研修会」を実施して. みちのく歯学会雑誌 2009 ; 40(1-2): 23.
ID=2010131488 (会議録)
渡部芳彦;若生利津子;小林淑子;片桐美由紀;山本洋史. 元気応援教室(特定高齢者介護予防口腔機能向上サービス)の実施評価. 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会雑誌 2009 ; 13(3): 520.
ID=2010131486 (会議録)
植田清子;大蔵雅文;山崎藤人;田島みどり;岩城洋子;立石登. 口腔機能ケアの介護予防指導への取り入れ. 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会雑誌 2009 ; 13(3): 519.
ID=2010131131 (会議録)
吉田健;三浦宣子;伊藤由理;丹羽真弓;滝藤京子;愛知県介護予防推進会議作業部会. 当県下市町村における特定高齢者口腔機能向上事業の書面調査報告. 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会雑誌 2009 ; 13(3): 344-345.

ID=2010124143 (会議録)
川村孝子. 地域支援事業 特定高齢者における口腔機能向上の取り組み. 東北公衆衛生学会誌 2009 ; (58): 45.
ID=2010121417 (会議録)
杉本智子;葭原明弘;大内章嗣;石上和男;宮崎秀夫. 介護保険事業者等における要介護者の口腔ケアに関する実態および意識行動に及ぼす要因分析. 口腔衛生学会雑誌 2010 ; 60(1): 54-55.
ID=2010072560 (会議録)
久保山裕子;鶴田哲明;福島秀和;安細敏弘;山崎数彦;浅田里美;小澤尚子;十亀輝. 福岡県の介護予防市町村支援の取り組み 口腔機能向上アセスメント実施説明書作成の取り組みについて. 口腔衛生学会雑誌 2009 ; 59(5): 611-612.
ID=2010048984 (会議録)
吉村晴代;増谷伊都子;村井孝行;有埜みや子;山田全啓. 介護予防事業「口腔機能向上」の効果的な推進 市町村支援をとおして. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2009 ; 68 回(): 542.
ID=2010048788 (会議録)
大原里子;相田潤;植田耕一郎;大久保一郎;杉山みち子;鈴木隆雄;曾根稔雅;辻一郎;遠又靖丈;安村誠司. 介護予防口腔機能向上サービスの効果の検討 継続的評価分析支援事業より. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2009 ; 68 回(): 483.
ID=2010048694 (会議録)
関口晴子;大淵修一;小島成実;平野浩彦;原智子;大金伸子;向原千栄子;片桐真佐子;会沢京子;手嶋久子. 遠隔型口腔機能向上プログラムの効果の検討. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2009 ; 68 回(): 459.
ID=2010048693 (会議録)
橋本由利子;高橋美砂子. 「みんなのお口の体操」が介護通所施設利用者の QOL、ADL、口腔機能に及ぼす効果. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2009 ; 68 回(): 459.
ID=2010047980 (会議録)
本田千絵;清田啓子;島田直子. 特定高齢者を対象とした通所型介護予防事業「口腔機能向上の教室」を実施して. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2009 ; 68 回(): 219.
ID=2010047762 (会議録)
伊藤加代子. 口腔機能測定器「健口くん」によるオーラルディアドコキネシス測定. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2009 ; 68 回(): 136.
ID=2010046069 (会議録)
藤本誠. 当市における口腔機能向上事業. 障害者歯科 2009 ; 30(3): 416.

ID=2010003360 (会議録)
野口有紀;相田潤;若栗真太郎;大原里子;北原稔;中川律子;関口晴子;猪野恵美;池山豊子;小坂健. 歯科衛生士の関わる介護予防「口腔機能の向上」プログラムの効果の検討について. 口腔衛生学会雑誌 2009 ; 59(4): 336.
ID=2010003359 (会議録)
伊藤奏;相田潤;野口有紀;大原里子;北原稔;中川律子;関口晴子;猪野恵美;池山豊子;若栗真太郎;小坂健. 歯科衛生士派遣型の介護予防プログラムのモデル事業について. 口腔衛生学会雑誌 2009 ; 59(4): 335.
ID=2009331336 (会議録)
天本和子;五条いづみ;境千保美;橋本稔恵;井上了子. 口腔ケアリーダー研修会の効果について(その 2) 受講修了者による介護予防事業の取り組みから. 日本歯科衛生学会雑誌 2009 ; 4(1): 212.
ID=2009331315 (会議録)
佐竹幸栄;池田明美;染谷有子;大島宏子;飯村伶子. 特定高齢者通所型介護予防事業「口腔機能の向上教室」における理学的アセスメント 2 年間の統計. 日本歯科衛生学会雑誌 2009 ; 4(1): 191.
ID=2009331293 (会議録)
新居直実;仁後真記子;神山由美子;小林政子;宮島至郎;鈴木史香;西山佳秀. 特定高齢者に対する通所型介護予防事業「口腔機能向上」での取り組みと成果. 日本歯科衛生学会雑誌 2009 ; 4(1): 169.
ID=2009331291 (会議録)
池田明美;佐竹幸栄;染谷有子;大島宏子;飯村伶子. 特定高齢者介護予防事業「口腔機能向上」教室実施プログラム. 日本歯科衛生学会雑誌 2009 ; 4(1): 167.
ID=2009307930 (会議録)
鎌田仁;深澤範子. 遠野市における口腔周囲筋エクササイズの取り組みと実施効果について. 岩手医科大学歯学雑誌 2009 ; 34(1): 32-33.
ID=2009299692 (会議録)
相原浩子;若生沙希;横山太一;鈴木正樹;沼田いく子;結城直子;大井孝;水戸祐子;服部佳功;坪井明人; 小関健由;渡邊誠. 宮城県美里町における介護予防口腔機能向上事業の展開. 日本老年歯科医学会総会・学術大会プログラム・抄録集 2009 ; 20 回(): 183.
ID=2009299642 (会議録)
奥山秀樹;南温;三上隆浩;占部秀徳;高橋徳昭;木村年秀;平野浩彦;菊谷武;植田耕一郎. 口腔機能向上サービスの提供のあり方と介護予防効果に関する調査. 日本老年歯科医学会総会・学術大会プログラム・抄録集 2009 ; 20 回(): 158.
ID=2009299624 (会議録)
石田瞭;酒寄孝治;眞木吉信;大久保真衣;杉山哲也;平田創一郎;岡田真人;石井拓男. 介護予防事業参加者の視点からみた口腔機能向上支援のあり方. 日本老年歯科医学会総会・学術大会プログラム・抄録集 2009 ; 20 回(): 148.

ID=2009299623 (会議録)
酒寄孝治;平田創一郎;岡田真人;石井拓男;石田瞭;大久保真衣;眞木吉信. 口腔機能の向上を目的とした介護予防事業参加者の1年後の評価. 日本老年歯科医学会総会・学術大会プログラム・抄録集 2009 ; 20 回(): 147.
ID=2009299541 (会議録)
渡部芳彦. 口腔ケアに関する地域福祉的研究 介護予防「口腔機能向上サービス」のアンケート結果の検討. 日本老年歯科医学会総会・学術大会プログラム・抄録集 2009 ; 20 回(): 106.
ID=2009267692 (会議録)
貴島真佐子;糸田昌隆;伊藤美季子;田中信之. 介護予防事業における口腔機能評価および口腔衛生状況の事前・事後および介護予防教室終了後の追跡調査. 日本口腔ケア学会雑誌 2009 ; 3(1): 70.
ID=2009267691 (会議録)
塩沢恵美;江面晃. 新潟県介護予防における口腔機能向上事業の効果. 日本口腔ケア学会雑誌 2009 ; 3(1): 70.
ID=2009225692 (会議録)
野口有紀;小澤亨司. 介護予防基本チェックリスト口腔関連3項目と主観的口腔のQOLとの関連. 口腔衛生学会雑誌 2009 ; 59(2): 149.
ID=2009225690 (会議録)
白田千代子. 口腔機能の保持増進に関わる取り組みを理解する 地域における口腔機能向上の取り組み. 口腔衛生学会雑誌 2009 ; 59(2): 148-149.
ID=2009221776 (会議録)
鎌田仁;深澤範子;秋広良昭. Mパタカラを用いた口腔周囲筋エクササイズによる介護度改善効果. 日本抗加齢医学会総会プログラム・抄録集 2009 ; 9 回(): 273.
ID=2009200856 (会議録)
貴島真佐子;糸田昌隆;大塚佳代子;川合清毅. 大阪府介護予防標準プログラムにおける口腔機能向上の効果について. 日本顎頭蓋機能学会誌 2007 ; 20(1): 132.
ID=2009200838 (会議録)
田井義人. 大阪市の介護予防事業における「口腔機能向上事業」について. 日本顎頭蓋機能学会誌 2007 ; 20(1): 121.
ID=2009195701 (会議録)
村上順彦;安齋理江;井口光世;布施修一郎;柳澤茂;鳥海宏. 高齢者介護施設における口腔ケアの推進に関する一考察. 信州公衆衛生雑誌 2008 ; 3(1): 50-51.
ID=2009179279 (会議録)
堤千代;原等子;宮林郁子. 口腔セルフケアを行なっている高齢者の口腔内清潔状態の現状 ケアハウス及び高齢者向け優良賃貸住宅の入居者について. 日本口腔ケア学会雑誌 2008 ; 2(1): 72-73.
ID=2009179266 (会議録)

伊藤美季子;貴島真佐子;糸田昌隆;大塚佳代子;川合清毅. 介護予防事業における歯科衛生士の役割について 口腔機能向上教室を開催して. 日本口腔ケア学会雑誌 2008 ; 2(1): 68.
ID=2009179245 (会議録)
上森尚子;尾崎由衛;榊原葉子;服部信一;木村貴之;柿木保明. 介護保険関連施設における口腔ケアに関する研究(第一報) 口腔ケアの現状と今後の課題について. 日本口腔ケア学会雑誌 2008 ; 2(1): 60.
ID=2009179240 (会議録)
伊藤加代子;高野尚子;葭原明弘;宮秀夫. 高齢者の口腔機能の基準値作成に向けた基礎調査. 日本口腔ケア学会雑誌 2008 ; 2(1): 58.
ID=2009179220 (会議録)
貴島真佐子;糸田昌隆;伊藤美季子;大塚佳代子;川合清毅. 大阪府介護予防標準プログラムにおける口腔機能向上の効果について. 日本口腔ケア学会雑誌 2008 ; 2(1): 51.
ID=2009179183 (会議録)
木村重子. 介護予防につながる口腔ケアの実践 チームの中の歯科衛生士. 日本口腔ケア学会雑誌 2007 ; 1(1): 56-57.
ID=2009179164 (会議録)
濱本玉美. 介護予防と口腔ケア 施設における口腔ケアの取り組み. 日本口腔ケア学会雑誌 2007 ; 1(1): 50.
ID=2009179163 (会議録)
久保山裕子. 介護予防と口腔ケア 歯科衛生士の現在の活動から介護予防に向けて. 日本口腔ケア学会雑誌 2007 ; 1(1): 50.
ID=2009179162 (会議録)
福田英輝. 介護予防と口腔ケア 地域に広がる口腔ケア事業. 日本口腔ケア学会雑誌 2007 ; 1(1): 49-50.
ID=2009179156 (会議録)
鬼木裕子;寺松順子. 介護認定調査からみえてきた要介護者の口腔清潔 隠されたニーズを考える. 日本口腔ケア学会雑誌 2007 ; 1(1): 47-48.
ID=2009154892 (会議録)
高橋光恵;晴山婦美子;佐々木祥子;升沢博子;大友さつき;米澤真理美;千葉茂美;小田郁子;藤川真由子;浪岡多津子;佐藤美津子. 口腔機能向上サービス普及モデル事業報告 介護予防通所事業所における取り組み. 岩手公衆衛生学会誌 2009 ; 21(1): 54-55.
ID=2009149668 (会議録)
尾形由美子. 特定高齢者の嚥下困難に対する地域支援事業での取り組み 日常生活での QOL が改善した特定高齢者を支える事業の展開. 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会雑誌 2008 ; 12(3): 474.
ID=2009149665 (会議録)
西方佳子;清水美歩;西方浩一.

<p>特定高齢者施策における口腔機能向上事業参加者の現状. 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会雑誌 2008 ; 12(3): 472-473.</p>
<p>ID=2009136363 (会議録)</p>
<p>吉田光由. 全身健康はお口の健康から 咬合と転倒 介護予防に向けて. 日本顎頭蓋機能学会誌 2006 ; 19(1): 59.</p>
<p>ID=2009136361 (会議録)</p>
<p>木村年秀. 全身健康はお口の健康から 介護予防と口腔機能. 日本顎頭蓋機能学会誌 2006 ; 19(1): 58.</p>
<p>ID=2009136360 (会議録)</p>
<p>菊谷武. 口からはじまる介護予防 口腔ケアで寝たきり防止. 日本顎頭蓋機能学会誌 2006 ; 19(1): 57.</p>
<p>ID=2009136352 (会議録)</p>
<p>永井ひとみ;牧尚美;徳永規子;西山憲行;波田野哲也. 共立歯科での歯科衛生士による通所施設での口腔ケア活動. 日本顎頭蓋機能学会誌 2006 ; 19(1): 51.</p>
<p>ID=2009132594 (会議録)</p>
<p>林亮;岡田源太郎;河村崇久;丸山真理子;吉川峰加;吉田光由;津賀一弘;赤川安正. 新しい口腔パワーリハビリテーションの開発 要介護高齢者への応用. 広島大学歯学雑誌 2008 ; 40(1): 86-87.</p>
<p>ID=2009126600 (会議録)</p>
<p>山内邦生;八木稔;花形哲夫;佐久間汐子;飯野俊;有泉秀記;望月忠隆;山内皓央;鎌田巖;古屋高清;小倉信;宮崎秀夫. 歯科医師における口腔管理事業への参加傾向とフッ化物応用の推奨に関するアンケート調査. 口腔衛生学会雑誌 2009 ; 59(1): 62.</p>
<p>ID=2009126590 (会議録)</p>
<p>杉浦貴美子;藤山友紀;岡田匠;葭原明弘;宮崎秀夫. 新潟市障がい者要介護者歯科保健事業における障がい者の実態調査(第 2 報). 口腔衛生学会雑誌 2009 ; 59(1): 59.</p>
<p>ID=2009113234 (会議録)</p>
<p>薄波清美;高橋尚子;葭原明弘;宮崎秀夫. 特定高齢者に対する口腔機能向上サービスの実施とその効果. 新潟歯学会雑誌 2008 ; 38(2): 143.</p>
<p>ID=2009107988 (会議録)</p>
<p>逢坂伸子;上柳より子;足立安正;中川美智子. 大東市における介護予防パッケージ(運動・口腔・栄養・認知症)教室の効果について. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2008 ; 67 回(): 489.</p>
<p>ID=2009097454 (会議録)</p>
<p>上岡幸治;田仲寿江;岩田英理子;久保田守;浜田作光;木本茂成;平田幸夫;川瀬俊夫. 介護予防事業口腔機能向上事業への参加・協力をして. 神奈川歯学 2008 ; 43(抄録集): 19.</p>
<p>ID=2009084923 (会議録)</p>
<p>三上隆浩;石橋奈美;小玉千恵;松村治香;嘉田将典;下宮雅行;加藤恭司. 飯南町における介護予防事業の現状と課題 特定高齢者を対象とした通所型介護予防事業. 地域医療 2008 ; (第 47 回特集): 736-739.</p>

ID=2009084921 (会議録)
深澤範子;赤坂幾子;菊池より子;菊池寿代;遊田貴美子;細越勉;佐々木文友;平野智彦. 遠野市独自の介護予防のための口腔機能向上事業を実施して. 地域医療 2008 ; (第 47 回特集): 727-733.
ID=2009021609 (会議録)
相見礼子;宮川久美;田村裕子;仁井谷善恵;松本厚枝;原久美子;丸山真理子;岡田源太郎;河村崇久;林亮;津賀一弘;吉田光由;天野秀昭;赤川安正. 介護予防における口腔機能向上サービスのための客観的評価方法の検討. 老年歯科医学 2008 ; 23(2): 217-218.
ID=2009021581 (会議録)
藤本篤士;武井典子;木本恵美子;竹中彰治;福島正義;奥瀬敏之;渡辺勉;石川正夫;高田康二;岩久正明. ケアハウス入所者への介護予防プログラムが口腔機能の維持向上と WHO/QOL に及ぼす効果. 老年歯科医学 2008 ; 23(2): 197-198.
ID=2009021563 (会議録)
箱井道子;久保木弘;遠藤慶一;横島弘和;宮田悌治;小林敏伸. 川崎市歯科医師会の特定高齢者に対する介護予防・口腔機能向上の取り組み. 老年歯科医学 2008 ; 23(2): 184.
ID=2009021562 (会議録)
酒寄孝治;眞木吉信;平田創一郎;岡田眞人;石川健太郎;向井美恵;石井拓男. 特定高齢者を対象とした介護予防事業における口腔保健および口腔機能の向上プログラムの評価. 老年歯科医学 2008 ; 23(2): 183-184.
ID=2009021561 (会議録)
会沢咲子;山岸春美;藤田まどか;廣田裕子;蛭谷明希;高田靖;中島陽州;平野浩彦. 当地区での介護予防「口腔機能向上プログラム」の実施状況. 老年歯科医学 2008 ; 23(2): 182-183.
ID=2008370976 (会議録)
大山篤;小山和泉;大原里子;佐々木好幸;北原稔;清水チエ;俣木志朗. 小規模多機能型居宅介護事業所における介護予防「口腔機能の向上」の実施と評価に関する予備調査. 口腔衛生学会雑誌 2008 ; 58(4): 362.
ID=2008370974 (会議録)
酒寄孝治;平田創一郎;岡田眞人;石井拓男;眞木吉信. 介護予防事業における特定高齢者と一般高齢者の口腔環境および口腔機能の比較. 口腔衛生学会雑誌 2008 ; 58(4): 360.
ID=2008370969 (会議録)
山本透;福島眞貴子;鶴本明久;古川清香;本橋純;横浜市歯科医師会口腔ケア特別委員会. 横浜市における「特定高齢者」に対する口腔ケア・保健学習プログラムの評価. 口腔衛生学会雑誌 2008 ; 58(4): 355.
ID=2008370896 (会議録)
菊谷武. 介護予防力と口腔保健 暮らしを支える歯科医療 在宅歯科医療における多職種連携をとおして. 口腔衛生学会雑誌 2008 ; 58(4): 267.
ID=2008370895 (会議録)
関口晴子. 介護予防力と口腔保健 介護予防での歯科衛生士の役割. 口腔衛生学会雑誌 2008 ; 58(4):

266-267.
ID=2008370894 (会議録)
鈴木俊夫. 介護予防力と口腔保健 喫食障害の改善を目指して. 口腔衛生学会雑誌 2008 ; 58(4): 266.
ID=2008370893 (会議録)
植田耕一郎. 介護予防力と口腔保健 介護予防における「口腔機能の向上支援」の現状、課題、および展望. 口腔衛生学会雑誌 2008 ; 58(4): 265-266.
ID=2008364994 (会議録)
二宮真紀子;石川百合子;木村重子;清水けふ子;鈴木敏子;床田貴代子;増渕加津子;松田久仁子;中村映子;中別府洋子. 埼玉県歯科衛生士会で取り組んだ介護予防 問題点と解決策. 日本歯科衛生学会雑誌 2008 ; 3(1): 131.
ID=2008364992 (会議録)
佐竹幸栄;池田明美;染谷有子. 介護予防事業「口腔機能の向上」教室のアセスメントと伝達プログラム 試行錯誤の初期事業を終えて. 日本歯科衛生学会雑誌 2008 ; 3(1): 129.
ID=2008364991 (会議録)
植木良恵;早川由希;杉本さつき;辻本時子;長岡さとみ;森香織;重森由貴;福本志津香;山本可奈子;橋本瑞穂;橋本昌美. 介護予防事業への歯科医院の取り組み 口腔機能向上プログラムを開催して. 日本歯科衛生学会雑誌 2008 ; 3(1): 128.
ID=2008364981 (会議録)
木本恵美子;澤飯順子;讚井智子;長尾由美子;齊藤美香;藤川泰恵;新岡和枝;原志乃;佐藤雅代;橋本希;阿部弥生;宮原千晶;佐藤瑞紀;館千佳;宮腰ゆき子;柳原光代;前田弘子;柿山明美;近江谷義恵;安田久美子;武藤真澄. 北海道歯科衛生士会歯科保健推進研修事業通所施設における口腔機能向上モデルプラン報告. 日本歯科衛生学会雑誌 2008 ; 3(1): 118.
ID=2008364957 (会議録)
佐々木祥子;高橋光恵;晴山婦美子;升沢博子;大友さつき;米澤真理美;千葉茂美;小田郁子;浪岡多津子;佐藤美津子;藤川真由子. 「歯科衛生士による口腔機能向上サービス普及事業」事後評価 岩手県歯科衛生士会活動報告. 日本歯科衛生学会雑誌 2008 ; 3(1): 94.
ID=2008364955 (会議録)
成行稔子;戸田知美;平井幹二;増田芳彦;木村年秀;大森浩子. 一般高齢者介護予防事業(口腔機能向上)への取り組み. 日本歯科衛生学会雑誌 2008 ; 3(1): 92.
ID=2008364954 (会議録)
尾形由美子. 地域支援事業の口腔機能向上教室での成果とその展開 地域に広げるための取り組み. 日本歯科衛生学会雑誌 2008 ; 3(1): 91.
ID=2008262547 (会議録)
内田武;浅野紀元;大島基嗣;伊藤真知子;桐原仁子;石井孝典;芹沢直記;梶田康文;谷みのり;遊間由美子;岩崎知恵子;吉川幸江.

口腔機能向上プログラムの取り組み. 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会雑誌 2007 ; 11(3): 350.
ID=2008262252 (会議録)
植田耕一郎. 急性期から維持期にかけて、病態時期に応じた口腔ケアの役割. 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会雑誌 2007 ; 11(3): 211.
ID=2008260700 (会議録)
岡橋由美子;吉野由美子;長嶺英子;内山史絵;原智子;石田淳子. 府中市の口腔機能低下予防「ひと口講座」を実施して. 東京都福祉保健医療学会誌 2007 ; 平成19年度(口頭発表): 80-81.
ID=2008240697 (会議録)
外丸雅晴;下山徹;笹岡邦典;茂木健司. 介護予防における歯科の役割 口腔機能の向上支援について. 群馬県歯科医学会雑誌 2007 ; 11(10): 59-60.
ID=2008177441 (会議録)
渡邊美紀;湯川晴美;吉田英世;大淵修一;鈴木隆雄. 地域在宅高齢者の要介護認定に関連する栄養状態、口腔機能、運動器機能. 日本衛生学雑誌 2008 ; 63(2): 567.
ID=2008165724 (会議録)
原哲也. 口腔機能の向上による介護予防. 香川県医師会誌 2008 ; 60(6): 79-80.
ID=2008154445 (会議録)
辰巳浩輝. 市町村合併後の活動状況 歯科医師臨床研修に向けて. 地域医療 2007 ; (第46回特集): 1030-1032.
ID=2008154418 (会議録)
杉本明美;野川裕子;平健蔵;清見原加代;山縣司政. 介護予防向上のための口腔機能リハビリモデル事業に参加して. 地域医療 2007 ; (第46回特集): 948-951.
ID=2008154359 (会議録)
鷺尾憲文;澤田弘一;金盛久展;山本直史;難波久美子;奥典永. 特別養護老人ホームにおける口腔ケア. 地域医療 2007 ; (第46回特集): 775-779.
ID=2008154324 (会議録)
藤野みすづ;小関由花;山田加奈子;寺田篤史;小島宏司. 介護予防一般高齢者施策の実施 口腔機能向上ビデオを作製して. 地域医療 2007 ; (第46回特集): 669-672.
ID=2008122654 (会議録)
遠藤敏;米田文;村上淑子. 特定高齢者に対する口腔機能向上の効果 当社オリジナル「ラビリン体操」を用いたプログラムの効果について. 日本咀嚼学会雑誌 2007 ; 17(2): 123-124.

ID=2008107785 (会議録)
嶋本俊子. 口腔機能の向上をめざして 介護予防を中心に. 大阪府歯科医師会雑誌 2007 ; (690): 19.
ID=2008101261 (会議録)
安藤正憲;大瀧昇宏;野田和裕;長谷川良広;徳田隆一;後藤学;菱川秀樹;畑佐学;川崎雅敏;西川平;瀧昌弘;松本貴久美;小林万里子. 当センターを拠点とした口腔機能向上事業の実施状況について. 障害者歯科 2007 ; 28(3): 339.
ID=2008100550 (会議録)
田中甲子;北原稔;大山篤;大原里子. 介護予防訪問介護における「口腔機能の向上」支援の試み. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2007 ; 66回(): 520.
ID=2008099474 (会議録)
植田耕一郎. 口腔機能の向上と介護予防 今後の展望. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2007 ; 66回(): 89.
ID=2008084575 (会議録)
米田文;清水けふ子;菊谷武. 介護予防事業における口腔機能向上プログラムの効果. 老年歯科医学 2007 ; 22(2): 233-234.
ID=2008084573 (会議録)
池田裕子;長谷川幸世;長澤貴子;若生麻里;両角祐子;江面晃. 介護予防事業所での口腔機能向上サービスへの歯科衛生士の介入. 老年歯科医学 2007 ; 22(2): 231-232.
ID=2008084571 (会議録)
廣田裕子;山岸春美;藤田まどか;会沢咲子;蛭谷明希;平野浩彦;高田靖. 歯科医師会と連携した歯科衛生士の介護予防事業への取り組み. 老年歯科医学 2007 ; 22(2): 230-231.
ID=2008084570 (会議録)
薄波清美;葭原明弘;宮崎秀夫. 特定高齢者に対する口腔機能向上サービスの実施とその効果. 老年歯科医学 2007 ; 22(2): 229-230.
ID=2008084568 (会議録)
高田靖;山岸春美;会沢咲子;藤田まどか;平野浩彦. 東京都豊島区歯科医師会による介護予防事業への取り組みについて. 老年歯科医学 2007 ; 22(2): 228.
ID=2008084451 (会議録)
西村一将;高津匡樹;大井孝;菊池雅彦;玉澤佳純;服部佳功;坪井明人;佐藤智昭;岩松正明;伊藤進太郎; 小牧健一郎;土谷昌広;山口哲史;大森芳;辻一郎;渡辺誠. 地域高齢者における口腔状態と精神機能の縦断的検討. 老年歯科医学 2007 ; 22(2): 146-147.
ID=2008084439 (会議録)
中島丘;浅野倉栄;三宅一徳;岡田春夫;中島俊明;遠見治;磯部博行;加藤喜夫;深山治久;長坂浩. 新予防給付による口腔機能向上に地域歯科医師会は連携をどのように推進していくべきか. 老年歯科医学 2007 ; 22(2): 138.

ID=2008069716 (会議録)
嶋本俊子. 口腔機能の向上をめざして 介護予防を中心に. 大阪府歯科医師会雑誌 2007 ; (687): 22.
ID=2008056111 (会議録)
矢澤正人. お口の手入れが病気を予防 口腔ケアと健康な生活 医学の視点と住民の視点. Health Sciences 2007 ; 23(4): 263.
ID=2008053447 (会議録)
安井良一;折田伸二郎;紙谷寛;松田哲也;伊藤英;西村親樹;片岡雅英;高本章司. 口腔機能向上モデル事業の報告. 広島大学歯学雑誌 2007 ; 39(1): 69.
ID=2008049989 (会議録)
植田耕一郎. 新介護予防時代における「口腔機能の向上支援」の役割と課題、展望 21世紀歯科医療従事者の一つの方向性. 新潟歯学会雑誌 2007 ; 37(1): 69.
ID=2008023582 (会議録)
今井光枝;杉原直樹;吉野浩一;鏡宣昭;松久保隆. 高齢者の要介護度と口腔および食事の満足度について. 口腔衛生学会雑誌 2007 ; 57(4): 560.
ID=2008023577 (会議録)
安福美昭;北原稔;大山篤;大原里子;黒田千恵;中川律子;足立三枝子. 訪問介護員による在宅「口腔機能の向上」支援プログラムの試み (第2報)介入前後における関連指標の変化. 口腔衛生学会雑誌 2007 ; 57(4): 555.
ID=2008023576 (会議録)
北原稔;大原里子;大山篤;中川律子;足立三枝子;安福美昭;黒田千恵. 訪問介護員による在宅「口腔機能の向上」支援プログラムの試み (第1報)実施方法と効果について. 口腔衛生学会雑誌 2007 ; 57(4): 554.
ID=2008023575 (会議録)
大岡貴史;弘中祥司;向井美恵. 地域における「お口の健康教室」の実践と口腔機能向上への効果に関する研究. 口腔衛生学会雑誌 2007 ; 57(4): 553.
ID=2008023407 (会議録)
葭原明弘;高野尚子;宮崎秀夫. 地域支援事業における基本チェックリストからみた口腔症状と全身的状况との関連. 口腔衛生学会雑誌 2007 ; 57(4): 382.
ID=2008019788 (会議録)
河岸重則;吉野賢一. 健常者と特定高齢者・要介護者の舌の立体認知能の比較. Journal of Oral Biosciences 2007 ; 49(Suppl.): 174.
ID=2007311423 (会議録)
小向井英記;岡本希;森田徳子;天野信子;東裕子;野谷昌子;佐伯圭吾;車谷典男. 要介護高齢者における口腔ケアの徹底による介護予防効果. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2005 ; 64回(): 857.

ID=2007302449 (会議録)
北原稔. 口のケアで生活機能を変える 介護予防としての「口腔機能の向上」. 昭和歯学会雑誌 2007 ; 27(1): 103.
ID=2007262120 (会議録)
木村憲次. ヒトとロボットの接点 会話型ロボットの現状と将来. 医工学治療 2007 ; 19(Suppl.): 101.
ID=2007222347 (会議録)
森戸光彦. 要介護者の口腔ケアと補綴歯科臨床 医療と介護の連携時代に必要な知識 歯科補綴学からみた要介護者の口腔ケア. 日本補綴歯科学会雑誌 2006 ; 50(115 回特別): 78.
ID=2007222346 (会議録)
宮腰ゆき子;三嶋頭. 要介護者の口腔ケアと補綴歯科臨床 医療と介護の連携時代に必要な知識 歯科衛生士からみた補綴歯科臨床上の問題点 専門的口腔ケアの現場から. 日本補綴歯科学会雑誌 2006 ; 50(115 回特別): 77.
ID=2007210659 (会議録)
羽根司人;中井孝佳;石垣宏己;峰正博. 8020 運動推進特別事業での口腔ケアによる介護予防モデル事業報告. 口腔衛生学会雑誌 2007 ; 57(2): 140.
ID=2007196643 (会議録)
関口晴子;倉林国子;青木佳子;佐藤弘美;平野浩彦;細野純;新谷浩和;那須郁夫. 介護予防を目的とした口腔機能向上サービスの実際. 東京都福祉保健医療学会誌 2006 ; 平成 18 年度(誌上発表): 198-199.
ID=2007168433 (会議録)
原田幸子;鈴木純子;寺田勇人;大井照. 「口腔ケア教室(介護予防教室)」の口腔機能向上効果について. 東京都福祉保健医療学会誌 2005 ; 平成 17 年度(): 386-387.
ID=2007151236 (会議録)
植田耕一郎. 介護予防における口腔機能の向上支援. 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会雑誌 2006 ; 10(3): 290-291.
ID=2007146370 (会議録)
花形哲夫;渡辺秀昭;志村隆司;吉田英二;高村敬純;鷺見浩平;山梨県歯科医師会介護保険推進委員会. 介護予防における、口腔機能向上プログラム対象者のスクリーニング方法の検討 水飲みテストと反復唾液飲みテストについて. 口腔衛生学会雑誌 2007 ; 57(1): 56-57.
ID=2007146363 (会議録)
杉浦貴美子;渡部純子;岡田匠;葭原明弘;宮崎秀夫. 新潟市障害者要介護者歯科保健事業における障害者の実態調査. 口腔衛生学会雑誌 2007 ; 57(1): 55.
ID=2007122188 (会議録)
奥山秀樹;木村年秀;南温;佐々木勝忠;占部秀徳;高橋徳昭;三上隆浩;澤田弘一;平野浩彦;菊谷武;植田

<p>耕一郎. 介護予防を目的とした口腔機能向上プログラムの効果. 老年歯科医学 2006 ; 21(3): 299-300.</p>
<p>ID=2007122130 (会議録)</p>
<p>平野浩彦;濱陽子;小泉貴子;斉藤美香;石山直欣;山口雅庸. 地域支援事業特定高齢者選定を目的とした基本チェックリストを採用した高齢者歯科検診報告. 老年歯科医学 2006 ; 21(3): 259.</p>
<p>ID=2007122129 (会議録)</p>
<p>若生利津子;小野美由紀;渡部芳彦. 介護予防特定高齢者施策「基本チェックリスト」口腔機能関連項目の検討. 老年歯科医学 2006 ; 21(3): 258-259.</p>
<p>ID=2007122127 (会議録)</p>
<p>遠藤慶一;横島弘和;小林敏伸;宮田悌治;久保木弘. 川崎市における介護予防口腔機能向上のモデル事業の実践について. 老年歯科医学 2006 ; 21(3): 256-257.</p>
<p>ID=2007122125 (会議録)</p>
<p>山岸春美;会沢咲子;藤田まどか;廣田裕子;中島陽州;高田靖;柳澤達雄;平野浩彦;菊谷武. (社)日本歯科医師会・介護予防モデル事業「口腔機能向上プログラム」を実践して. 老年歯科医学 2006 ; 21(3): 255-256.</p>
<p>ID=2007122124 (会議録)</p>
<p>会沢咲子;山岸春美;藤田まどか;廣田裕子;中島陽州;高田靖. 「口腔機能向上プログラム」利用者向けテキスト作成について. 老年歯科医学 2006 ; 21(3): 254-255.</p>
<p>ID=2007122111 (会議録)</p>
<p>品川隆;弘中美貴子;服部清;沼田匠;永長周一郎. 在宅介護支援センターにおける口腔ケア業務に関するアンケート調査 WEBアンケートの試み. 老年歯科医学 2006 ; 21(3): 245-246.</p>
<p>ID=2007112281 (会議録)</p>
<p>松田美恵;西原朱美;岩本巳千江;倉本睦子;穴井香代子;伊藤学;占部秀徳. 口腔ケアからみた未来志向研究プロジェクト. 地域医療 2006 ; (第 45 回特集): 527-529.</p>
<p>ID=2007112271 (会議録)</p>
<p>鷺尾憲文;澤田弘一;金盛久展;畑中加珠;難波久美子;奥典永. 介護予防を目的とした口腔ケア. 地域医療 2006 ; (第 45 回特集): 498-501.</p>
<p>ID=2007100860 (会議録)</p>
<p>高田靖;中村全宏;北川尚;中島陽州;柳澤達雄;山岸春美. 当地区における地域歯科医療の拠点として口腔保健センターが果たす役割について. 障害者歯科 2006 ; 27(3): 522.</p>
<p>ID=2007100859 (会議録)</p>
<p>秋山寿美;外園智唯;田村純治;須賀俊二;盛田好一;田村朗;似鳥弘道. 介護者に対する口腔ケア研修後の意識調査. 障害者歯科 2006 ; 27(3): 521.</p>
<p>ID=2007100854 (会議録)</p>
<p>杉浦津多;高林美華;小杉裕理;杉森香里;兼松義典;細原政俊. 新予防給付「口腔機能の向上」サービスにおいての歯科衛生士と他職種との関わり. 障害者歯科 2006 ; 27(3): 516.</p>

ID=2007100705 (会議録)
片桐陽香;菊谷武;田村文誉;須田牧夫;萱中寿恵;榎本麗子;福井智子;児玉実穂;伊野透子;高橋賢晃;西脇恵子. 健康づくり事業に参加した地域高齢者の口腔機能について. 障害者歯科 2006 ; 27(3): 366.
ID=2007093109 (会議録)
松岡文子;山下一也. 地域在住一般高齢者の口腔の QOL. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2006 ; 65 回(): 877.
ID=2007092982 (会議録)
佐々木明子;寺岡加代;千葉由美;森田久美子;大塚陽一;中山京英;鈴木恭子. 介護予防を要する高齢者における摂食・嚥下機能及び口腔乾燥と QOL との関連. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2006 ; 65 回(): 808.
ID=2007092981 (会議録)
千葉由美;佐々木明子;寺岡加代;森田久美子;大塚陽一;中山京英;鈴木恭子. 介護予防を要する高齢者の口腔・咽頭機能の状況と関連項目の検討. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2006 ; 65 回(): 808.
ID=2007017299 (会議録)
山口直美. 高齢者の摂食・嚥下機能に関する実態調査結果より 介護予防事業との関連について. 口腔衛生学会雑誌 2006 ; 56(4): 526.
ID=2006199518 (会議録)
水上美樹. ライフステージに沿った歯科衛生士の活動 高齢者から・・・ 小児歯科学雑誌 2006 ; 44(2): 55.
ID=2006190980 (会議録)
長塚美幸;梶塚達夫;鈴木明夫. 口腔ケアを広めるために. いばらき医療福祉研究集会記録集 2006 ; 18 回(): 115.
ID=2006189763 (会議録)
大町健介. 島根県における『食のリハビリ』調査研究事業報告. 広島歯科医学雑誌 2005 ; 32(1): 33-34.
ID=2006162159 (会議録)
林甫;尾松素樹;岸田文江;徳地正純. 要介護高齢者の口腔内清潔度向上への取り組み(第一報). 日本補綴歯科学会雑誌 2006 ; 50(2): 340.
ID=2006112048 (会議録)
植田耕一郎. 介護予防新時代における歯科衛生士の役割. 日本歯科衛生士会学術雑誌 2006 ; 34(2): 72-75.
ID=2006073078 (会議録)
青木美好子;清水夏子. デイサービスセンターにおける歯科衛生士による介護予防の取り組み. 老年歯科医学 2005 ; 20(3): 293-294.
ID=2006073014 (会議録)
守屋信吾;鄭漢忠;本多丘人;村田あゆみ;野谷健治;小林國彦;柏崎晴彦;岸屋雄介;笠原和恵;井上農夫男.

地域の自立高齢者の口腔の健康状態と全身の健康状態との関係について. 老年歯科医学 2005 ; 20(3): 249.
ID=2006073012 (会議録)
足立三枝子;吉野由美子;植松久美子;岡橋由美子;原智子;斉藤敦子;阿部修;石原和幸;奥田克爾;田中甲子. 歯科衛生士による専門的口腔ケアが気道感染および要介護度に及ぼす影響. 老年歯科医学 2005 ; 20(3): 247-248.
ID=2006073011 (会議録)
田村文誉;菊谷武;西脇恵子;伊野透子;福井智子;榎本麗子;児玉実穂;鈴木章;稲葉繁;吉田光由;津賀一弘;赤川安正;米山武義. 要介護度と口腔機能の関連について. 老年歯科医学 2005 ; 20(3): 246-247.
ID=2006073010 (会議録)
守屋信吾;鄭漢忠;本多丘人;村田あゆみ;野谷健治;小林國彦;柏崎晴彦;岸屋雄介;笠原和恵;井上農夫男. 介護予防における口腔ケア対象者のスクリーニング法. 老年歯科医学 2005 ; 20(3): 246.
ID=2006073004 (会議録)
高橋志保;水戸祐子;高津匡樹;菊池雅彦;服部佳功;坪井明人;佐藤智昭;岩松正明;小牧健一朗;伊藤進太郎;玉澤佳純;渡辺誠;大森芳;辻一郎. 地域高齢者における食品摂取状況と口腔状態の関連. 老年歯科医学 2005 ; 20(3): 241-242.
ID=2006007626 (会議録)
石井みどり. 老人保健における口腔保健の近未来 今後求められるかかりつけ歯科医機能 診療室非完結型を目指して. 口腔衛生学会雑誌 2005 ; 55(4): 299-300.
ID=2005298361 (会議録)
村上順彦;村上浩美;平出吉範;向井美恵. ICF の視点に立った目標指向的口腔ケアの試み 平成 16 年度市町村介護予防モデル事業を中心として. 障害者歯科 2005 ; 26(3): 623.
ID=2005298258 (会議録)
藤川隆義;斎藤正人;丹下貴司;五十嵐清治. 摂食・嚥下障害者に対する訪問リハビリテーションへのアプローチ(第三報) 介護予防に向けた口腔ケア,口腔リハビリテーションについて. 障害者歯科 2005 ; 26(3): 520.
ID=2005298219 (会議録)
村上浩美;村上順彦;平出吉範;向井美恵. 介護予防における歯科衛生士の役割について. 障害者歯科 2005 ; 26(3): 479.
ID=2005298056 (会議録)
菊谷武. 口腔機能向上が介護予防に果たす役割 歯科医療者に必要な知識. 障害者歯科 2005 ; 26(3): 310.
ID=2005284821 (会議録)
加藤加代子;田巻元子. 広げよう!要介護者への口腔ケア 噛める入れ歯と口腔ケアで介護予防 実践 介護予防のための口腔ケア やってみよう介護予防のためのお口の体操. 日本補綴歯科学会雑誌 2005 ; 49(114 回特別): 51.

ID=2005284820 (会議録)
杉本智子;高橋純子. 広げよう!要介護者への口腔ケア 嚙める入れ歯と口腔ケアで介護予防 実践 介護予防のための口腔ケア すぐできる食事介助と口腔ケアのポイント. 日本補綴歯科学会雑誌 2005 ; 49(114 回特別): 50.
ID=2005284819 (会議録)
片山修. 広げよう!要介護者への口腔ケア 嚙める入れ歯と口腔ケアで介護予防 実践 介護予防のための口腔ケア 要介護者の口腔ケア確保に向けた取り組みと成果. 日本補綴歯科学会雑誌 2005 ; 49(114 回特別): 50.
ID=2005284818 (会議録)
石井拓男. 広げよう!要介護者への口腔ケア 嚙める入れ歯と口腔ケアで介護予防 関係者の連携による要介護者への歯科治療・口腔ケアの推進に向けて 歯科治療・口腔ケアの効果とクリニカルパスの応用. 日本補綴歯科学会雑誌 2005 ; 49(114 回特別): 49.
ID=2005284817 (会議録)
野村修一. 広げよう!要介護者への口腔ケア 嚙める入れ歯と口腔ケアで介護予防 関係者の連携による要介護者への歯科治療・口腔ケアの推進に向けて 新潟県における厚生労働科学研究 3 年間の成果 要介護者用クリニカルパス(地域パス)を中心として. 日本補綴歯科学会雑誌 2005 ; 49(114 回特別): 49.
ID=2005283443 (会議録)
水上美樹. 要介護者の歯科治療 要介護者の口腔ケア. 福岡歯科大学学会雑誌 2005 ; 31(4): 224.
ID=2005257755 (会議録)
植田耕一郎. 介護予防における歯科衛生士の役割 今 歯科は正念場です. 日本歯科衛生士会学術雑誌 2005 ; 34(1): 11.
ID=2005243796 (会議録)
松尾敬子. 介護福祉と口腔ケア 歯科衛生士の立場から 介護福祉の中で口腔ケアの目指すもの. 日本歯科医療福祉学会雑誌 2005 ; 10(1): 15-16.

(4) 認知機能低下予防

(a) 原著論文

ID=K914040001<Pre 医中誌> (原著論文)
杉山智子;丸井英二;松村康弘;林邦彦;山本精一郎;須貝佑一. 認知症早期発見を目的とした集団検診の継続意義と検診からの脱落者の追跡調査の有用性. 厚生 の指標 2010 ; 57(10): 40548.

ID=2010308076 (原著論文)
山上徹也;藤田久美;小岩井あさみ;関口尚美;鏑木早苗;梅澤亜紀;米田真一;山口晴保. 地域における認知症発症・進行予防プログラムとしての脳活性化リハビリテーションの有効性. 老年精神医学雑誌 2010 ; 21(8): 893-898.
ID=2010277396 (原著論文)
内田陽子;内田真理子;町田沙紀子. 地域住民ができる認知症予防法の関連因子 介護予防講習会の参加者の自己評価から. 群馬保健 学紀要 2010 ; 30(1): 40551.
ID=2010210866 (原著論文)
東本裕美;岩崎弥生;近藤浩子;小宮浩美. 地域在住高齢者のグループ回想法の効果に関する一考察. 日本看護学会論文集: 地域看護 2010 ; (40): 68-70.
ID=2010205448 (原著論文)
木島輝美;林裕子. 地域における特定高齢者に対するタッチエムを用いた認知機能評価の効果の検討. 日本認知症ケ ア学会誌 2010 ; 9(1): 66-72.
ID=2010200302 (原著論文)
工藤久;八重樫裕幸. 認知症予防における学習療法と回想法の効果について 大館市認知症予防モデル事業を通して. 秋田看護福祉大学地域総合研究所研究所報 2010 ; (5): 40581.
ID=2010164037 (原著論文)
栗田圭一;佐野ゆり;福本恵. 一地方都市における地域包括支援センターの認知症関連業務の実態 とくに、医療資源との連携 という観点から. 老年精神医学雑誌 2010 ; 21(3): 356-363.
ID=2010067116 (原著論文)
長愛;山田達夫;鐘ヶ江秀樹;浜崎裕子;中島七海;平原一寿. 軽度認知障害者への非薬物的介入効果 Mild Cognitive Impairment Screen(MCIS)による検討. 地域保健 2009 ; 40(12): 64-69.
ID=2009355607 (原著論文)
小松洋平;上城憲司;納戸美佐子;中島龍彦;長住達樹. 介護予防事業に参加した高齢者の日常的活動量 認知機能低下群と健常群と比較. 柳川リハビリ テーション学院・福岡国際医療福祉学院紀要 2009 ; 5(1): 40703.
ID=2009354920 (原著論文)
木下ゆかり. 早期に認知症の兆しを発見し対応したことで、独居生活が維持できている事例. 認知症ケア事例 ジャーナル 2009 ; 2(2): 115-122.
ID=2009349702 (原著論文)
村田伸;村田潤;大田尾浩;松永秀俊;大山美智江;豊田謙二. 地域在住高齢者の身体・認知・心理機能に及ぼすウォーキング介入の効果判定 無作為割付け比 較試験. 理学療法科学 2009 ; 24(4): 509-515.
ID=2009283681 (原著論文)
山田実;上原稔章. 易転倒高齢者における短期記憶を含む動作遂行能力. 身体教育医学研究 2009 ; 10(1): 40549.

ID=2009270654 (原著論文)
鈴木祐恵;金川克子. 認知症高齢者訪問看護の質評価指標を用いた訪問看護実践の現状. 石川看護雑誌 2009 ; 60: 41-52.
ID=2009257138 (原著論文)
山崎結城;磯野百合子;福田健一郎;林田博典;小川奈津代;小佐々司. 作業療法士による介護予防事業の効果 長与町認知症予防教室の取り組み. 作業療法ジャーナル 2009 ; 43(6): 602-606.
ID=2009228523 (原著論文)
青木慶司;山口奈津;鈴木順子;藤原恵子;西村一弘;細江学;小林栄二;韓賢一;塩田薫;清水仁;古川潤子; 酒井雅司. 特定高齢者通所型介護予防事業の効果. 東京都医師会雑誌 2009 ; 62(4): 409-414.
ID=2009228336 (原著論文)
村田伸;大山美智江;大田尾浩;村田潤;木村裕子;豊田謙二;津田彰. 在宅高齢者の運動習慣と身体・認知・心理機能との関連. 行動医学研究 2009 ; 15(1): 40552.
ID=2009225324 (原著論文)
土室修. 介護学生の認知症高齢者に対するイメージ. 介護福祉学 2009 ; 16(1): 97-104.
ID=2009172720 (原著論文)
横井和美;国友登久子;草野良子;勅使河原浩美. 住民主体の認知症予防活動をめざした実践的研究 認知症予防活動の継続活動者と非継続活動者 の比較からの支援方法の検討. 人間看護学研究 2009 ; (7): 40804.
ID=2009151686 (原著論文)
村田伸;大山美智江;村田潤;大田尾浩;豊田謙二;小野ミツ. 在宅高齢者における身体・認知・精神心理機能の年代差と性差. 日本在宅ケア学会誌 2009 ; 12(2): 44-51.
ID=2009132340 (原著論文)
緒方啓史;原田悦子;森健治. 在宅ケア情報サービスの継続利用に関わる要因 ユーザを中心とした認知科学的検討. 日本遠隔 医療学会雑誌 2008 ; 4(2): 291-294.
ID=2009074519 (原著論文)
伊集院睦雄;本間昭;川合嘉子;今井幸充;権藤恭之. 軽度アルツハイマー型認知症例に対する MIS(Memory Impairment Screen)の適用可能性. 老年 精神医学雑誌 2008 ; 19(12): 1349-1356.
ID=2008343109 (原著論文)
久野紀子;池野多美子;岸玲子. 北海道鷹栖町および本別町での介護予防訪問による介入研究(2) 認知機能の向上効果の可能性. 北海道農村医学会雑誌 2008 ; 40(0): 26-29.
ID=2008255629 (原著論文)
中村佳奈. 老人会活動に組み込んだ健康体操教室の試み 認知症予防に配慮した体操. 作業療法 2008 ; 27(3): 283-289.
ID=2008200199 (原著論文)

田平隆行;榊原淳;沖英一;田中浩二. 認知症介護予防モデル事業の紹介と成果について. 保健学研究 2008 ; 20(2): 19-24.
ID=2008136792 (原著論文)
板東彩;河野あゆみ;中村裕美子;上田裕子;大瀧貴子. 地域虚弱高齢者のための認知症予防ケアプログラムの試みと評価 試行的研究. 日本地域看護学会誌 2007 ; 9(2): 87-92.
ID=2008046477 (原著論文)
梅本充子;中島朱美;遠藤英俊;津田理恵子. 介護予防に資する地域における回想法の研究. 日本看護福祉学会誌 2007 ; 13(1): 45-57.
ID=2008030761 (原著論文)
中島朱美;梅本充子. 地域在住高齢者の事例からみる回想法への期待 "音"による回想を手がかりとして. 介護福祉学 2007 ; 14(2): 203-212.
ID=2008020120 (原著論文)
長愛;杉村美佳;中野正剛;山田達夫. 認知度チェックテスト(Medical Care 社製)による MCI の早期発見(第一報). 臨床と研究 2007 ; 84(8): 1152-1160.
ID=2007292593 (原著論文)
木村誠子;片岡万里. 看護学生の老年看護学実習前における認知症高齢者イメージの特性 一般高齢者と認知症高齢者に対するイメージの比較. 高知大学学術研究報告(医学・看護学編) 2007 ; 55(0): 37-43.
ID=2007282085 (原著論文)
朴偉廷;遠藤忠;佐々木心彩;時田学;長嶋紀一. 認知症高齢者を居宅で介護する家族介護者の主観的 QOL に関する研究 "介護に関する話し合いや勉強会"への参加経験や参加に対する意思との関連性について. 厚生指標 2007;54(4): 21-28.
ID=2007221154 (原著論文)
細川淳子;天津栄子;佐藤弘美;伊藤麻美子;松平裕佳;金川克子;藤田茂美. 地域住民を対象とした認知症予防ボランティア育成の成果と今後の課題 認知症予防ボランティア個人の変化から. 石川看護雑誌 2007 ; 40: 25-31.
ID=2007144645 (原著論文)
森本益雄. 認知症に対するパワーリハビリテーションの効果. パワーリハビリテーション 2006 ; (5): 245-248.
ID=2007144570 (原著論文)
山本亮輔;稲村厚志;西川美奈子;岩上広一. 精神・認知 知的障害者 4 名に対するパワーリハの実施報告. パワーリハビリテーション 2006 ; (5): 52-54.
ID=2007133139 (原著論文)
岩佐一;鈴木隆雄;吉田祐子;権珍嬉;吉田英世;金憲経;杉浦美穂;古名丈人. 地域在宅高齢者における認知機能の縦断変化の関連要因 要介護予防のための包括的健診(「お達者健診」)についての研究. 日本老年医学会雑誌 2006 ; 43(6): 773-780.
ID=2007109260 (原著論文)
井出訓;木村靖子;杉田隆介;森伸幸.

地域介護支援センターにおける介護予防事業としての、高齢者記憶トレーニング・プログラム(物忘れ予防教室)のこころみ. 北海道医療大学看護福祉学部紀要 2006 ; (13): 59-63.
ID=2007068032 (原著論文)
佐藤ゆかり;齋藤圭介;原田和宏;香川幸次郎. 認知症の有無別にみた要支援・要介護 1 の在宅高齢者における ADL と移動動作との縦断的な関係. 老年社会科学 2006 ; 28(3): 321-333.
ID=2006304632 (原著論文)
松村菜穂美;高橋勇. 食事中の見守りを含めた個別的介助量と要介護者の認知症・寝たきり度との関連性 認知症デイケアにおける秒単位の介助量測定から介助量の定量化へ. 病院管理 2006 ; 43(2): 91-102.
ID=2005262031 (原著論文)
藤城弘樹;梅垣宏行;鈴木裕介;中村了;平川仁尚;井口昭久. 名古屋市保健所における痴呆介護予防事業参加者の意識調査. 日本老年医学会雑誌 2005 ; 42(3): 340-345.
ID=2005230801 (原著論文)
杉原百合子;山田裕子;武地一. 一般高齢者がもつアルツハイマー型認知症についての知識量と関連要因の検討. 日本認知症ケア学会誌 2005 ; 4(1): 40802.

(b) 学会発表抄録

ID=K916120527<Pre 医中誌> (会議録)
谷口幸一;安永明智. 在宅一般高齢者の認知機能と機能的体力に関する年齢的变化. 日本心理学会大会発表論文集 2010 ; 00: 40587.
ID=2011009886 (会議録)
福田敏秀;浦上克哉. 要支援高齢者の在宅生活に対する介護予防サービスとトリゴネコーヒーの効果の検討 認知症介入評価プログラム(TDAS)を用いて. 日本認知症ケア学会誌 2010 ; 9(2): 372.
ID=2011009885 (会議録)
高橋清子;柏谷里美;松本敬子;山本要子. 「地域型認知症予防プログラム」を参考にした介護予防活動のとりくみ A 健康教室に応用して. 日本認知症ケア学会誌 2010 ; 9(2): 372.
ID=2011009796 (会議録)
梅本充子;小林田鶴子;野崎玲子;長澤久美子. 地域高齢者に対する介護予防のための音を素材とする回想法の効果 音地図の作製を試みて. 日本認知症ケア学会誌 2010 ; 9(2): 327.
ID=2011009795 (会議録)
木村大介;竹田徳則;太田崇. 一般高齢者施策「憩いのサロン」運営ボランティアにおける 2 年後の認知機能の変化. 日本認知症ケア学会誌 2010 ; 9(2): 327.

ID=2011009720 (会議録)
真田育依;村木敏明;尹之恩;尹智暎;角田憲治;辻大士;三ツ石泰大;大藏倫博. 地域在住高齢者のスクエアステップエクササイズを用いた認知症予防教室に関する検討 特定高齢者と一般高齢者の抑うつと自己効力感へ焦点化して. 日本認知症ケア学会誌 2010 ; 9(2): 289.
ID=2010302237 (会議録)
佐久間尚子;大神優子;呉田陽一;藤原佳典;新開省二;本間昭. 日本版 RBMT の「物語の記憶」検査による健常高齢者の記憶機能と認知機能 シニアボランティア研究の3年間の追跡より. 日本神経心理学会総会プログラム・予稿集 2010 ; 00: 150.
ID=2010269963 (会議録)
大町弥生;平木尚美. 認知症に関する知識と認知症予防への期待 老人クラブ活動への参加者に対する調査から. 日本看護福祉学会全国学術大会抄録集 2010 ; 00: 53.
ID=2010269962 (会議録)
平木尚美;大町弥生. 老人クラブ活動の参加者の認知症に対する関心と不安. 日本看護福祉学会全国学術大会抄録集 2010 ; 00: 52.
ID=2010234428 (会議録)
山口友紀;谷ひと美;荻原典子. 認知症通所サービスにおける認知症進行防止のための取り組み. いばらき医療福祉研究集会記録集 2010 ; 00: 69.
ID=2010130134 (会議録)
大藏倫博;尹智暎;鴻田良枝;角田憲治;辻大士;重松良祐;中垣内真樹. 3ヵ月間のスクエアステップ教室が高齢者の認知機能と体力に与える影響. 体力科学 2009 ; 58(6): 963.
ID=2010129554 (会議録)
中西礼;重松良祐. 運動教室による介入が高齢者の注意機能に及ぼす効果. 体力科学 2009 ; 58(6): 661.
ID=2010101875 (会議録)
岡浩一朗. 生活習慣を改善する方法としての認知行動療法 生活機能が低下した高齢者に対する介護予防プログラムへの認知行動療法の応用. 日本認知療法学会・日本行動療法学会プログラム&抄録・発表論文集 2009 ; 00: 111.
ID=2010089923 (会議録)
杉山美香;野中久美子;宮前史子;矢富直美. 介護予防特定高齢者施策における認知症予防事業のプログラム開発. 東京都福祉保健医療学会誌 2008 ; 0(0): 255-256.
ID=2010062440 (会議録)
山上徹也;藤田久美;小岩井あさみ;関口尚美;楠木早苗;梅澤亜紀;米田真一;橋本省三;山口晴保. 在宅生活中の健常から軽度認知症高齢者に対する脳活性化リハビリテーションの有効性 専門職と介護予防サポーターが協力して実施した取り組み. 日本認知症ケア学会誌 2009 ; 8(2): 294.
ID=2010062293 (会議録)
杉山美香;宮前史子;宇良千秋;矢富直美. 短縮版地域型認知症予防プログラムの開発と実施の試み 行動変容と意識の側面からの検討. 日

本認知症ケア学会誌 2009 ; 8(2): 220.
ID=2010062287 (会議録)
尹智暎;大藏倫博;相原育依;村木敏明. 特定高齢者と一般高齢者の認知機能と体力との関連性に関する検討. 日本認知症ケア学会誌 2009 ; 8(2): 217.
ID=2010062275 (会議録)
小林彰;臼井啓介;與那さやか;宇良梨枝子;中村ルリ子;宮城久美子;金城恵子;大嶺伸吾. 特定高齢者における認知症予防プログラムの取り組み(その 2). 日本認知症ケア学会誌 2009 ; 8(2): 211.
ID=2010062274 (会議録)
臼井啓介;小林彰;與那さやか;宇良梨枝子;中村ルリ子;宮城久美子;金城恵子;大嶺伸吾. 特定高齢者における認知症予防プログラムの取り組み(その 1). 日本認知症ケア学会誌 2009 ; 8(2): 211.
ID=2010062243 (会議録)
鈴木節子;北川真澄. 地域住民と共に支えた認知症高齢者夫婦への支援 住み慣れた地域で生活するために. 日本認知症ケア学会誌 2009 ; 8(2): 195.
ID=2010048791 (会議録)
宮下陽江;田高悦子;立浦紀代子;金川克子;天津栄子;松平裕佳;酒井郁子;成田香織. 農村部における介護予防講座の評価(第 2 報) 認知機能及び物忘れ不安への効果の検討. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2009 ; 00: 483.
ID=2009338201 (会議録)
栗田主一;橋本衛;池田学. 認知症疾患医療センターに期待される精神科医の役割. 精神神経学雑誌 2009 ; (0): S-275.
ID=2009333901 (会議録)
矢富直美;杉山美香;宇良千秋;本間昭. 3年間の認知症予防プログラムの効果. 老年精神医学雑誌 2009 ; 20(0): 172.
ID=2009282677 (会議録)
田平隆行;中村剛;前園健之;西村洋子;井口茂. 認知症等介護予防事業における事業形態の相違と認知機能との関係 特定高齢者事業と一般高齢者と特定高齢者との合同事業の比較. 日本作業療法学会抄録集 2009 ; 00: H1-11-6.
ID=2009282537 (会議録)
後藤美奈子;佐藤利夫;中村充雄;浅野友佳子;中村真理子. 高齢者の身体・認知機能に関する長期的調査への取り組み(第 2 報). 日本作業療法学会抄録集 2009 ; 00: F5-1-2.
ID=2009282511 (会議録)
相原育依;村木敏明;大藏倫博;尹智暎;鴻田良枝. 新転倒・認知症予防教室プログラムにおける在宅高齢参加者の性格と自己効力感に関する検討. 日本作業療法学会抄録集 2009 ; 00: F3-11-4.
ID=2009282196 (会議録)
小松洋平;長住達樹;上城憲司;浅野雅子;青山宏. 市町村が実施する介護予防事業参加者の日常活動量の検証 加齢関連認知低下群と認知機能健常群の比較. 日本作業療法学会抄録集 2009 ; 00: C1-11-4.

ID=2009281767 (会議録)
中村剛;岡本康宏;前園健之;田中浩二;田平隆行. 「うつ・閉じこもり・認知症介護予防事業」への作業療法士の介入 長崎市の通所型特定高齢者 施策における成果と課題. 日本作業療法学会抄録集 2008 ; 00: P364.
ID=2009281752 (会議録)
後藤美奈子;佐藤利夫;後藤葉子;中村充雄;中村真理子. 高齢者の身体・認知機能に関する長期的調査への取り組み. 日本作業療法学会抄録集 2008 ; 00: P349.
ID=2009279662 (会議録)
矢富直美;杉山美香;宇良千秋;本間昭. 3年間の認知症予防プログラムの効果. 日本老年医学会雑誌 2009 ; 46(0): 114.
ID=2009261235 (会議録)
田平隆行;中村剛;岡本康弘;前園健之;田中浩二. 通所型特定高齢者施策「うつ・閉じこもり・認知症介護予防事業」の成果と課題. 日本作業療法 研究学会雑誌 2009 ; 12(1): 40.
ID=2009257430 (会議録)
杉山美香;矢富直美;野中久美子. 特定高齢者施策における認知症予防プログラム参加者の出席率と辞退理由 セルフ・エフィカシ ーからの検討. 老年社会科学 2009 ; 31(2): 237.
ID=2009108114 (会議録)
上松志乃;永沢文子;新開省二;小宇佐陽子;谷口優. 地域包括支援センターを拠点とした認知症予防教室 ねらい、成果および今後の課題. 日本公衆 衛生学会総会抄録集 2008 ; 00: 520.
ID=2009107349 (会議録)
佐久間尚子;呉田陽一;伏見貴夫;藤原佳典;大場宏美;小宇佐陽子;西真理子;李相侖;渡辺直紀;矢島さ とる;石井賢二;内田勇人;新開省二. 世代間交流型ヘルスプロモーション研究 REPRINTS-2 記憶の自己評価と認知検査成績. 日本公 衆衛生学会総会抄録集 2008 ; 00: 311.
ID=2009060618 (会議録)
小林幹児;澤田乃基. 介護予防事業における回想療法の理論と実際 地域包括支援センターにおける認知症予防事業へ の提言と試み. 日本心理学会大会発表論文集 2008 ; 00: 1424.
ID=2009006018 (会議録)
伊藤真知子;松井洋子;河合利衣;青山留美子;塚田圭子;岡田ひろみ;早川富博;土田満. 介護予防事業における"パズル式あかね積木"の有用性について. 日本農村医学会雑誌 2008 ; 57(3): 425.
ID=2008360673 (会議録)
酒井郁子;田高悦子;金川克子;佐藤弘美;天津栄子;松平裕佳;田中奈津子;国井由生子;前田充代. 認知機能に着目した介護予防ハイリスクアプローチ開発(第3報) 日記法によるセルフリフレク ションの有効性. 日本看護科学学会学術集会講演集 2007 ; 00: 402.
ID=2008360672 (会議録)
田高悦子;金川克子;佐藤弘美;天津栄子;酒井郁子;松平裕佳;田中奈津子;国井由生子;前田充代. 認知機能に着目した介護予防ハイリスクアプローチ開発(第2報) 軽度認知機能障害者の前頭葉

機能への有効性. 日本看護科学学会学術集会講演集 2007 ; 00: 402.
ID=2008360671 (会議録)
金川克子;田高悦子;佐藤弘美;天津栄子;酒井郁子;松平裕佳;田中奈津子;国井由生子;前田充代. 認知機能に着目した介護予防ハイリスクアプローチ開発(第 1 報) 軽度認知機能障害者への有効性. 日本看護科学学会学術集会講演集 2007 ; 00: 401.
ID=2008360329 (会議録)
舟山恵美;長谷川直人;佐藤富美子;佐藤和佳子. 新予防給付対象高齢者の生活機能の分析(第 2 報) 軽度認知症高齢者の ADL・IADL の特徴. 日本看護科学学会学術集会講演集 2007 ; 00: 228.
ID=2008349966 (会議録)
東家公則. 認知症地域支援体制構築等推進事業の概要. 認知症予防研究 2008 ; 12(1): 33-39.
ID=2008337068 (会議録)
宇良千秋;宮前史子;野中久美子;矢富直美;本間昭. 地域型認知症予防プログラムの東京都内における実施状況と課題. 日本認知症ケア学会誌 2008 ; 7(2): 366.
ID=2008337067 (会議録)
矢富直美;杉山美香;野中久美子. 特定高齢者における認知症予防事業のプロセスと効果に関する研究(1) 基本チェックリストと認知機能との関係の検討. 日本認知症ケア学会誌 2008 ; 7(2): 365.
ID=2008337057 (会議録)
杉山美香;野中久美子;矢富直美. 特定高齢者における認知症予防事業のプロセスと効果に関する研究(3) アンケート結果からみた行動習慣の変化について. 日本認知症ケア学会誌 2008 ; 7(2): 355.
ID=2008337054 (会議録)
矢吹知之;加藤伸司;阿部哲也;吉川悠貴. 高齢者の主体的な認知症・介護予防活動への参加特性 予防プログラム・アクティビティ開発ツール試案作成プロセスと 4 地域における特性比較. 日本認知症ケア学会誌 2008 ; 7(2): 352.
ID=2008337033 (会議録)
市橋芳則;遠藤英俊;来島修志;桑野康一. 地域回想法の導入シミュレーション 認知症ケア・介護予防と社会的・文化的資源保護の選択と連携. 日本認知症ケア学会誌 2008 ; 7(2): 331.
ID=2008328502 (会議録)
杉山美香;矢富直美. 地域型認知症予防プログラムがプログラム参加者の知的行動習慣に与える効果の検討. 老年社会科学 2008 ; 30(2): 360.
ID=2008328469 (会議録)
佐久間尚子;呉田陽一;伏見貴夫;藤原佳典;大場宏美;小宇佐陽子;西真理子;李相侖;渡辺直紀;深谷太郎;吉田裕人;矢島さとる;石井賢二;内田勇人;新開省二. 世代間交流型ヘルスプロモーションプログラム"REPRINTS" 認知機能評価の 4 年目の報告. 老年社会科学 2008 ; 30(2): 327.
ID=2008328414 (会議録)
矢吹知之;加藤伸司;阿部哲也;吉川悠貴.

<p>認知症および介護予防活動を支援する意欲に影響を及ぼす要因 加齢と健康に関する縦断調査 (大島 study)の取り組みから. 老年社会科学 2008 ; 30(2): 271.</p>
<p>ID=2008222593 (会議録)</p>
<p>矢野秀典;兵頭甲子太郎;風間眞理;糸井志津乃;林美奈子;堤千鶴子;會田玉美;山内千鶴子;藤谷哲. 医療系大学生の健康増進活動、介護予防活動に関する知識・意識と生活. 理学療法学 2008 ; 35(0): 895.</p>
<p>ID=2008177298 (会議録)</p>
<p>池野多美子;久野紀子;岸玲子. 作業バランス自己診断を利用した訪問の効果 北海道農村部 2 地域での介護予防訪問による介入研究. 日本衛生学雑誌 2008 ; 63(2): 422.</p>
<p>ID=2008177297 (会議録)</p>
<p>久野紀子;池野多美子;岸玲子. 認知症ハイリスク者に対する作業バランス自己診断の効果 北海道農村部 2 地域での介護予防訪問による介入研究(2). 日本衛生学雑誌 2008 ; 63(2): 421.</p>
<p>ID=2008157283 (会議録)</p>
<p>高橋智;工藤雅子;高橋純子;米澤久司;寺山靖夫. スクリーニングシートを利用した認知症介護予防対象者スクリーニングの取り組み. 臨床神経学 2007 ; 47(12): 40825.</p>
<p>ID=2008148217 (会議録)</p>
<p>秋田満香;中村信義;中澤好章;塩沢伸一郎. 介護予防事業(地域デイサービス)参加者の身体・精神機能(第 2 報) おたっしや 21 は効果指標となり得るか. 日本作業療法学会抄録集 2006 ; 00: P467.</p>
<p>ID=2008124709 (会議録)</p>
<p>岡本康宏;中村和也;田平隆行;榊原淳;田中浩二. 「うつ・閉じこもり・認知症介護予防事業」への作業療法士の参画. 日本作業療法学会抄録集 2007 ; 00: P248.</p>
<p>ID=2008124702 (会議録)</p>
<p>田平隆行;榊原淳;沖英一;田中浩二;宮寺淳子. 認知症介護予防モデル事業における作業療法の介入研究 長崎市における通所型特定高齢者施策への作業療法士の参画に向けて. 日本作業療法学会抄録集 2007 ; 00: P241.</p>
<p>ID=2008124572 (会議録)</p>
<p>池田望;中村眞理子;古名丈人;小島悟;澤田雄二. 介護予防に関する北海道民の意識および実態調査 認知症予防の視点から. 日本作業療法学会抄録集 2007 ; 00: P111.</p>
<p>ID=2008100625 (会議録)</p>
<p>小池和子;永田博司;飯野利明;池田一夫;倉科周介. 自立不全の総合的制御 地域介護量の圧縮を目指して(第 12 報) 地域における認知症の全体像. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2007 ; 00: 540.</p>
<p>ID=2008100566 (会議録)</p>
<p>村田伸;大山美智江;大田尾浩;村田潤;豊田謙二. 前期・後期高齢者の運動習慣が身体・認知・心理機能に及ぼす影響. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2007 ; 00: 524.</p>

ID=2008100544 (会議録)
氏家玉枝;横江寿美子;清野昌子;練生川恵子;操幸江;加藤久江;鎌田由貴子;宍戸幸江. 地域づくりを基盤とした認知症予防事業 介護予防、ポピュレーションアプローチ. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2007 ; 00: 518-519.
ID=2008100432 (会議録)
島村利枝;河合久代;宮永和夫. 群馬県もの忘れ検診結果と基本チェックリスト(認知症項目)との相関についての検討. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2007 ; 00: 489-490.
ID=2008100415 (会議録)
久野紀子;池野多美子;岸玲子. 介護予防訪問の介入研究(2) 認知症発症遅延アプローチとしての可能性. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2007 ; 00: 485.
ID=2008084451 (会議録)
西村一将;高津匡樹;大井孝;菊池雅彦;玉澤佳純;服部佳功;坪井明人;佐藤智昭;岩松正明;伊藤進太郎; 小牧健一郎;土谷昌広;山口哲史;大森芳;辻一郎;渡辺誠. 地域高齢者における口腔状態と精神機能の縦断的検討. 老年歯科医学 2007 ; 22(2): 146-147.
ID=2008063069 (会議録)
Akira Homma. Clinical aspects of Alzheimer's disease: Current status and issues to have to be solved. Journal of Pharmacological Sciences 2007 ; 103(0): 19.
ID=2008021723 (会議録)
伊集院睦雄;本間昭;権藤恭之. The 7 Minute Screen を用いた軽度 Alzheimer 病の鑑別. 日本心理学会大会発表論文集 2007 ; 00: 272.
ID=2008014183 (会議録)
本間萌;野村豊子;狩野徹. 地域住民による回想法テーマ集作成の実際と意義. 日本認知症ケア学会誌 2007 ; 6(2): 410.
ID=2008014181 (会議録)
平野憲子;村上直子;千葉久美子. 元気高齢者のグループ回想法のつどいに対する事後評価 参加者の全員面接をとおして. 日本認知症ケア学会誌 2007 ; 6(2): 408.
ID=2008014176 (会議録)
安達美由紀;山本要子;楠野幸代. 特定施設入居者生活介護サービス事業所における介護予防サービスの実践と課題. 日本認知症ケア学会誌 2007 ; 6(2): 403.
ID=2008014165 (会議録)
梅本充子;遠藤英俊;津田理恵子;大林優子;山本理恵. 地域回想法による認知症・うつ予防と QOL 向上への効果検証. 日本認知症ケア学会誌 2007 ; 6(2): 392.
ID=2008014164 (会議録)
高間寿恭;桑野康一;遠藤英俊;市橋芳則;宮本典子;小島恵美;岩崎知恵子;武士祐介. VR(ヴァーチャルリアリティ)回想法ツールの開発と検証 介護予防プログラム「地域回想法」の新たな取り組み. 日本認知症ケア学会誌 2007 ; 6(2): 391.

ID=2008014110 (会議録)
内記久美子;佐竹美紀;斯波純子;丸山英行;菅野正樹;海老原野枝;旭俊臣. 松戸市における軽度認知障害の実態調査と予防について 都市型住宅地での高齢化の進行に伴う 認知症急増への予防対応. 日本認知症ケア学会誌 2007 ; 6(2): 335.
ID=2008014042 (会議録)
矢富直美;杉山美香;野中久美子;宮前史子. 特定高齢者を対象とした認知症予防プログラムのプロセスと効果について(3) 認知機能と歩行 機能における結果評価の検討. 日本認知症ケア学会誌 2007 ; 6(2): 267.
ID=2008014041 (会議録)
杉山美香;矢富直美;野中久美子;宮前史子. 特定高齢者を対象とした認知症予防プログラムのプロセスと効果について(2) 活動開始時と終 了時のアンケート結果からみた影響評価. 日本認知症ケア学会誌 2007 ; 6(2): 266.
ID=2008014040 (会議録)
野中久美子;杉山美香;宮前史子;矢富直美. 特定高齢者を対象とした認知症予防プログラムのプロセスと効果について(1) ソーシャルマー ケティングの視点からのプロセス評価. 日本認知症ケア学会誌 2007 ; 6(2): 265.
ID=2008014039 (会議録)
多賀努;宇良千秋;矢富直美. 認知症予防の地域づくりの担い手育成の手がかりについて A 区認知症予防事業の講座参加者の 意見・感想等の定量分析. 日本認知症ケア学会誌 2007 ; 6(2): 264.
ID=2008014038 (会議録)
宇良千秋;宮前史子;野中久美子;多賀努;矢富直美;本間昭. 地域型認知症予防プログラムの東京都における展開 認知症予防対策室の実践より. 日本認知症 ケア学会誌 2007 ; 6(2): 263.
ID=2008014027 (会議録)
熊木こずえ. グループ活動の場所の確保についての調査報告 活動場所探しから社会資源の掘り起こしと地域 づくりを目指して. 日本認知症ケア学会誌 2007 ; 6(2): 252.
ID=2007342161 (会議録)
佐久間尚子;伏見貴夫;呉田陽一;伊集院睦雄;辰巳格. 健常高齢者の認知機能の加齢変化 シニアボランティア研究のベースラインデータより. 日本神 経心理学会総会プログラム・予稿集 2007 ; 00: 151.
ID=2007318192 (会議録)
遠藤英俊. 介護予防の老年医学:介護予防の現状 介護予防と認知症. 日本老年医学会雑誌 2007 ; 44(0): 16.
ID=2007278400 (会議録)
國武裕;山田茂人;立石哲也;渡邊至. 一般高齢者の老化に関する長期縦断疫学研究 海馬前角萎縮と知的機能の経時変化. 神経化学 2006 ; 45(40577): 397.
ID=2007273737 (会議録)
佐久間尚子;呉田陽一;伏見貴夫;藤原佳典;李相侖;大場宏美;西真理子;渡辺直紀;小宇佐陽子;深谷太 郎;吉田裕人;石井賢二;内田勇人;新開省二. 世代間交流型社会貢献プログラム"REPRINTS"3年目の報告(2) 認知機能への影響. 老年社会科

学 2007 ; 29(2): 265.
ID=2007273705 (会議録)
野中久美子;矢富直美;杉山美香;宮前史子. 特定高齢者向け認知症予防事業による介護予防制度の妥当性の検討 ー自治体の地域支援事業特定高齢者施策によるケーススタディー. 老年社会科学 2007 ; 29(2): 232.
ID=2007273668 (会議録)
杉山美香;矢富直美. 地域型認知症予防プログラムの効果評価を目的とした地域在住の高齢者の生活行動尺度の作成. 老年社会科学 2007 ; 29(2): 195.
ID=2007273632 (会議録)
井出訓. 高齢者支援と介護保険 介護予防活動としての「物忘れ予防教室」の実践から高齢者支援を考える. 老年社会科学 2007 ; 29(2): 155.
ID=2007168434 (会議録)
森光;松本尚代;渡邊喜代子;海老原英子;奥山順美;中嶋伸子. 認知症における予防からケアまでのしくみづくり 認知症になっても安心して住み続けられるまちづくりへの取り組み. 東京都福祉保健医療学会誌 2005 ; 00: 388-389.
ID=2007152016 (会議録)
久野紀子;池野多美子;吉岡英治;岸玲子. 「作業バランス自己診断」の認知症前段階を対象とする予防プログラムとしての可能性の検討 介護予防訪問プロジェクト(2). 日本衛生学雑誌 2007 ; 62(2): 526.
ID=2007092901 (会議録)
門田憲亮;早川和生;蔡陽平;尾ノ井美由紀;菊池宏幸. 高年齢双生児 2,500 組の長期縦断疫学調査から見た認知機能低下と生活環境. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2006 ; 00: 768.
ID=2007050370 (会議録)
糟谷昌志. 地域における認知症の早期発見と予防 CDR 判定の重要性 CDR0.5 における薬物介入の経済評価の重要性. Health Sciences 2006 ; 22(4): 489.
ID=2007041543 (会議録)
佐久間尚子;呉田陽一;伏見貴夫;伊集院睦雄;辰巳格;藤原佳典;西真理子;李相侖;渡辺直紀;井上かず子;吉田裕人;石井賢二;内田勇人;新開省二. 高齢者のボランティア活動と認知機能 世代間交流型社会貢献プログラム"REPRINTS"より. 老年社会科学 2006 ; 28(2): 266.
ID=2006045292 (会議録)
工藤夕貴;石崎淳一;野村豊子. 地域在住の一般高齢者へのグループ回想法(その 2) バウムテストを指標とした効果の検討. 老年社会科学 2005 ; 27(2): 236.
ID=2006045291 (会議録)
野村豊子;渡邊房代;工藤夕貴. 地域在住の一般高齢者へのグループ回想法(その 1) 思い出パートナーカレッジの実際と効果. 老年社会科学 2005 ; 27(2): 235.

ID=2006045266 (会議録)
伊藤麻里子;藤井慶子;安原耕一郎;工藤夕貴;照井孫久;野村豊子. 通所介護におけるプールと併用した回想法の応用 対人交流の変化を基にした検討. 老年社会科学 2005 ; 27(2): 209.
ID=2005248556 (会議録)
藤城弘樹;山本さやか;梅垣宏行;鈴木裕介;井口昭久. 痴呆予防教室において実施した Clock drawing test の結果の特徴について. 日本老年医学会雑誌 2005 ; 42(0): 128.
ID=2005248488 (会議録)
山田思鶴;浜達哉;林秀生;西谷弘美;秋下雅弘;大内尉義;神崎恒一;鳥羽研二. 地域在住健常高齢者の認知機能,運動機能に対する運動教室の効果. 日本老年医学会雑誌 2005 ; 42(0): 111.
ID=2005220913 (会議録)
小池奈緒美;竹田徳則. ラジオ体操を用いた痴呆性高齢者の転倒予防の試み. 作業療法 2005 ; 24(0): 158.

(5) 閉じこもり予防

(a) 原著論文

ID=2010320459 (原著論文)
山崎幸子;藺牟田洋美;鈴木理恵子;安村誠司. 閉じこもり高齢者に対する心理的介入プログラムの長期的効果 新規要介護発生および生命予後との関連. 応用老年学 2010 ; 4(1): 31-39.
ID=2010320402 (原著論文)
原田和宏;島田裕之;Patricia Sawyer;浅川康吉;二瓶健司;金谷さとみ;古名丈人;石崎達郎;安村誠司. 介護予防事業に参加した地域高齢者における生活空間(life-space)と点数化評価の妥当性の検討. 日本公衆衛生雑誌 2010 ; 57(7): 526-537.
ID=2010309915 (原著論文)
森下路子;高村昇;田中美咲;田中麻美. 被爆高齢者の身体活動習慣、外出傾向と QOL について. 広島医学 2010 ; 63(4): 286-288.
ID=2010306311 (原著論文)
妹尾弘幸;岡浩一郎;西川亜由. デイサービス利用者における在宅での活動量低下に関連する要因. 応用老年学 2008 ; 2(1): 59-65.
ID=2010301722 (原著論文)
山崎幸子;藺牟田洋美;橋本美芽;野村忍;安村誠司. 地域高齢者の外出に対する自己効力感尺度の開発. 日本公衆衛生雑誌 2010 ; 57(6): 439-447.
ID=2010216393 (原著論文)
青木慶司;山口奈津;鈴木順子;西村一弘;藤原恵子;小林栄二;細江学;韓賢一;塩田薫;清水仁;水野朝敏; 酒井雅司. 歩数計を利用した特定高齢者の歩行状況についての報告. 東京都医師会雑誌 2010 ; 63(4): 484-486.

ID=2010210869 (原著論文)
山根俊恵;齊田菜穂子;東玲子. 地域在住高齢者の閉じこもり状態への介入プログラムの検討. 日本看護学会論文集: 地域看護 2010 ; (40): 77-79.
ID=2010195362 (原著論文)
石橋裕;山田孝;小林法一;谷村厚子;川又寛徳. 閉じこもりになった高齢者の作業の特徴 最近 10 年間の文献レビューより. 作業行動研究 2010 ; 13(4): 232-240.
ID=2010192057 (原著論文)
山崎幸子;安村誠司;後藤あや;佐々木瞳;大久保一郎;大野裕;大原里子;大淵修一;杉山みち子;鈴木隆雄;本間昭;曾根稔雅;辻一郎. 閉じこもり改善の関連要因の検討 介護予防継続的評価分析支援事業より. 老年社会科学 2010 ; 32(1): 23-32.
ID=2010188412 (原著論文)
小河育恵;高山成子. 高齢者の通所サービス継続利用する要因. 日本看護福祉学会誌 2010 ; 15(2): 177-186.
ID=2010146299 (原著論文)
斉藤みゆき;大越扶貴;柳本政浩;北條蓮英;氏家靖浩. 豪雪地帯における冬の介護予防を考える. 福井県衛生環境研究センター年報 2008 ; 6(0): 88-91.
ID=2010117153 (原著論文)
島田裕之;牧迫飛雄馬;鈴川芽久美;古名丈人;鈴木隆雄. 地域在住高齢者の生活空間の拡大に影響を与える要因 構造方程式モデリングによる検討. 理学療法学 2009 ; 36(7): 370-376.
ID=2009333744 (原著論文)
小笠原京子;熊谷教. 閉じこもりを予防する個別支援(第 1 報). 飯田女子短期大学紀要 2008 ; 25(0): 35-47.
ID=2009124480 (原著論文)
伊藤常久;芳賀博;植木章三;島貫秀樹;本田春彦;河西敏幸;高戸仁郎;坂本誠;後藤あや;安村誠司. 高齢者ボランティアを活用した地域介入研究における転倒・閉じこもり予防の効果. 福島医学雑誌 2008 ; 58(4): 257-266.
ID=2008161951 (原著論文)
齋藤美華;下山田鮎美;瀬川香子;芳賀博. 農村積雪地域において閉じこもり予防事業を展開する保健師の行為およびその意味づけ. 東北大学医学部保健学科紀要 2008 ; 17(1): 49-58.
ID=2007273478 (原著論文)
平井寛;近藤克則. 高齢者の「閉じこもり」に関する文献学的研究 研究動向と定義・コホート研究の検討. 日本公衆衛生雑誌 2007 ; 54(5): 293-303.
ID=2007134882 (原著論文)
徳永崇. 介護予防 閉じこもりに対するパワーリハビリテーションの効果 1 年半を経過した 1 症例. パワーリハビリテーション 2005 ; (4): 45-46.

ID=2006254393 (原著論文)
斎藤民;李賢情;甲斐一郎. 高齢転居者に対する社会的孤立予防プログラムの実施とその評価の試み. 日本公衆衛生雑誌 2006 ; 53(5): 338-346.
ID=2006150617 (原著論文)
征矢野あや子;岡田佳澄;横井佳代;岡田真平;上岡洋晴;武藤芳照. 生きがい型介護予防支援事業利用者の移動能力,転倒恐怖と外出状況. 身体教育医学研究 2005 ; 6(1): 49-55.
ID=2006067607 (原著論文)
横山博子;芳賀博;安村誠司;藺牟田洋美;植木章三;島貫秀樹;伊藤常久. 外出頻度の低い「閉じこもり」高齢者の特徴に関する研究 自立度の差に着目して. 老年社会科学 2005 ; 26(4): 424-437.
ID=2006029194 (原著論文)
新井通子. 「老人福祉センターおよびデイサービスセンターを利用する高齢者の余暇時間の過ごし方」に関する調査 「介護予防」の方法についての一考察. 介護福祉学 2005 ; 12(1): 163-169.
ID=2005275287 (原著論文)
新開省二;藤田幸司;藤原佳典;熊谷修;天野秀紀;吉田裕人;竇貴旺;渡辺修一郎. 地域高齢者における"タイプ別"閉じこもりの出現頻度とその特徴. 日本公衆衛生雑誌 2005 ; 52(6): 443-455.
ID=2005204654 (原著論文)
多田敏子;橋本文子;松下恭子;谷岡哲也;永峰勲;山下留理子;川野公江. 山間地域の在宅高齢者の外出状況の実態. 日本看護福祉学会誌 2005 ; 10(2): 86-94.

(b) 学会発表抄録

ID=2010256856 (会議録)
浜崎優子;森本茂人;中村幸志;若林久美子;森河裕子;福間和美;中川秀昭. 自立高齢者の閉じこもりの頻度及びその特徴 特定高齢者把握事業として行ったU町の全数調査結果分析. 老年社会科学 2010 ; 32(2): 253.
ID=2010256801 (会議録)
西真理子;吉田裕人;深谷太郎;藤原佳典;天野秀紀;土屋由美子;新開省二. 孤立感のある在宅高齢者の特徴 介護予防健診受診者を対象とした検討. 老年社会科学 2010 ; 32(2): 197.
ID=2010048815 (会議録)
西真理子;藤原佳典;小林信子;高橋真奈美;河北朋子;深谷太郎;小宇佐陽子;新開省二. 既存の体操グループのネットワークを活用した孤立予防策の試み 1年目の報告. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2009 ; 68回(): 489.
ID=2010048789 (会議録)
山崎幸子;佐々木瞳;安村誠司;大久保一郎;大原里子;大淵修一;杉山みち子;鈴木隆雄;辻一郎. 閉じこもり改善の関連要因の検討 介護予防継続的評価分析支援事業より. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2009 ; 68回(): 483.

ID=2010047977 (会議録)
原田和宏;萩原章由;島田裕之;古名丈人;浅川康吉;二瓶健司;加藤めぐ美;金谷さとみ;石崎達郎;安村誠司. 地域高齢者の外出行動に着目した介護予防に対する指導者の意識変化 無作為化比較試験. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2009 ; 68 回(): 218.
ID=2009281767 (会議録)
中村剛;岡本康宏;前園健之;田中浩二;田平隆行. 「うつ・閉じこもり・認知症介護予防事業」への作業療法士の介入 長崎市の通所型特定高齢者施策における成果と課題. 日本作業療法学会抄録集 2008 ; 42 回(): P364.
ID=2009261235 (会議録)
田平隆行;中村剛;岡本康弘;前園健之;田中浩二. 通所型特定高齢者施策「うつ・閉じこもり・認知症介護予防事業」の成果と課題. 日本作業療法研究学会雑誌 2009 ; 12(1): 40.
ID=2009257387 (会議録)
斉藤雅茂;藤原佳典;小林江里香;深谷太郎;西真理子;東内京一;清水将周;新開省二. 首都圏ベッドタウンにおける高齢者の社会的孤立(その 1) 世帯構成別にみた孤立者の発現率と基本的特徴. 老年社会科学 2009 ; 31(2): 194.
ID=2009257378 (会議録)
西真理子;藤原佳典;深谷太郎;小林江里香;斉藤雅茂;小宇佐陽子;小林信子;高橋真奈美;河北朋子;新開省二. 定期的な社会活動を継続する高齢者の孤立感に関連する要因 地域密着型の集会式体操参加者を対象とした調査. 老年社会科学 2009 ; 31(2): 185.
ID=2009226510 (会議録)
長谷部真奈美;山田孝;小林法一. 地域在住健康高齢者の早期閉じこもり予防 在宅で求められる支援活動の検討. 作業行動研究 2009 ; 12(2): 166.
ID=2009107993 (会議録)
瀧野睦子;西村洋子. 介護予防機能訓練事業参加高齢者の参加期間と自己効力感、閉じこもり度との関係. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2008 ; 67 回(): 490.
ID=2008328472 (会議録)
和泉京子;山本美輪;阿曾洋子. 「軽度要介護認定」高齢者の外出頻度に関連する要因. 老年社会科学 2008 ; 30(2): 330.
ID=2008124709 (会議録)
岡本康宏;中村和也;田平隆行;榊原淳;田中浩二. 「うつ・閉じこもり・認知症介護予防事業」への作業療法士の参画. 日本作業療法学会抄録集 2007 ; 41 回(): P248.
ID=2008100525 (会議録)
市瀬佳子;上松志乃;小宇佐陽子;大場宏美;新開省二. 高齢者の閉じこもりの予防・支援のあり方について(訪問指導員へのヒアリング調査より). 日本公衆衛生学会総会抄録集 2007 ; 66 回(): 513-514.
ID=2008100416 (会議録)
鈴木理恵子;安村誠司;藺牟田洋美.

大田原市閉じこもり予防支援事業の取組み ライフレビューを用いた訪問型介護予防. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2007 ; 66 回(): 485.
ID=2008012375 (会議録)
中村あつ子;河合紀嘉;村田幸紀;三浦よね子;鈴江妃佐子;倉島恵美;山内真智. 閉じこもり予防教室における栄養改善活動の取組み. 日本農村医学会雑誌 2007 ; 56(3): 456.
ID=2007315195 (会議録)
山田智. 高齢者の医療・介護・生活実態調査のまとめ 高齢者の外出の頻度. The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine 2007 ; 44(Suppl.): S449.
ID=2007310282 (会議録)
藺牟田洋美. 介護予防を目指した閉じこもり高齢者等への心理的介入に関する研究. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2005 ; 64 回(): 192.
ID=2007092853 (会議録)
武内さやか;小松美砂;梶田悦子;江藤真紀;吉田久美子. 地域在住の要介護高齢者における転倒恐怖感と閉じこもりの関連. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2006 ; 65 回(): 744.
ID=2007092142 (会議録)
井上尚子;奥苑さやか;松澤素子;松浦尚人;岩永正彦. 塩原校区における閉じこもり予防の取組みについて. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2006 ; 65 回(): 370.
ID=2006188572 (会議録)
古達彩子;武政誠一. 地域高齢者の外出頻度とその関連要因 K 市 K 区において. 理学療法学 2006 ; 33(Suppl.2): 511.

(6) うつ予防

(a) 原著論文

ID=2010320403 (原著論文)
大森芳;寶澤篤;曾根稔雅;小泉弥生;中谷直樹;栗山進一;鈴木修治;栗田主一;辻一郎. うつ状態と介護保険要支援・要介護認定リスクとの関連 鶴ヶ谷プロジェクト. 日本公衆衛生雑誌 2010 ; 57(7): 538-549.
ID=2010167482 (原著論文)
高柳容子;山口真理子;斉藤圭奈;赤間亨. 一般病棟における抑うつ傾向発症の実態 厚生労働省うつ予防一次スクリーニングを使用して. 日本看護学会論文集: 成人看護 II 2010 ; (40): 78-80.
ID=2010161685 (原著論文)
奥井良子. 高齢者うつ予防に対する認知行動療法の有効性 高齢者うつ予防プログラム実施による抑うつ感情と QOL の変化. 神奈川県立保健福祉大学誌 2010 ; 7(1): 15-24.
ID=2010073766 (原著論文)

石濱照子. 抑うつ傾向高齢者の生活感情と近親者喪失について 東京都中野区における調査から. 社会医学研究 2009 ; 26(2): 113-123.
ID=2009322115 (原著論文)
坪井章雄. 家族介護者の抑うつ傾向に影響を及ぼす介護保険サービスの検討. 厚生指標 2009 ; 56(10): 14-19.
ID=2009206649 (原著論文)
石濱照子;江戸聖人;新井美奈子. 特定高齢者候補者における運動機能と抑うつ気分の相関について 東京都中野区における調査から. 社会医学研究 2008 ; 26(1): 15-23.

(b) 学会発表抄録

ID=2010256857 (会議録)
山崎幸子;中野匡子;斉藤恵美子;植木章三;渡辺幸子;安村誠司. 地域高齢者のうつ状態の有無における新規要介護認定の関連要因 3年間の追跡調査から. 老年社会科学 2010 ; 32(2): 254.
ID=2010048749 (会議録)
吉田英世;井原一成;石島英樹;鈴木友理子;飯田浩毅;小島光洋;吉田祐子;岩佐一;島田裕之;齋藤京子;金憲経;鈴木隆雄. 介護予防におけるうつの一次アセスメント方式の検討. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2009 ; 68回(): 473.
ID=2009281767 (会議録)
中村剛;岡本康宏;前園健之;田中浩二;田平隆行. 「うつ・閉じこもり・認知症介護予防事業」への作業療法士の介入 長崎市の通所型特定高齢者施策における成果と課題. 日本作業療法学会抄録集 2008 ; 42回(): P364.
ID=2009261235 (会議録)
田平隆行;中村剛;岡本康弘;前園健之;田中浩二. 通所型特定高齢者施策「うつ・閉じこもり・認知症介護予防事業」の成果と課題. 日本作業療法研究学会雑誌 2009 ; 12(1): 40.
ID=2009108159 (会議録)
吉川幸江;和智由里子;岩崎知恵子;立花鈴子. 特定高齢者を対象とした回想法を用いたうつ予防プログラムの取り組み. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2008 ; 67回(): 532.
ID=2009108143 (会議録)
石川貴美子;和田洋子;渋谷ちづる;滝田恵美子;岩室紳也;藤本眞一;松坂由香里. 高齢者保健福祉計画の実践(その23) 高齢者や在宅介護者のうつ予防・支援事業. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2008 ; 67回(): 528.
ID=2009107982 (会議録)
岩佐一;吉田祐子;吉田英世;熊谷修;鈴木隆雄. 地域高齢者における抑うつが生活機能低下に及ぼす影響 12年間の縦断調査結果から. 日本公衆

衛生学会総会抄録集 2008 ; 67 回(): 487.
ID=2008124709 (会議録)
岡本康宏;中村和也;田平隆行;榊原淳;田中浩二. 「うつ・閉じこもり・認知症介護予防事業」への作業療法士の参画. 日本作業療法学会抄録集 2007 ; 41 回(): P248.
ID=2008106360 (会議録)
高杉絵美子;堀田典寛;山中学;久保豊;山中崇;大塚邦明;松林公蔵;小澤利男. 介護予防のための基本チェックリストと抑うつ. 日本老年医学会雑誌 2007 ; 44(6): 777.
ID=2008100688 (会議録)
岩佐一;吉田祐子;吉田英世;熊谷修;鈴木隆雄. 地域高齢者における抑うつ傾向と生活機能低下の関連 8 年間の縦断調査の結果から. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2007 ; 66 回(): 558.
ID=2008100686 (会議録)
奥井貴子;原田小夜;大井健. 介護施設職員における心の健康づくり うつ予防健診モデル事業の結果から. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2007 ; 66 回(): 558.
ID=2008014165 (会議録)
梅本充子;遠藤英俊;津田理恵子;大林優子;山本理恵. 地域回想法による認知症・うつ予防と QOL 向上への効果検証. 日本認知症ケア学会誌 2007 ; 6(2): 392.
ID=2007318471 (会議録)
山中崇;山中学;堀田典寛;久保豊;高杉絵美子;大塚邦明;松林公蔵;小澤利男. 介護予防のための基本チェックリストに及ぼす加齢と抑うつの影響. 日本老年医学会雑誌 2007 ; 44(Suppl.): 91.
ID=2007093082 (会議録)
五田貴子;宮ノ下洋美;相星壮吾;宇田英典;三谷惟章. 自殺予防対策における体制整備とうつスクリーニングに関する調査研究(第 4 報). 日本公衆衛生学会総会抄録集 2006 ; 65 回(): 860.
ID=2007092619 (会議録)
近藤克則;平井寛;吉井清子;橋本英樹. 20 自治体における高齢者のうつ割合と所得水準 J-SHARE & AGES プロジェクト. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2006 ; 65 回(): 622.
ID=2007063500 (会議録)
栗田主一. 介護予防の新たな展開 うつ高齢者に対する地域ケア. 宮城県公衆衛生学会会誌 2006 ; (38): 17.
ID=2006266349 (会議録)
立石哲也;渡辺至;国武裕;山田茂人. 地域在住の一般高齢者の知的機能と Beck Depression Inventory との関連. 精神神経学雑誌 2006 ; (2006 特別): S225.

4. 介護予防に関する公的研究費採択一覧

(1) 厚生労働科学研究成果データベース

ID=200921031A
介護予防サービスの効果評価に関する研究. 辻 一郎(東北大学 大学院医学系研究科)、平成 21(2009)年度-平成 23(2011)年度
ID=200921032A
介護予防における口腔機能向上・維持管理の推進に関する研究. 菊谷 武(日本歯科大学 生命歯学部)、平成 21(2009)年度-平成 23(2011)年度
ID=200921037A
腰痛の診断、治療に関する研究「腰部脊柱管狭窄症の診断・治療法の開発」. 高橋 和久(千葉大学医学部)、平成 21(2009)年度-平成 23(2011)年度
ID=200921042A
認知症・関節症・骨折の疫学エビデンスの解明と要介護高齢者の一次・二次予防のための効率的評価システムの開発. 岡 敬之(東京大学医学部附属病院 22 世紀医療センター関節疾患総合研究講座)、平成 21(2009)年度-平成 23(2011)年度
ID=200926046A
温泉利用が健康増進に与える効果および安全性に関する研究. 藤原 佳典(地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター 東京都健康長寿医療センター研究所)、平成 21(2009)年度-平成 23(2011)年度
ID=200901025A
行政と住民ネットワークの連携による孤立予防戦略の検証. 藤原 佳典(地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター 東京都健康長寿医療センター研究所)、平成 20(2008)年度-平成 22(2010)年度
ID=200921027A
膝痛・腰痛・骨折に関する高齢者介護予防のための地域代表性を有する大規模住民コホート追跡研究. 吉村 典子(東京大学医学部附属病院 22 世紀医療センター関節疾患総合研究講座)、平成 20(2008)年度-平成 24(2012)年度
ID=200922008A
血液、尿等、生体への侵襲が少ないバイオマーカーを用いた診断方法に関する研究. 松原 悦朗(弘前大学 大学院医学研究科)、平成 20(2008)年度-平成 22(2010)年度
ID=200801042A
行政と住民ネットワークの連携による孤立予防戦略の検証. 藤原 佳典(東京都高齢者研究・福祉振興財団 東京都老人総合研究所)、平成 20(2008)年度-平成 22(2010)年度
ID=200821068A
血液、尿等、生体への侵襲が少ないバイオマーカーを用いた診断方法に関する研究. 松原 悦朗(弘前大学 医学研究科)、平成 20(2008)年度-平成 22(2010)年度

ID=200821071A
膝痛・腰痛・骨折に関する高齢者介護予防のための地域代表性を有する大規模住民コホート追跡研究. 吉村 典子(東京大学医学部附属病院 22世紀医療センター関節疾患総合研究講座)、平成 20(2008)年度-平成 24(2012)年度
ID=200921014A
食生活・栄養素摂取状況が高齢者の健康寿命に与える影響に関する研究：NIPPON DATA 80・90の追跡調査. 上島 弘嗣(国立大学法人滋賀医科大学 生活習慣病予防センター)、平成 19(2007)年度-平成 21(2009)年度
ID=200925011A
がん医療における医療と介護の連携のあり方に関する研究. 小松 恒彦(帝京大学 医学部第三内科)、平成 19(2007)年度-平成 21(2009)年度
ID=200821055A
認知症予防のための心理社会面に着目した包括的支援に関する研究. 竹田 徳則(星城大学 リハビリテーション学部)、平成 19(2007)年度-平成 21(2009)年度
ID=200821059A
開眼片足起立時間による高齢者元気度区分と転倒・骨折調査、並びに片脚起立15秒以下の群に対する開眼片脚起立運動訓練による骨折予防への無作為化介入調査に関する研究. 阪本 桂造(昭和大学医学部 整形外科)、平成 19(2007)年度-平成 21(2009)年度
ID=200824038A
がん医療における医療と介護の連携のあり方に関する研究. 小松 恒彦(帝京大学 第三内科)、平成 19(2007)年度-平成 21(2009)年度
ID=200840022A
地域における健康危機管理におけるボランティア等による支援体制に関する研究. 尾島 俊之(浜松医科大学 医学部健康社会医学講座)、平成 19(2007)年度-平成 21(2009)年度
ID=200718078A
認知症予防のための心理社会面に着目した包括的支援に関する研究. 竹田 徳則(星城大学リハビリテーション学部)、平成 19(2007)年度-平成 21(2009)年度
ID=200801005A
介護保険制度改正にともなう予防重視効果の検証 ―介護予防ケアマネジメントシステムの構築を目指して. 大川 弥生(国立長寿医療センター 研究所 生活機能賦活研究部)、平成 18(2006)年度-平成 20(2008)年度
ID=200821005A
効果的な介護予防型訪問・通所リハビリテーションの実態把握からみた自立生活支援プログラムの開発評価に関する研究. 高山 忠雄(鹿児島国際大学 大学院福祉社会学研究科)、平成 18(2006)年度-平成 20(2008)年度

ID=200821008A
認知機能に着目した新たな介護予防プログラムの開発に関する研究. 田高 悦子(公立大学法人横浜市立大学 医学部看護学科地域看護学領域)、平成 18(2006)年度-平成 20(2008)年度
ID=200821009A
効果的な介護予防ケアマネジメント技法の開発に関する研究. 辻 一郎(東北大学 大学院医学系研究科)、平成 18(2006)年度-平成 20(2008)年度
ID=200825002A
温泉利用と生活・運動・食事指導を組み合わせた職種別の健康支援プログラムの有効性に関する研究. 上岡 洋晴(東京農業大学 地域環境科学部教養分野)、平成 18(2006)年度-平成 20(2008)年度
ID=200835025A
笑顔を引き出すテレビ電話を使った遠隔医療と在宅高齢者を支援するユビキタスコミュニケーションの効果に関する研究. 古城 幸子(公立大学法人 新見公立短期大学 看護学科)、平成 18(2006)年度-平成 20(2008)年度
ID=200701021A
介護保険制度改正にともなう予防重視効果の検証ー介護予防ケアマネジメントシステムの構築を目指して. 大川 弥生(国立長寿医療センター研究所生活機能賦活研究部)、平成 18(2006)年度-平成 20(2008)年度
ID=200718015A
歯周組織再生を基盤とした咀嚼機能改善技術の開発. 斎藤 正寛(大阪大学 大学院歯学研究科)、平成 18(2006)年度-平成 20(2008)年度
ID=200718016A
低侵襲かつ簡便な摂食・嚥下機能評価システムの構築に関する研究. 金高 弘恭(東北大学 特定領域研究推進支援センター, 大学院歯学研究科(兼)),平成 18(2006)年度-平成 20(2008)年度
ID=200718018A
効果的な介護予防型訪問・通所リハビリテーションの実態把握からみた自立生活支援プログラムの開発評価に関する研究. 高山 忠雄(鹿児島国際大学 大学院福祉社会学研究科)、平成 18(2006)年度-平成 20(2008)年度
ID=200718024A
認知機能に着目した新たな介護予防プログラムの開発に関する研究. 田高 悦子(公立大学法人横浜市立大学医学部)、平成 18(2006)年度-平成 20(2008)年度
ID=200718025A
効果的な介護予防ケアマネジメント技法の開発に関する研究. 辻 一郎(東北大学大学院医学系研究科社会医学講座公衆衛生学分野)、平成 18(2006)年度-平成 20(2008)年度

ID=200718028A
大規模コホートの観察研究に基づく生活機能低下スクリーニング質問表の開発. 高田 和子(独立行政法人国立健康・栄養研究所健康増進プログラム)、平成 18(2006)年度-平成 20(2008)年度
ID=200718029A
介護予防の効果評価とその実効性を高めるための地域包括ケアシステムの在り方に関する実証研究. 川越 雅弘(国立社会保障・人口問題研究所 社会保障応用分析研究部)、平成 18(2006)年度-平成 19(2007)年度
ID=200601044A
介護保険制度改正にともなう予防重視効果の検証-介護予防ケアマネジメントシステムの構築を目指して. 大川 弥生(国立長寿医療センター研究所生活機能賦活研究部)、平成 18(2006)年度-平成 20(2008)年度
ID=200601049A
都市部における介護サービス利用者実態調査に基づく平成 17 年度介護保険制度改正の分析と評価-高齢者の自立支援と地域ケア支援体制の確立に向けて. 森 詩恵(大阪経済大学 経済学部)、平成 18(2006)年度-平成 19(2007)年度
ID=200619062A
低侵襲かつ簡便な摂食・嚥下機能評価システムの構築に関する研究. 金高 弘恭(東北大学大学院歯学研究科)、平成 18(2006)年度-平成 20(2008)年度
ID=200619065A
効果的な介護予防型訪問・通所リハビリテーションの実態把握からみた自立生活支援プログラムの開発評価に関する研究. 高山 忠雄(鹿児島国際大学 大学院福祉社会学研究科)、平成 18(2006)年度-平成 20(2008)年度
ID=200619071A
認知機能に着目した新たな介護予防プログラムの開発に関する研究. 田高 悦子(国立大学法人東京大学 大学院医学系研究科)、平成 18(2006)年度-平成 20(2008)年度
ID=200619072A
効果的な介護予防ケアマネジメント技法の開発に関する研究. 辻 一郎(東北大学大学院医学系研究科社会医学講座公衆衛生学分野)、平成 18(2006)年度-平成 20(2008)年度
ID=200619074A
予防版MD S-HCによる介護予防マネジメントの一体的な実施に関する研究. 山田 ゆかり(国立大学法人東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科)、平成 18(2006)年度-平成 18(2006)年度
ID=200619076A
大規模コホートの観察研究に基づく生活機能低下スクリーニング質問表の開発. 高田 和子(独立行政法人国立健康・栄養研究所健康増進プログラム)、平成 18(2006)年度-平成 20(2008)年度

ID=200619077A
介護予防の効果評価とその実効性を高めるための地域包括ケアシステムの在り方に関する実証研究. 川越 雅弘(国立社会保障・人口問題研究所)、平成 18(2006)年度-平成 19(2007)年度
ID=200619089A
効果的転倒予測技術の開発と転倒予防介入による生活機能の持続的改善効果に関する縦断研究. 鳥羽 研二(杏林大学医学部高齢医学教室)、平成 18(2006)年度-平成 20(2008)年度
ID=200619101A
虚弱高齢者の歩行維持の機能的評価システムの開発に関する研究. 山下 和彦(東京医療保健大学医療保健学部)、平成 18(2006)年度-平成 19(2007)年度
ID=200624044A
民間衛生施設を活用した健康増進のための効果的なシステムの開発及び評価に関する研究. 大賀 英史(独立行政法人国立健康・栄養研究所 国際産学連携センター)、平成 18(2006)年度-平成 20(2008)年度
ID=200634109A
笑顔を引き出すテレビ電話を使った遠隔医療と在宅高齢者を支援するユビキタスコミュニケーションの効果に関する研究. 古城 幸子(新見公立短期大学 看護学科)、平成 18(2006)年度-平成 20(2008)年度
ID=200718001A
老人施設・在宅における高齢者排泄リハビリテーションに関する施設評価基準の作成と地域モデルの開発. 後藤 百万(名古屋大学大学院医学系研究科泌尿器科学)、平成 17(2005)年度-平成 19(2007)年度
ID=200718003A
中高年健康増進のためのITによる地域連携型運動処方システムの構築. 能勢 博(信州大学大学院・スポーツ医科学分野)、平成 17(2005)年度-平成 19(2007)年度
ID=200718006A
要介護認定における要支援及び要介護1の要介護度の推移の状況とその要因からみた介護予防プログラムの開発に関する研究. 和泉 京子(大阪府立大学看護学部)、平成 17(2005)年度-平成 19(2007)年度
ID=200718009A
地域支援事業における体力向上サービスのあり方に関する研究. 安村 誠司(福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座)、平成 17(2005)年度-平成 19(2007)年度
ID=200718010A
生活機能向上にむけた介護予防サービスのあり方及び技術に関する研究－「廃用症候群（生活不活発病）モデル」を中心に. 大川 弥生(国立長寿医療センター 研究所 生活機能賦活研究部)、平成 17(2005)年度-平成 19(2007)年度

ID=200722006A
公衆浴場を利用した安全で有効な健康づくりに関する研究. 鏡森 定信(富山大学 大学院医学薬学研究部)、平成 17(2005)年度-平成 19(2007)年度
ID=200619019A
老人施設・在宅における高齢者排泄リハビリテーションに関する施設評価基準の作成と地域モデルの開発. 後藤 百万(名古屋大学大学院医学系研究科病態外科学講座泌尿器科学)、平成 17(2005)年度-平成 19(2007)年度
ID=200619027A
中高年健康増進のための I Tによる地域連携型運動処方システムの構築. 能勢 博(信州大学大学院医学研究科・スポーツ医科学分野)、平成 17(2005)年度-平成 19(2007)年度
ID=200619030A
健康長寿に関与する要因の研究－超百寿者及び長寿 s i b 調査. 広瀬 信義(慶応義塾大学 医学部)、平成 17(2005)年度-平成 18(2006)年度
ID=200619035A
要介護認定における要支援及び要介護 1 の要介護度の推移の状況とその要因からみた介護予防プログラムの開発に関する研究. 和泉 京子(大阪府立大学看護学部)、平成 17(2005)年度-平成 19(2007)年度
ID=200619041A
小規模多機能サービス拠点の成立条件と多面的展開に関するビジネスモデルの構築とマニュアル作成. 杉岡 直人(北星学園大学社会福祉学部)、平成 17(2005)年度-平成 18(2006)年度
ID=200619046A
高齢者の運動機能低下評価法と回復運動療法開発研究. 越智 隆弘(社団法人日本整形外科学会)、平成 17(2005)年度-平成 18(2006)年度
ID=200619047A
骨粗鬆症と骨折に対する予防対策の経済効果に関する研究. 濃沼 信夫(東北大学大学院医学系研究科)、平成 17(2005)年度-平成 18(2006)年度
ID=200619048A
軽度認知症高齢者の介護予防及び症状緩和システム開発に関する研究. 内藤 佳津雄(日本大学 文理学部)、平成 17(2005)年度-平成 18(2006)年度
ID=200619051A
地域支援事業における体力向上サービスのあり方に関する研究. 安村 誠司(福島県立医科大学 医学部公衆衛生学講座)、平成 17(2005)年度-平成 19(2007)年度

ID=200619053A
生活機能向上にむけた介護予防サービスのあり方及び技術に関する研究－「廃用症候群（生活不活発病）モデル」を中心に。 大川 弥生(国立長寿医療センター研究所生活機能賦活研究部)、平成 17(2005)年度-平成 19(2007)年度
ID=200624025A
公衆浴場を利用した安全で有効な健康づくりに関する研究。 鏡森 定信(富山大学 医学部)、平成 17(2005)年度-平成 19(2007)年度
ID=200500054A
介護予防対策の費用対効果に着目した経済的評価に関する研究－過疎地域町村における介護予防対策事業の経済的・社会的効果と評価指標の考察－。 水谷 利亮(高知短期大学 社会科学科)、平成 17(2005)年度-平成 17(2005)年度
ID=200500287A
骨粗鬆症と骨折に対する予防対策の経済効果に関する研究。 濃沼 信夫(東北大学大学院医学系研究科)、平成 17(2005)年度-平成 18(2006)年度
ID=200500288A
生活機能向上にむけた介護予防サービスのあり方及び技術に関する研究－「廃用症候群（生活不活発病）モデル」を中心に。 大川 弥生(国立長寿医療センター研究所 生活機能賦活研究部)、平成 17(2005)年度-平成 19(2007)年度
ID=200500329A
中高年健康増進のための I T による地域連携型運動処方システムの構築。 能勢 博(信州大学大学院医学研究科・スポーツ医科学分野)、平成 17(2005)年度-平成 19(2007)年度
ID=200500336A
要介護認定における要支援及び要介護 1 の要介護度の推移の状況とその要因からみた介護予防プログラムの開発に関する研究。 和泉 京子(大阪府立大学看護学部)、平成 17(2005)年度-平成 19(2007)年度
ID=200500345A
軽度認知症高齢者の介護予防及び症状緩和システム開発に関する研究。 内藤 佳津雄(日本大学 文理学部)、平成 17(2005)年度-平成 18(2006)年度
ID=200500352A
老人施設・在宅における高齢者排泄リハビリテーションに関する施設評価基準の作成と地域モデルの開発。 後藤 百万(名古屋大学医学部附属病院)、平成 17(2005)年度-平成 19(2007)年度
ID=200619007A
要支援者および軽度要介護者の介護サービスの計画および標準化に関する研究。 杉原 素子(国際医療福祉大学 保健学部)、平成 16(2004)年度-平成 18(2006)年度

ID=200624002A
地方健康増進計画の技術的支援に関する研究. 河原 和夫(東京医科歯科大学大学院政策科学分野)、平成 16(2004)年度-平成 18(2006)年度
ID=200500018A
高齢転倒経験者における介護予防対策の費用対効果に関する研究. 岡本 連三(神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部)、平成 16(2004)年度-平成 17(2005)年度
ID=200500018B
高齢転倒経験者における介護予防対策の費用対効果に関する研究. 岡本 連三(神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部)、平成 16(2004)年度-平成 17(2005)年度
ID=200500272A
介護予防サービスの新技術開発とシステム構築に関する研究. 辻 一郎(東北大学大学院医学系研究科社会医学講座公衆衛生学分野)、平成 16(2004)年度-平成 17(2005)年度
ID=200500273A
要介護状態の予防ならびに介護の質を改善するための方策に関する研究. 岸 玲子(北海道大学大学院医学研究科 予防医学講座公衆衛生学分野)、平成 16(2004)年度-平成 17(2005)年度
ID=200500276A
老人保健事業の推進及び評価に関する研究. 吉田 勝美(聖マリアンナ医科大学 医学部)、平成 16(2004)年度-平成 18(2006)年度
ID=200500278A
高齢者の社会参加・社会貢献の増進に向けた介入研究. 新開 省二(財団法人東京都高齢者研究・福祉振興財団 東京都老人総合研究所)、平成 16(2004)年度-平成 18(2006)年度
ID=200500296A
介護予防筋力向上トレーニングの効果の検討. 大淵 修一(財団法人東京都高齢者研究・福祉振興財団/東京都老人総合研究所)、平成 16(2004)年度-平成 17(2005)年度
ID=200500298A
介護予防を目的とする基本健康診査標準方式を策定するための疫学的研究. 安田 誠史(高知大学医学部公衆衛生学教室)、平成 16(2004)年度-平成 17(2005)年度
ID=200500308A
要支援者および軽度要介護者の介護サービスの計画および標準化に関する研究. 杉原 素子(国際医療福祉大学保健学部)、平成 16(2004)年度-平成 18(2006)年度

ID=200500310A
介護予防のための低栄養状態スクリーニング・システムに関する研究. 杉山 みち子(神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部栄養学科)、平成 16(2004)年度-平成 17(2005)年度
ID=200500365A
寝たきりの主要因に対する縦断介入研究を基礎にした介護予防ガイドライン策定研究. 鳥羽 研二(杏林大学医学部高齢医学教室)、平成 16(2004)年度-平成 17(2005)年度
ID=200500372A
虚弱高齢者の自立度と身体活動及び栄養の関係に関する実践研究. 高田 和子(独立行政法人 国立健康・栄養研究所健康増進研究部)、平成 16(2004)年度-平成 17(2005)年度
ID=200500375A
軽度介護予防プログラムの作成とその評価. 高橋 泰(国際医療福祉大学医療福祉学部)、平成 16(2004)年度-平成 17(2005)年度
ID=200500002A
介護予防対策の費用対効果に着目した経済的評価に関する研究. 新開 省二(財団法人東京都高齢者研究・福祉振興財団 東京都老人総合研究所)、平成 15(2003)年度-平成 17(2005)年度
ID=200500318A
訪問・通所リハビリテーションの地域特性別実態把握からみた在宅自立生活支援プログラムの開発評価に関する研究. 高山 忠雄(鹿児島国際大学大学院 福祉社会学研究科)、平成 15(2003)年度-平成 17(2005)年度
ID=200501221A
総合的な地域保健サービスに関する企画立案及び事業管理に関する研究. 松浦 十四郎(財団法人 日本公衆衛生協会)、平成 15(2003)年度-平成 17(2005)年度

(2) 科学研究費補助金採択課題・成果概要データベース

ID=22300239
農地や森林の活用を視野に入れた高齢者の自主活動が介護予防に寄与できるか. 植木 章三 東北文化学園大学・教授 (00241802)、2010 年度～2010 年度
ID=22500636
ストックを用いた運動に着目した生活習慣病および介護予防の効果とそのプログラム構築. 寄本 明 滋賀県立大学・教授 (30132278)、2010 年度～2010 年度
ID=22530666
ソーシャル・キャピタル構築への介入が介護予防に及ぼす効果に関する縦断研究. 川島 典子 筑紫女学園大学短期大学部・講師 (30455092)、2010 年度～2010 年度
ID=22590594
普及を目指した介護予防施策の評価指標のプログラム化と実用化. 栗盛 須雅子 首都大学東京・都市環境科学研究科・研究員 (20433609)、2010 年度～2010 年度
ID=22592539
地域性を考慮した冬期の介護予防プログラム構築に関する研究. 表 志津子 金沢大学・保健学系・准教授 (10320904)、2010 年度～2010 年度
ID=22592575
元気高齢者への看護・リハビリの協働的介入による継続的介護予防・評価システムの開発. 木立 るり子 弘前大学・保健学研究科・准教授 (60197192)、2010 年度～2010 年度
ID=22700714
地域包括支援センターにおける介護予防教室と共食の統合による高齢者の健康増進. 柏 絵理子 神奈川県立保健福祉大学・保健福祉学部・助教 (30405047)、2010 年度～2010 年度
ID=22792247
効果的な介護予防ケアの推進に向けた要支援前期高齢女性の社会活動尺度の開発. 平野 美千代 北海道大学・助教 (50466447)、2010 年度～2010 年度
ID=21500638
膝痛・腰痛高齢者に対する要介護予防のための水中運動プログラムの開発と評価. 村岡 功 早稲田大学・スポーツ科学学術院・教授 (80112712)、2009 年度～2010 年度
ID=21500653
介護予防プログラムの効果を高める自己学習型ニーズ評価システムの開発. 小林 法一 首都大学東京・准教授 (30333652)、2009 年度～2010 年度
ID=21500696
介護予防運動プログラムの医療経済的評価に関する研究. 岡 浩一朗 早稲田大学・スポーツ科学学術院・准教授 (00318817)、2009 年度～2010 年度
ID=21590728
地域全体を視野に入れた介護予防推進システムの経済的評価. 吉田 裕人 地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター(東京都健康長寿医療センター研究所)・研究員 (40415493)、2009 年度～2010 年度
ID=21592876
地域高齢者の介護予防事業への参加状況と生活機能の変化に関する追跡調査. 浜崎 優子 金沢医科大学・看護学部・助教 (00454231)、2009 年度～2010 年度

ID=21592878
摂食・嚥下機能低下がみられた脳血管疾患患者への介護予防のための前向き介入研究. 馬場 みちえ 福岡大学・医学部・准教授 (60320248)、2009 年度～2010 年度
ID=21592899
介護予防のための研究 - 老年者の活動能力低下と運動視機能及び身体運動機能の関連. 丹羽 さよ子 鹿児島大学・医学部・教授 (00197550)、2009 年度～2010 年度
ID=21592913
特定高齢者における介護予防としての睡眠健康:睡眠の実態と睡眠改善プログラムの検討. 小松 光代 京都府立医科大学・医学部・講師 (20290223)、2009 年度～2010 年度
ID=21650189
軽費老人ホーム(B型)入居者の介護予防に合致した食の自立支援. 爲房 恭子 武庫川女子大学短期大学部・教授 (00388802)、2009 年度～2010 年度
ID=21700685
介護予防ボランティア活動が中高年者のメンタルヘルスに及ぼす影響. 甲斐 裕子 (財)明治安田厚生事業団体力医学研究所・研究員 (20450752)、2009 年度～2010 年度
ID=21792339
介護予防訪問看護の健康維持・増進に対する効果の検討. 川野 英子 国際医療福祉大学・保健医療学部・講師 (90458414)、2009 年度～2010 年度
ID=21792344
介護予防事業への継続参加を支援するための看護介入のあり方に関する研究. 中田 晴美 東京女子医科大学・看護学部・講師 (90385469)、2009 年度～2010 年度
ID=0
体幹部骨格筋量の増大がメタボリック症候群の改善および介護予防に及ぼす影響. 田中 憲子 独立行政法人国立健康・栄養研究所、2009 年度～2010 年度
ID=20240061
高齢者のエネルギー消費量決定要因の横断的・縦断的検証(体力,筋細胞量に注目して). 木村 みさか 京都府立医科大学・医学部・教授 (90150573)、2008 年度～2010 年度
ID=20300206
後期高齢者にも有効な脚筋力養成型ウォーキング手法の開発と健康づくり応用. 川初 清典 北海道大学・教授 (80026822)、2008 年度～2010 年度
ID=20300218
温熱刺激による骨格筋肥大の分子機構の解明とスポーツ科学への応用. 後藤 勝正 (山下 勝正) 豊橋創造大学・保健医療学部・教授 (70239961)、2008 年度～2010 年度
ID=20330121
住民主導型介護予防活動に関する学際的研究. 坂本 俊彦 山口県立大学・准教授 (40342315)、2008 年度～2010 年度
ID=20330130
予後予測モデルによる「介護予防サービス提供ガイドライン」の開発研究. 筒井 孝子 国立保健医療科学院・その他 (20300923)、2008 年度～2010 年度
ID=20390189
後期高齢者における VDR 遺伝子多型と筋肉量減少症および生活機能低下に関する研究.

鈴木 隆雄 独立行政法人国立長寿医療研究センター・その他 (30154545)、2008 年度～2010 年度 ID=20500172
口腔機能とバイタルサインの無拘束計測による生活リズム分析と生活習慣病予防システム。 松村 雅史 大阪電気通信大学・教授 (80209618)、2008 年度～2010 年度 ID=20500484
高濃度人工炭酸浴による血行促進効果がもたらす下肢痛改善効果とその介護予防への応用。 宮下 和久 和歌山県立医科大学・医学部・教授 (50124889)、2008 年度～2010 年度 ID=20500494
高齢者居住施設や家庭で何気なく利用できる身体機能維持・評価システムの開発。 大須賀 美恵子 大阪工業大学・工学部・教授 (10351462)、2008 年度～2010 年度 ID=20500498
組込技術を活用した介護予防用高機能中敷きの開発。 早川 恭弘 奈良工業高等専門学校・教授 (50180956)、2008 年度～2010 年度 ID=20500597
阿波踊りを活用した健康体操の開発とその機能・効用に関する研究。 田中 俊夫 徳島大学・教授 (00263872)、2008 年度～2010 年度 ID=20500642
介護予防プログラムの効果予測に関する研究。 新井 武志 地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター(東京都健康長寿医療センター研究 所)・研究員 (70450559)、2008 年度～2010 年度 ID=20590627
作業バランス自己診断に着目したテーラーメイド型介護予防法の開発:無作為化介入研究。 湯浅 資之 順天堂大学・医学(系)研究科(研究院)・准教授 (30463748)、2008 年度～2010 年度 ID=20592269
補綴治療の抗加齢作用を増強する機能レーダーチャートの新開発。 津賀 一弘 広島大学・医歯(薬)学総合研究科・准教授 (60217289)、2008 年度～2010 年度 ID=20592621
高齢者のエンパワメントに着目した介護予防活動の評価に関する研究。 佐藤 紀子 千葉大学・看護学研究科・准教授 (80283555)、2008 年度～2010 年度 ID=20592634
豪雪過疎地域の高齢者の自立生活継続のための介護予防マネジメント技術の検討。 飯吉 令枝 新潟県立看護大学・看護学部・講師 (40279849)、2008 年度～2010 年度 ID=20592655
家族介護意識・介護ストレスに着目した血圧低減プログラムの開発。 堀 容子 名古屋大学・医学部・准教授 (90352905)、2008 年度～2010 年度 ID=20592681
認知症高齢者の生きる力を支援するフットケアプログラムの開発。 西田 佳世 愛媛県立医療技術大学・保健科学部・准教授 (60325412)、2008 年度～2010 年度 ID=20659369
在宅高齢者における介護予防に向けたフットケアプログラムの開発。 姫野 稔子 日本赤十字九州国際看護大学・看護学部・講師 (50364188)、2008 年度～2010 年度

ID=20730397
通所介護における要支援高齢者の自己効力感を高める介護予防プログラムの開発. 津島 順子 福山市立女子短期大学・准教授 (70321213)、2008 年度～2010 年度
ID=20791810
閉じこもり高齢者の死亡および状態悪化リスク要因の検討と応用. 椛 勇三郎 久留米大学・医学部・講師 (30368964)、2008 年度～2010 年度
ID=0
高齢者の筋力トレーニング実施を促す地域介入手法の開発：行動疫学的アプローチ. 原田 和弘 早稲田大学、2008 年度～2010 年度
ID=20700470
地域在住高齢者のための歩行改善アドバイスシステムの開発. 河合 恒 東京都高齢者研究財団・研究員 (50339727)、2008 年度～2009 年度
ID=20791770
介護予防サービス利用者における自律性の評価に関する研究. 松井 美帆 長崎大・医歯(薬)学総合研究科・准教授 (60346559)、2008 年度～2009 年度
ID=20830142
地域システムへの介入が一般高齢者の介護予防サービスに及ぼす効果に関する研究. 川島 典子 筑紫女学園大短大・講師 (30455092)、2008 年度～2009 年度
ID=20890010
前期高齢女性への効果的な介護予防ケア-社会的活動と生活意欲に着目して-. 平野 美千代 北大・助教 (50466447)、2008 年度～2009 年度
ID=0
わが国における高齢者ソーシャルワークの実践モデルの開発に関する理論的・実証的研究. 武居 幸子 上智大学・大学院・総合人間科学研究科・特別研究員(DC2)、2008 年度～2009 年度
ID=19200047
要介護化予防を目的とした中・高齢期の身体機能改善のための包括的指針づくり. 田中 喜代次 筑波大・人間総合科学研究科・教授 (50163514)、2007 年度～2009 年度
ID=19300229
メタボリックシンドローム予防を可能とする世代別の筋力水準及び運動プログラムの開発. 久野 譜也 筑波大・人間総合科学研究科・准教授 (70242021)、2007 年度～2009 年度
ID=19300236
老年症候群の複数徴候保持者の徴候改善を目指す包括的介護予防プログラムの効果検証. 金 憲経 東京都高齢者研究財団 (20282345)、2007 年度～2009 年度
ID=19500645
高齢者の在宅生活を支援する地域密着型サービスに関する研究. 村田 順子 東大阪大短大・准教授 (90331735)、2007 年度～2009 年度
ID=19530496
エビデンスに基づく高齢者福祉実践のあり方に関する研究. 和気 純子 首都大学東京・人文科学・准教授 (80239300)、2007 年度～2009 年度
ID=19590621
虚弱高齢者のふらつき・転倒と血清ビタミン D 濃度との関連及び介護予防の介入研究. 奥野 純子 筑波大・人間総合科学研究科・講師 (50360342)、2007 年度～2009 年度

ID=19590625
生活習慣病等へのポピュレーション・アプローチの具体的方法とその効果に関する研究. 尾島 俊之 浜松医大・医学部・教授 (50275674)、2007 年度～2009 年度
ID=19590649
介護予防事業におけるボランティア活動がボランティア自身の QOL の向上に及ぼす影響. 芳賀 博 桜美林大・自然科学系・教授 (00132902)、2007 年度～2009 年度
ID=19592601
都市高齢者の健康寿命延伸の推進活動に関する 6 年間の追跡評価研究. 桜井 尚子 弘前学院大・看護学部・教授 (80256388)、2007 年度～2009 年度
ID=19650192
サルコペニア進行の予測マーカーとしての ACTN3 遺伝子型の活用. 内藤 久士 順天堂大・スポーツ健康科学部・准教授 (70188861)、2007 年度～2009 年度
ID=19659500
歯の喪失は脳へどのようにストレスを与えるか-小胞体ストレスの局在と経時的変動-. 渡辺 誠 東北大・歯学研究科(研究院) (80091768)、2007 年度～2009 年度
ID=19700437
サルコペニア対策としての熱刺激の有用性に関する実験的アプローチ. 中野 治郎 長崎大・医歯(薬)学総合研究科・助教 (20380834)、2007 年度～2009 年度
ID=19791753
包括支援センターにおける介護予防ネットワークの構築に関する介入研究. 臼井 香苗 京大・医学(系)研究科(研究院)・助教 (50432315)、2007 年度～2009 年度
ID=19500575
北海道内の過疎地における住民主体の健康づくり支援に関する実践的研究. 北澤 一利(KITAZAWA, Kazutoshi) 北海道教育大学・教育学部・准教授 (00204884)、2007 年度～2008 年度
ID=19500594
重心動揺の新たな危険因子としての潜在的動脈硬化 -頸動脈超音波検査による検討-. 宮松 直美(MIYAMATSU, Naomi) 滋賀医科大学・医学部・教授 (90314145)、2007 年度～2008 年度
ID=19500609
介護予防におけるエビデンスに基づいた新しい高齢者の下肢筋力評価スケールの策定. 眞竹 昭宏(MATAKE, Akihiro) 山口県立大学・看護栄養学部・看護学科・教授 (70238921)、2007 年度～2008 年度
ID=19500619
膝痛を有する中高齢者における痛み自己管理モデルの構築に関する行動科学的研究. 岡 浩一郎(OKA, Koichiro) 早稲田大学・スポーツ科学学術院・准教授 (00318817)、2007 年度～2008 年度
ID=19530505
認知機能を改善する歩行運動プログラムの開発と実用化に関する研究. 大島 寿美子(OSHIMA, Sumiko) 北星学園大学・文学部・准教授 (60347739)、2007 年度～2008 年度

ID=19530546
改正介護保険における介護予防プログラムの有効性. 山崎 きよ子(YAMASAKI, Kiyoko) 九州保健福祉大学・社会福祉学部・教授 (20331150)、2007年度～2008年度
ID=19590630
東アジアの労働者におけるメタボリックシンドロームの疫学的研究. 李 麗梅 島根大・研究員 (20437560) 岩本 麻実子 島根大・医学部・助教 (90432616) 山崎 雅之(YAMASAKI, Masayuki) 島根大学・医学部・助教 (60379683)、2007年度～2008年度
ID=19590650
障害調整健康寿命(DALE)算出のための効用値の測定と評価指標としての DALE. 栗盛 須雅子(KURIMORI, Sugako) 首都大学東京・都市環境科学研究科・客員研究員 (20433609)、2007年度～2008年度
ID=19590659
高齢者保健・介護予防事業の医療費・介護費抑制効果に関する実証研究. 吉田 裕人(YOSHIDA, Hiroto) (財)東京都老人総合研究所・東京都老人総合研究所・研究員 (40415493)、2007年度～2008年度
ID=19592598
地域虚弱高齢者の介護予防的コミュニティ構築に関する研究. 尾形 由起子(OGATA, Yukiko) 福岡県立大学・看護学部・准教授 (10382425)、2007年度～2008年度
ID=19659128
リハビリ日数制限の是非を問う. 藤村 昌彦 広島大学・大学院・保健学研究科・講師 (70263689)、2007年度～2008年度
ID=19659607
長崎市斜面地域の在宅高齢者の QOL とコミュニティーの関連. 中尾 理恵子 長崎大学・医歯薬学総合研究科・講師 (80315267)、2007年度～2008年度
ID=19700543
高齢者の生活機能向上および転倒予防のための複合課題トレーニングの開発. 池添 冬芽(IKEZOE, Tome) 京都大学・医学研究科・助教 (10263146)、2007年度～2008年度
ID=19700550
高齢者の認知機能に及ぼす身体活動・運動の影響に関する前向き研究. 安永 明智(YASUNAGA, Akitomo) 文化女子大学・現代文化学部・講師 (30289649)、2007年度～2008年度
ID=19700554
閉経後女性の骨密度低下抑制に対するカルシウム摂取と生化学指標との関連. 後藤 千穂(GOTO, Chiho) 名古屋文理大学・健康生活学部・助教 (90367855)、2007年度～2008年度
ID=19730353
利用者による選択のための介護サービス評価に関する研究. 村田 久(MURATA, Hisashi) 東京大学・総括プロジェクト機構ジェロントロジー寄付研究部門・助教 (80350445)、2007年度～2008年度

ID=19791639
口腔ケアに関する地域福祉学的研究. 渡部 芳彦(WATANABE, Yoshihiko) 東北福祉大学・健康科学部・准教授 (20360068)、2007 年度～2008 年度
ID=19791771
閉じこもり高齢者の背景要因の解明と災害対策を見据えた社会的支援の検討. 中村 恵子(NAKAMURA, Keiko) 名古屋市立大学・看護学部・助教 (60363917)、2007 年度～2008 年度
ID=19791775
高齢者の継続意欲と免疫機能の向上を目指した運動プログラムの開発と有効性の検証. 磯和 勅子(ISOWA, Tokiko) 三重大学・医学部・准教授 (30336713)、2007 年度～2008 年度
ID=19918011
介護予防の現場で用いる足指反力測定装置の開発. 岡田 秀希 山口大学・工学部・技術専門職員、2007 年度～2007 年度
ID=18203031
ソーシャルワークの特性に関する実証的研究ーケアマネジメントとの関連をもとに. 白澤 政和(SHIRASAWA, Masakazu) 大阪市大・教授 (20094477)、2006 年度～2009 年度
ID=18390200
介護予防にむけた社会疫学研究-健康寿命をエンドポイントとする大規模コホート研究. 近藤 克則(KONDO, Katsunori) 日本福祉大・社会福祉学部・教授 (20298558)、2006 年度～2009 年度
ID=18390603
在宅虚弱高齢者のスクリーニング方法と看護職による予防訪問プログラムの開発と評価. 河野 あゆみ(KONO, Ayumi) 大阪市大・看護学研究科・教授 (00313255)、2006 年度～2009 年度
ID=18390608
CBPR を用いる不眠予防・改善のための包括的介入プログラムの開発と評価. 尾崎 章子(OZAKI, Akiko) 東邦大・医学部・教授 (30305429)、2006 年度～2009 年度
ID=18500545
地域在宅高齢者の転倒予防法の開発ー変形性膝関節症と認知障害の影響を考えるー. 平田 総一郎(HIRATA, Soichiro) 神戸大・保健学研究科・教授 (80238360)、2006 年度～2009 年度
ID=18592454
前期高齢女性の近隣他者との交流関係を活用した主体的健康増進プログラムの開発. 大森 純子(OMORI, Junko) 聖路加看護大・看護学部・准教授 (50295391)、2006 年度～2009 年度
ID=18592456
都市型地域における地域住民と大学の協働による認知症・転倒予防の継続評価研究. 山田 艶子 聖路加看護大・看護学部・助手 (00290057) 新野 直明(NIINO, Naoakira) 桜美林大・自然科学系・教授 (40201686)、2006 年度～2009 年度
ID=18200039
低体力者向け動作筋力改善トレーニングシステムの構築と動作の質的評価方法の開発.

小林 寛道(KOBAYASHI, Kando) 東京大学・大学院・新領域創成科学研究科・特任教授 (60023628)、2006年度～2008年度
ID=18203028
病気・障害・ストレスへの積極的対処と人生再構築に焦点化した健康社会学的研究。 山崎 喜比古(YAMAZAKI, Yoshihiko) 東京大学・大学院・医学系研究科・准教授 (10174666)、 2006年度～2008年度
ID=18300233
沖縄における百歳長寿者の認知機能、体力医学的評価および生命予後に関する研究。 平良 一彦 琉球大学・観光産業科学部・教授 (40039540)、2006年度～2008年度
ID=18300234
地域・大学・自治体の連携と世代間交流による介護予防運動プログラムの実践と評価。 植木 章三(Ueki, Shouzou) 東北文化学園大学・健康社会システム研究課・教授 (00241802)、 2006年度～2008年度
ID=18310166
日本型ケア政策の展開とケアリング関係の再編に関するジェンダー・市場分析。 笹谷 春美(SASATANI, Harumi) 北海道教育大学・教育学部・教授 (00113564)、2006年度～2008 年度
ID=18330046
医療データの計量手法による分析。 井伊 雅子(II, Masako) 一橋大学・大学院・経済学研究科・教授 (50272787)、2006年度～2008 年度
ID=18390191
要介護高齢者における重度化要因の解明と介護予防効果の検証。 辻 一郎(TSUJI, Ichiro) 東北大学・大学院・医学系研究科・教授 (20171994)、2006年度～2008 年度
ID=18500478
健康・スポーツ系 NPO 法人と地方自治体の協働による新しい公共サービス分野の創造。 水上 博司(MIZUKAMI, Hiroshi) 日本大学・文理学部・教授 (90242924)、2006年度～2008年 度
ID=18500538
骨格筋萎縮における細胞外基質の役割—3次元細胞培養と廃用筋萎縮動物での検討。 小池 晃彦(KOIKE, Teruhiko) 名古屋大学・総合保健体育科学センター・准教授 (90262906)、 2006年度～2008年度
ID=18500600
「家事」ケアを主軸とする包括的生活支援のための高齢者介護供給システムに関する研究。 永田 志津子(NAGATA, Shizuko) 札幌国際大学短期大学部・総合生活学科・教授 (60198330)、 2006年度～2008年度
ID=18500645
高齢者の自立支援・認知症緩和をめざす療法的料理活動プログラムの開発。 湯川 夏子(YUKAWA, Natsuko) 京都教育大学・教育学部・准教授 (40259510)、2006年度～2008 年度
ID=18530456
介護保険制度再編にともなうケアリング関係の変容とその対処方法に関する実証的研究。

山井 理恵(YAMANOI, Rie) 明星大学・人文学部・准教授 (40320824)、2006 年度～2008 年度
ID=18530468
家族レジリエンスを促進するソーシャルワーカーと家族の会話プログラムの開発的研究. 得津 慎子(TOKUTSU, Shiinko) 関西福祉科学大学・社会福祉学部社会福祉学科・教授 (50309382)、2006 年度～2008 年度
ID=18590317
加齢に伴うミトコンドリアゲノムの量的減少の分子基盤. 西垣 裕(NISHIGAKI, Yutaka) (財)東京都老人総合研究所・東京都老人総合研究所・研究副部長 (80296988)、2006 年度～2008 年度
ID=18590600
医療・介護・死亡情報を突合した小地域別疾病・寿命負荷に関する研究. 真鍋 芳樹(MANABE, Yoshiki) 香川大学・アドミッションセンター・教授 (40181812)、2006 年 度～2008 年度
ID=18592439
専門職と住民の協働による在宅閉じこもり高齢者への支援方法の検討. 古田 加代子(FURUTA, Kayoko) 愛知県立看護大学・看護学部・准教授 (00319253)、2006 年度 ～2008 年度
ID=18592461
もの忘れ相談および認知症の早期対応における地域支援システムに関する実証的研究. 中島 洋子(NAKASHIMA, Youko) 久留米大学・医学部看護学科・准教授 (20279235)、2006 年 度～2008 年度
ID=18650196
介護予防・認知症の発症・進行防止をめざした脳活性化リハビリテーションの確立. 山口 晴保 群馬大学・医学部・教授 (00158114)、2006 年度～2008 年度
ID=18659678
摂食・嚥下障害予防のためのトレーニングプログラム開発・介入基準作成および効果測定. 千葉 由美 東京医科歯科大学・大学院・保健衛生学研究科・助教 (10313256)、2006 年度～2008 年度
ID=18659689
高齢者介護予防対策の国際比較～高齢者の活力ある生活に向けて～. 松岡 広子 愛知県立看護大学・看護学部・准教授 (60249274)、2006 年度～2008 年度
ID=18700557
改正介護保険制度における「介護予防サービス」を支援するシステムの構築に関する研究. 石原 一成(ISHIHARA, Kazunari) 福井県立大学・学術教養センター・講師 (80347690)、2006 年度～2008 年度
ID=18720112
要支援高齢者とその周囲の人たちとの間で交わされる言語表現の傾向(様態)について. 小野田 貴夫(ONODA, Takao) 常葉学園短期大学・日本語日本文学科・講師 (20413247)、2006 年度～2008 年度

ID=18730455
高齢者のストレス対策における行動変容ステージモデルに基づく地域支援システム開発. 中村 菜々子(NAKAMURA, Nanako) 兵庫教育大学・大学院・学校教育研究科・准教授 (80350437)、2006年度～2008年度
ID=18791721
元気高齢者の健やかな老いを目指した小地域型介護予防活動の効果に関する縦断研究. 原口 由紀子 鳥取大学・医学部・講師 (30335525)、2006年度～2008年度
ID=0
PETを用いた高齢者運動至適強度の検討と転倒予防プログラムの無作為化比較試験. 島田 裕之 (財)東京都老人総合研究所・東京都老人総合研究所・特別研究員(PD)、2006年度～2007 年度
ID=18300218
日本人高齢者を対象とした身体活動量の評価(二重標識水法と各種簡便法による検討). 木村 みさか(KIMURA, Misaka) 京都府立医科大学・医学部・教授 (90150573)、2006年度～2007 年度
ID=18500441
新しい下肢筋力測定系を用いた高齢者の転倒リスク評価指標に関する研究. 川澄 正史(KAWASUMI, Masashi) 東京電機大学・未来科学部・教授 (40177689)、2006年度～ 2007年度
ID=18500452
脳内知覚情報伝達経路の分析による認知と身体運動制御との関連の検討. 勝又 宏(KATSUMATA, Hiromu) 大東文化大学・スポーツ・健康科学部・准教授 (40398350)、 2006年度～2007年度
ID=18500558
要支援・要介護認定者の機能的体力水準の検討. 谷口 幸一(YAGUCHI, Koichi) 東海大学・健康科学部・教授 (20141161)、2006年度～2007年度
ID=18530446
フランス高齢者福祉サービスの実施体制と供給過程-西部の一県の実態を踏まえて. 原田 康美 東日本国際大学・福祉環境学部・准教授 (00406000)、2006年度～2007年度
ID=18530453
スウェーデンと日本の要介護高齢者に対するニーズ判定の方法に関する比較研究. 西下 彰俊(NISHISHITA, Akitoshi) 東京経済大学・現代法学部・教授 (80156067)、2006年度～ 2007年度
ID=18560264
安定歩行のための介護予防用ウェアラブルシステムの開発. 早川 恭弘(HAYAKAWA, Yasuhiro) 奈良工業高等専門学校・電子制御工学科・教授 (50180956)、 2006年度～2007年度

ID=18592297
介護予防システムを包括した歯科衛生士教育の基礎的研究. 合場 千佳子(AIBA, Chikako) 日本歯科大学東京短期大学・その他・講師 (50413141)、2006 年度～2007 年度
ID=18592410
高齢者のための社会的サポートネットワークを促進する保健師活動方法に関する研究. 佐藤 紀子(SATO, Noriko) 千葉大学・看護学部・准教授 (80283555)、2006 年度～2007 年度
ID=18592425
独居高齢者の閉じこもり要因と介護予防プログラムに関する研究. 山田 美幸(YAMADA, Miyuki) 宮崎大学・医学部・助教 (00336314)、2006 年度～2007 年度
ID=18650202
左心室拡張時間と心筋負担を基準とする簡易運動処方システムの開発. 田中 宏暁 福岡大学・スポーツ科学部・教授 (00078544)、2006 年度～2007 年度
ID=18653052
「ふれあい・いきいきサロン」の開発促進と持続的発展に関する研究. 金井 敏 高崎健康福祉大学・健康福祉学部・准教授 (50337466)、2006 年度～2007 年度
ID=18700470
要介護の予防および改善を目的とした身体協働性トレーニングの有用性に関する研究. 大崎 暢子 愛知医大・医学部・助教 (00367749)、2006 年度～2007 年度
ID=18700479
高齢者の下肢筋力評価のための臀部・大腿部筋力計測器の開発. 山下 和彦 東京医療保健大学・医療保健学部・准教授 (00370198)、2006 年度～2007 年度
ID=18700570
地域虚弱高齢者の筋肉減少症予防を目的とした栄養・運動の総合的な支援システムの構築. 権 珍嬉 (財)東京都老人総合研究所・東京都老人総合研究所・研究員 (50415494)、2006 年度～2007 年度
ID=18791711
農村文化に基づく介護予防事業に関する民族誌学的研究. 齋藤 美華 東北大学・医学部・講師 (20305345)、2006 年度～2007 年度
ID=18791712
介護保険レセプトによる訪問看護サービス利用に関する縦断的実証研究. 柏木 聖代 筑波大学・大学院・人間総合科学研究科・講師 (80328088)、2006 年度～2007 年度
ID=18791739
老人福祉センター利用者に対する認知症予防のための早期介入プログラムの実施と評価. 細川 淳子 石川県立看護大学・看護学部・講師 (70324085)、2006 年度～2007 年度
ID=18791748
介護予防活動における尿失禁予防・改善のための看護介入のあり方に関する研究. 中田 晴美 東京女子医科大学・看護学部・助教 (90385469)、2006 年度～2007 年度
ID=18890239
在宅高齢患者に対する薬剤処方の実態および安全性の向上に関する研究. 庭田 聖子 国立保健医療科学院・疫学部・協力研究員 (70435709)、2006 年度～2007 年度

ID=17330198
高等学校福祉科教育の改善・充実および高度化に資する教師教育の体系化に関する研究. 田村 真広(TAMURA, Masahiro) 日本社会事業大学・社会福祉学部・准教授 (90271725)、2005年度～2008年度
ID=17390511
歯の喪失は痴呆のリスクになるか-MRI による長期前向き研究. 菊池 雅彦(KIKUCHI, Masahiko) 東北大学・病院・教授 (60195211)、2005年度～2008年度
ID=0
高齢者の自立支援体制の拡充を目指した社会参加活動の促進と QOL との関係. 白井 こころ 大阪大学・医学系研究科・特別研究員(PD)、2005年度～2007年度
ID=17209007
α -アドレナリン受容体発現と圧反射性筋血流調節:動物とヒトの相方向性研究. 能勢 博(NOSE, Hiroshi) 信州大学・大学院・医学系研究科・教授 (40128715)、2005年度～2007年度
ID=17300226
介護予防と生活習慣病予防を両立させる中高齢者のトレーニング指針の作成. 宮地 元彦(MIYACHI, Motohiko) 独立行政法人国立健康・栄養研究所・健康増進プログラム・運動ガイドラインプロジェクトリーダー (60229870)、2005年度～2007年度
ID=17390194
地域高齢者の「虚弱(frailty)」の特徴、成因および予防法の解明. 新開 省二(SHINKAI, Shoji) (財)東京都老人総合研究所・東京都老人総合研究所・研究部長 (60171063)、2005年度～2007年度
ID=17390526
要介護者の居宅や施設で歯科保健、医療、介護をより確実にする専用機器の開発. 野村 章子(NOMURA, Akiko) 明倫短期大学・歯科技工士学科・教授 (80134948)、2005年度～2007年度
ID=17390566
全身健康に影響する口腔機能パラメーターの探求に関する疫学研究. 竹原 直道(TAKEHARA, Tadamichi) 九州歯科大学・歯学部・教授 (00038879)、2005年度～2007年度
ID=17404016
スウェーデンにおける高齢者の在宅継続支援に関する研究. 田中 智子(TANAKA, Tomoko) 兵庫県立大学・環境人間学部・准教授 (20197453)、2005年度～2007年度
ID=17406024
西ニューギニア地域における、神経難病の実態に関する研究. 奥宮 清人(OKUMIYA, Kiyohito) 総合地球環境学研究所・研究部・准教授 (20253346)、2005年度～2007年度
ID=17500130
高齢者の安全な生活と痴呆予防のための口腔機能とバイタルサインの無意識・無拘束計測. 松村 雅史(MATSUMURA, Masafumi) 大阪電気通信大学・医療福祉工学部・教授 (80209618)、2005年度～2007年度

ID=17500473
高齢者メタボリック症候群における動脈硬化病変・ADL・精神機能に対する運動の効果. 櫻井 孝(SAKURAI, Takashi) 神戸大学・医学部附属病院・講師 (50335444)、2005年度～2007年度
ID=17500557
地域にあった半定量食物摂取頻度調査票の妥当性および再現性の検討. 森 圭子(MORI, Keiko) 金城学院大学・金城学院大学生活環境学部・教授 (50259272)、2005年度～2007年度
ID=17530398
超高齢社会における広域合併が生活支援システムに与える影響に関する調査研究. 浜岡 政好(HAMAOKA, Masayoshi) 佛教大学・社会学部・教授 (80066422)、2005年度～2007年度
ID=17530439
福祉コミュニティづくりにおける「地域通貨」の意義と役割に関する調査研究. 横山 孝子 長野大・社会福祉学部・助教授 (90340041) 鷹野 和美(TAKANO, Kazumi) 長野大学・社会福祉学部・教授 (20316277)、2005年度～2007年度
ID=17530513
高齢者のための心理療法の開発とその実際の展開-包括的セラピーを中心に-. 原 千恵子(HARA, Chieko) 東京福祉大学・社会福祉学部・教授 (30320823)、2005年度～2007年度
ID=17590539
地域在住高齢者の抑うつ頻度とその危険因子-総合的機能評価による縦断的検討-. 和田 泰三 京大・医学(系)研究科(研究院)・助手 (90378646) 西永 正典(NISHINAGA, Masanori) 高知大学・医学部・准教授 (50265245)、2005年度～2007年度
ID=17590544
高齢者 ADL・QOL の関連要因とその後の医療・介護との関連—10年後追跡調査. 渡部 和子 愛媛大・医学(系)研究科(研究院)・助手 (70380219)、2005年度～2007年度
ID=17590568
地域在宅高齢者における認知機能低下を予測する生理的・生化学的マーカーの開発. 藤原 佳典(FUJIWARA, Yoshinori) (財)東京都老人総合研究所・東京都老人総合研究所・研究副部長 (50332367)、2005年度～2007年度
ID=17592318
介護予防と在宅生活の継続を支援するケアマネジメント指針の開発. 森下 安子(MORISHITA, Yasuko) 高知女子大学・看護学部・准教授 (10326449)、2005年度～2007年度
ID=17592321
高齢者の体型と歩行パターンに応じた生活行動範囲回復の為のセルフケアプログラム開発. 竹崎 久美子(TAKEZAKI, Kumiko) 高知女子大学・看護学部・准教授 (60197283)、2005年度～2007年度
ID=17592334
男性高齢者にむけた介護予防サービス開発に関する研究.

鳩野 洋子(HATONO, Yoko) 国立保健医療科学院・公衆衛生看護部・室長 (20260268)、2005 年度～2007 年度
ID=17601004
大都市の人口空洞化地域における高齢者の自立支援のためのサテライトシステムの構築. 星野 明子(HOSHINO, Akiko) 京都大学・医学研究科・准教授 (70282209)、2005 年度～2007 年度
ID=17650200
中・高齢者の健康増進・介護予防を目的とした運動処方システムの効果に関する研究. 木村 貞治 信州大学・医学部・教授 (70252111)、2005 年度～2007 年度
ID=17659708
虚弱高齢者と家族の寝たきり恐怖の実態の解明と心身機能に応じた安全な生活の指導. 征矢野 あや子 信州大学・医学部・准教授 (20281256)、2005 年度～2007 年度
ID=17700521
内臓脂肪のオーダーメイド減量プログラム及び効果的なリバウンド防止法の開発. 大蔵 倫博 筑波大学・大学院・人間総合科学研究科・講師 (60396611)、2005 年度～2007 年度
ID=17730347
GIS(地理情報システム)を用いた高齢者の「閉じこもり」発生要因の研究. 平井 寛 日本福祉大学・COE 推進室・COE 主任研究員 (20387749)、2005 年度～2007 年度
ID=17791588
日帰り温泉を利用した地域住民への健康増進プログラムの開発-温泉の利用状況と身体的・精神的健康への効果の検証と活用-. 月田 佳寿美 福井大学・医学部・講師 (50303368)、2005 年度～2007 年度
ID=17791693
要支援者の要介護への移行要因からみた介護予防プログラムの開発. 和泉 京子 大阪府立大学・看護学部・准教授 (80285329)、2005 年度～2007 年度
ID=17300216
高齢者の転倒・骨折・介護予防のための運動処方・生活指導・教育プログラムの検討. 武藤 芳照(MUTOH, Yoshiteru) 東京大学・大学院教育学研究科・教授 (10143330)、2005 年度～2006 年度
ID=17390151
老年学複合研究拠点の基盤形成. 井口 昭久(IGUCHI, Akihisa) 名古屋大学・大学院医学系研究科・教授 (20109763)、2005 年度～2006 年度
ID=17500406
子どもの咬合力と咀嚼筋形態の横断的資料の収集および運動がそれらの発達に及ぼす影響. 眞竹 昭宏(MATAKE, Akihiro) 山口県立大学・看護学部・教授 (70238921)、2005 年度～2006 年度
ID=17500481
介護予防やよび健康増進のための科学的なメディカルフィットケアの実現に関する研究. 小山 裕徳(KOYAMA, Hironori) 東京電機大学・工学部・教授 (00120113)、2005 年度～2006 年度

ID=17500522
地域在住高齢者の低栄養早期対応介入プログラム効果検証. 湯川 晴美(YUKAWA, Harumi) 國學院大學栃木短期大学・家政学科・助教授 (00260307)、2005年度～2006年度
ID=17590535
高齢転居者に対する介入研究:介護予防と productivity 向上をめざして. 甲斐 一郎(KAI, Ichiro) 東京大学・大学院・医学系研究科・教授 (30126023)、2005年度～2006年度
ID=17591194
高齢者のうつ病早期治療と自殺予防を目的とする都市型地域介入プログラムの開発. 粟田 主一(AWATA, Shuichi) 東北大学・大学院医学系研究科・非常勤講師 (90232082)、2005年度～2006年度
ID=17650165
脳機能および身体機能の活性化における「ゲーム機リハビリ」の有用性. 高杉 紳一郎 九州大学・大学病院・助手 (40253447)、2005年度～2006年度
ID=17659183
要介護痴呆の新しいリスクファクターに関する地域コホート研究. 磯 博康 大阪大学・医学系研究科・教授 (50223053)、2005年度～2006年度
ID=17700525
高齢者の総合的機能向上を目指した複合運動トレーニングの有効性. 池添 冬芽 京都大学・医学部(保健学科)・助手 (10263146)、2005年度～2006年度
ID=17791678
鳥取県の農業従事高齢者における農作業の運動効果に関する研究. 谷村 千華 鳥取大学・医学部・助手 (90346346)、2005年度～2006年度
ID=17791689
在宅高齢者の介護予防のための生活機能評価尺度の開発. 金谷 志子 福井県立大学・看護福祉学部看護学科・助教 (00336611)、2005年度～2006年度
ID=0
レム睡眠期における注意・認知過程の検討. 高原 円 広島大学・大学院総合科学研究科・特別研究員(PD)、2005年度～2006年度
ID=17659192
血清 B ₂ ミクログロブリン;老化および循環器疾患のリスクマーカーとしての新たな意義. 新開 省二 (財)東京都高齢者研究・福祉振興財団・東京都老人総合研究所・研究部長 (60171063)、2005年度～2005年度
ID=0
地域在宅超高齢者における精神機能低下予防を目的とした訪問型介入プログラムの開発. 岩佐 一 日本大学・文学研究科・特別研究員(DC2)、2005年度～2005年度
ID=16200042
スポーツ科学の観点からみた介護予防プログラムの開発とその運営システムの構築. 村岡 功(MURAOKA, Isao) 早稲田大学・スポーツ科学学術院・教授 (80112712)、2004年度～2007年度

ID=16330092
地域ケア・システムの展開過程にかんする社会学的比較研究. 永井 彰(NAGAI, Akira) 東北大学・大学院・文学研究科・准教授 (90207960)、2004 年度～2007 年度
ID=16390636
摂食・嚥下障害患者への包括的医療・看護における臨床評価と安全性の基準作成. 千葉 由美(CHIBA, Yumi) 東京医科歯科大学・大学院・保健衛生学研究科・助教 (10313256)、2004 年度～2007 年度
ID=16390651
保健所保健師の専門的・総合的調整機能を強化する教育プログラムと教材の開発. 岡本 玲子(OKAMOTO, Reiko) 岡山大学・大学院・保健学研究科・教授 (60269850)、2004 年度～2007 年度
ID=16500486
生活時間調査による新家事労働の実態把握とアンペイド・ワークの社会的評価方法の開発. 天野 晴子(AMANO, Haruko) 日本女子大学・家政学部・准教授 (50299905)、2004 年度～2007 年度
ID=16591885
痴呆性老人に対する摂食・嚥下リハビリテーションと口腔ケアシステム構築に関する研究. 植田 耕一郎(UEDA, Koichiro) 日本大学・歯学部・教授 (80313518)、2004 年度～2006 年度
ID=16592196
保健活動における訪問指導の効果的推進方法に関する研究. 宮崎 美砂子(MIYAZAKI, Misako) 千葉大学・看護学部・教授 (80239392)、2004 年度～2006 年度
ID=16592222
へき地における高齢者の健康づくりと介護予防のための地域ケア体制構築に関する研究. 春山 早苗(HARUYAMA, Sanae) 自治医科大学・看護学部・教授 (00269325)、2004 年度～2006 年度
ID=16592225
都市高齢者の健康寿命延伸の推進活動に関する追跡研究. 桜井 尚子(SAKURAI, Naoko) 弘前学院大学・看護学部・教授 (80256388)、2004 年度～2006 年度
ID=16700498
行動科学に基づく身体活動・運動促進プログラムに活用する教材の開発. 岡 浩一朗 早稲田大学・スポーツ科学学術院・助教授 (00318817)、2004 年度～2006 年度
ID=16300224
高齢者の生活・認知機能維持に資する運動療法に関する縦断研究. 鳥羽 研二(TOBA, Kenji) 杏林大学・医学部・教授 (60155546)、2004 年度～2006 年度
ID=16300226
介護予防を目的とした地域虚弱高齢者の総合的な健康づくり支援システムの構築. 金 憲経(KIM, Hunkyung) (財)東京都高齢者研究・福祉振興財団・東京都老人総合研究所・研究副部長 (20282345)、2004 年度～2006 年度

ID=16390187
高齢期の虚弱化や転倒発生と血中ビタミンD濃度の関連についての前向き疫学研究. 鈴木 隆雄(SUZUKI, Takao) (財)東京都高齢者研究・福祉振興財団・東京都老人総合研究所・副所 長 (30154545)、2004年度～2006年度
ID=16530376
社会福祉実践における生活場面面接の理論と方法の体系化に関する研究～実践的技法と教育訓練 プログラムの開発～. 小嶋 章吾(KOJIMA, Shogo) 国際医療福祉大学・医療福祉学部・准教授 (90317644)、2004年度 ～2006年度
ID=16500499
高齢社会における在宅生活支援のあり方に関する研究. 村田 順子(MURATA, Junko) 東大阪大学短期大学部・家政学科・助教授 (90331735)、2004年 度～2006年度
ID=16530369
対応困難な要介護高齢者へのソーシャルワーカーとホームヘルパーの協働に関する研究. 寫末 憲子(SHIMASUE, Noriko) 埼玉県立大学・保健医療福祉学部・講師 (80325993)、2004年 度～2006年度
ID=16590528
地域高齢者の摂食・嚥下障害評価指標の開発とその応用性に関する検討. 三浦 宏子(MIURA, Hiroko) 九州保健福祉大学・保健科学部・教授 (10183625)、2004年度～2005 年度
ID=16592190
一人暮らし高齢者に対する自立支援プログラムの開発と評価に関する研究. 田高 悦子(TADAKA, Etsuko) 東京大学・大学院・医学系研究科・講師 (30333727)、2004年度 ～2005年度
ID=16730302
介護予防活動支援者としての中老年者の社会参加推進に関する研究. 小林 江里香 (財)東京都高齢者研究・福祉振興財団・東京都老人総合研究所・研究員 (10311408)、 2004年度～2005年度
ID=16500450
虚弱高齢者の体力・運動能力・筋量の実態と生活要因との関連. 木村 みさか(KIMURA, Misaka) 京都府立医科大学・医学部・教授 (90150573)、2004年度～2005 年度
ID=15390200
介護予防を目指した予知因子解明と事業評価を志向した高齢者コホート研究. 尾崎 米厚(OSAKI, Yoneatsu) 鳥取大学・医学部・助教授 (10325003)、2003年度～2006年度
ID=15500504
長期介入による大規模高齢者集団の栄養状態改善が余命および活動的余命に及ぼす影響. 熊谷 修(KUMAGAI, Shu) 人間総合科学大学・人間科学部・教授 (80260305)、2003年度～2006 年度
ID=15592340
高齢者に対する記憶プログラムの拡充と効果測定及び痴呆高齢者への介入プログラム構築.

井出 訓(IDEM, Satoshi) 北海道医療大学・看護福祉学部・准教授 (10305922)、2003 年度～2006 年度
ID=15592348
高齢者の障害進行予防のための医療・看護と介護サービスのあり方に関する疫学研究. 三徳 和子(MITOKU, Kazuko) 川崎医療福祉大学・医療福祉学部・教授 (60351954)、2003 年度～2006 年度
ID=15604002
美術による人間と諸施設の活性化 -幼稚園、介護施設を中心として-. 横尾 哲生(YOKOO, Tessei) 埼玉大学・教育学部・教授 (10230640)、2003 年度～2006 年度
ID=15680017
地域保健現場における睡眠生活指導が高齢者の心身の健康に与える効果の実証的研究. 田中 秀樹 広島国際大学・人間環境学部・助教授 (30294482)、2003 年度～2005 年度
ID=15700398
地域における高齢者指導システムの開発-仲間との交流を目指す運動プログラムの展開-. 大橋 奈希左 上越教育大学・学校教育学部・講師 (90283043)、2003 年度～2005 年度
ID=15791338
介護支援専門員のケアマネジメント能力向上のための学習ニーズに関する研究. 杉田 由加里 千葉大学・大学院・看護学研究科・助手 (50344974)、2003 年度～2005 年度
ID=15791339
介護保険による在宅ケアプラン作成方法の評価. 森田 久美子 東京医科歯科大学・大学院・保健衛生学研究科・助手 (40334445)、2003 年度～2005 年度
ID=15300236
高齢者の生活機能の維持及び増進を目的とした介入プログラムの開発と評価. 芳賀 博(HAGA, Hiroshi) 東北文化学園大学・大学院・健康社会システム研究科・教授 (00132902)、2003 年度～2005 年度
ID=15330130
離島の離島における高齢者の自立生活と地域の役割に関する研究. 田畑 洋一 鹿児島国際大・福祉社会学部・教授 (20163652) 小窪 輝吉(KOKUBO, Teruyoshi) 鹿児島国際大学・福祉社会学部・助教授 (30153521)、2003 年度～2005 年度
ID=15330152
高齢者の心理的特性と心理学的援助の研究. 上里 一郎(AGARI, Ichiro) 広島国際大学・人間環境学部・教授 (50034559)、2003 年度～2005 年度
ID=15390582
高齢者における心身と口腔機能との関係を解明するための縦断介入研究. 玉澤 佳純 東北大・歯学部附属病院・講師 (10124603) 服部 佳功(HATTORI, Yoshinori) 東北大学・大学院・歯学研究科・助教授 (40238035)、2003 年度～2005 年度

ID=15500479
個人参加型健康管理のあり方に関する研究. 芦田 信之(ASHIDA, Nobuyuki) 甲子園大学・現代経営学部・教授 (50184164)、2003 年度～2005 年度
ID=15530364
痴呆高齢者生活支援における「主訴」への対応能力とその最適組織化に関する実証的研究. 小笠原 浩一(OGASAWARA, Koichi) 東北福祉大学・総合福祉学部・教授 (30204051)、2003 年度～2005 年度
ID=15570201
閉じこもり独居高齢者の生体リズムの生理的多型性と生活の質の改善に関する研究. 石川 隆志(ISHIKAWA, Takashi) 秋田大学・医学部・助教授 (20241680)、2003 年度～2005 年度
ID=15590564
在宅生活自立高齢者の閉じこもりに関する縦断的研究. 渡辺 美鈴(WATANABE, Misuzu) 大阪医科大学・医学部・講師 (30084924)、2003 年度～2005 年度
ID=15590566
地域における介護予防と健康づくり活動の総合的展開に関する研究. 松田 晋哉(MATSUDA, Shinya) 産業医科大学・医学部・教授 (50181730)、2003 年度～2005 年度
ID=14204083
ヒトを含む霊長類におけるロコモーションの発達・加齢. 濱田 穰(HAMADA, Yuzuru) 京都大学・霊長類研究所・助教授 (40172978)、2002 年度～2005 年度
ID=14208003
体幹深部筋力強化トレーニングマシンシステムの開発・応用. 小林 寛道(KOBAYASHI, Kando) 東京大学・大学院・総合文化研究科・教授 (60023628)、2002 年度～2005 年度
ID=14310098
男性独居高齢者の生活困難の特性と保健福祉サービスのあり方に関する研究. 西口 守(NISHIGUCHI, Mamoru) 東京家政学院大学・人文学部・助教授 (30306229)、2002 年度～2005 年度
ID=14572252
高齢者の転居後の生活適応を促すための看護職による早期介入プログラムの開発と効果. 工藤 禎子(KIDO, Yoshiko) 北海道医療大学・看護福祉学部・助教授 (00214974)、2002 年度～2005 年度

5. まとめ

- (1) わが国において実施された介護予防事業等に関する調査研究のうち、医学中央雑誌に掲載された日本語知見の検索を行い、原著論文 596 件、学会抄録 883 件の書誌情報を収集し、データベース化した。
- (2) わが国において実施された介護予防事業等に関する調査研究のうち、厚生労働科学研究費補助金および文部科学省科学研究費補助金のデータベースの検索を行い、前者 87 件、後者 219 件の情報を収集し、データベース化した。
- (3) 平成 21 年度に作成した PubMed 掲載の介護予防プログラムに関する英語知見のエビデンステーブルについて、検索可能なデータベースを作成し、Web 上で公開した。
(<http://www.preventive-care.net>)。